

# 学生からみた大学教育の質

## — 授業評価からプログラム評価へ —

広島大学高等教育研究開発センター

学生からみた大学教育の質  
- 授業評価からプログラム評価へ -

広島大学高等教育研究開発センター編

広島大学高等教育研究開発センター

## COE 研究シリーズの刊行にあたって

広島大学高等教育研究開発センターは、略称を高教研と称し、英語名を Research Institute for Higher Education、略称を RIHE としております。その前身は広島大学大学教育研究センターですが、1972 年 5 月に、さらにその前身の大学問題調査室を発展的に継承して、文部省令による教育研究施設として、日本最初の高等教育研究の専門機関として設置されました。爾来、年輪を重ねる中で着実に研究教育活動を展開し、内外の高等教育研究に重要な役割を果たしてきましたが、お陰様で昨年 2002 年には創立 30 周年を迎えるに至りました。

この節目の年に、文部科学省の 21 世紀 COE プログラムの人文科学領域において、本センターのプロジェクト「21 世紀型高等教育システム構築と質的保証」（拠点リーダー：有本章）が 113 件（うち人文が 20 件）の拠点の一つとして選定されました。このことは高等教育研究の発展に鋭意取り組んできたセンターの歴史の中でも特筆すべき快挙であると、当センターの関係者一同率直に喜んでおります。とりわけ高等教育の分野では全国唯一の拠点到選定されましたことは、これまでの実績と今後の可能性が認知された点でも、長年にわたって積み重ねてきた努力が報われた点でも、実に名誉なことでありますと同時に、責任の重さを痛感する次第であります。これも高等教育研究が一種のタブー視された時代から盛況を呈するに至った今日まで、数多くの先輩やコリーグ諸氏に支えられて営々と築かれた伝統や風土や精神の賜と考えております。したがって、「巨人の肩に乗った小人」であるとの謙虚な気持ちでこのような機会を受け止めますとともに、これを契機にさらなるフロンティア開拓の精神を醸成し、斯界の発展において一層の貢献を実現したいと祈念しているところであります。

本プロジェクトは、主題に掲げました研究を推進するために、5 年間にわたって取り組むものですが、具体的には FD・SD の制度化と教育システムの質的保証、研究システムの質的保証、大学組織編成と質的保証などの問題を中心に、データベースの構築、若手研究者の養成などの問題に重点的に取り組むことを期しております。さらに、研究成果を積極的に国内外へ公表し、研究成果を紹介することによって拠点としての研究ネットワークの形成に努め、日英両語による出版物を精力的に刊行することにしております。そして、その一環として、このような体裁で COE 研究シリーズを刊行することにいたしました。その目的は、主として、センターの COE プログラムと関連して取り組んでいる研究活動の実績を記録にとどめることとその国内外への発信によって研究ネットワークの形成を着実に推進することに置かれています。

本企画によって世に送り出される刊行物が、国内外の高等教育研究者はもとより、高等

教育に関心のある多くの人々に貴重な価値ある情報を提供することができれば、望外の幸せであります。また、研究ネットワークの一層の発展のために、読者の皆様から絶大なご支援とご協力を賜りますことができましたら、この上ない喜びです。何卒よろしく願い申し上げます。

2003年3月

21世紀COEプログラム  
拠点リーダー 有本 章

## はじめに

本書は、COE プログラム「21 世紀型高等教育システム構築と質的保証」の一環として行われた、「大学生の教育・学習経験に関する調査」の分析報告である。

教育の質保証が世界的イシューとなる中で、各国の質保証制度やそれを支える理念に対する情報の収集や考察が着実に進展している。こうした取組は、世界に通用する質保証の制度を設計、運用していく上で極めて重要な作業といえる。仮にこれを、質保証を考察する上でのコア的なアプローチと呼ぶならば、学生による教育評価は、教育の質保証システムにおいて、一つの重要な要素を形成しているとはいえ、周辺的なアプローチである。

周地的と呼んだ理由は、学生調査の持つ二面性にある。学生による教育評価には、各大学が独自に実施するケースと、外部機関等が同一フォーマットで複数ないし全ての大学を対象に実施するケースとがある。前者では、個別大学の文脈に則した調査が行える反面、結果の一般性や比較可能性が担保できない。後者では、この点を担保しやすいが、各大学で行われている教育や学習の実態や構造を丁寧に捕捉することが難しくなる。

言い換えれば、学生調査から教育・学習に対する豊かな知見を得ることは可能だが、それを求めるほど、質的保証システムの一環として位置づけにくくなり、その逆を求めれば、学生調査から本来得られるであろう豊かな知見から遠ざかる危険性がある。私たちの調査研究は、その両面性の担保を目指したが、率直にいうと同様のジレンマに直面している。この点は、読者の方からの批判に耳を傾けることとしたい。

なお、世界の高等教育研究を俯瞰すると、例えば卒業生調査は国際比較調査が進展し、大学教育の職業的レリバンスや職業キャリア形成の比較研究が展開している。また、大学教授職の国際比較研究も進んでいる。だが、大学における教育・学習経験については、個別の国レベルでの調査研究が主で、国際比較になると事例の紹介程度にとどまる。また学生による教育評価というと、個別授業を対象とした授業評価のみが注目されている感が否めない。この調査が、教育の質保証という枠組みにおける学生調査のあり方や、個別授業だけでなくプログラム評価に着目することの重要性の議論、さらには在学生調査の国際比較による大学教育の比較研究へと発展するきっかけとなれば、望外の喜びである。

最後に、調査への協力をご快諾いただいた各大学・学部の教職員の方々、ならびに時間のかかる質問票に最後までご回答いただいた学生の方々に心よりお礼を申し上げます。

2006 年 3 月 31 日

編集責任 小方 直幸

# 目次

## はじめに

### 序章

|                |   |
|----------------|---|
| 研究の背景と目的 ..... | 1 |
|----------------|---|

### 第1章

#### 学生による教育の質評価の世界的動向

|                |   |
|----------------|---|
| 豪・英・米の事例 ..... | 9 |
|----------------|---|

### 第2章

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 大学生の学習経験とその規定要因 ..... | 27 |
|-----------------------|----|

### 第3章

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 教育成果間の関連とその規定要因 ..... | 39 |
|-----------------------|----|

### 第4章

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 大学教育の成果としての性格・態度特性の変容 ..... | 55 |
|-----------------------------|----|

### 第5章

#### 学生の入学以前・入学時点の学習状況と大学での学習成果

|                    |    |
|--------------------|----|
| DEAの応用による一考察 ..... | 71 |
|--------------------|----|

### 資料編

|              |     |
|--------------|-----|
| 1. 調査票 ..... | 101 |
|--------------|-----|

|                |     |
|----------------|-----|
| 2. 基礎集計表 ..... | 109 |
|----------------|-----|

## 序章 研究の背景と目的

### 1. 教育評価の中の学生

日本の教育評価における学生の位置づけを考える場合、認証評価団体の評価基準や項目が参考となる。ここでは特に、本報告書の課題でもある教育・学習経験とその成果に関わりが深い項目に着目してみる。

大学評価・学位授与機構の『大学評価基準』(2004)では、「教育内容・方法」について、教育課程が目的に照らして体系的に編成されていること、教育課程に相応しい授業形態や学習指導法の整備、成績評価・単位認定・卒業認定の適切さ、を設定し13の具体的観点を提示している。また、「教育成果」については、成果を検証・評価するための適切な取組がなされていること、単位取得・資格取得・卒業の状況や、学生による授業評価、卒業後の進路、卒業生や企業に対する調査で把握されていることが挙げられている。

大学基準協会の『学士課程基準』(2004)及び『平成18年度大学基準協会における大学評価の点検・評価項目』(2005)では、「教育内容・方法等」の中に「教育上の効果」も包摂されている。その中で、「教育課程等」については12項目、「教育方法等」については6項目を、主要点検・評価項目として提示している。また、具備の望ましさに応じて、A群からC群までのレベルを設定している。「教育効果の測定」項目には、A群がなくB群として卒業生の進路が挙げられ、残りは適切な測定方法の開発・運用という抽象的な項目となっている。また、「教育改善への組織的な取り組み」項目では、シラバスと学生による授業評価がA群であり、FDはB群、学生満足度調査や卒業生、雇用主に対する調査の導入はC群となっている。

この事例は、学士課程教育の評価のコアが、教育目的に適った教育課程編成及びその実行体制の整備というインプットとしての教育体制と、その実現に関する直接のアウトプットとしての成績評価、単位取得、学位取得から構成されていることを示している。こうした評価のコンセプトに問題があるわけではないし、この枠組みに学生がメインで入り込む余地は、そもそもあまりない。なぜならば、学生は基本的に評価される立場にあるからだ。こうした教育評価の基本構造をおさえておくことは、学生を消費者とみなし、その立場からの評価を重視する動きが強まる中、学生による評価は、評価ツールの1つの構成要素に過ぎないことを認識する上で重要である。

もちろん、1つのツールとしてみれば、教育評価において学生の果たす役割は小さくない。認証評価においても、学生による授業評価を重視しているし、卒業後の評価について

も、卒業生を重要な調査対象者の1つとみなしている。しかし、教育評価という枠組みの中で、従来の学生の位置づけは十分といえない面もある。

例えば学生による評価で最も馴染みのある授業評価。現在ほとんどの大学で導入され、個々の授業を改善していく上でそれなりに意義もあった。だが、その導入が一巡した今、授業評価が成立する条件を再考する時期にきている。我が国のように教育課程の中で個々の授業の独立性が強い場合、個々の授業の改善は全体の教育課程の改善を必ずしも意味しない。またそうした問いが授業評価の中で設定されることも希である。さらに、個々の授業に関して、学生の立場から見た教育・学習経験や成果に関する認識を問われることも一般的ではない。

他方で、認証評価の項目に指摘されたこともあり、卒業生調査を実施する大学が増えつつある。卒業生調査の場合、個々の授業の評価ではなく、在学中の教育・学習経験全般が評価の対象となり、授業評価の欠点を補う面も持つ。ただし、授業評価とは別の課題がある。卒業生調査は、現在の生活とりわけ職業生活から見た大学教育の効果を明らかにするのに適している。その意義を否定するものではないが、在学中の経験に対する評価が、卒業後の環境に依存することになる。採用時に教育内容をさほど重視しない日本の文脈では、教育の質を示すものとしては間接的な指標にしかなり得ない。また卒業後の時間的経過もあり、在学中の教育・学習経験自体や卒業時点での教育成果を尋ねるには不向きである。

このようにみれば、学生の意見は教育評価における万能ツールではないが、教育評価というコンテキストで学生の意見を活用する余地は残されている。その際の1つの方向性は、教育評価の対象としては、個々の授業ではなく教育課程全般に対する評価を尋ねること、評価者の学生としては、卒業生ではなく在學生に尋ねることである<sup>1)</sup>。

## 2. 調査票の構成と分析の課題

本書は、在學生に対して教育・学習経験を問うというスタンスを採用している。大学教育をどういう意図と体制で提供しているかを教育評価のインプットレベル、成績、単位取得、卒業、就職を教育評価のアウトプットレベルと呼ぶことにすれば、教育評価のプロセスレベルに着目したアプローチである。

教育の質や水準を評価する場合、まずは教育を提供する側の意図をチェックすることが必要である。しかし、そのチェックは、意図通りの教育実践を担保するものではない。これに対処する1つの方法は、学生に対しても教育の提供者の意図が伝わっているかを検証することである。そこで、今回の質問票では、「どのような教育が提供されているか」という、教育提供側の意図や実際の行動を尋ねる項目を設定した。次章で紹介する、オーストラリアやイギリスの学生調査でも採用されている項目である。

ところで、教育提供側の意図や行動は、学生自身の学習活動の前提条件ではあるが、実



際の学習経験までを保証するわけではない。その意味で、授業でどのような学習活動を行ったかを尋ねることも必要である。もちろん、学生自身の行動にも左右される学習経験を、教育の質の測定に据えることには異論もあるだろう。しかし、大学進学率が4割を超え、学生の自主性のみで依拠した学習の成立が難しくなっている今、教育提供側が実際の学習経験までを保証していくことは、以前よりも重要となっている。

もっとも、教育・学習活動に関わるプロセスの指標は、プロセスを反映した信頼に足るアウトプットに関わる指標が存在すれば、それほど重要ではないという見方もできる。実際、教育評価の中でアウトプットへの関心が高まり、それを明らかにする各種の取組も行われるようになってきている。

一般にアウトプットの指標としては客観指標が好まれる。代表的なものは、卒業率や就職率であろう。しかしこれらは、教育のプロセスと切り分けその質的側面をダイレクトに反映した指標とは言い難い面がある。また、客観試験によって教育成果を測定することができれば望ましいが、統一国家試験のようなものが存在する分野、あるいは英語などの特定の技能分野を除き、必ずしも容易でないし、そうしたツールの開発もまだ途上にある。ましてや学生調査で利用頻度の高い満足度が、教育の質や水準の代理変数である保証はない。

さらに、仮に信頼度の高いアウトプット指標が開発されたとしても、そこから明らかとなるのは、教育の成果部分のみである。高いパフォーマンスが達成されている場合には、さほど問題とならないが、パフォーマンスに課題がある場合には、原因を解明して教育改善に結びつけていく必要がある。その際には、アウトプット指標を規定しているものとして、教育のインプット指標はもちろん、プロセス指標がわかっていなければならない。

こうした状況下では、次善の策ながら、アウトプットについても主観的な指標をいくつか設定し、教育・学習活動に関わるプロセスの指標との関連性を検証していくことが、むしろ重要と考える。そのため、アウトプットに関わる指標として、教育経験の満足度や進路状況に加えて、教育経験の充実度に関する指標を設定した。また、教育・学習経験を通じて何を獲得したか、専門教育の到達度という能力に関わる指標に加え、学生のインプット指標だけでなくアウトプット指標としても使える性格・態度に関わる指標も設けることにした。

実際に提供された教育と実際に行われた学習という、質の異なるプロセスに関わる指標の設定と、プロセス指標との関連を検証する上でも重要な複数のアウトプット指標の設定。これが今回の在学生による教育・学習経験の質問票の大きな柱である。こうした質問票の構造を踏まえて、本書では以下の点を分析の課題に据えている。

それは、月並みかもしれないが、指標そのものの意味や意義を丹念に検討していくということである。質問票の策定は、上述の論理に基づき、国内外の事例も参照しつつ行っているが、教育の質や水準を学生調査で検討する際に、どの項目をどのようなワーディングで設定することが適切であるかは、教育のプロセス指標にしてもアウトプット指標にしても、

自明になっているわけではない。

また、教育の質評価というテーマの場合、ややもすれば結果の優劣ばかりに目が行きがちである。国内分析ではどの機関が、国際比較においてもどの国が優れているか（劣っているか）の分析は行うが、優れていると根拠にしている指標自体の妥当性は等閑に付されることが多い。また、なぜそのような相違が生じるのか、その背景が丹念に考察されることも概して少ない。その意味でも、指標の意味を一つ一つ検証していくという作業には、一定の意義があると考えられる。

具体的には、まずプロセス指標の考察である。教育特性に関わる変数と学習経験に関わる変数の分析を通して、教育特性が果たして学習経験をどの程度規定しているのかを考察する。続いて、アウトプット指標の考察である。アウトプット指標間の関連も踏まえつつ、プロセス指標を反映したアウトプット指標の特定化を行う。こうした基本構造を明らかにした上で、就職や獲得能力といったパフォーマンスに関する考察を、個別大学の特性を考慮しながら行う。

### 3. 調査の概要

COE プログラムの一環として、学生調査プロジェクトを 2004 年に立ち上げ、同年春から調査票の検討を開始した。まずは、海外の類似事例の検討を行い、調査票のサンプルを設計した。その後、異なる大学に在籍する延べ数十人の 1 年生及び 4 年生の大学生数十名に実際に調査票に回答を依頼し、回答後のインタビューを通して設問の意図が不明な点や回答しづらい項目を指摘してもらい、質問項目の改訂を何度か行った。

秋から調査協力校への依頼を開始し、最終的に 18 大学 56 学部から協力が得られることになり、2004 年 12 月から 2005 年 1 月にかけて実査を行った。今回の調査は、web による調査をメインに行い、一部の大学・学部で紙媒体による調査を行った。大学によってどれだけの学生に調査協力の依頼が行われたか実数が把握できないために、正確な回収率は算出できないが、有効回収数は 5,383 人、在学生数を母集団とした際の疑似回収率は 18% だった。図表 0-1 は、回答者の属性を全国値とあわせて示したものである。

図表から明らかなように、全国値と比較すると、まず、性別については女子の回答者が多くなっている。設置者に関しては、サンプル調査では公立がないことに加えて、1 年生、4 年生とも私立の割合が低く、国立に偏向している。専門分野については、特に 4 年生において、人文系、教育系の割合が高い一方で、社会系の割合が低くなっている。

そのため、今回の分析を一般化して日本の大学教育の評価を論じることには慎重であらねばならない。しかし同種の調査研究が我が国においてはまだ少ないこと、また本書の目的である指標間の関連性を明らかにし、学生調査の可能性を探るという意味では、必要なデータが得られていると判断し、分析結果を公表することにした。

図表 0-1

a. 1年生

|        | 性別      |         |         | 設置形態    |        |         |         |
|--------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
|        | 男性      | 女性      | 合計      | 国立大学    | 公立大学   | 私立大学    | 合計      |
| 全国     | 363,365 | 247,217 | 610,582 | 105,072 | 26,193 | 479,317 | 610,582 |
|        | 59.5    | 40.5    | 100.0   | 17.2    | 4.3    | 78.5    | 100.0   |
| 調査サンプル | 1,727   | 1,325   | 3,052   | 1,806   | 0      | 1,261   | 3,067   |
|        | 56.6    | 43.4    | 100.0   | 58.9    | 0.0    | 41.1    | 100.0   |
|        | 専門分野    |         |         |         |        |         |         |
|        | 人文系     | 教育系     | 社会系     | 自然科学系   | 医歯薬系   | その他     | 合計      |
| 全国     | 96,915  | 34,613  | 224,568 | 140,151 | 45,943 | 68,392  | 610,582 |
|        | 15.9    | 5.7     | 36.8    | 23.0    | 7.5    | 11.2    | 100.0   |
| 調査サンプル | 591     | 363     | 1,087   | 854     | 172    | 0       | 3,067   |
|        | 19.3    | 11.8    | 35.4    | 27.8    | 5.6    | 0.0     | 100.0   |

b. 4年生

|        | 性別      |         |         | 設置形態    |        |         |         |
|--------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
|        | 男性      | 女性      | 合計      | 国立大学    | 公立大学   | 私立大学    | 合計      |
| 全国     | 408,346 | 263,089 | 671,435 | 128,880 | 27,554 | 515,001 | 671,435 |
|        | 60.8    | 39.2    | 100.0   | 19.2    | 4.1    | 76.7    | 100.0   |
| 調査サンプル | 1,204   | 1,104   | 2,308   | 1,428   | 0      | 886     | 2,314   |
|        | 52.2    | 47.8    | 100.0   | 61.7    | 0.0    | 38.3    | 100.0   |
|        | 専門分野    |         |         |         |        |         |         |
|        | 人文系     | 教育系     | 社会系     | 自然科学系   | 医歯薬系   | その他     | 合計      |
| 全国     | 112,140 | 37,329  | 267,382 | 162,523 | 38,031 | 54,030  | 671,435 |
|        | 16.7    | 5.6     | 39.8    | 24.2    | 5.7    | 8.0     | 100.0   |
| 調査サンプル | 627     | 353     | 562     | 660     | 112    | 0       | 2,314   |
|        | 27.1    | 15.3    | 24.3    | 28.5    | 4.8    | 0.0     | 100.0   |

注: 1) 上段は実数、下段は%。

2) 全国は平成17年度学校基本調査報告書より作成。4年生データのうち、医・歯学については

3) 専門分野の「その他」には、「商船」「家政」「芸術」「その他」に分類されているも含む。

#### 4. 本書の構成

この報告書は5つのパートから構成されている。

第1章は、海外において学生を対象に在学中の教育・学習経験を調査している事例を紹介する。今回取り上げたのは、日本の調査票を作成する上でも参考とした、オーストラリア、イギリス、アメリカの三カ国である。国の教育評価スキームの一環として学生調査が組み込まれたオーストラリア、イギリスと、どちらかといえば研究ベースでスタートしたアメリカとでは、調査の利用法も調査項目にも違いが認められる。日本で学生調査を行う

際に、これら3カ国の経験が示唆する点について検討している。

第2章は、本調査のひとつの柱である、教育・学習活動に関する考察を行っている。教育活動、並びに学習経験を量と質の両面から記述的に分析した後、学習経験の中でも特に授業での経験を取り上げ、それがどのような条件により規定されているかを検証している。授業を通じた学習経験特性は、もちろん、機関の属性である専門分野や、学生の属性としての学力・期待・意欲に左右される側面が少なくない。しかしながら、これら諸点の影響を考慮してもなお、授業経験の質が、教育を提供する側の特性によって、意図に沿う、あるいは意図に反する形で特徴づけられていることが明らかにされる。

第3章は、教育成果と教育・学習活動との連関を検証している。獲得能力、教育経験の充実度、そして教育に対する満足度という複数の成果指標が、互いにどう関連しているかを検討した後、それぞれの成果指標が、教育・学習経験あるいは、その他の諸要因によってどのように規定されているのかを考察している。一口に成果指標といっても、入学時に予め規定されているもの、教育の提供のあり方に規定されているもの、そして実際の学習活動に規定されているものがある。質の高い教育が提供されていることで十分なのか、実際の学習活動や能力獲得までを保証する必要があるのか。教育の質保証の前提条件を問う必要性を説く。

第4章は、学生の性格・態度に焦点をあてた分析を行っている。性格・態度特性は通常、教育・学習経験や教育成果を左右する変数として扱われるケースが多い。だが、教育・学習経験を通して変容する大学教育の成果として捉えることも可能であり、また、就職等の進路を左右する変数としても重要である。別コーホートであるという限定つきながら、1年生と4年生とを比較することで、学生の性格・態度特性は、在学中にも変容する可能性が示され、しかも、大学あるいは大学教育が、進路の決定に少なからず影響を及ぼす性格・態度の形成を規定している点が検証される。

第5章は、学生の能力形成に対するインプット生産性(効率性)を、DEA(Data Envelopment Analysis)を適用して分析している。回帰分析を適用すると、入学以前の学生の質が高ければ大学在学中の能力形成も高いという結果が得られるが、DEAによると、入学以前の学生の質が高なくても大学在学中の能力形成が高い学部が少なからず存在する。逆に入学以前の学生の質が高い学部では、必ずしも大学在学中の能力形成の生産性が高いとはいえない面がある。入学以前の能力が高い大学・学部には天井効果が働く可能性があり、その生産性・効率性を正確に測定できないという課題も残るが、大学評価における入力効率・生産性分析の有効性や、従来大学階層構造上高くない位置にあった大学の再評価の可能性が論じられる。

また巻末には、調査票と基礎集計表を掲載しているので、適宜参照されたい。なお、調査票の分析は、第2章から第5章まで行っているが、類似の分析を行っていても、変数の分類の仕方やワーディングを必ずしも統一していない箇所がある。全体の統一感を優先す

る方向も考えたが、この調査自体、いうならばまだパイロット段階の調査であって、各指標とも確定・統一の上で使用に耐え得る段階ではないこと、また変数の設定次第で、良くも悪くも解釈の方向性にバリエーションが生じることを率直に読者に示し判断を仰ぐ意味で、今回は敢えて統一することをせず、各執筆者の自主性と責任に任せることとした。読者の方からの忌憚のないご批判を頂戴できれば幸である。

## 注

- 1) 数少ない類似の調査としては有本編（2003）があり、学生だけでなく教員にも同様の調査を試みた重要な研究であるが、調査対象者が3年生ということもあり、主たる分析のターゲットは教養教育であり、大学教育全般の質を問うものとはなっていない。

## 参考文献

- 有本章編 2003、『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部。  
大学基準協会 2004、『学士課程基準』。  
大学基準協会 2005、『平成18年度大学基準協会における大学評価の点検・評価項目』。  
大学評価・学位授与機構 2004、『大学評価基準（機関別認証評価）』。

# 第1章 学生による教育の質評価の世界的動向

## - 豪・英・米の事例 -

### 1. オーストラリアの CEQ

#### オーストラリア高等教育の質保証

オーストラリアでは近年、高等教育の質保証システムの整備が急速に進みつつある。そのなかで中心的役割を担っているのがオーストラリア大学質保証機構（AUQA）であり、国内の自己認証機関（self-accrediting institutions：大学や一部のカレッジを指す）における内部の質保証メカニズムの有無や有効性について品質監査（＝オーディット：audit）を5年サイクルで行っている（詳しくは、杉本 2005）。

このオーディットでは、例えば大学が監査対象となるのであれば、その多面的な活動がすべて網羅されることになる。具体的には、大学は自治の理念の下に自らが行う教育、研究、社会貢献、海外への教育提供等について自己評価（self-review）を実施し、その結果を実績報告書（performance portfolio）として提出する。それを受けて、AUQA はオーディット・パネルを編成して同報告書を精査する一方、実際に機関訪問を実施して機関レベルの質保証体制について調査を行うことになる。

その中で大学の教育活動に注目すると、AUQA は各大学が自らの提供する教育の質や水準をいかに維持・向上させているのか、そのために採られているアプローチや手法に焦点を当てている。現在、オーストラリアの大学は自らのカリキュラムや教育方法等の向上・改善について様々な取組みを実施しているが、そのうち教育改善を目的としたツールとして全国レベルで実施されているのが、卒業生に対するコース経験質問紙調査（Course Experience Questionnaire: CEQ）である。

CEQ は、その名称が示すとおり、学生の教育経験に関する質問紙調査であり、1993 年からオーストラリア卒後職業カウンスル（Graduate Careers Council of Australia: GCCA）によって実施されている。その目的は、すべての大学の修了者を対象にその教育及び学習経験に関するデータを収集・分析することを通して、大学教育の質向上、進学希望者に対する情報提供、機関運営への利用、高等教育機関におけるアカウンタビリティの向上を促すことにある。CEQ は、年 1 回オーストラリア全土の大学が参加する調査であるため、その結果は大学間比較が可能である。大学によってはその結果を自らの教育の質の高さ（あるいは質改善に向けた取組みの成果）を示す証左として積極的に利用しているところもある。また、民間の大学ランキング雑誌（*The Good Universities Guide*）でも

CEQの結果が用いられており、卒業生による教育経験の格付け (graduate rating) として各大学のランクが星 ( ) の数で示されている。

### CEQの開発プロセス

そもそも CEQ は、大学に対するアカウンタビリティの要求の高まりを背景に誕生した。1987年に始まるドーキンズ改革 (報告書は Dawkins 1987, 1988) は、高等教育セクターのアカウンタビリティを高めていく必要性を強調し、それは実際に、大学における諸活動のパフォーマンスを量的に測定し得る業績指標の研究開発へとつながった。連邦政府からの委託を受けた業績指標研究グループ (Performance Indicators Research Group: PIRG) によって、複数の大学における試行実施を通して CEQ 開発が進められていった (Long & Johnson 1996: 3-4)。

もちろん、それまでも高等教育の質をいかに捕捉するかという問題には国内外で様々なアプローチが試みられ、その有効性や妥当性について研究が進められてきた。代表的な業績指標 (performance indicators) としては、付加価値、中退率・修了率、学生の就職状況、同僚評価といった手法が検討されてきたが、他方でそれぞれに実施上の困難を抱えてもいた。例えば高等教育の質の測定に中退率・修了率を採用する場合を考えれば、それらはデータ収集が容易である一方、教育パフォーマンス以外の要因の影響を必ずしも排除できているわけではない。さらに、中退率・修了率が質を示す基準と設定された場合、教育提供者がその上昇を目論んで自らの教育水準を低下させてしまう危険性も生じる (Ramsden 1991: 129-130)。指標が本質的に孕むこうした問題性は、CEQ に代表されるような学生による授業評価や教育評価を指標とする場合についても例外ではない。しかし、Ramsden によれば、これまでの実証研究からは「良き教育 (good teaching)」が本質的にいかなる特徴を有するのかについて合意が形成されつつあり、それを教育の目撃者として無比の立場にある学生が評価することの有効性や正確さが指摘できるという。そして、学生による評価で生じがちなバイアスは、実施方法が適正に統制され、学生が教育の諸側面についてののみ 言い換えれば、カリキュラム・デザインに要した時間や労力、教育内容のレリバンスや新しさといった学生が正当にコメントできない側面は除いて 質問されることによって最小限に抑えることができるとしている。例えば、学生が正当にコメントできる教育の質とは、「学生に対する気づかい」「教員のやる気・関心」「明確な組織と目標」「学習に関するフィードバック」「学生の独立性と積極的学習の推奨」「適切な学習量と関連性のある評価手法」「適度にやりがいのある学習環境」といった諸要素を挙げるができる (Ibid. 131-132)。

CEQ はこうした研究成果を踏まえる形で開発が進められた。開発に際しては、設計基準として、学生が正確に判断できる教育やカリキュラムの質の重要な側面をすべて網羅すること、学生への適合性、統制された運営、厳密に検証された項目とスケール、外部

基準との適切な関連性を目指すこと， 作成上・運営上の経済性（少数の信頼できるスケールと項目）を目指すこと， オーストラリア高等教育のコースへの一般的応用性（実験や実習等，すべての領域には適合的でない項目の排除）， 様々な集団レベルで学術単位についての学生の認識の差異を明らかにできること，の5つが設定されている（Ibid. 133）。

具体的な開発プロセスとしては，まず 1989 年 5 月に 100 人の学生を対象に試行調査（Version1）が実施された。その結果分析を受けて，当初の 80 項目は 57 項目に削減され，さらに 2 つの機関の 9 コース 300 人の学生を対象に実施された。それによって，スケールが内的に一貫しており，コース間の差異についても統計的に妥当な結果を示すものであることが明らかとなっている。

先述の PIRG は，こうしたパイロット調査の結果を受けて全国レベルで試行調査を実施する決定を行った。1989 年末に実施された調査では，13 機関の学部プログラムの最終学年が対象とされ，回収率は約 60%，有効回答数は 3,372 であった。また，この段階で使用されたスケールは，Good Teaching，Clear Goals，Appropriate Workload，Appropriate Assessment，Emphasis on Independence の 5 つであった（スケールについては次項を参照のこと）（Ibid. 133-134）。

### オリジナル版 CEQ の概要

CEQ の開発はこうしたプロセスを経て進められ，先述の通り 1993 年から実施に移されるに至った（この段階での CEQ を，2002 年以降の拡大版と区別するため，以下「オリジナル版」とする）。

オリジナル版（25 項目）は，因子分析に基づいて大きく 5 つのスケールと 1 つの項目にグループ化されている。その構成は，Good Teaching Scale（6 項目），Clear Goals and Standards Scale（4 項目），Appropriate Assessment Scale（4 項目），Appropriate Workload Scale（4 項目），Generic Skills Scale（6 項目），コースの全般的満足度を問う Overall Satisfaction Item（1 項目）となっており（図表 1-1 参照），さらにこれらのいずれにも分類されない項目として「このコースはあまりにも理論的で抽象的であった」が加わり計 25 項目となる。これらの質問項目に対して，回答者は 1 の「全くそう思わない（Strongly disagree）」から 5 の「強くそう思う（Strongly agree）」までの 5 段階で回答する。さらに，「あなたのコースで最も良い側面は何でしたか」と「あなたのコースでどの側面が最も改善の必要がありますか」という 2 つの質問が準備されており，自由記述方式で回答することになっている。

具体的な実施手順は概略，次の通りである。CEQ は，同じく GCCA が毎年実施する卒業後進路調査（Graduate Destination Survey: GDS）と合わせて，各大学によってコース修了の約 4 ヶ月後（毎年 5 月前後）に修了者へ郵送される。学生からの回答は 9 月に回収され，翌 2 月に GCCA によって集計結果が公表されることになる。こうした実施方法に



図表 1-1 コース経験質問紙調査（オリジナル版）の項目

| 良質な教育を示すスケール（GTS） |  |
|-------------------|--|
| 1                 | このコースの教員は私が最善の成果を上げられるように動機付けをしてくれた        |
| 2                 | 教員は、多くの時間を使って、私の学習についてコメントしてくれた            |
| 3                 | 教員は、私が学習面で抱えているかもしれない諸問題を理解するのに多大な努力をしてくれた |
| 4                 | 教員は通常、私の学習状況について効果的なフィードバックをしてくれた          |
| 5                 | 講師陣は、物事を説明するのがとても上手であった                    |
| 6                 | 教員は、担当科目が興味深いものになるように努力していた                |

| 一般技能を示すスケール（GSS） |                                       |
|------------------|---------------------------------------|
| 1                | このコースを受けて、問題解決技能が開発された                |
| 2                | このコースを受けて、分析能力が鋭くなった                  |
| 3                | このコースによって、チームの一員として活動する能力が開発された       |
| 4                | このコースを受けた結果、未知の問題に取り組むことに自信が持てるようになった |
| 5                | このコースを受けて、筆記コミュニケーションの技能が向上した         |
| 6                | このコースによって、自分自身の学習を計画する能力が開発された        |

| 全般的満足度を示す項目（OSI） |                        |
|------------------|------------------------|
| 1                | 全体として、私はこのコースの質に満足であった |

| 明確な目標と水準を示すスケール（CGS） |   |
|----------------------|---|
| 1                    | 期待される学習の水準についてはいつも容易に知ることができた                 |
| 2                    | 私は常に、自分の目指している目標やコースで期待されている内容について明確な考えを持っていた |
| 3                    | このコースで私が期待されていることを明らかにするのはいつも難しかった*           |
| 4                    | 教員は、学生から何を期待するのかについては初めから明らかにした               |

| 適切な評価を示すスケール（AAS） |  |
|-------------------|--|
| 1                 | このコースで好成績を収めるためにとにかく必要とされたのは記憶力であった*       |
| 2                 | 教員は、理解したことよりも、記憶したことをテストすることへの関心が高いようであった* |
| 3                 | あまりに多くの教員が、事実についてだけ質問をしていた*                |

| 適切な学習量を示すスケール（AWS） |  |
|--------------------|--|
| 1                  | 学習量があまりに多かった*                            |
| 2                  | 概して、学習した事柄を理解するのに十分な時間が与えられた             |
| 3                  | このコースでは、好成績を収めることに対して多くのプレッシャーがあった*      |
| 4                  | このコースで与えられた学習量はすべてを完全に理解することができないほどであった* |

\*は、回答が反転する項目。

関しては、それが結果する効果について懐疑的な見方もなされている。すなわち、データを利用できるのが当該学生の修了時から早くても1年後ということになり、大学教育に対する社会的要請に即時的に対応できていないという点が指摘されている。

### CEQの改革・拡大

CEQのスキームは現在、数年に及び実施を経て新たな段階に入った。1999年7月、オーストラリア教育省（DETYA）の研究委託を受けたメルボルン大学の高等教育研究センター（CSHE）及び評価研究センター（ARC）によって、CEQの項目見直しを目的とする開発プロジェクトが始動した。こうした新たな取組みの背景としては、近年、高等教育の多様化を受けて教育提供方法（delivery modes）が多様化していること、高等教育経験の提供方法を改善・向上に取り組む大学が増加していること等の諸変化を指摘することができる。すなわち、従来のCEQが教室内の教育・学習活動にのみ焦点化されていることの問題点が認識され、学生の多様な教育的・社会的経験をより広範に捕捉できる新しい項目・スケールの必要性が高まったのである。このプロジェクトを主導したGriffinらは、「教室でコース・アセスメントの標準的手段が、多様な状況下にある学生経験を真に計測することができないなら、それは革新や独自性に対する障害ともなりかねない」と指摘している（Griffin et al. 2003: 260）。

Griffinらによれば、CEQ改善の方策として2つの選択肢が想定された。その第一は、既存の質保証機能を強調しつつ、各機関のコンテキストに見合った手法を使用・付加し、機関特有の質改善情報を収集する方向への改善であった。しかし問題点として、そうした改革には、現行CEQの権威や汎用性を低下させてしまう危険性や、機関別の手法が大学間比較を難しくする相対主義を招く危険性が指摘された。またそれは同時に、学部経験の重要な特徴についての理解を制限し、政策・計画の幅を狭めかねないものでもあった。それに対し、第二の方向は、現在の学生の学習経験を「ダイナミックな影響関係」を提供している文脈に位置づけ直すなかで、CEQが、学生経験のより全体的な諸側面を包含できるように拡大させることであった。これは、学生経験の重要な部分が教室外で起こっている事実に着目し、教室外での経験が教室内でのそれと同じように高次の認知スキルの発達に影響しているとする研究成果を踏まえたものであった。こうした検討の結果、CEQについては第二の方向への改革の必要性、すなわち、CEQを大学における学部経験の多様な側面（社会、科学技術、対人関係、資源）を含み込んだものへと拡大させる必要性が認識されるに至った（Ibid. 260-261）。

こうして、2002年からは以下の5分野からなる新しいスケールが導入されている。すなわち、Student Support Scale（5項目）、Learning Resources Scale（5項目）、Learning Community Scale（5項目）、Graduate Qualities Scale（6項目）、Intellectual Motivation Scale（4項目）である（図表1-2参照）。

図表 1-2 コース経験質問紙調査に付加された新スケール群

| 学生支援を示すスケール (SSS) |  |
|-------------------|--|
| 1                 | 図書館サービスは容易に利用できるものであった                 |
| 2                 | 必要なときに、IT 資源を利用することができた                |
| 3                 | コース及び就職に関する助言には満足できた                   |
| 4                 | 健康・福利・カウンセリングに関するサービスは私の必要にふさわしいものであった |
| 5                 | 必要なときに、関係する学習資源を利用することができた             |

| 学習資源を示すスケール (LRS) |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| 1                 | 図書館サービスは私の必要性に見合ったものであった      |
| 2                 | 教授・学習における IT は、使用時、効果的であった    |
| 3                 | 学習支援のためにどのような資源が利用できるかは明確であった |
| 4                 | 学習教材は、明確で具体的であった              |
| 5                 | コース教材は、ふさわしいものであったし最新のものであった  |

| 学習共同体を示すスケール (LCS) |                                  |
|--------------------|----------------------------------|
| 1                  | 私は、学習に取り組む学生・教職員集団の一員であると感じた     |
| 2                  | 私は、教職員や学生と一緒に学術的関心を探求することができた    |
| 3                  | 私は、他の人たちと一緒に、自信を持って考えを探求することができた |
| 4                  | 学生の考えや提案が、コース受講中に利用された           |
| 5                  | 私は、大学のコミュニティへの帰属意識を感じた           |

| 卒業者の質を示すスケール (GQS) |                                   |
|--------------------|-----------------------------------|
| 1                  | 大学によってさらなる学習へのやる気が刺激された           |
| 2                  | 私は、このコースを受けることで自分の知識分野を広く見ることができた |
| 3                  | 私は、大学経験によって自分以外の見方を尊重することが促された    |
| 4                  | 私は、このコースから得た原則を、新たな状況に応用するようになった  |
| 5                  | 私は、このコースによって新しい考えを探求する自信が高まった     |
| 6                  | 私は、自分の学んだことが将来にとって価値あるものだと考えている   |

| 知的動機を示すスケール (IMS) |                          |
|-------------------|--------------------------|
| 1                 | 私の学習は知的刺激に富むものであった       |
| 2                 | このコースは動機を高めるものであった       |
| 3                 | このコースは専門領域への関心を刺激してくれた   |
| 4                 | 全体として、私の大学経験は価値のあるものであった |

図表 1-3 各スケールの実施機関数

| GTS | GSS | OSI | CGS | AAS | AWS | SSS | LRS | LCS | GQS | IMS |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 44  | 44  | 44  | 26  | 24  | 20  | 12  | 6   | 11  | 22  | 8   |

出典：GCA 2005, p.17 の Table1.5 より作成。

さらに、以上の改革を受けて、2002 年からはコア・スケール (core scales) の 3 つ、すなわち図表 1-1 の ~ の 13 項目が含まれていれば、CEQ の構成は各大学が自由に決定できるようになった。例えば、メルボルン大学では 2002 年から、1, 2, 3, 8, 9, 11 の 6 スケール 27 項目について調査を実施している。また、シドニー大学の CEQ ではコア・スケールのみを使用する一方、在学生を対象に実施している SCEQ (Student Course Experience Questionnaire) においてはオリジナル版に の LCS をプラスして用いている。

なお、2004 年度 CEQ 調査を見ると、全部で 44 の大学 (及びカレッジ) が参加し、全体の回答率は 44.8% (機関レベルで見ると 25.5% ~ 66.7% の幅がある) で前年度比 0.3% 増であった (GCA 2005)。また、各スケールの実施機関数は図表 1-3 に示す通りであった。

### オーストラリアの経験の含意

以上見てきたように、CEQ は開始から約 10 年の経験を踏まえ、2002 年からは新たな展開を見せ始めている。そのプロセスを追っていく作業からは、多面的で捉えにくい大学教育の「質」をいかに捕捉し向上につなげるかという、現在日本の各大学、さらには大学システム全体が直面する課題に対して一定の示唆を得ることができる。

本稿での考察から得られる最大のポイントは、CEQ における質問項目の選定や増設のプロセスそのものにあるだろう。それはすなわち、2002 年における新たなスケールの導入に見られるように、大学教育の質を学生のより広い学習経験から捉え直すことによって、特に教室外も含めた学習支援や学習環境までも含み込んだ指標を設定したことである。図表 1-3 を見ると、2004 年においても新しいスケールを実施した機関は必ずしも多くなく、しかもバラツキがある。しかしながら、これら新しいスケールの導入が各機関の置かれた文脈に応じて新たな経験領域に着目し、それぞれが質改善を実現していく可能性を開いたことは確かである。そうした新たな可能性の創出は、大学教育の提供の方法や構造について、その教育的効果を幅広く柔軟に把握する方途を与えている。

## 2. イギリスのNSS

オーストラリアと同様に、イギリスにおいても教育の質や水準の保証に関わる様々な取組を実施してきた。高等教育財政審議会（HEFC）及び高等教育水準審議会（HEQC）で行われてきた評価の取組を高等教育質保証機構（QAA）が引き継ぎ、専門分野別評価（subject review）と機関評価（institutional review）を行ってきた。何れも、大学はまず自己評価報告書を作成し、それを当該領域の専門家がピアレビューするという仕組みである。これらの評価が一巡した後、専門分野別評価の費用対効果への批判等を踏まえて、2003年以降は、以前よりスリム化された機関監査（institutional audit）と呼ばれる6年サイクルで行われる新たな形態が導入されるに至っている（モ・ガン 2003）<sup>1)</sup>。

ただし、こうした評価システムのスリム化は、単に大学側の負担増に対する批判のみから実施されたわけではなく、長年の評価活動の結果、イギリスの教育の質及び水準は、自己点検評価に基づく限り特段の問題はないとの判断があったためである。しかし、専門分野別評価は、NSS（National Student Survey）という在学生によるプログラム評価という別の形式で再現することとなった。NSSは、先述したオーストラリアのCEQとほぼ同様の取組で、評価システムのスリム化と時を同じくして導入が図られたものである<sup>2)</sup>。

### NSSの導入とその背景

NSSの導入に対する背景としてはいくつか指摘できる。まずは、これまでの専門分野別評価の代替措置とみなすこともできる（HEFCE 2001）。また従来の教育評価システムは、各大学の自己点検に基づき教育改善に資することを重視していたが、質のチェック機能を高めるために導入されたともいえる。大学の自己申告に基づく評価からは教育の質の高さが検証されたが、教育の消費者つまり学生の視点からも同様のことが確認されるのか、それを検証するための導入であったという見方もできる。2001年から新しい教育の質評価の枠組みを模索する動きが開始され、翌年NSS導入の提案を含む報告書が提出された（HEFCE 2002）。2002年にはNSS実施に向けたSFPSG（student feedback project steering group）という専門委員会が立ち上がり、翌年最終報告書が提出されている（Report of the student feedback project steering group 2003）。

なお、教育の質に関わる情報としては、入学段階の資格情報や、在学中の資格獲得状況、卒業率や就職状況に関しての客観的情報をHESA（higher education statistics agency）で収集していた。しかし、入学水準の高さが教育の質の高さを保証するわけではないし、比較可能な教育のパフォーマンスについては卒業率や就職率くらいしか測定していなかった点も、NSSの導入の背景として指摘されている（HEFCE 2001）。また、従来の評価スキームでも大学を訪問して学生の意見の徴収等は実施してきたが、極めて限られた情報であり、またサンプルベースの調査では不十分という理解から、全学生を前提とした調査の

導入が推進された。

加えて、個々の大学でも学生を対象とする類似の調査は実施されていたが、その目的がどちらかといえば自己点検に基づいて各大学の教育を改善していくというものであり、情報が開示されて公に活用できるものではなかった。また、開示されても分野や大学ごとに調査内容が異なっており、比較することは不可能だった。NSSは、一般に公表されて利用が可能な情報を提供することを主眼としており、その際には、将来大学選択を行う学生や高校に対して選択に有益な情報を提供すること、アカウンタビリティに対応すること、という大きく2つの目的を掲げていた（Report of the student feedback project steering group 2003）。

NSSは当初からサンプリング調査ではなく全大学が参加し高い回収率を実現することが企図され、当初回収率は最低でも50%以上が目指された。それは、結果を公表することが前提であったためである。そのため、調査時期や信頼に足る調査項目のチェックのために、2003年と2004年に2度にわたってパイロット調査が実施された。2003年は卒業後すぐ、2004年は卒業直後に実施され、最終的に卒業前の冬に調査を開始することとなった。また質問項目は、先行していたオーストラリアのケースをかなり参考にして作成された。当初は質問項目が多かったが、公表時にはテーマ毎にまとめられた結果を提示することができるように、主成分分析等を用いて類似した項目に分類されにくい項目は除外するという方針がとられた。

その結果、最終的に 教育（4項目）、評価とフィードバック（5項目）、学習支援（3項目）、プログラムの組織と運営（3項目）、学習資源（3項目）、学習成果（3項目）の5分類に質問項目は大分類され、これに教育部プログラムの満足度を加えた22項目が採用された（図表1-4）。

調査項目からわかるように調査内容は教育と学習の双方の経験を尋ねるというよりも、どういう教育が提供されたかを問うものとなっている。当初は、入学時点からの変化という付加価値アプローチや、既に行われていたFDS（first destination survey）に調査内容を盛り込むことも検討されたが、前者に関しては信頼に足る計測手法や指標が未開発であること、後者に関しては修了と就職というハードで客観的な情報を収集するための目的から逸脱するとのことで、採用が見送られている（HEFCE 2002）。なお、卒業前と後では例えば就職状況で教育に対する評価が左右されるといったことも考慮されたようである。

なお、HEFCEはNSSの導入に当たって個々の大学だけでなく、学生組合や企業に対してもコメントを求めている。例えば研究大学からは、個別大学レベルの調査が望ましく、また雇用者の意見が必要等のコメントが寄せられているが、特にどの分野あるいはどの大学（研究中心から教育中心か）で特徴的な反応がみられたというわけではないようである。

図表 1-4 National Student Survey2005 の質問項目

|   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 授業について                                  |                                 |
| Q1                                      | 教員の説明はわかりやすかった                  |
| Q2                                      | 教員は当該分野に興味をもたせるよう工夫していた         |
| Q3                                      | 教員は熱意をもって教えていた                  |
| Q4                                      | 授業を通じて知的刺激が喚起された                |
| 評価とフィードバックについて                          |                                 |
| Q5                                      | 評価基準は予め明確に提示されていた               |
| Q6                                      | 評価は適切かつ公平に行われた                  |
| Q7                                      | 課題に対するフィードバックは迅速になされた           |
| Q8                                      | 課題に対して詳細なコメントを受け取った             |
| Q9                                      | フィードバックは理解していなかったことを解決する上で役に立った |
| 学習支援について                                |                                 |
| Q10                                     | 学習面で十分なアドバイスと支援を受けた             |
| Q11                                     | 必要な際に教員に連絡・接触できた                |
| Q12                                     | 学習上の選択をする上で適切なアドバイスが得られた        |
| 組織と運用について                               |                                 |
| Q13                                     | 時間割は適切だった                       |
| Q14                                     | 授業の変更等の伝達は適切に行われた               |
| Q15                                     | 教育課程は体系的で首尾よく運営された              |
| 学習資源について                                |                                 |
| Q16                                     | 図書館の設備やサービスは充実していた              |
| Q17                                     | IT設備は充実していた                     |
| Q18                                     | その他の必要な施設・設備等が充実していた            |
| 教育成果について                                |                                 |
| Q19                                     | 学習を通じて自身に自信が持てるようになった           |
| Q20                                     | コミュニケーションスキルが向上した               |
| Q21                                     | 未知の課題に対して自信をもって対処できるようになった      |
| 全体の満足感                                  |                                 |
| Q22                                     | 教育課程の質に対して全般的に満足している            |
| 自由記述                                    |                                 |
| 教育・学習経験について特によい点と改善が必要な点があれば自由に記述してください |                                 |

### 第1回NSSの結果とインパクト

2005年の第1回の全国調査の結果は、イングランド、ウェールズ、北アイルランドの141機関の最終学年に在籍する287,425人を対象に行われた。171,630人が回答し回収率は60.2%という結果であった。これは、インターネットや電話など様々な回答ツールを用意して回収率の向上に努めた結果でもある。電話での回答が45.5%、オンラインによる回答が31.1%、そして郵送による回答が23.4%といった構成になっている。回収率は20.3%から84.2%までとばらつきがでているが、教育プログラムの経験に対しては80%以上が満足と答えている(Richardson 2005)。また、具体的な大学別、専門分野別の結果はTQI(teaching quality information)のwebサイト(<http://www1.tqi.ac.uk/sites/tqi/home>)

/index.cfm)に掲載されている。

HEFCE の立場としてまず想定されるのは、これまでの専門分野別の評価の再確認や高等教育のアカウンタビリティという意味では、全体として低調な結果が出るのは望ましくないはずである。その点からすれば、学生の意見でも教育に対する評価が全般的に高かったということで、ほっとしているようである。むしろ結果のよさが前提で、高い水準の中で微少な差異があればいいというのが本音であろう。大学側の反応は後に述べるが、TQI サイト上の結果にはさほど関心はないようである。なお、こうした結果は恐らく、2003 年と 2004 年のパイロット調査の結果からある程度予想されたと考えられる。予想の範囲を超えた結果が出ないことを確認した上で、全国調査に踏み切ったとみることも可能である。ある大学でインタビューした際にも、ほぼ予想された結果が得られたという反応であった。

今ひとつの重要な目的であった、大学選択の指針になる指標の提供という意味ではどうだろうか。これについては、受験生にとっては依然として入学時の難易度や大学の威信が、大学選択の重要な指標として機能しており、さらに NSS の結果の間に大きな差異がないということで、どこまで大学選択の上で利用価値のある情報かは、不明な点が多い。また、第 1 回目の調査という意味からも、利用者の動向を静観している状況である。なお、web システムを除く調査費用として 150 万ポンドがかかっており、コストベネフィットということも考える必要があるが、とりあえず 2006 年は項目の若干の見直しも含めて実施し、できれば毎年続けたいというのが HEFCE の意向である。なお、特に結果が相対的に低かった大学は、その改善を示す意味でも毎年の調査は必要とのことであった。

なお、我々が目にすることができる NSS の結果は TQI の web サイトのみだが、これとは別にもう 1 つのサイトが存在する。TQI には専門分野別大学別の結果しか掲載されておらず、大学別や分野別の回収率に関する記載もない。これに対して別のサイトでは、他の変数も含めて学科別の詳細な結果が掲載されているという。個別大学はこの第 2 のサイトに入って詳細なデータをみることができるようになっている。大学側の反応がさほど悪くないのは、こちらのサイトを利用することで、単にアカウンタビリティや学生の視点から見た質のチェックというだけでなく、教育改善のための情報も得られるからかもしれない。

大学側の NSS に対する反応だが、質問項目が一般的すぎるという批判がある。ただしこれは、専門分野・大学を超えて比較できるように公表するという前提であった以上、やむを得ないことであろう。また、回収率を上げるために質問項目を少なくすることも目的にあったため、改善に結びつけていく場合には回答の背景がわかる設問も必要で、それが欠落しているという批判もある。しかし、その点を犠牲にして獲得できる情報としての比較可能性は、個々の大学にとってもメリットがあるようである。特に先に示した TQI とは別のサイトでの学科別の分析等は専門分野で丸めると出てきにくい差も明確に出ており、教育改善を考える上でも有意義な情報ということであった。このことは逆にいえば、TQI



サイトの情報は大学にとっても、受験生にとってもあまり役立たないということの意味する。ただし、学科別の情報はサンプリングに偏りもあるし、学科構成が大学によって一様ではないために、公表には向かないという理由も一方で存在している。

なお、教育の与えられ方よりも、付加価値アプローチや学習経験自体の重要性について質問したところ、入学水準の高いところではもともと能力の高い学生が入っておりインプット状態からの付加価値として測定することが難しいとか、学習経験については試験や成績が実質的な学習経験の評価になっているので、特に必要性は感じないという意見が寄せられた。また、学習の成果を聞くには、在学生ではなくて卒業生に聞く方がよいのではないかという意見もあり、こうした様々な考えが存在している以上、NSS に付加価値や学習経験を問う項目を設定できなかったということであろう。

考えてみれば、全体的に高い水準でアカウントビリティを確保するという目的と、大学選択に寄与する情報の提供という目的とは、相反する側面を持っている。後者に対する疑問の声が大きいのはやむを得ないのかもしれない。もっとも、細かく学科別に見れば差異は明確にでてくるようである。ただしこの点に関しては英国の場合、結果の公表はすなわちマスコミ等によるリーグテーブル化を意味しているため、どういう分類で結果を公表するかはHEFCEとしても慎重にならざるを得なかったといえる。リーグテーブルになると、例えば満足度 80%と 81%でも順位がつけられることとなり、微少な差異まで大きな差があるようにみせかけるというリスクが生じる。専門分野をどのレベルで公表するかというやりとりが NSS の導入をめぐる頻繁に行われたのは、このことが背景にあったためである。

なお、企業については HEFCE のレポート ( HEFCE 2001 ) にもあるように、企業は特定の専門スキルや面接で確認されるパーソナリティ面への関心は非常に高いが、一般的な教育の質評価に対する関心はあまりないようで ( このことは結局どこの大学の学位かということ企業は重視しているという意味 )、企業にとって NSS の情報が意味することは少ないということである。また個別大学で行われる授業評価は非常に個別授業にスペシフィックなものとなっており、教育経験全体を平均値として答えることによるリスクがないわけではないが ( 特定の経験で全体の回答が左右されてしまう )、全体的に問うというチェック方法にも一利あるという認識も存在している。

### イギリスの経験の含意

ここで NSS を取り上げてきたのは、日本で実施する在学生による教育・学習経験の調査の先行事例として注目したからである。誤解のないように断っておくが、NSS はイギリスにおける教育の質保証の取組の多用なツールの中の 1 つに過ぎず、教育の質保証のコア的な存在ではない。その上で、日本で調査をする上でイギリスにおける NSS の経験が示唆することは、以下の点である。

第1に、機関間でバラツキはあるものの、全体的には公表して大学間比較に耐えうるだけのある程度高い回収率を確保しているということである。ただし、良質のデータを集めるために、調査方法も複数用いており、かなりのコストを要している。

第2に、公表と比較を前提とした信頼に足る指標の確保という点で、取り扱っている項目がどういう教育が与えられたかという教育経験が中心のシンプルな作りとなり、実際にどういう学習を行ったかという学習経験への設問が欠落し、教育成果についても限定的な設問になっている。もっともこれは、NSSの目的に沿った結果であり、別途変数を付け加えて調査を実施する意義を否定するものではない。

第3に、そうした設問項目の限界はあるものの、教育の与え方つまり教育の水準を測定する指標として、どういった領域に着目し、具体的にどういった設問を行っているかは、日本において質問項目を策定していく上で参考になる。

### 3. アメリカの NSSE と CSS

アメリカには、地域別のアクレディテーション団体は存在するものの、全国的な評価機関が存在しているわけではない。また、各アクレディテーション団体レベルにおいても、オーストラリアやイギリスのように、教育の質や水準の評価システムの中に統一フォーマットによる学生調査は位置づけられてもいない。もっとも、類似の全国レベルの調査は存在しており、それは個々の大学内におかれた研究センター等がコアとなって実施している。従って、調査への参画も強制的なものではなく、個々の機関の自主性に委ねられている。以下では、インディアナ大学が実施している NSSE (National Survey of Student Engagement) と UCLA が実施している CSS (College Student Survey) を取り上げる<sup>3)</sup>。

#### NSSE の概要

インディアナ大学の中等後教育研究センター (Center for Postsecondary Research) が 2000 年に開始した調査である。NSSE を実施する以前の 1979 年から、インディアナ大学では CSEQ (College Student Experiences Questionnaire) という学生調査を手がけている。CSEQ は教育評価というよりも学生研究そのものを目的としており、正規の教育プログラム以外のことも設問している。50~60 機関の約 2 万人が参加している規模的にはある程度大きな調査だが、調査対象は全国を代表する形では設計していない。

NSSE は 1 年生と 4 年生という異なるコーホートを対象としている。2004 年には 473 機関の 56 万人が参加しており、全国規模の調査となっている。実施者に尋ねたところ、NSSE の目的は、名声や威信を基盤とする従来型大学ランキングに代わる大学教育の質情報の提供にあるという。後で取り上げる UCLA 調査がどちらかといえば研究用ツールなのに対して、NSSE は大学の教育改革に寄与することを主眼とし、質問内容も教育・学習経

図表 1-5 NSSE の設問項目

|     |                      |     |                   |
|-----|----------------------|-----|-------------------|
| Q1  | 在学中の教育・学習経験          | Q16 | 性別                |
| Q2  | 授業で重視されていた認知的活動      | Q17 | 留学生・外国籍の有無        |
| Q3  | 試験にどの程度意欲的に取り組んだか    | Q18 | ラテン系出身の有無         |
| Q4  | 読んだ本の数と書いたレポートの数（年間） | Q19 | 人種・民族             |
| Q5  | 宿題に費やした時間（週間）        | Q20 | 学年                |
| Q6  | 正課外の活動               | Q21 | 編入学の有無            |
| Q7  | 正課外の活動               | Q22 | 他の教育機関への在籍経験（高卒後） |
| Q8  | 友人、教員、職員との関係         | Q23 | フルタイム修学の有無        |
| Q9  | 生活時間（週間）             | Q24 | 友愛会のメンバーの有無       |
| Q10 | 学習、生活支援              | Q25 | スポーツ学生の有無         |
| Q11 | 知的、人格的成長への貢献度        | Q26 | 成績                |
| Q12 | 学問的指導の質              | Q27 | 居住状況              |
| Q13 | 教育経験全般に対する満足度        | Q28 | 両親の最終学歴           |
| Q14 | 同一機関を再選択する可能性        | Q29 | 第 1 主専攻           |
| Q15 | 生年                   | Q30 | 第 2 主専攻           |

験項目に焦点化している（図表 1-5）。

NSSE の開始には、準備に 2 年間に要し、1 年目はコンセプト作成、2 年目はパイロット調査を実施している。立ち上げ時には財団からの資金が必要だったが、現在はサンプルサイズで決定される各大学が支払う費用により、自主運営をしている。同大学内のサーベイセンターでサンプリングと調査の実査までを行っている。また、調査媒体には紙と web を用いているが、回収率に大きな相違は生じておらず、IT の利用状況等の設問を除けば、紙調査と web 調査で回答傾向にも大きな差はないという。

NSSE のユニークな点は、1 年生と 4 年生を別コーホートとして調査していることにある。ただし、1 年生あるいは 4 年生同士を機関間で比較することは行っていない。1 年生から 4 年生までの変化はみていないという。1 年生と 4 年生の間の比較を行わないのは、パネル調査でないためコーホートバイアスがあるという点に加えて、1 年生と 4 年生とでは、受ける教育内容（一般教育と専門教育）だけでなく、専攻も変わり得るためという理由がある。なお、日本のように入学時から専門が決まっているシステムであれば、比較する可能性は残されているかもしれないという指摘もあった。

なお、イギリスの NSS と異なるのは、サンプリング調査であるということに加えて、抽出は機関単位で行っており、専門分野（プログラム）単位ではないことである。専門分野間の比較までを考慮した分析は、機関単位のサンプル数を相当大きくしなければならず、行っていないという。質問項目の意図についても若干付言しておこう。教育・学習経験全般の満足度（Q13）は、NSS でも用いられていた変数だが、これは調査参加校に対する政治的配慮で設けているだけで、教育・学習経験の指標としての信頼度は低いという。むし

る、満足度とも相関の高い対人関係（Q8）や成果としての知的、人格的成長（Q11）に関わる設問が重要ということだった。

さて、NSSE はどのように利用されているのか。オーストラリアやイギリスのように、個別大学ごとの結果が公表されることはなく、調査参加校に対して当該校のデータと、比較のために類似する機関全体の平均値のデータが提供されるという。しかし、サンプル数にも依存するが、1 機関内で専門分野別等の分析を行えるデータにはなっていない可能性がある。そのため、インディアナ大学では NSSE をアクレディテーションにも使ってもらおうよう、アクレディテーションツールキットを作成し、積極的に活用を推進している。その取組もあって現在、NSSE への参加校のうち、NSSE をアクレディテーションに使っている割合は 31%に達している。また、授業評価の項目に NSSE のような内容を今後組み込んでいくことも必要ではないかという意見も聞かれた。

インディアナ大学は、学生調査の結果を相対化することに加えて、教員の意識を高めるために、NSSE と同様の設問を教員に対しても行う FSSE（Faculty Survey of Student Engagement）を開始している。なお、FSSE と NSSE の回答結果には格差もあり、学生の評価をベースにすべきか、教員の評価に依拠すべきかの考察や判断はまだ決着をみていない。

## CSS の概要

UCLA の高等教育研究センター（Higher Education Research Institute）が 1993 年に開始した調査である。HERI の調査としては、1966 年に始まった Freshman Survey がよく知られている。2003 年は 646 機関（2 年制含む）、39 万人が参加する全国規模の調査で、毎年結果が The American Freshman というタイトルで出版されている。高校の成績はインフレーション気味であることや高校 3 年時の勉強時間が減少傾向にあることなど、長年の継続調査故にわかることも少なくない。また、2000 年からは First College Year Survey も開始している。これは、Freshman Survey と組み合わせることで、1 年間の変化を検証することが可能な設計となっている。

CSS は、Freshman Survey のフォローアップ需要から誕生したものである。セキュリティコードで CSS と Freshman Survey とはマージできるようになっており、同一人物が両方の調査に回答すれば、4 年間の変化が抽出可能という。ただし、参加規模は 150～200 機関、1.5 万人程度であり、全国を代表するようなデータとはいえず（Freshman Survey は全国データにするために機関数を 700 にしている）、結果も広く公表されていない。Freshman Survey は多くの機関で関心があるが、CSS（学年は特定化していないが 80%以上の回答者は 4 年生）への関心はそこまで高くないという。近年だと、NSSE の存在の影響もあるのかもしれない。

調査項目を図表 1-6 に挙げたが、NSSE は調査項目を教育・学習経験に絞っているのに

図表 1-6 CSS の設問項目

|     |                  |     |                      |
|-----|------------------|-----|----------------------|
| Q1  | 入学年              | Q15 | 人種・民族                |
| Q2  | 性別               | Q16 | 英語が母語か否か             |
| Q3  | 同一機関を再選択する可能性    | Q17 | 各種サービス・機会に対する満足度     |
| Q4  | 取得予定学位と希望最終学位    | Q18 | 入学後の知識・技能の伸び         |
| Q5  | 借入金の総額           | Q19 | 自身にとって重要なこと・価値観      |
| Q6  | 入学以来の諸経験         | Q20 | 宗教的な好み               |
| Q7  | 入学以来の諸活動（頻度）     | Q21 | 入学後の各種経験の達成感         |
| Q8  | 各種サービス・機会に対する満足度 | Q22 | 同一年齢集団の中での自身の能力・性格特性 |
| Q9  | 就学上の地位           | Q23 | 教員から受けたサービス          |
| Q10 | 成績               | Q24 | 主専攻                  |
| Q11 | 生活時間（週間）         | Q25 | 政治的・社会的信条            |
| Q12 | 将来予定している仕事       | Q26 | 今後6ヶ月間の予定            |
| Q13 | 過去1年間に経験したこと     | Q27 | ID付きデータの使用の許諾の有無     |
| Q14 | 政治観              |     |                      |

対して、CSSの方が幅広く設問していることがわかる。何れの調査でも起こりうることだが、回収率は機関によって10%～90%代と幅があり、多くは紙媒体のみの調査を採用しているという。また、NSSEでは独自の設問ができないが、CSSの場合には5割弱が独自の設問を設定しているという。

CSSの結果からわかることをいくつか紹介すると、教育に対する満足度は高いが各種支援に対する満足度は低い、1年生よりも4年生の方が学習時間が長い、高校の成績より大学の成績の方が悪い（ただし勉強時間は大学に入ってからの方が長い）、課外活動への参加時間は減少傾向にある、自己認識や自信、書く力は入学後に改善している一方で数学力は減退、等である。

調査結果の利用は、NSSEと同様に専門分野やプログラム単位というよりも、機関単位であり、ここでも機関単位を超えた分析になると回収率が問題となるようである。また、学生調査なので、プログラム特性の抽出には不向きで、あくまで学生のタイポロジーにメリットがあるという指摘であった。CSSに参加した各大学の利用目的は、2003年（2004年）調査で、学生の理解 - 93%（100%）、他の機関の学生との比較 - 72%（87%）、報告書作成に寄与 - 86%（91%）、内外からの質問からの回答に寄与 - 81%（95%）、意志決定や行動に寄与 - 74%（78%）という。

### アメリカの経験の含意

以上のアメリカの事例は、同じ学生調査であっても調査主体や調査目的という意味で、オーストラリアやイギリスとは異なった性格を有している。オーストラリアやイギリスの経験を相対視する意味でも、アメリカをみることに意義はあり、日本で調査を進めるにあたっては、以下の点が参考となる。

第1に、どういう教育が与えられたかという項目だけでなく、実際の学習経験や教育成

果に関わる項目も充実している。これは、オーストラリアやイギリスのように、全国的な教育評価スキームに組み込まれ、結果の公表を前提としているわけではないという、調査目的の相違による部分が大きいかもしれない。消費者としての学生の意見に着目するという点での方向性は同じだが、調査項目には違いがある。

第2に、上記のこととも関わるが、教育の質や水準を考える場合、何を指標とするかという問題である。例えばイギリスのNSSは、大学から見ても学生から見ても「よい教育の提供」に評価の重みがおかれている。しかし「優れた教育の提供」は、教育の意図にみあった「優れた学習」というプロセスや「優れた成果」というアウトプットの前提条件だが、これらを保証するものではない。もちろん、ここでいう「優れた」を何でもって実証するかは容易ではない。しかしアメリカの経験は、少なくとも学生に依拠した研究を進める上で、教育の質保証の議論が全国レベルの評価スキームのコンテキストに巻き込まれることで矮小化されるリスクもあることを示唆している。

## 注

- 1) この節の考察は、HEFCEのwebサイトから得られる情報(<http://www.hefce.ac.uk/learning/nss/>)と、2006年1月から2月に行ったHEFCE、UUK(UniversitiesUK)、University of Bristolへの訪問調査の情報に基づいている。
- 2) この節の考察は、主として2005年3月に行ったインディアナ大学およびUCLAへの訪問調査の情報に基づいている。
- 3) 1990年代のイギリスの大学における教育評価の具体的な仕組みについては安原(2003)を参照。

## 参考文献

- Astin, A. A., Oseguera, L, Sax, L. J., & Korn, W. S. (2002). *The American freshman-thirty-five year trends*, Higher Education Research Institute, UCLA.
- Dawkins, J. (1987). *Higher education: A policy discussion paper* (Green Paper), Canberra: AGPS.
- Dawkins, J. (1988). *Higher education: A policy discussion paper* (White Paper), Canberra: AGPS.
- Graduate Careers Australia (GCA), (2005). *Graduate course experience 2004: The report of the course experience questionnaire*, Graduate Careers Australian and

- Australian Council for Educational Research.
- Griffin, P., Coates, H., McInnis, C., & James, R. (2003). The development of an extended course experience questionnaire, *Quality in Higher Education* 9(3), 259-266.
- Hand, T., Trembath, K., & Elsworth, P. (1998). Enhancing and customising the analysis of the course experience questionnaire, EIP 98/17, Department of Employment, Education, Training and Youth Affairs.
- Higher Education Funding Council for England (HEFCE) (2001). *Information on quality and standards of teaching and learning* ([http://www.hefce.ac.uk/Pubs/hefce/2001/01\\_66.htm](http://www.hefce.ac.uk/Pubs/hefce/2001/01_66.htm))
- HEFCE (2002). *Information on quality and standards in higher education* ([http://www.hefce.ac.uk/Pubs/hefce/2002/02\\_15.htm](http://www.hefce.ac.uk/Pubs/hefce/2002/02_15.htm))
- HEFCE (2004). *National student survey 2005 consultation* ([http://www.hefce.ac.uk/pubs/hefce/2004/04\\_22/](http://www.hefce.ac.uk/pubs/hefce/2004/04_22/))
- HEFCE (2004). *National student survey 2005 outcomes of consultation and guidance on next steps* ([http://www.hefce.ac.uk/pubs/hefce/2004/04\\_33/](http://www.hefce.ac.uk/pubs/hefce/2004/04_33/))
- McInnis, C., Griffin, P., James, R., & Coates, H. (2000). *Development of course experience questionnaire (CEQ)*, EIP 01/1, Department of Education, Training and Youth Affairs.
- National survey of student engagement-institutional report* 2004.
- Report of the student feedback project steering group* 2003 ([http://www.hefce.ac.uk/Pubs/rdreports/2003/rd09\\_03/](http://www.hefce.ac.uk/Pubs/rdreports/2003/rd09_03/))
- Ramsden, P. (1991). A performance indicator of teaching quality in higher education: The course experience questionnaire, *Studies in Higher Education* 16(2), 129-150.
- Richardson, J. T. E. (2005). *National student survey: Interim assessment of the 2005 questionnaire* 2005 ([http://www.hefce.ac.uk/pubs/rdreports/2005/rd20\\_05/](http://www.hefce.ac.uk/pubs/rdreports/2005/rd20_05/))
- モーガン K. J. (2003). (近田訳)「英国の大学における質の評価」『名古屋高等教育研究』第3号, 名古屋大学高等教育研究センター, 111-136頁。
- 杉本和弘 2005, 「現代オーストラリア高等教育における質保証システムの構築と展開」, 広島大学高等教育研究開発センター編『COE 研究シリーズ 16 高等教育の質的保証に関する国際比較研究』, 189-214頁。
- 安原義人 2003, 「イギリスの大学評価 - イングランド高等教育財政カウンスル(HEFCE)による教育評価の仕組み - 」大南正瑛・清水一彦・早田幸政編著『大学評価文献選集』エイデル研究所, 98-108頁。

## 第2章 大学生の学習経験とその規定要因

### 1. 序論

#### 課題設定

大学教育を知る上で今日もっとも多く利用されている情報のひとつとして、そこで学ぶあるいは学んだ学生の意見を挙げるができる。その収集方法の代表例である授業評価は、2003年度には9割以上の大学で実施されており（文部科学省 2005）、また大学外の主体による調査も近年盛んに行われている（リクルート 2000、高等教育研究会学力観調査プロジェクトチーム編 2002、ベネッセ教育総研 2005、21世紀大学経営協会大学評価委員会 2005など）。これらの取り組みは、学生の意見収集という手段の点で共通しているが、その目的においては、当該教育に携わる者による（主にその活動に対する）意思決定に資する場合と、そうではない者（未来の学生や世間一般）の意思決定や認識形成に役立つ場合とがある。いうまでもなく、授業評価は前者の例であり、大学外の主体による調査は主に後者のそれである。

目的が異なれば当然、収集される情報の種類も変わってくる。しかし、いずれの目的で実施される調査においても、共通して十分な関心が払われていない領域がある。それが、本章で取り上げる「学習経験」である。学習経験は、教育の本質的な目的である学習成果にもっとも直接的な影響を与える要因であり、教育成果の代替変数として適しているばかりか、「意見」という主観的な情報により実態を把握しようとする場合には、時として学習成果よりもふさわしいことがある。なぜならば「・・・ができる」という判断基準は、個々人でかなり異なることが予想されるが、「・・・した」という事実の想起では、そのような問題が起こりづらいと考えられるからである。

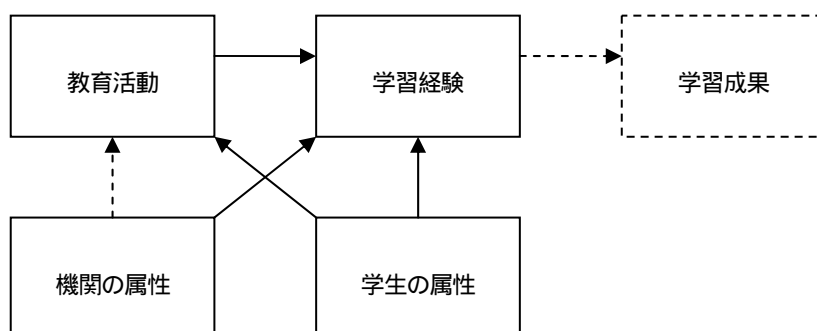
そこで本章では、学生調査の第 部、教育・学習経験に関する回答を中心に分析を行い、学習経験の実態を明らかにすると共に、その規定要因を検証する。

#### 分析の枠組み

図表 2-1 は、本章における分析枠組みを概念的に示したものである。まず教育の目的である学習成果があり、それを規定するものとして学習経験を、さらに学習経験を方向付けるものとして教育活動を想定する。学習経験は教育活動以外にも、個々の学生があらかじめ備えている学力や性格といった属性により異なることが考えられる。また学生の属性は、どのような教育を行うかに関しても影響を与えるだろう。さらに専門分野や施設・設備と



図表 2-1 分析の枠組み



いった教育機関の属性が、教育活動および学習経験を制約することは想像に難くない。こうした関係の中で、本章での言及対象となる部分は実線で示している。

以下ではまず第2節で、学習経験を最も直接的に規定すると考えられる教育活動について、学生の目を通して明らかにし、因子分析を用いた情報の集約を試みる。次に第3節では、学習経験の実態を量と質の両面から描出し、教育活動の場合と同様の手法を用いて分類化を行う。そして第4節において、教育活動、機関の属性、学生の属性に関する諸条件を説明変数とした学習経験の質の規定要因分析を行い、最後に第5節として、全体を通して得られた知見のまとめと大学教育への示唆を述べる。

なお本章では、学士課程教育総体としての学習経験に着目するため、分析に用いるデータはすべて最終学年（4年生と6年生）の回答者によるものに限定している。

## 2. 教育活動

### 教育活動の概要

質問票では、大学教育全般の教育活動について、15の側面から4段階評価を求めた。図表 2-2 には、4年生以上全体の平均と、入試難易度別の平均値およびその差の検定結果を示している。

全体として平均値が高かった項目としては、「教員は授業の準備を十分にしている（準備）」、「良い成績をとるには記憶力が重要だ（記憶力重視）」、「教員は授業外でも熱心に指導してくれる（授業外指導）」等が挙げられる。十分な準備や熱心な授業外指導は好ましい傾向と言えるが、記憶力が過度に重視された授業は「表面的な学習」（Biggs 2003）を導く恐れがあり注意が必要である。反対に「返された提出物には十分なコメントがつけられている（コメント）」や「授業評価等の調査結果が授業改善に活かされている（授業改善）」

図表 2-2 入試難易度と教育活動<sup>1)</sup>

|         | 全 体  | 入試難易度  |       |        | F 値      |
|---------|------|--------|-------|--------|----------|
|         |      | 低      | 中     | 高      |          |
| 工 夫     | 2.74 | 2.83   | 2.69  | 2.72   | 5.89**   |
| 関心喚起    | 2.61 | 2.71a  | 2.59  | 2.53a  | 9.93***  |
| 授業準備    | 3.01 | 3.09a  | 3.04  | 2.91a  | 9.08***  |
| 授業外指導   | 2.98 | 3.05   | 2.91  | 3.00   | 4.50*    |
| 提出物返却   | 2.37 | 2.48a  | 2.45b | 2.18ab | 20.14*** |
| コメント    | 2.02 | 2.13a  | 2.09b | 1.85ab | 20.32*** |
| 明確な評価基準 | 2.75 | 2.93a  | 2.82b | 2.51ab | 38.98*** |
| 記憶力重視   | 3.08 | 3.08   | 3.14  | 3.02   | 3.04*    |
| 成績納得    | 2.95 | 2.97   | 2.94  | 2.93   | 0.68     |
| 試験重視    | 2.74 | 2.72   | 2.72  | 2.78   | 0.98     |
| 課 題     | 2.95 | 2.88b  | 3.05b | 2.93   | 7.66***  |
| 発展的学習促進 | 2.53 | 2.65a  | 2.49  | 2.46a  | 11.30*** |
| 位置づけ    | 2.38 | 2.66ab | 2.31b | 2.24a  | 52.58*** |
| 卒業要件    | 2.35 | 2.63ab | 2.30b | 2.14a  | 50.84*** |
| 授業改善    | 2.05 | 2.34a  | 2.02a | 1.80a  | 73.24*** |

注：\*\*\* $p<0.001$ , \*\* $p<0.01$ , \* $p<0.05$ 。多重比較で有意差が認められたカテゴリには、共通のアルファベットを付している ( $p<0.001$ )。

等の項目は評価が低く、今後の大学教育の課題を示していると見ることができる。

入試難易度による違いに目を向けると、ほとんどの項目で差が認められる。F 値の有意確率は、入試難易度の違いが当該の教育活動に何らかの相違をもたらすか否かに関するものだが、「成績評価の結果は納得のいくものである（成績納得）」と「単位をとるためには試験前に勉強するだけで十分だ（試験重視）」以外のすべての項目で 95%以上となっている。具体的にどのカテゴリ間で有意差が認められるかについては、0.1%水準のものだけを取り上げ、小文字のアルファベットで示した。

概して指摘できるのは、入試難易度が高い場合の方が教育に対する評価が厳しいということである。「教員は授業内容に関心をもたせるように工夫している（関心喚起）」ほか 2 項目で難易度「低」に比べ、「提出物はきちんと返される（提出物返却）」ほか 2 項目で難易度「低」と「中」に比べて評価が低くなっている。他方、「教育課程全体の中での各授業の位置づけが明確だ（位置づけ）」や「卒業するまでには何をどこまで学ばよいかを示さ

図表 2-3 教育活動の分類<sup>2)</sup>

|         | 「教員」         | 「課程」         | 「自律」         | 「試験」          | 共通性  |
|---------|--------------|--------------|--------------|---------------|------|
| 工夫      | <b>0.794</b> | 0.226        | 0.091        | -0.110        | .702 |
| 関心喚起    | <b>0.771</b> | 0.271        | 0.106        | -0.145        | .701 |
| 授業準備    | <b>0.695</b> | 0.189        | 0.166        | 0.027         | .548 |
| 授業外指導   | <b>0.644</b> | 0.042        | 0.264        | -0.122        | .500 |
| 位置づけ    | 0.206        | <b>0.762</b> | 0.078        | -0.015        | .630 |
| 卒業要件    | 0.148        | <b>0.694</b> | 0.111        | 0.084         | .522 |
| 発展的学習促進 | 0.342        | <b>0.617</b> | 0.144        | -0.284        | .599 |
| 授業改善    | 0.400        | <b>0.529</b> | 0.239        | 0.053         | .500 |
| 提出物返却   | 0.097        | 0.073        | <b>0.853</b> | -0.055        | .745 |
| コメント    | 0.224        | 0.120        | <b>0.786</b> | -0.100        | .692 |
| 明確な評価基準 | 0.226        | 0.299        | <b>0.472</b> | 0.142         | .384 |
| 成績納得    | 0.266        | 0.288        | <b>0.328</b> | 0.178         | .293 |
| 試験重視    | -0.144       | -0.091       | -0.032       | <b>0.661</b>  | .467 |
| 記憶力重視   | -0.103       | 0.165        | 0.086        | <b>0.652</b>  | .470 |
| 課題      | -0.157       | 0.426        | 0.194        | <b>-0.460</b> | .455 |
| 因子寄与    | 23.479       | 18.485       | 13.928       | 12.257        |      |
| 累積寄与率   | 23.479       | 41.964       | 55.892       | 68.148        |      |

れている(卒業要件)」では、入試難易度が低い場合に残りのカテゴリとの差が見られる。また授業改善の程度は入試難易度が低くなるほど大きく、唯一「授業時間外で取り組む課題(宿題)が出される(課題)」という点に関しては、難易度「中」の方が「低」よりも有意に平均値が高くなっている。

### 教育活動の分類

15 ある教育活動の側面を分類するために、因子分析を行ったところ、4つの因子が検出された(図表 2-3)。

第1因子は、授業の方法や授業外での指導など、教員個人の取り組みにかかわる側面から構成されているので「教員依存因子(教員)」とした。これに対して第2因子は、教育課程における個々の授業の位置づけや全体としての到達目標、つまり卒業要件の明確さなどに関わることから「教育課程因子(課程)」と名付けた。第3因子には、提出物の返却

やコメントと成績評価にかかわる項目が含まれている。これらは、学生が単に授業に出て受動的に学ぶだけでなく、主体的に目的意識を持って学習することを促進する要素であると考えられるため「自律的学習促進因子(自律)」とした。対照的に最後の因子は、試験前の勉強や記憶力の重視に加え、課題が出されないことから構成されているので、「試験中心因子(試験)」とみなした。

第4節では、これら4因子と学習経験との関連を検証するが、次節ではその前に、学習経験の実態を把握しておく。

### 3. 学習経験

#### 学習の量

学習経験について質問票では、質と量の両側面から尋ねている。本節ではまず学習の量に関して、日本の現状を記述すると同時に、参考としてアメリカで実施された調査との比較を行う。

先述の通り、わが国では学生調査の質問項目として学習経験を取り上げる例は決して多くないが、全国規模の学生調査が盛んであり歴史も古いアメリカにおいては、2000年より National Survey of Student Engagement (NSSE)<sup>3)</sup> と呼ばれる学習経験の把握を主眼とした調査が実施されている (Kuh et al. 2001)。ここでは比較の対象とするデータとして、NSSEの2005年度調査の結果を利用する。

図表2-4には、平均的な一週間における学習量、一学期当たりの読書量および提出したレポート量の分布を示した。最初に学習量であるが、本調査では最終学年は卒業研究に従事しあまり授業を受けていないことが予想されることから、両者を分けて尋ねた。予想通り、授業のための学習を全くしていない学生が4割近くいるのに対し、卒業研究のための学習を全くしていない学生は1割に満たず、21時間以上行なっていたとした者が36.4%にも達した。ふたつの学習時間を合わせると、「合計」として示した分布になる。これをNSSEの調査結果と比較すると、学習量が5時間以下か21時間以上という両極で、日本の方が当てはまる学生の割合が多く、アメリカに比べ2極化の傾向が強いことが看取できる。

読書量に関しても、授業のための読書と卒業研究のためのものを分けて聞いている。学習量と同じく、卒業研究に関連した取り組みの方が盛んであることがうかがえる。また合計とNSSEを比較すると、やはり両極で日本の学生が多くなるが、学習量と比べてやや上に偏っていることがわかる。

最後にレポートの回数については、本調査では中間・期末レポートとその他のレポートを分けており、NSSEでは頁数に従い3区分しているのので、だいたい対応すると思われる2区分を抜き出した。学習量や読書量とは対照的に、レポートのサイズにかかわらず、

図表 2-4 学習の量<sup>4)</sup>

|                 |             | (%)  |      |      |       |      |
|-----------------|-------------|------|------|------|-------|------|
|                 |             | 0    | 1~5  | 6~10 | 11~20 | 21以上 |
| 学習量<br>(時間/週)   | 授業の準備のための学習 | 37.3 | 47.2 | 9.1  | 4.6   | 1.8  |
|                 | 卒業研究のための学習  | 9.9  | 17.2 | 15.0 | 21.5  | 36.4 |
|                 | 合計(授業+卒研)   | 4.5  | 32.2 | 12.1 | 13.1  | 19.1 |
|                 | NSSE        | 1.0  | 22.0 | 27.0 | 34.0  | 16.0 |
| 読書量<br>(冊/学期)   | 授業に関連する図書   | 32.9 | 53.3 | 8.9  | 2.7   | 2.2  |
|                 | 卒業研究に関連する図書 | 12.7 | 41.4 | 24.9 | 11.7  | 9.2  |
|                 | 合計(授業+卒研)   | 5.4  | 21.7 | 32.6 | 28.0  | 12.3 |
|                 | NSSE        | 1.0  | 29.0 | 36.0 | 20.0  | 12.0 |
| レポート量<br>(回/学期) | その他のレポート    | 46.7 | 40.1 | 7.1  | 3.5   | 2.6  |
|                 | 中間・期末レポート   | 38.8 | 50.7 | 7.0  | 2.4   | 1.1  |
|                 | NSSE(5頁未満)  | 7.0  | 32.0 | 26.0 | 20.0  | 16.0 |
|                 | NSSE(5~19頁) | 10.0 | 44.0 | 30.0 | 12.0  | 4.0  |

アメリカの学生の方が量的にこなしていることは一目瞭然である。日本の学生は最終学年のため、あまり授業を履修していないことがレポート量の少なさに反映していると考えられる。ただし、卒業研究(論文)がそれを補うものとして機能している可能性もあり、このデータだけで作文量の比較をすることには注意が必要である。

### 学習の質

学習の質に関しては、16種類の学習経験の多寡あるいは有無について、授業(予習・復習を含む)、課題・試験、個人的学習という3つの場面に分けて尋ねた。図表 2-5 には、授業で「よくあった」と答えた者、および課題・試験と個人的学習で「あった」と答えた者の割合を示した。

まず授業での経験について見てみると、「事実や概念を理解すること(理解)」や「自分の考えや学んだことを文章化すること(文章)」、「事実や概念をおぼえること(記憶)」は4割前後の者が「よくあった」と答えているのに対し、「ものごとの優劣や価値を判断すること(評価)」、「社会における自分の位置づけを認識すること(社認)」および「歴史とのつながりから自分の位置づけを認識すること(歴認)」では、その割合は非常に小さい。社会的・歴史的自己認識の形成は、直接何かに役立つといった類の経験ではないかもしれないが、課題探求能力の育成が求められる今日の学士課程教育においては(大学審議会1998)、より強調されて然るべき学習経験であることは間違いないだろう。

図表 2-5 学習の質

(%)

|    | 授業   | 課題   | 個人   |    | 授業   | 課題   | 個人   |
|----|------|------|------|----|------|------|------|
| 記憶 | 38.3 | 78.2 | 38.3 | 意見 | 29.2 | 39.6 | 50.6 |
| 理解 | 45.1 | 72.0 | 46.5 | 発見 | 18.2 | 42.2 | 42.8 |
| 応用 | 18.4 | 42.0 | 48.6 | 解決 | 27.3 | 57.5 | 41.2 |
| 分析 | 15.1 | 44.9 | 28.9 | 社認 | 11.0 | 23.1 | 36.1 |
| 評価 | 12.1 | 33.8 | 33.9 | 歴認 | 4.7  | 23.2 | 21.7 |
| 総合 | 24.9 | 39.6 | 45.8 | 文章 | 41.5 | 74.3 | 33.2 |
| 技術 | 29.6 | 54.6 | 30.5 | 発表 | 20.9 | 61.2 | 24.6 |
| 社会 | 19.3 | 35.6 | 37.1 | 質問 | 18.0 | 45.4 | 41.1 |

課題や試験においても、2 択のため割合こそ全体に大きくなるが、傾向は似ている。しかし個人的学習経験では、「他人の意見を参考に自分の考えを見直すこと（意見）」があったとしている者が最も多くなっている。他者との意見交換は情意面の発達に効果的だといわれており（Kern et al. 大西訳 2003）、個人的学習の中で多くの者が経験していることは好ましい事実だが、授業や課題の中にも積極的にそのような機会を取り込むことが期待される

### 授業経験の分類

3 つの場面における学習経験の内、授業での経験（授業経験）の分類を試みたものが図表 2-6 である。因子分析の結果、4 つの因子に分解された。

第 1 の因子には、専門分野を問わず社会生活一般で求められる、コミュニケーションや問題発見・解決にかかわる授業経験が含まれるため、「一般的能力関連因子（一般）」と命名した。第 2 因子には、自己の相対的位置づけや評価（「ものごとの優劣や価値を判断すること」）、総合（「新しい見方や考え方を生み出すこと」といった高次の認知能力との関連が見られ（Anderson & Krathwohl, eds. 2001）、これらは職業生活を超えて、いかに生きるかという問題と深く関連することから「教養関連因子（教養）」とした。第 3 因子は、知識の獲得・理解から構成されているので、「知識関連因子（知識）」と名付けた。最後に第 4 の因子に含まれる学習経験には、技術（実験や実習のための技術を身につけること）や知識の分析・応用といった実用面との関連が見られるため「実用関連因子（実用）」とした。

図表 2-6 授業経験の分類<sup>2)</sup>

|       | 「一般」         | 「教養」         | 「知識」         | 「実用」         | 共通性  |
|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|------|
| 発表    | <b>0.782</b> | 0.117        | 0.096        | 0.034        | .636 |
| 文章    | <b>0.725</b> | 0.034        | 0.249        | -0.057       | .592 |
| 発見    | <b>0.628</b> | 0.359        | 0.007        | 0.250        | .586 |
| 質問    | <b>0.582</b> | 0.082        | 0.045        | 0.193        | .385 |
| 意見    | <b>0.569</b> | 0.434        | 0.024        | 0.070        | .518 |
| 解決    | <b>0.514</b> | 0.137        | 0.130        | 0.415        | .472 |
| 社認    | 0.170        | <b>0.771</b> | -0.045       | 0.077        | .631 |
| 歴認    | 0.070        | <b>0.760</b> | -0.024       | -0.054       | .587 |
| 社会    | 0.292        | <b>0.615</b> | 0.189        | 0.051        | .502 |
| 評価    | 0.004        | <b>0.605</b> | 0.183        | 0.249        | .462 |
| 総合    | 0.317        | <b>0.497</b> | 0.039        | 0.255        | .414 |
| 記憶    | 0.108        | 0.021        | <b>0.851</b> | 0.102        | .746 |
| 理解    | 0.181        | 0.087        | <b>0.850</b> | 0.142        | .783 |
| 技術    | 0.123        | -0.040       | 0.000        | <b>0.812</b> | .676 |
| 応用    | 0.149        | 0.298        | 0.323        | <b>0.568</b> | .517 |
| 分析    | 0.102        | 0.351        | 0.355        | <b>0.507</b> | .462 |
| 因子寄与  | 17.324       | 17.142       | 11.504       | 10.557       |      |
| 累積寄与率 | 17.324       | 34.466       | 45.97        | 56.528       |      |

#### 4. 授業経験の規定要因

##### 授業経験からの視点

授業経験の規定要因を明らかにすることを目的として、前項で析出した4因子の因子得点を従属変数とした重回帰分析を行った結果が図表2-7である。独立変数には、教育活動として図表2-3に示した4因子の因子得点を、機関の属性として「その他の分野」を基準変数とした専門分野のダミー変数<sup>5)</sup>を、学生の属性として学力(所属学部の入試偏差値)、期待(「授業を通じた学習」に対する期待度の4段階評価)および意欲(自分の興味・関心で選んだ授業の割合)をそれぞれ投入した。

結果を授業経験毎にひとつずつ見ていくと、まず一般的能力の習得に寄与すると考えられる経験は、教員が授業に対し熱心であることや学生が多くの授業を自ら選ぶことによっ

図表 2-7 授業経験の規定要因

|                     |       | 「一般」       | 「教養」       | 「知識」       | 「実用」       |
|---------------------|-------|------------|------------|------------|------------|
| 教育活動                | 「教員」  | 0.133 ***  | 0.091 **   | 0.134 ***  | 0.093 ***  |
|                     | 「課程」  | 0.064 *    | 0.189 ***  | 0.049      | 0.147 ***  |
|                     | 「自律」  | 0.037      | 0.045      | 0.038      | 0.043      |
|                     | 「試験」  | -0.082 **  | -0.032 *   | 0.052 *    | -0.067 **  |
| 専門分野                | 人文科学系 | 0.030      | -0.054     | 0.060      | -0.049     |
|                     | 社会科学系 | -0.042     | 0.071      | 0.130 **   | -0.180 *** |
|                     | 自然科学系 | -0.158 **  | -0.209 *** | 0.136 **   | 0.276 ***  |
|                     | 保健医療系 | -0.027     | 0.014      | 0.129 ***  | 0.158 ***  |
| 学生の属性               | 学力    | 0.078 **   | -0.100 *** | 0.200 ***  | 0.022      |
|                     | 期待    | 0.048 *    | 0.050 *    | 0.181 ***  | 0.037      |
|                     | 意欲    | 0.104 ***  | 0.070 **   | 0.052 *    | 0.014      |
| 調整済み R <sup>2</sup> |       | 0.110      | 0.125      | 0.135      | 0.206      |
| F 値                 |       | 20.148 *** | 23.001 *** | 25.130 *** | 31.689 *** |

注：\*\*\*p<0.001, \*\*p<0.01, \*p<0.05。専門分野は「その他の分野」を基準変数としたダミー変数。

て、より得られることがわかる。しかし自然科学系の学部では、一般的能力関連の授業経験は乏しく、教養の涵養に役立つと考えられる授業経験についても同様の傾向が看取できる。反対に教養の学習経験を促進するのは、教育課程の構造化されている、あるいは所属する学生の学力が相対的に低い学部ということになる。そうした学部では、知識そのものの獲得には力点が置かれていないということであろうか。

上記の推論の妥当性を裏付けるかのように、知識の記憶や理解をもっとも強く規定しているのが、学生の学力である。また学習への期待も同じように知識関連の授業経験を促進している。教育活動では教員の力量と正の関係が見られ、専門分野では人文系以外の分野で知識獲得が求められていることがわかる。専門分野による違いが大きいのは、実用的能力に関係する授業経験にも言えることだが、ここでは社会系の学部とは負の関連となっている。またこの種の経験の多寡には、学生の属性がほとんど影響しないことが明らかとなった。

#### 規定要因からの視点

前項では授業経験ごとに結果を考察してきたが、以下では視点を変えて、規定要因ごと



にどのような変数が強い影響力を持つのかを確認してみる。

最初に教育活動について見てみると、教員や教育課程に関わる変数が、授業経験の多寡を相対的によく説明していることがわかる。教員が意欲的に取り組むことが、多くの授業経験にとって積極的な効果をもたらすことは予想しうる結果といえるが、教育課程の体系的にもそれに劣らぬ影響力持っていることは興味深い。小方(2003)も指摘しているように、通常、教育評価では授業間のつながりよりも個々の授業の良し悪しが論じられがちだが、こうした結果は評価項目の工夫を促すものであるといえる。これらに対し意外なのは、自律的な学習を促す教育が授業経験にはあまり影響していないことである。自律的学習の重視は、単に教員が情報伝達をする授業よりも学習者がよりよく学ぶといわれているが、「授業経験」という限定された範囲ではその兆しが現れないということであろうか。さらに試験の重視を見てみると、知識を身につけさせるだけならばともかく、その他の学習経験を豊富にするためには、普段から課題を与えその成果を提示させる必要があることがわかる。

次に専門分野であるが、人文科学系であることはどの授業経験にも特徴的な影響を及ぼさないのに対し、自然科学系では一般的・教養の経験には負の、知識や実用的能力の習得という面では正の影響という形で、顕著な特徴を持つことがはっきりと現れている。また社会系では実用的な学習経験が少なく、対照的に保健系ではそれが多くなっている。保健系学部は具体的な職業を想定していることを考えれば、当然の結果であろう。

学生の属性としては3つの変数を採用しているが、その中で一番影響力が強いのは入学時の学力である。「教養」と「知識」に対する対照的な影響を考慮すると、既述のように、入試難易度の高い学部では伝統的な学問領域の知識そのものが重視されている、という解釈が可能である。また、学生が有する授業への期待や意欲は、やはり多くの授業経験につながっていることが実証された。

## 5. 結論

以上、教育活動と学習経験の実態と後者の規定要因について論じてきたが、主な知見としては次の点が指摘できる。

まず教育活動に関しては、提出物の返却やそれへのコメントを除いて教員個人の取り組みが高く評価される一方、各授業の位置付けや卒業要件の明確化など教育課程レベルでの対応が必要となる点に課題が見られた。また学部の入試難易度別に見ると、概して難易度が高い場合のほうが厳しい評価となっていた。

次に学習の量では、通説とは異なり、学習量や読書量で日本の学生はアメリカの学生よりも多く学んでいることが明らかになった。ただしその結果は、卒業研究に関連する学習によるところが大きく、それを課していない学部では、最終年での学習量が極めて少ないことが予想される点には留意が必要である。

学習の質については、3つの場面における現状記述と、特に授業での経験を取り上げた規定要因分析を行った。現状記述からは、知識の記憶や理解といった学習経験が豊富な反面、今日の大学教育の主要な目的である課題探求能力の養成に不可欠な、社会的・歴史的な自己認識の形成や判断（評価）力を養うような経験が不十分であるという問題点が見られた。授業経験の規定要因分析からは、専門分野や学生の属性、特に自然科学系であることや入学時の学力といった条件が、予め授業経験の質を強く規定していることが判明した。ただし、それらの影響を考慮してもなお、幾つかの教育活動との関連が見られ、例えば教養や実用にかかわる経験には教育課程の充実、一般的能力や知識の獲得には個々の教員の努力という形で、期待する授業経験の質により重視すべき教育活動が異なることも同時に示された。

最後に、これらの知見から大学教育への示唆が得られるとすれば、どのようなことがいえるだろうか。ひとつは、本論において「教養関連」として括った授業経験の乏しさを克服する必要がある、ということである。大学教育においてはもちろん、専門分野に関する知識を深め、専門的な技能を磨くことも重要であるが、学士課程教育に求められている役割を鑑みれば、それらだけで十分でないことは自明である。もうひとつは、学生の意見を教育の自己評価における根拠情報とする際の注意点である。現在多くの大学で用いられているアンケート項目では、教育活動について尋ねる場合に、主として教員の取り組みが焦点となっている。しかし授業経験の規定要因分析からも明らかになった通り、教育課程全体としての在り方や試験の方法なども授業経験との関連性を有している。これらの点に配慮した上で学生からの意見収集を行えば、より有効な教育改善を導くことができると考えられる。

## 注

- 1) SPSS10.0J で一元配置分散分析を実行し、多重比較には Tukey 法を用いた。入試難易度は学部偏差値 50 未満で「低」、50 以上 55 未満で「中」、55 以上で「高」とした。
- 2) 教育活動、授業経験共に SPSS10.0J で主成分分析（バリマックス回転）を実施した。
- 3) NSSE について詳しくは、<http://nsse.iub.edu/index.cfm> を参照されたい。
- 4) 学習量と読書量の「合計」は、授業と卒業研究に対する回答をカテゴリー毎の中央値に直し、各個人で合計することにより算出した。なお NSSE では、読書量とレポート量のカテゴリーは、1～4、5～10 となっており、厳密な比較にはなっていないことを断っておく。
- 5) 巻末の基礎集計表では、人文、教育、社会、自然、医歯薬の 5 分野となっているが、ここでは人文と教育をあわせて人文科学系としている。また基礎集計表では、本章で

「その他の分野」として学際分野等のサンプルは、集計者の判断で適切と思われる分野に含まれている。

## 参考文献

- Anderson, L., & Krathwohl, D. (Eds.)(2001). *A taxonomy for learning, teaching and assessing: A revision of Bloom's taxonomy of educational objectives*. David McKay Company.
- ベネッセ教育総研 2005,『学生満足度と大学教育の問題点 2004年』。
- Biggs, J. (2003). *Teaching for quality learning at university 2<sup>nd</sup> ed.* SRHE and Open University Press.
- 大学審議会 1998,「21世紀の大学像と今後の改革方策について - 競争的環境の中で個性が輝く大学 - (答申)」。
- Kern, D., Thomas, P., Howard, D., & Bass, E., 大西弘高訳 2003,『医学教育プログラム開発：6段階アプローチによる学習と評価の一体化』篠原出版新社。
- 高等教育研究会学力観調査プロジェクトチーム編 2002,「すれちがう「学力とはなにか？」」大学創造, 2002 特別号。
- Kuh, G., Hayek, J., Carini, R., Ouimet, J., Gonyea, R., & Kennedy, J. (2001). *NSSE technical and norms report*. Indiana University Center for Postsecondary Research and Planning.
- 文部科学省 2005,「大学における教育内容等の改革状況について」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/17/03/05060902.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/03/05060902.htm)(2006/2/11 アクセス)。
- 21世紀大学経営協会大学評価委員会 2005,「卒業生からみた大学「教育力」調査 - 調査結果と検討課題」<http://www.u-ma21.com/>(2006/02/13 アクセス)。
- 小方直幸 2003,「3章 学力形成とその測り方」有本章編『大学のカリキュラム改革』所収, 75-88頁。
- リクルート 2000,「第2回 大学教育改革の学生認知度調査 2000」カレッジマネジメント, 101号, 21-95頁。

### 第3章 教育成果間の関連とその規定要因

#### 1. はじめに

第2章では、教育活動と学習経験の実態について論じてきたが、これら在学中の教育・学習経験は教育成果とどのような関連構造にあるのだろうか。仮に「教育成果」と考えられている指標が在学中の教育・学習経験を反映していないのであれば、その指標は「教育成果」の指標であるとはいえない。

近年、我が国では、18歳人口の減少や国家財政の逼迫を背景に、大学教育の不断の改善や社会に対する説明責任を果たすべく、教育評価が求められるようになっており、その過程でとりわけ大学教育の成果に対する関心が高まっている。しかし、そうした教育成果に対する関心の高さに比して、何を教育成果と考えるかについては、必ずしもコンセンサスが得られているわけではない。

それは単に教育成果のコンテンツの問題にとどまらず、教育成果の問い方といった方法的問題をも意味する。すなわち、前者の問題については、専門教育では比較的设置しやすいが、教養・共通教育では、串本(2004)も指摘するように、その設定は困難なものとなる<sup>1)</sup>。一方、後者の問題については、客観試験のように客観的に測定可能な方法を採用するのか、あるいは学生の主観的な判断に依拠する方法を採用するのかで大きく異なる。また、学生の主観的な判断に依拠する方法であれば、回答者の基準に従って在学中の変化感を問うのか、到達水準を示し、回答者にその水準に達しているか否かを問うかによっても、回答状況は大きく変わってこよう。

このように、教育評価指標としての教育成果の設定は簡単なことではない。しかし、適切な教育成果指標を設定しない限り、大学教育の成果を捉えることはおろか、本来その指標と大学における教育・学習経験との関連性を明らかにすることで得られるはずの、学生により実りある教育成果の獲得を促す教育改善策の検討の機会も失われてしまう。

そこで本章では、複数の教育成果指標を設定し、それらの教育成果指標間の連関構造を分析するとともに、在学中の教育・学習経験との関連性を検証する。また、そこから得られた教育成果指標や測定方法の洗練化のための知見を踏まえて、望ましい教育成果指標のあり方を検討したい。

## 2. 分析の枠組み

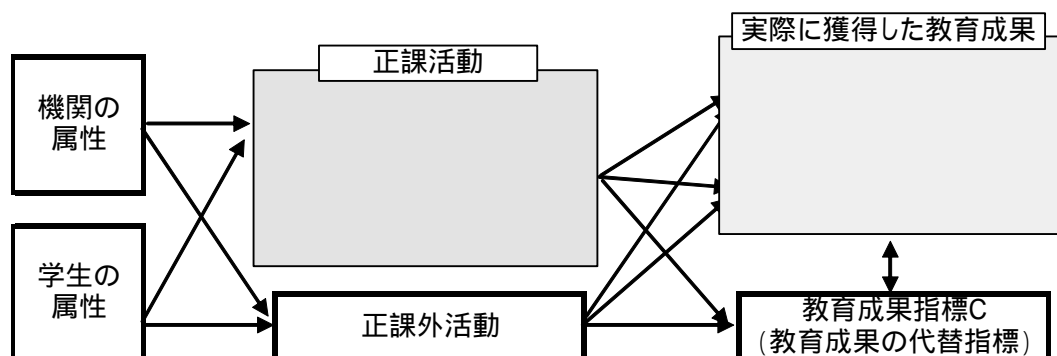
先述のように、教育成果の指標には、客観的に測定可能なものと学生の主観的な判断に依拠するものとが想定される。前者には就職率や客観試験が該当する。しかし我が国の場合、教育・学習経験と職業との関係が希薄なことは従来の研究でも指摘されてきたことであり（小方 1998 等）、また大学教育の成果を測定する客観テストも一部の専門分野で行われているに過ぎない<sup>2)</sup>。そのため、ここでは学生の主観的な判断に依拠する教育成果の指標を用いる。

質問票では、実際に獲得した教育成果の指標として、「在学中にどの程度能力が伸びたか」（以下「能力の変化」と表記）と、「専門分野の能力がどの水準にあるか」（以下「専門の到達度」と表記）の2種類を設定している。前者は、能力のコンテンツが示され、回答者の基準に従って在学中の変化感を問うものであり、後者は、能力の到達水準が示され、回答者にその水準に達しているかを判断してもらうものである。

この他、教育成果の指標として、大学教育の充実度や満足度も設定している。これらは厳密には教育成果の指標とはいえないが、一般に教育成果の代替指標として用いられることが多いため（関口 2004）、その妥当性を検証する意味で組み込んだ。

以下ではまず、これらの教育成果指標の構造を平均値の差の検定や相関分析によって明らかにする。続いて、教育成果指標に対する大学における教育・学習経験の影響を分析することで、大学教育のコアとしての営みである教育・学習経験を反映した教育成果の指標とは何であるのかを明らかにしたい（図表 3-1）。

図表 3-1 分析の枠組み



### 3. 教育成果指標の構造分析

#### 教育成果に対する回答状況の概要

分析に入る前に、教育成果の獲得状況に対する回答状況を概観してみよう（詳細な値については巻末の付表を参照）。「能力の変化」について、「向上した」「ある程度向上した」との回答がもっとも多かったのは、「異なる考え方や意見を受け容れる力」(69.5%)や「幅広い視点から考える力」(68.2%)であった。一方、「低下した」「少し低下した」との回答がもっとも多かったのは、「記憶力」(54.0%)であり、これに続く「数量的に分析する力」(23.0%)や「主体的に学習する力」(21.3%)を大きく引き離している。こうした傾向は、学年別、専門分野別にみても同様にみられる。

「専門の到達度」については、「あてはまる」「ある程度あてはまる」との回答がもっとも多かったのは、「専門分野に関する基本的知識をおぼえている」で69.4%、次いで「専門分野に関する知識を使って世の中の出来事を理解できる」で56.6%である。一方、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」との回答は、「専門分野に関する技術を実際の場面で使える」(44.2%)、「専門分野に関する新しい概念や解釈の仕方を創造できる」(36.3%)の順に多い。こうした傾向は、専門分野別にみても同様にみられ、記憶や理解の到達度の高さと応用面の到達度の低さは、ブルーム(1956)が示した認知的領域の発達段階に沿った結果といえよう。

最後に教育成果の代替指標としての大学教育の充実度や満足度についてみてみよう。前者のうち、教養・共通教育については、「充実している」「ある程度充実している」との回答が53.1%であるのに対し、専門教育については66.6%で、専門教育の充実度の方が高い。なお、大学教育の充実度を示すわけではないが、「大学生活全般の充実度」は74.2%と高い値を示しており、多くの大学生が比較的充実した日々を過ごしている。こうした傾向は、学年別、専門分野別にみても同様にみられる。

大学教育の満足度については、「あなたは同じ専門分野を学ぼうとしている人に対して、現在所属の学部での学習を勧めますか」(以下「他人に勧めるか」と表記)と「あなたは、現在所属の学部での学習が投資に値すると思いますか」(以下「投資に値するか」と表記)という2つの問いを設定した。前者については、「勧める」「ある程度勧める」との回答は66.8%であるが、後者については、「思う」「ある程度思う」との回答は58.8%と前者よりも若干低い。これは、学年、専門分野を問わず共通しており、自分にとっての意義を尋ねられた場合には、評価が多少厳しくなる。このように、問いの設定の仕方によって回答傾向は容易に変わってしまう。調査を通じて何を知りたいかに自覚的である必要を示す一例である。

#### 難易度別にみた教育成果に対する回答状況

教育成果指標の妥当性を考える場合には、特に基礎学力や学習レディネスという点に対

する留意も必要である。すなわち、基礎学力や学習レディネスの違いが、大学在学中の教育・学習経験に違いを及ぼし、ひいては教育成果の獲得状況に違いを及ぼすことが予想されるからである。

そこで、ここでは基礎学力や学習レディネスの代替指標として、所属機関の難易度を用いることとする。難易度については、『代ゼミデータリサーチ』（2004）の値を参考に、大学入試時の偏差値で 50 未満（以下「難易度低群」と表記）、50 以上 55 未満（以下「難易度中群」と表記）、55 以上（以下「難易度高群」と表記）の 3 群に分類した。なお、分析に際し、「能力の変化」及び「専門の到達度」については、それぞれについて因子分析を行った結果、それぞれ 1 つの因子に要約されたため、そこで得られた因子の因子得点を用いることとする（以下、この因子を指す場合にはそれぞれ【能力の変化】【専門の到達度】と表記）。

図表 3-2 は、難易度 3 群間で平均値の差の検定を行った結果である。まず、実際に獲得した教育成果についてしてみると、【能力の変化】については、難易度低群で負の値、その他 2 群で正の値を示しているが、その差は小さく、統計的にも有意でない。これに対し、【専門の到達度】については、統計的に有意な差がみられ、特に難易度高群において専門の到達度は高くなっている。

なお、【能力の変化】については、学年別の分析も行った。すると、1 年生では 3 群間に統計的に有意な差はみられなかったが、4 年生では統計的に有意な差がみられ、特に難易度高群において「能力の変化」を感じていた<sup>3)</sup>（以下、1 年生と 4 年生の分析結果については同じ図表を参照）。しかし、【専門の到達度】に比べれば、その差は小さいともいえる。

これらの結果は、教育成果の問い方の難しさを改めて示すものである。繰り返すが、「能力の変化」は、回答者の基準に従って在学中の変化を問うのに対し、「専門の到達度」は、到達水準を示し、回答者にその水準に達しているかを問うている。そのため、難易度の低い大学の学生は、自分の内的な基準に照らした場合には教育成果の獲得状況が数字に表れやすいが、外的な基準に照らした場合には、教育成果の獲得状況が数字には表れにくい可能性がある。共通の外的な基準に照らした成果指標は、例えそれが主観によるものであっても、到達水準が明確に示されており、結果を理解しやすいし比較も行いやすい。しかし、外的な基準自体が基礎学力や学習レディネスといったインプット時点の影響を受けやすく、教育の質が高いので成果も高いとは単純に解釈できない。逆に内的基準に依存する能力の変化感の場合は、インプット時点の影響力を比較的排除できるため、在学中の付加価値を抽出するのに向いているともいえるが、同じ回答でもそれが示す水準は異なる可能性を否定できない。

大学教育の充実度・満足度については、いずれも難易度 3 群間で統計的に有意な差がみられる。まず、教育の充実度については、難易度高群とその他の間の相違が顕著で、難易度高群では「専門教育の充実度」が高い反面、「教養・共通教育の充実度」は低い。これに

図表 3-2 難易度別教育成果の獲得状況

|                 |             | 難易度低群  | 難易度中群  | 難易度高群    |
|-----------------|-------------|--------|--------|----------|
| 実際に獲得した<br>教育成果 | 能力の変化       | -0.037 | 0.043  | 0.037    |
|                 | 専門の到達度      | -0.093 | -0.084 | 0.169*** |
| 大学教育の<br>充実度    | 教養・共通教育の充実度 | 2.59   | 2.55   | 2.41***  |
|                 | 専門教育の充実度    | 2.79   | 2.82   | 2.88*    |
| 大学教育の<br>満足度    | 他人に勧めるか     | 2.79   | 2.85   | 2.97***  |
|                 | 投資に値するか     | 2.58   | 2.68   | 2.80***  |
| 大学生生活全般の充実度     |             | 2.89   | 3.05   | 3.15***  |

注：\*\*\*は $P < 0.001$ ，\*\*は $P < 0.01$ ，\*は $P < 0.05$ ．以下同様に表記．

対して、「他人に勧めるか」「投資に値するか」といった大学教育の満足度については、難易度が高い大学の学生ほどその値が高い。

これについても、学年別にみたと、1年生については上記の分析と同様の傾向がみられた。4年生についてはまず、難易度が低いほど「教養・共通教育の充実度」が高い傾向がより顕著に認められる。これに対して、「専門教育の充実度」については難易度による明確な傾向性がみられなかった。1年生の「専門教育の充実度」に対する回答は、難易度が高くなるほど専門科目が低学年時から提供されているといったプログラムの構造上の相違を反映した結果かもしれないので、解釈には注意を要する。また、「教養・共通教育の充実度」については、難易度低群では4年生で肯定的に解釈する傾向が高まり、難易度間の相違がより顕著になっている。

最後に、「大学生生活全般の充実度」についても難易度3群間で統計的に有意な差がみられ、しかも難易度の高い大学ほどその充実度が高いという結果が得られている。こうした結果は、学年別に行った分析でも同様にみられる。仮に「大学生生活全般の充実度」が、大学入学時点で難易度によってある程度決定されているとすれば、憂慮すべき問題であるといえる。しかし実際には、「大学生生活全般の充実度」は多様な複合的要因によって規定されているのかもしれない。その規定要因の一端は、次項の教育成果間の関連性の分析において明らかにしたい。

### 教育成果間の関連性

それでは、これらの教育成果の指標間にはどれほどの関連性があるのだろうか。特に「能力の変化」や「専門の到達度」といった学生が実際に獲得した教育成果と、教育成果の代替指標としての大学教育の充実度や満足度との間にどの程度の関連性がみられるかについては検証が必要であろう。

図表 3-3 は教育成果の指標間の相関係数を示したものである。まず【能力の変化】と【専



門の到達度】、「教養・共通教育の充実度」と「専門教育の充実度」、「他人に勧めるか」と「投資に値するか」といった同じカテゴリ間の相関係数は 0.4 以上と比較的高い。他カテゴリ間で高い相関を示しているのは「専門教育の充実度」と大学教育の満足度である。また、学生が実際に獲得した教育成果と、教育成果の代替指標としてのその他の指標との関連をみると、ここでも【能力の変化】【専門の到達度】ともに、「専門教育の充実度」との相関が相対的に高い。「専門教育の充実度」が、大学教育の満足度や学生が実際に獲得した教育成果を左右している可能性が高い。この点の検証も含めて、学年別、難易度別の分析をさらに行った。

まず学年別にみると、4 年生では一部異なる傾向が認められた。それは、「教養・共通教育の充実度」と「専門教育の充実度」の間の相関係数が若干低い点である（0.358）。4 年生では以前に教養・共通教育が終了しており、1 年生ほど両者に相乗的な作用がみられないのかもしれない。難易度別にみると、難易度低群では全体の結果とほぼ同様の傾向がみられたが、その他 2 群では一部異なる傾向が認められた。具体的には、「教養・共通教育の充実度」と「専門教育の充実度」の間の相関係数の値が若干低い（難易度高群 0.322，難易度中群 0.350）。

そこで難易度に学年も加えて分析を行ったところ、4 年生の場合には、難易度低群の相関は 0.527 と極めて高いのに対し、難易度中群では 0.309，難易度高群では 0.273 と、難易度の高まりに応じてその値を下げていることが明らかとなった。この結果は、難易度が低い大学では、教養・共通教育の充実が専門教育の充実にとっても重要となっているのに対して、難易度が高い大学になるほど、少なくとも学生からみると、1 つのプログラムにおいて両者の関係が相対的に独立している可能性を示唆している。

図表 3-3 教育成果間の相関

|                |         | 実際に獲得した教育成果 |        | 大学教育の充実度 |       | 大学教育の満足度 |         |
|----------------|---------|-------------|--------|----------|-------|----------|---------|
|                |         | 能力の変化       | 専門の到達度 | 教養・共通教育  | 専門教育  | 他人に勧めるか  | 投資に値するか |
| 実際に獲得した教育成果    | 能力の変化   | 1.000       | -      | -        | -     | -        | -       |
|                | 専門の到達度  | 0.446       | 1.000  | -        | -     | -        | -       |
| 大学教育の充実度       | 教養・共通教育 | 0.255       | 0.109  | 1.000    | -     | -        | -       |
|                | 専門教育    | 0.347       | 0.317  | 0.418    | 1.000 | -        | -       |
| 大学教育の満足度       | 他人に勧めるか | 0.250       | 0.282  | 0.280    | 0.436 | 1.000    | -       |
|                | 投資に値するか | 0.280       | 0.252  | 0.340    | 0.456 | 0.519    | 1.000   |
| 大学生生活全般に対する充実度 |         | 0.319       | 0.215  | 0.308    | 0.399 | 0.348    | 0.306   |

なお、「大学生生活全般の充実度」ともっとも高い相関を示しているのは「専門教育の充実度」であり、【専門の到達度】との相関は低い。「大学生生活全般の充実度」といった抽象度

の高い指標には、実際に専門教育を通して獲得できた能力よりも、必ずしも到達度までは保証しない専門教育の充実度という、これもまた抽象度の高い指標とより呼応している。

こうした傾向は学年別、難易度別でみた場合にも同様にみられるが、興味深いのは、難易度別にみた場合、難易度が低い大学ほど「専門教育の充実度」との相関係数が高いという点である（難易度低群 0.463、難易度中群 0.374、難易度高群 0.345）。難易度低群については、「教養教育の充実度」とも 0.428 と高い相関を示しており、その他 2 群の値と比べても極めて高い（難易度中群 0.265、難易度高群 0.250）。難易度が低い大学の学生は、学業との関係で否定的に語られることも多いが、この結果は、難易度の低い大学の学生ほど学業面での充実度如何が「大学生活全般の充実度」を大きく左右していることを示している。

### 3. 教育成果の規定要因

さて、これまでみてきた教育成果指標が、大学における教育・学習経験とどのような連関構造を持っているのか、重回帰分析によって考察した。従属変数には、学生が実際に獲得した教育成果の指標として【能力の変化】や【専門の到達度】、教育成果の代替指標として大学教育の充実度・満足度を設定した。独立変数には、大学における教育・学習経験に加え、難易度、専門分野といった所属機関の特性、性別、学年、高校時代の学習状況、入学時の満足度、性格・態度特性といった学生の特性<sup>4)</sup>、そして大学関連の学習や授業とは関係のない学習、サークル活動やアルバイトといった大学生活の特性に関する変数を用いた（分析に使用する変数の詳細は図表 3-4 を参照）。

なお、大学における教育・学習経験については第 2 章において因子分析を行っているが、これは 4 年生のデータに依拠した分析であるため、本章では改めて 1 年生と 4 年生のデータをもとに因子分析を行い、その結果得られた因子の因子得点を用いることとする<sup>5)</sup>。また本章では、図表 3-9 に示すような、「いかなる教育が与えられたか」を示す変数を「教育の質」に関わる変数と呼び、図表 3-10 に示すような、「いかなる学習を行ったか」を示す変数を「学習経験の質」に関わる変数と呼ぶ。

図表 3-5 に分析結果を示した。まず、【能力の変化】に関しては、「学年」が極めて強い負の規定力を有している。すなわち、4 年生ほど「能力の変化」を感じているということである。また、【規律遵守】【探究心】【自信】といった性格・態度特性についても極めて強い正の規定力を有している。すなわち、これらの性格・態度特性を備えている学生ほど「能力の変化」を感じているということである<sup>6)</sup>。このように、学生の特性の影響力は小さくはないが、大学における教育・学習経験の影響力もそれと同程度にみられる。特に【問題の発見・解決・報告】や【相対的な自己認識】といった「学習経験の質」に関わる変数の規定力が強くみられた。すなわち、これらの学習経験が多い学生ほど「能力の変化」があ

図表 3-4 重回帰分析に使用する変数

| 従属変数           |   |
|----------------|---|
| 学生が実際に獲得した教育成果 |   |
| 能力の変化          | : 能力の変化に関する因子分析を行って得られた因子の因子得点.   |
| 専門の到達度         | : 専門の到達度に関する因子分析を行って得られた因子の因子得点.  |
| 教育成果の代替指標      |   |
| 大学教育の充実度       | : 教養教育と専門教育のそれぞれについて, 充実している = 4から充実していない = 1までの得点を配分.                              |
| 大学教育の満足度       | : 「他人に勧めるか」「投資に値するか」のそれぞれについて, 「勧める」「思う」= 4から「勧めない」「思わない」= 4までの得点を配分.               |
| 独立変数           |   |
| 所属機関の特性        |   |
| 難易度            | : 「代ゼミデータリサーチ」(2004)の値を参考.  |
| 専門分野           | : 基準変数を自然科学系とし, 人文・社会系, 教育系, 保健系についてそれぞれダミー変数を作成.                                   |
| 学生の特性          |   |
| 性別             | : 男性なら1, 女性なら0のダミー変数.   |
| 学年             | : 1年生なら1, 4年生なら0のダミー変数.   |
| 高校時代の学習状況      | : 高校時代の1日の平均学習時間.   |
| 入学時の満足度        | : 満足していた = 4から, 満足していなかった = 1までの得点を配分.  |
| 性格・態度特性        | : 性格・態度に関する因子分析を行って得られた3つの因子(【規律遵守】【探究心】【自信】)の因子得点.                                 |
| 大学生活特性         | : 大学関連の学習, 授業とは関係のない学習, サークル活動, アルバイトのそれぞれについての1週間の平均学習(活動)時間.                      |
| カリキュラム特性       |   |
| 教育の質           | : 「教育の質」に関する因子分析を行って得られた4つの因子(【教員の教授能力】【カリキュラムの体系性】【学生へのフィードバック】【記憶力重視の単位付与】)の因子得点. |
| 学習経験の質         | : 「学習経験の質」に関する因子分析を行って得られた4つの因子(【相対的な自己認識】【問題の発見・解決・報告】【記憶と理解】【分析と応用】)の因子得点.        |

ったと認識しているのである。なお、その規定力は「学習経験の質」に関わる変数ほど大きくないものの、「教育の質」に関わる変数の中では、【教員の教授能力】【カリキュラムの体系性】が統計的に有意な正の規定力を有している。

【専門の到達度】も同様の傾向にあり、性格・態度特性を除けば、【分析と応用】【相対的な自己認識】といった「学習経験の質」に関わる変数の規定力が強くみられ、その規定力は「教育の質」に関わる変数のそれよりも大きい。

このように、本章では学生が実際に獲得した教育成果の指標として「能力の変化」と「専門の到達度」という2つを設定したが、いずれの指標についても「教育の質」、つまり「いかなる教育が与えられたか」よりも、「学習経験の質」、つまり「いかなる学習を行ったか」

図表 3-5 教育成果の規定要因

|                    | 実際に獲得した教育成果 |           | 大学教育の充実度   |           | 大学教育の満足度  |            |
|--------------------|-------------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|
|                    | 能力の変化       | 専門の到達度    | 教養・共通教育    | 専門教育      | 他人に勧めるか   | 投資に値するか    |
| 所属機関特性             |             |           |            |           |           |            |
| 難易度                | -0.018      | 0.045     | -0.055 **  | 0.044 *   | 0.117 *** | 0.145 ***  |
| 人文系                | 0.017       | 0.056     | 0.063 **   | 0.008     | 0.029     | -0.070 **  |
| 教育系                | 0.002       | 0.023     | -0.049 **  | 0.038 *   | 0.004     | 0.045 *    |
| 社会系                | -0.009      | 0.069 *   | 0.028      | -0.030    | 0.019     | -0.061 *** |
| 保健系                | -0.049 ***  | 0.079 *** | -0.054 *** | -0.046 ** | -0.003    | 0.009      |
| 学生特性               |             |           |            |           |           |            |
| 性別                 | 0.078 ***   | 0.028     | -0.074 *** | -0.006    | -0.023    | 0.005      |
| 学年                 | -0.214 ***  | -         | -0.020     | -0.035    | 0.025     | -0.008     |
| 高校時代の学習状況          | 0.008       | 0.007     | 0.004      | 0.021     | -0.005    | -0.002     |
| 入学時の満足度            | 0.091 ***   | -0.003    | 0.059 ***  | 0.075 *** | 0.183 *** | 0.138 ***  |
| 規律遵守               | 0.154 ***   | 0.189 *** | 0.110 ***  | 0.094 *** | 0.083 *** | 0.048 **   |
| 探究心                | 0.172 ***   | 0.123 *** | 0.007      | 0.035 *   | 0.040 *   | 0.008      |
| 自信                 | 0.181 ***   | 0.268 *** | 0.015      | 0.042 **  | 0.066 *** | 0.018      |
| 大学生生活特性            |             |           |            |           |           |            |
| 大学関連の学習            | 0.023       | 0.125 *** | -0.039     | 0.022     | -0.001    | 0.015      |
| 授業とは関係のない学習        | 0.047 ***   | 0.026     | 0.004      | 0.000     | -0.044 ** | 0.002      |
| サークル活動             | -0.003      | -0.056 ** | 0.011      | -0.001    | 0.007     | -0.003     |
| アルバイト              | -0.009      | -0.064 ** | -0.022     | 0.010     | 0.017     | -0.032 *   |
| カリキュラム特性           |             |           |            |           |           |            |
| 教員の教授能力            | 0.104 ***   | 0.087 *** | 0.295 ***  | 0.326 *** | 0.248 *** | 0.294 ***  |
| カリキュラムの体系性         | 0.080 ***   | 0.086 *** | 0.237 ***  | 0.243 *** | 0.217 *** | 0.253 ***  |
| 学生へのフィードバック        | 0.013       | -0.025    | 0.095 ***  | 0.061 *** | 0.053 *** | 0.114 ***  |
| 単位取得の容易さ           | -0.002      | 0.045 *   | -0.058 *** | -0.039 ** | -0.035 *  | -0.055 *** |
| 相対的な自己認識           | 0.150 ***   | 0.117 *** | 0.037 *    | 0.030     | 0.042 **  | 0.046 **   |
| 問題の発見・解決・報告        | 0.185 ***   | 0.095 *** | 0.014      | 0.070 *** | 0.038 *   | 0.051 ***  |
| 記憶と理解              | 0.134 ***   | 0.065 **  | 0.082 ***  | 0.102 *** | 0.048 **  | 0.082 ***  |
| 分析と応用              | 0.058 ***   | 0.183 *** | 0.023      | 0.067 *** | 0.076 *** | 0.084 ***  |
| 調整済みR <sup>2</sup> | 0.417       | 0.325     | 0.258      | 0.299     | 0.249     | 0.297      |
| F値                 | 108.057***  | 36.942*** | 52.437***  | 63.593*** | 47.474*** | 61.257***  |

N=5,381(専門の到達度は2,314)

注:係数は標準化偏回帰係数.

ということに規定されていることが明らかとなった。

これとは対照的な結果が得られたのが、教育成果の代替指標としての大学教育の充実度・満足度である。学生の性格・態度特性及び【記憶と理解】等の「学習経験の質」に関わる変数の影響力もみられるが、それ以上に【教員の教授能力】や【カリキュラムの体系性】等の「教育の質」に関わる変数の影響力が大きい。教育成果の代替指標としての大学教育の充実度や満足度は、実際に「いかなる学習を行ったか」よりも、「いかなる教育が与えられたか」ということに規定されているのである。

加えて、大学教育の充実度・満足度に関しては、これらの変数の他にも、「難易度」や「入学時の満足度」といった変数の規定力も小さくない。大学教育の充実度・満足度という指

標に対する認識は、難易度や入学時の満足度といった、大学入学時の変数で既にある程度決定されてしまっているのである<sup>7)</sup>。

以上の知見は、大学のカリキュラム次第で、学生の教育成果の獲得状況が大きく左右される可能性を示唆している。その際に重要なのは、「能力の変化」や「専門の到達度」といった、学生が実際に獲得した教育成果が学生の実際の学習経験を反映した指標であるのに対し、教育成果の代替指標である大学教育の充実度や満足度は、学習経験までは担保しない教育の仕組みを反映した指標であるという点である。学生が実際に獲得した教育成果の規定要因を把握したい場合には、どのような教育が提供されていたかを問うだけでは不十分であり、むしろ学生が実際にどのような学習を経験したかを問う必要がある。このことはまた、いかに優れた教育を提供しても、それは教育の質保証の必要十分条件にはなり得ないことをも意味している。

### 3. まとめと考察

本章では、学生の主観的な判断に依拠する複数の教育成果指標を設定し、それらの教育成果指標間の連関構造を分析するとともに、在学中の教育・学習経験との関連性を検証した。最後に、これまで得られた知見を踏まえて、望ましい教育成果指標のあり方について言及しておきたい。

教育成果指標の分析では、その設定の仕方によって、回答傾向が容易に変わることが明らかになった。例えば本章では、回答者の基準に従って在学中の変化を問うた場合には、教育成果の獲得状況が表れやすいが、到達水準を示し、回答者にその水準に達しているかを問うた場合には、数字には表れにくいことを示唆する知見が得られている。こうした知見は、何の目的で当該の教育成果指標を用いるのかに自覚的である必要性を示している。ミクロなレベルでは、各機関が純粋に教育改善のために用いるのか、あるいは外部評価や外部へのアピールを意識して用いるのかで適切・有効な指標は異なるであろうし、マクロなレベル、すなわち、全国的な評価システムにおける質保証という文脈で考えた場合にも適切・有効な指標は異なるであろう。

特に後者のマクロなレベルで留意しておく必要があるのは、難易度との関係である。すなわち、難易度別の分析からは、教養・共通教育の充実度を除き、特に難易度の高い大学でその評価が高いという傾向が認められた。こうした結果は、仮にオーストラリアの CEQ やイギリスの NSS のように、教育成果指標が評価システムに組み込まれ、その結果が個別大学ごとに比較可能な形で公表される場合には、安易な大学ランキングとして捉えられる危険性がある。そのため、その結果の取り扱いや解釈は、他の教育成果指標とどのような関係にあるのか、また、どのような在学中の教育・学習経験を反映しているのかについて留意した上でなされる必要がある。

また、在学中の教育・学習経験との連関構造の分析では、本章で設定した教育成果指標には、在学中の教育・学習経験が反映されていることが明らかとなった。従来の学生研究では、教育成果の獲得の影響要因として、大学入学時の変数や正課外活動の影響が大きいことが指摘されてきたが（山内 2004）、本章の知見に鑑みるならば、先行研究では、実態としての大学教育を反映しにくい教育成果指標が設定されていたり、教育成果を規定する要因としてのカリキュラム特性が適切に設定されていなかったりする可能性がある<sup>8)</sup>。

勿論、今回用いた指標にも課題があるかもしれない。ただし、成果指標の設定の仕方によって、それを規定するカリキュラム指標も異なるという事実は重要である。教育評価の制度や仕組みの議論が先行する中で、どういった指標に信憑性があるのかという議論は等閑に付されてきた嫌いがある。本章は、その解決というよりも、どのような指標を用いて教育成果と考えるべきか、それを規定しているのはどのようなカリキュラムに関わる指標であるのかを、地道に検証していく必要性を説くものである。

このように、本章では、学生の主観的判断に依拠した分析を通して、教育成果指標の洗練化のための基礎的知見を提示した。教育成果指標の洗練化なしにはそれを規定するカリキュラムの評価指標の洗練化もありえないし、またカリキュラムの評価指標の洗練化なしにはそれを反映する適切な教育成果指標の洗練化もありえない。両者の関係は極めて相互規定的なものであり、不断の検討が必要である。

外部評価の圧力も手伝って、今後も各種の調査が行われることであろうが、教育現場において、本来教育を改善していく手段であるべき各種の調査が、評価という文脈で目的化しないためにも、指標の妥当性までを念頭に入れた実証研究が積み重ねられるべきだろう。

## 注

- 1) 串本（2004）は、「教養・共通教育の場合、専門教育に比べ知識・技能の獲得自体よりも、それを手段とした知的能力及び行動特性の発達に力点が置かれることが多いため、基本的に客観的な情報を得ることが難しい」こと、また「評価基準については、一般的目標の指示内容に関する共通認識の不在が問題となる」ことを指摘している（140 - 141 頁）。
- 2) 例えば、経済学の分野では ERE（経済学検定試験）が、医学の分野では OSCE（客観的臨床能力試験）が行われている。
- 3) 1年生と4年生のそれぞれについて、難易度3群間の平均値の差の検定を行った結果を表3-6、3-7に示す。

図表 3-6 難易度別教育成果の獲得状況（1年生）

|                 |             | 難易度低群  | 難易度中群  | 難易度高群  |     |
|-----------------|-------------|--------|--------|--------|-----|
| 実際に獲得した<br>教育成果 | 能力の変化       | -0.264 | -0.303 | -0.306 |     |
|                 | 専門の到達度      | -      | -      | -      |     |
| 大学教育の<br>充実度    | 教養・共通教育の充実度 | 2.54   | 2.55   | 2.42   | *** |
|                 | 専門教育の充実度    | 2.70   | 2.76   | 2.82   | **  |
| 大学教育の<br>満足度    | 他人に勧めるか     | 2.73   | 2.90   | 2.98   | *** |
|                 | 投資に値するか     | 2.54   | 2.67   | 2.77   | *** |
| 大学生生活全般の充実度     |             | 2.80   | 2.97   | 3.07   | *** |

図表 3-7 難易度別教育成果の獲得状況（4年生）

|                 |             | 難易度低群  | 難易度中群  | 難易度高群 |     |
|-----------------|-------------|--------|--------|-------|-----|
| 実際に獲得した<br>教育成果 | 能力の変化       | 0.330  | 0.345  | 0.462 | **  |
|                 | 専門の到達度      | -0.093 | -0.086 | 0.169 | *** |
| 大学教育の<br>充実度    | 教養・共通教育の充実度 | 2.67   | 2.54   | 2.40  | *** |
|                 | 専門教育の充実度    | 2.93   | 2.88   | 2.95  |     |
| 大学教育の<br>満足度    | 他人に勧めるか     | 2.89   | 2.79   | 2.96  | *** |
|                 | 投資に値するか     | 2.65   | 2.69   | 2.85  | *** |
| 大学生生活全般の充実度     |             | 3.03   | 3.13   | 3.25  | *** |

- 4) 性格・態度特性については、性格・態度特性に関わる 18 項目を用いて因子分析を行い、そこで得られた 3 つの因子の因子得点を用いている。図表 3-8 に因子分析の結果を示す。
- 5) 図表 3-9 及び 3-10 に「教育の質」及び「学習経験の質」に関する因子分析の結果を示す。
- 6) 教育成果と性格・態度特性との関係については、必ずしも因果関係が、「性格・態度特性 教育成果」であるとは限らず、「教育成果 性格・態度特性」であることも十分に考えられる。例えば、「自信」について考えた場合、教育成果の獲得によって「自信」がついたと考えることもできよう。本章では、そうした限界を考慮した上で、あえて学生の特性としてそれらの性格・態度特性を設定しているが、続く第 4 章では上記の点についての分析を行っている。
- 7) なお、ここでは「大学生生活全般の充実度」の分析結果については示していないが、分析の結果、大学教育の充実度・満足度と同じような傾向がみられた。しかし、もっとも大きな規定力を有していたのは「サークル活動」のような正課外活動であり、「教育の質」に関わる変数の規定力も小さくはないものの、大学教育の充実度・満足度の場合に比べれば小さな値を示していた。

図表 3-8 性格・態度特性の因子分析（バリマックス回転後の因子負荷量）

|                           | 規律遵守   | 探究心    | 自信     |
|---------------------------|--------|--------|--------|
| 何事にもまんべんなく取り組むことができる      | 0.664  | 0.057  | 0.179  |
| 計画的に行動する                  | 0.631  | 0.063  | 0.154  |
| 物事にねばり強く取り組む              | 0.590  | 0.392  | 0.158  |
| 決められたことは守る                | 0.580  | 0.285  | -0.294 |
| 物事を始めたら最後までやらないと気がすまない    | 0.548  | 0.424  | 0.099  |
| 意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ      | -0.463 | 0.433  | -0.083 |
| なにかあると人に頼られる              | 0.462  | 0.186  | 0.295  |
| 疑問点はうやむやにしておきたくない         | 0.296  | 0.636  | 0.062  |
| わからないことがわかるようになることに喜びを感じる | 0.212  | 0.626  | -0.047 |
| 人とは違うことを考えることが好きだ         | -0.197 | 0.567  | 0.411  |
| ものごとを深く考える                | 0.094  | 0.551  | 0.193  |
| 何事も自分の力でやらないと気がすまない       | 0.302  | 0.490  | 0.224  |
| プレッシャーに強い                 | 0.234  | -0.031 | 0.648  |
| 自分に対して自信をもっている            | 0.280  | 0.053  | 0.635  |
| 自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい | 0.080  | -0.045 | -0.631 |
| 自分の意見をはっきりと主張する           | 0.106  | 0.255  | 0.628  |
| 困難な状況になると、むしろやりがいを感じる     | 0.189  | 0.433  | 0.521  |
| 勉強することが好きだ                | 0.329  | 0.219  | 0.341  |
| 回転後の負荷量平方和                | 2.818  | 2.612  | 2.536  |
| 分散のパーセント                  | 15.656 | 14.511 | 14.087 |
| 累積パーセント                   | 15.656 | 30.164 | 44.254 |

図表 3-9 「教育の質」の因子分析（バリマックス回転後の因子負荷量）

|                          | 教員の<br>教授能力 | カリキュラム<br>の体系性 | 学生への<br>フィードバック | 単位取得の<br>容易さ |
|--------------------------|-------------|----------------|-----------------|--------------|
| 教員は学生にわからせるよう工夫している      | 0.802       | 0.237          | 0.097           | -0.029       |
| 教員は授業内容に関心をもたせるよう工夫している  | 0.774       | 0.288          | 0.100           | -0.052       |
| 教員は授業の準備を十分にしている         | 0.726       | 0.173          | 0.127           | 0.056        |
| 教員は授業外でも熱心に指導してくれる       | 0.687       | 0.085          | 0.211           | -0.024       |
| 卒業するには何をどこまで学ばよいかを示されている | 0.057       | 0.781          | 0.094           | 0.012        |
| 教育課程全体の中での各授業科目の位置づけが明確だ | 0.211       | 0.758          | 0.090           | 0.002        |
| 授業評価等の調査結果が授業改善に活かされている  | 0.299       | 0.621          | 0.285           | -0.023       |
| 発展的な学習につながる授業が行われている     | 0.400       | 0.597          | 0.097           | -0.119       |
| 成績評価の基準はあらかじめ明確に示されている   | 0.180       | 0.395          | 0.382           | 0.190        |
| 提出物はきちんと返される             | 0.134       | 0.116          | 0.850           | 0.027        |
| 返された提出物には十分なコメントがつけられている | 0.206       | 0.200          | 0.797           | -0.042       |
| よい成績をとるには記憶力が重要だ         | 0.042       | -0.026         | 0.101           | 0.721        |
| 単位をとるためには試験前に勉強するだけで十分だ  | -0.125      | -0.022         | -0.106          | 0.711        |
| 成績評価の結果は納得のいくものである       | 0.317       | 0.326          | 0.188           | 0.330        |
| 回転後の負荷量平方和               | 2.749       | 2.419          | 1.749           | 1.195        |
| 分散のパーセント                 | 19.636      | 17.281         | 12.491          | 8.538        |
| 累積パーセント                  | 19.636      | 36.917         | 49.408          | 57.946       |



図表 3-10 「学習経験の質」の因子分析（バリマックス回転後の因子負荷量）

|                          | 相対的な自己認識 | 問題の発見・解決・報告 | 記憶と理解  | 分析と応用  |
|--------------------------|----------|-------------|--------|--------|
| 社会における自分の位置づけを認識すること     | 0.750    | 0.114       | -0.077 | 0.120  |
| 歴史とのつながりから自分の位置づけを認識すること | 0.730    | 0.049       | -0.071 | 0.059  |
| 学ぶ知識の意味を現実社会との関わりから考えること | 0.628    | 0.246       | 0.190  | 0.052  |
| ものごとの優劣や価値を判断すること        | 0.584    | -0.013      | 0.143  | 0.328  |
| 新しいもの見方や考え方を生み出すこと       | 0.545    | 0.259       | 0.148  | 0.140  |
| 自分の考えや学んだことを口頭で発表すること    | 0.107    | 0.764       | 0.030  | 0.135  |
| 自分の考えや学んだことを文章にすること      | 0.082    | 0.705       | 0.274  | -0.070 |
| 自分で問題を発見あるいは設定すること       | 0.415    | 0.591       | 0.016  | 0.209  |
| わからないことについて教員に質問をすること    | 0.036    | 0.516       | 0.006  | 0.437  |
| 他人の意見を参考にして自分の考えを見直すこと   | 0.479    | 0.504       | 0.096  | 0.012  |
| 設定された問題を自分で解決すること        | 0.151    | 0.487       | 0.165  | 0.387  |
| 事実や概念を理解すること             | 0.072    | 0.170       | 0.860  | 0.163  |
| 事実や概念をおぼえること             | 0.030    | 0.113       | 0.858  | 0.121  |
| 実験や実習のための技術を身につけること      | 0.045    | 0.126       | -0.018 | 0.742  |
| 学んだ内容を別の場面で応用すること        | 0.255    | 0.128       | 0.306  | 0.605  |
| ものごとを要素に分解して相互の関連を分析すること | 0.352    | 0.052       | 0.312  | 0.574  |
| 回転後の負荷量平方和               | 2.769    | 2.408       | 1.870  | 1.842  |
| 分散のパーセント                 | 17.303   | 15.050      | 11.687 | 11.514 |
| 累積パーセント                  | 17.303   | 32.354      | 44.041 | 55.555 |

8) 例えば村澤（2003）は、「能力・力量の向上には、大学入学以前に自立的に学生が何を経験し積み重ねてきたか、あるいは学生自身の大学生活における学習への取り組みに負うところが大きい」（70頁）と言及しているが、カリキュラム特性として、授業における学習経験を示す変数を設定していれば、別の結果が得られたかもしれない。

## 参考文献

Bloom, B. S. (Ed.) (1956). *Taxonomy of educational objectives. Handbook I: Cognitive domain*. New York: David Mckay.

学校法人代々木ゼミナール 2004, 『2005年度大学入試 代ゼミデータリサーチ』。

串本 剛 2004, 「教育成果を用いた教養・共通教育の評価活動 - NIADによる試行を切り口として - 」『高等教育研究』第7集, 137 - 156頁。

村澤昌崇 2003, 「学生の力量形成における大学教育の効果」有本章編 『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部, 60 - 74頁。

小方直幸 1998, 『大卒者の就職と初期キャリアに関する実証的研究 - 大学教育の職業的

レリバンス - 』広島大学大学教育研究センター。

関口正司 2004, 『教育改善のための大学評価マニュアル - 中期計画実施時の自己評価に  
役立つ25のポイント - 』九州大学出版会。

山内乾史 2004, 『現代大学生論 - 学生・授業・実施組織 - 』東信堂。

## 第4章 大学教育の成果としての性格・態度特性の変容

### 1. はじめに

第3章の分析では、大学教育の成果として、実際に獲得された教育成果や大学教育の充実度・満足度といった教育成果指標を設定し、それらの指標が実際に提供された大学教育とどのような関係にあるのかを分析した。本章では、上記の分析において教育成果を左右する統制変数として用いてきた学生の性格・態度特性に焦点をあて、それを大学教育の成果と捉えることの可能性について検討したい。

近年の教育評価の流れの中で、大学教育の成果を測定すべく、多くの大学、あるいは研究者によって在学生あるいは卒業生を対象とした調査が行なわれている。しかし、特に大学教育の改善を志向する調査においては、大学教育の成果を知識・技能と考え、設定するものが多く、本章で取り上げる性格・態度特性を大学教育の成果として設定するものはあまりみられない<sup>1)</sup>。これまでこれらの性格・態度特性があまり設定されてこなかった理由には大きく2つ考えられる。ひとつは、性格・態度特性の変容が知識・技能と比べ後天的に獲得される性質が弱いこと、いまひとつは、これらの特性の変容には正課外活動の影響が少なくないことが予想されるため、大学教育の成果指標としての妥当性が疑わしいこと、である。

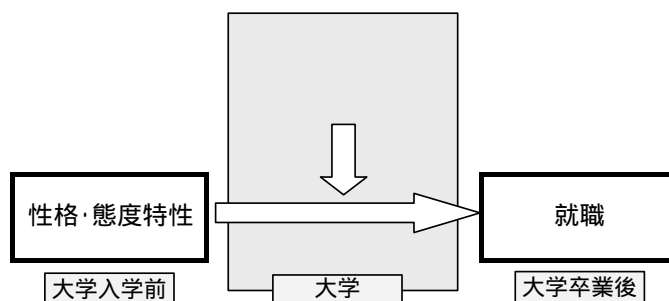
勿論、知識・技能を大学教育の成果として設定したとしても、大学における教育・学習経験と職業との関連性が強くさえあればなんら問題はない。しかし、今日の日本では、大学教育で得られた知識・技能と職業生活で求められているものと乖離していること(小方 1998等)、また、就職に際して求められているのは、知識・技能以外の性格・態度特性に帰する点が多いこと(リクルート 2005等)はこれまでの先行研究が明らかにするところである。そのため、大学在学中の知識・技能の変容だけでなく、性格・態度特性の変容を大学教育の重要な成果と捉える視点は非常に重要であると考えられる。

性格・態度特性への着目はまた、大学の戦略という視点からも重要である。すなわち、知識・技能の変容は大学入学以前の学習レディネスに依拠する可能性が高いのに対し、性格・態度特性はそれに依拠する可能性があまりない。そのため、特定の性格・態度特性と、学習あるいは就職との関連が明らかになれば、大学側は学力だけでなくそうした性格・態度特性を入学時の判断材料として考えることもできるであろうし、就職率を上げるために、そうした性格・態度特性の向上に取り組むこともできるであろう。特に学力で入学者を選別することが困難な難易度の低い大学にとって、こうした特性を持つ学生をリクルートし、

その向上を促すことは、将来、当該大学の就職率の増加につながる可能性が高い。そのため、大学の生き残りをかけた重要な戦略として考えても、性格・態度特性の変容を大学教育の重要な成果と捉える視点には意義がある。

そこで本章では、学生の性格・態度特性に焦点をあて、以下の4点の課題を検討することを通して、学生の性格・態度特性の変容を大学教育の成果と捉えることの可能性について検討したい。第一に、各大学によってその入学者の性格・態度特性にどの程度の差異がみられるのかについて、特に難易度の観点からの分析を行う。第二に、大学在学中に学生の性格・態度特性にどの程度の変容がみられるのかについて、学年間比較によって明らかにする。第三に、どのような性格・態度特性が就職に対して効果的なのかを、就職状況をもとに検討する。そして第四に、就職に対して効果的な性格・態度特性に変容をもたらす要因とはなにかを明らかにしたい。研究の枠組みは図表4-1に示す通りである。

図表 4-1 分析の枠組み



## 2. 大学難易度別にみた性格・態度特性と在学中の変容

### 性格・態度特性に対する回答状況の概要

まず、上記4点についての課題の検討を行なう前に、性格・態度特性に対する回答状況を概観してみよう（詳細な値については巻末の付表を参照）。質問票では18項目の性格・態度特性を設定し、「以下の項目は、現在のあなたにどの程度あてはまりますか」と4件法でたずねている。「あてはまる」との回答がもっとも多かったのは、「わからないことがわかるようになることに喜びを感じる」（52.7%）で、「決められたことは守る」がこれに続いている（38.4%）。一方、「あてはまらない」との回答がもっとも多かったのは、「プレッシャーに強い」（24.0%）で、「勉強することが好きだ」（21.3%）、「自分に対して自信を持っている」（19.4%）がこれに続いている。

学年別にみても「あてはまる」との回答が多いのは、全体の傾向と同様、「わからないことがわかるようになることに喜びを感じる」「決められたことは守る」であるが、1年生よりも4年生以上でその値が統計的に有意に高い( $P < 0.001$ )。また、「あてはまらない」との回答についても、その回答が多いのは、全体の傾向と同様、「プレッシャーに強い」「勉強することが好きだ」「自分に対して自信を持っている」であり、これについては1年生よりも4年生以上でその値が統計的に有意に高い( $P < 0.001$ )。こうした結果は、学年進行に伴い、性格・態度特性が獲得されていることを示唆するものである。詳細については後の分析に譲る。

専門分野別にみても「あてはまる」との回答が多いのは、いずれの専門分野についても、全体の傾向と同様、「わからないことがわかるようになることに喜びを感じる」「決められたことは守る」である。なかでも保健系の値はその他の4分野よりも統計的に有意に高い値を示している( $P < 0.001$ )。また、「あてはまらない」との回答についても、いずれの専門分野においてもその回答が多いのは、全体の傾向と同様、「プレッシャーに強い」「勉強することが好きだ」「自分に対して自信を持っている」である。「プレッシャーに強い」「自分に対して自信を持っている」については、自然科学系で「あてはまらない」との回答の割合がもっとも高く(28.1%, 21.8%)、これに人文系が続いている(24.9%, 21.1%)。「勉強することが好きだ」については、社会系で「あてはまらない」との回答の割合がもっとも高く(24.5%)、これに人文系が続いている(23.6%)。なお、保健系では、「自分に対して自信を持っている」「勉強することが好きだ」について「あてはまらない」との回答の割合が他の分野に比してもっとも低い。

#### 学部の入試度別入学者の性格・態度特性

それでは、各大学によってその入学者の性格・態度特性にどの程度の差異がみられるのだろうか。この点を明らかにするために、ここでは特に難易度の観点から分析を行う。難易度については、『代ゼミデータリサーチ』(2004)の値を参考に、大学入試時の偏差値で50未満(「難易度低群」と表記)、50以上55未満(「難易度中群」と表記)、55以上(「難易度高群」と表記)の3群に分類した。なお、入学時点でのデータがないため、ここでは1年生のデータを代わりに用いることとする。

図表4-2は、難易度3群間で平均値の差の検定を行った結果を示したものである。これを見ると、統計的に有意な差のみられるほとんどの項目で、難易度の高い大学の学生ほど肯定的な回答をしていることがわかる。特に「わからないことがわかるようになることに喜びを感じる」「勉強することが好きだ」については、難易度低群の学生とその他2群の学生の間には比較的大きな差がみられる。

統計的に有意な差がみられない項目についても、「ものごとを深く考える」や「困難な状況になると、むしろやりがいを感じる」については、難易度の高い大学の学生ほど肯定

図表 4-2 難易度別性格・態度特性

|                              | 難易度低群 | 難易度中群 | 難易度高群 |     |
|------------------------------|-------|-------|-------|-----|
| 自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい(逆) | 2.78  | 2.78  | 2.75  |     |
| 決められたことは守る                   | 3.12  | 3.19  | 3.30  | *** |
| 疑問点はうやむやにしておきたくない            | 2.94  | 2.96  | 3.08  | *** |
| わからないことがわかるようになることに喜びを感じる    | 3.23  | 3.41  | 3.41  | *** |
| 何事にもまんべんなく取り組むことができる         | 2.50  | 2.46  | 2.50  |     |
| 意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ(逆)      | 3.15  | 3.10  | 3.09  |     |
| 何事も自分の力でやらないと気がすまない          | 2.58  | 2.63  | 2.67  | *   |
| なにかあると人に頼られる                 | 2.41  | 2.48  | 2.54  | *** |
| ものごとにねばり強く取り組む               | 2.62  | 2.70  | 2.77  | *** |
| 人とは違うことを考えることが好きだ            | 2.86  | 2.91  | 2.90  |     |
| 困難な状況になると、むしろやりがいを感じる        | 2.52  | 2.53  | 2.56  |     |
| ものごとを深く考える                   | 2.93  | 2.96  | 3.00  |     |
| 自分の意見をはっきりと主張する              | 2.48  | 2.42  | 2.50  |     |
| プレッシャーに強い                    | 2.12  | 2.05  | 2.17  | *   |
| 計画的に行動する                     | 2.38  | 2.34  | 2.42  |     |
| ものごとを始めたら最後までやらないと気がすまない     | 2.73  | 2.78  | 2.86  | **  |
| 自分に対して自信をもっている               | 2.21  | 2.20  | 2.21  |     |
| 勉強することが好きだ                   | 2.00  | 2.28  | 2.40  | *** |

注：\*\*\*は $P < 0.001$ ，\*\*は $P < 0.01$ ，\*は $P < 0.05$ ．以下同様に表記．

表中の「(逆)」は逆転項目であることを示している．

的な回答をする傾向がみられる。また、「自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい」や「意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ」については、難易度の高い大学の学生ほど肯定的な回答をしない傾向がみられる。

以上の結果を総合的にふまえると、難易度の高い大学ほど、探究心が強く、勤勉な学生が入学していることがわかる。現代学生の傾向として近年指摘されている自信のなさ(「自分に対して自信をもっている」)については、難易度による差異が確認できなかった。

#### 性格・態度特性の変容

探究心や勤勉性に関わる性格・態度特性については、入学時点で難易度ごとに差異がみられることが明らかとなったが、性格・態度特性は学年進行に伴って変容するのであるか。本調査は同一コーホートを対象とした調査ではないため、結果の一般化にはパネル調査等による検証が必要であるが、1年生と4年生のデータを同一コーホートであると仮定して分析を行いたい。

なお、学年間の比較については、先にみたように、「プレッシャーに強い」「勉強するこ

図表 4-3 難易度別性格・態度特性の学年間比較

|                              | 難易度低群 |       |     | 難易度中群 |       |     | 難易度高群 |       |     |
|------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|
|                              | 4年    | 差     |     | 4年    | 差     |     | 4年    | 差     |     |
| 自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい(逆) | 2.62  | -0.16 | *** | 2.67  | -0.11 | **  | 2.57  | -0.19 | *** |
| 決められたことは守る                   | 3.24  | 0.12  | *** | 3.25  | 0.06  |     | 3.36  | 0.06  |     |
| 疑問点はうやむやにしておきたくない            | 3.10  | 0.16  | *** | 3.18  | 0.22  | *** | 3.19  | 0.10  | **  |
| わからないことがわかるようになることに喜びを感じる    | 3.41  | 0.19  | *** | 3.54  | 0.14  | *** | 3.61  | 0.20  | *** |
| 何事にもまんべんなく取り組むことができる         | 2.67  | 0.17  | *** | 2.61  | 0.16  | *** | 2.60  | 0.10  | **  |
| 意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ(逆)      | 3.09  | -0.06 |     | 3.09  | -0.01 |     | 3.01  | -0.08 | *   |
| 何事も自分の力でやらないと気がすまない          | 2.72  | 0.15  | *** | 2.66  | 0.04  |     | 2.68  | 0.01  |     |
| なにかあると人に頼られる                 | 2.55  | 0.14  | *** | 2.49  | 0.01  |     | 2.58  | 0.03  |     |
| ものごとにねばり強く取り組む               | 2.88  | 0.26  | *** | 2.88  | 0.18  | *** | 2.98  | 0.21  | *** |
| 人とは違うことを考えることが好きだ            | 2.95  | 0.09  | *   | 2.98  | 0.07  |     | 3.00  | 0.10  | *   |
| 困難な状況になると、むしろやりがいを感じる        | 2.64  | 0.12  | *** | 2.68  | 0.14  | *** | 2.68  | 0.13  | **  |
| ものごとを深く考える                   | 3.08  | 0.15  | *** | 3.02  | 0.06  |     | 3.04  | 0.04  |     |
| 自分の意見をはっきりと主張する              | 2.70  | 0.22  | *** | 2.64  | 0.22  | *** | 2.65  | 0.15  | *** |
| プレッシャーに強い                    | 2.26  | 0.14  | *** | 2.17  | 0.12  | **  | 2.24  | 0.07  |     |
| 計画的に行動する                     | 2.58  | 0.20  | *** | 2.48  | 0.14  | **  | 2.54  | 0.12  | **  |
| ものごとを始めたら最後までやらないと気がすまない     | 2.91  | 0.18  | *** | 2.85  | 0.07  |     | 2.87  | 0.01  |     |
| 自分に対して自信をもっている               | 2.44  | 0.23  | *** | 2.38  | 0.18  | *** | 2.45  | 0.24  | *** |
| 勉強することが好きだ                   | 2.20  | 0.21  | *** | 2.46  | 0.17  | *** | 2.66  | 0.26  | *** |

とが好きだ」「自分に対して自信を持っている」といった項目については、1年生よりも4年生以上でその値が統計的に有意に高いことが明らかとなっている ( $P < 0.001$ )。そこでここでは難易度ごとにその変容をみてみたい。

図表 4-3 は、各項目についての4年生の平均値を示すとともに、それと1年生の平均値との差を、平均値の差の検定を行った結果もあわせて示したものである。どの項目についてもいずれかの群で統計的に有意な差がみられる。また、統計的に有意であるか否かに関わらず、すべての項目において1年生よりも4年生の方が高い値を示している(逆転項目については低い値を示している)。総じて学生の性格・態度特性は、大学在学中に向上しているといえよう。

難易度別にみると、難易度低群における変容がその他の群のそれに比して大きいものが多いことがわかる。そのため4年次の値では、多くの項目において図表 2 で示した1年次の群間の序列とは異なる傾向がみられ、18項目中7項目で3群中もっとも高い値を示している(1年次は2項目)。しかし、特に難易度低群の学生とその他2群の学生の間には比較的大きな差がみられた「わからないことがわかるようになることに喜びを感じる」「勉強することが好きだ」については、依然として難易度の高い大学の学生ほど肯定的な回答をするという傾向は変わらない ( $P < 0.001$ )。

以上の結果から、性格・態度特性は学年進行に伴って変容する傾向がうかがえること、また、特に難易度の低い大学の学生ほどその変容が著しいことがわかる。性格・態度特性の大学在学中の変容は、欧州諸国のように大学入学前の就業体験もないまま、高校卒業後ストレートで大学に入学してくる学生が大勢を占める日本の高等教育システム<sup>2)</sup>に鑑みれば、成熟の伸びしろの有無、すなわち変容の余地の有無で解釈が可能なのかもしれない。難易度の低い大学の学生ほどその変容が著しいのも、これらの大学では難易度の高い大学に比べ変容の余地が多いという解釈で説明できる。

しかし、その一方で、大学における教育・学習経験の結果によって、性格・態度特性が変容しているという解釈もまた可能である。難易度の低い大学では、性格・態度特性の変容を促す教育・学習経験が提供されているのかもしれない。この点について検証するために、以下では性格・態度特性の変容の規定要因についての分析を行いたい。なお、本稿の主課題は、就職に対して効果的な性格・態度特性の変容の規定要因を明らかにすることにあるため、次項ではまず、どういった性格・態度特性を持つ学生が就職を決定しているのかについての分析を行いたい。

### 3. 就職を左右する性格・態度特性とその変容の規定要因

#### 就職の決定状況を規定する性格・態度特性

まず分析に入る前に、回答者の卒業後の進路の決定状況を概観しておこう（詳細な値については巻末の付表を参照）。4年生以上を対象に、調査時点において「就職が決まっている」と回答した学生は46.2%と半数をきっている。しかし、「進学が決まっている」学生は19.0%、「その他進路が決まっている」学生が8.1%と、大学卒業後なんらかの進路が決定している学生は73.2%（「なにも決まっていない」学生は26.8%）になる。

専門分野別にみると、「就職が決まっている」学生は医歯薬系に多く（77.7%）、これに社会系が続いている（56.8%）。自然科学系では、「就職が決まっている」学生は相対的に少ないものの（38.9%）、「進学が決まっている」学生が44.2%と多い。一方、「なにも決まっていない」学生は、人文系でもっとも多く（40.8%）、教育系がこれに続いている（31.4%）。教育系では、教員を志望するものが多く、教員採用試験に合格できなかった場合には、臨時採用が決定するのが調査時点よりも遅くなるため、このような結果が得られたものと思われる。

また、難易度別にみると、難易度が低い群ほど「就職が決まっている」と回答する学生は少なく、「なにも決まっていない」と回答する学生が多い。特に難易度低群では、「なにも決まっていない」と回答した学生の割合が4割を越えており、難易度高群・中群の値が2割前後であることに鑑みれば、その割合が格段に高いことがわかる。

さて、以上の結果をふまえて、以下では「就職が決まっている」と回答したものと、「な



図表 4-4 難易度別性格・態度特性の就職の決定状況別比較（4年生以上を対象）

|                              | 難易度低群 |      |     | 難易度中群 |      |     | 難易度高群 |      |     |
|------------------------------|-------|------|-----|-------|------|-----|-------|------|-----|
|                              | 決定    | 未定   |     | 決定    | 未定   |     | 決定    | 未定   |     |
| 自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい(逆) | 2.63  | 2.66 |     | 2.65  | 2.67 |     | 2.52  | 2.66 |     |
| 決められたことは守る                   | 3.33  | 3.15 | **  | 3.39  | 3.14 | *** | 3.41  | 3.27 | *   |
| 疑問点はうやむやにしておきたくない            | 3.17  | 3.02 | *   | 3.19  | 3.06 |     | 3.17  | 3.08 |     |
| わからないことがわかるようになることに喜びを感じる    | 3.45  | 3.35 |     | 3.53  | 3.49 |     | 3.59  | 3.51 |     |
| 何事にもまんべんなく取り組むことができる         | 2.72  | 2.61 |     | 2.72  | 2.50 | **  | 2.67  | 2.51 | *   |
| 意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ(逆)      | 3.04  | 3.15 |     | 3.01  | 3.15 |     | 2.93  | 3.08 | *   |
| 何事も自分の力でやらないと気がすまない          | 2.72  | 2.69 |     | 2.70  | 2.57 |     | 2.69  | 2.69 |     |
| なにかあると人に頼られる                 | 2.58  | 2.49 |     | 2.60  | 2.31 | *** | 2.68  | 2.43 | *** |
| ものごとにねばり強く取り組む               | 2.93  | 2.86 |     | 3.02  | 2.76 | **  | 3.03  | 2.85 | *   |
| 人とは違うことを考えることが好きだ            | 2.97  | 2.94 |     | 2.96  | 2.98 |     | 2.95  | 3.06 |     |
| 困難な状況になると、むしろやりがいを感じる        | 2.65  | 2.60 |     | 2.76  | 2.48 | *** | 2.73  | 2.56 | *   |
| ものごとを深く考える                   | 3.03  | 3.07 |     | 3.01  | 3.01 |     | 3.07  | 2.95 |     |
| 自分の意見をはっきりと主張する              | 2.72  | 2.61 |     | 2.69  | 2.54 |     | 2.70  | 2.58 |     |
| プレッシャーに強い                    | 2.28  | 2.20 |     | 2.21  | 1.99 | **  | 2.30  | 2.11 | *   |
| 計画的に行動する                     | 2.70  | 2.47 | *** | 2.61  | 2.37 | **  | 2.64  | 2.39 | **  |
| ものごとを始めたら最後までやらないと気がすまない     | 2.94  | 2.86 |     | 2.88  | 2.83 |     | 2.89  | 2.77 |     |
| 自分に対して自信をもっている               | 2.55  | 2.28 | *** | 2.47  | 2.13 | *** | 2.54  | 2.23 | *** |
| 勉強することが好きだ                   | 2.20  | 2.09 |     | 2.37  | 2.36 |     | 2.61  | 2.62 |     |

にも決まっていない」と回答したものを対象に、彼らの性格・態度特性に差異がみられるかを検討したい<sup>3)</sup>。図表 4-4 は、調査時点において「就職が決まっている」(表中では「決定」と表記)と回答したものと「なにも決まっていない」(表中では「未定」と表記)と回答したものの平均値の差の検定を行った結果を示したものである。

難易度低群では、「決められたことは守る」「疑問点はうやむやにしておきたくない」「計画的に行動する」「自分に対して自信を持っている」の項目に対して、「就職が決まっている」ものの方が、「なにも決まっていない」ものよりも統計的に有意に高い値を示している( $P < 0.05$ )。一方、その他 2 群では、難易度低群と比べて統計的に有意差のみみられる項目が多く、「決められたことは守る」「何事にもまんべんなく取り組むことができる」「なにかあると人に頼られる」「ものごとにねばり強く取り組む」「困難な状況になると、むしろやりがいを感じる」「プレッシャーに強い」「計画的に行動する」「自分に対して自信をもっている」の項目に対して、「就職が決まっている」ものの方が、「なにも決まっていない」ものよりも高い値を示している( $P < 0.05$ )。

難易度別の傾向からいえることは、難易度低群では、「決められたことは守る」「計画的に行動する」といった社会人としての規律を遵守できるかどうかといった点が、就職の決

定状況を左右しているといえる。一方、その他2群では、規律を遵守できるかどうかといった点に加え、「何事にもまんべんなく取り組むことができる」柔軟さや、「なにかあると人に頼られる」「プレッシャーに強い」といった頼り甲斐、「ものごとくにねばり強く取り組む」「困難な状況になるとむしろやりがいを感じる」といった勤勉性の有無が就職の決定状況を左右しているといえる。

こうした結果は、企業が学生を採用する際には、社会人としての規律を遵守できるかどうかという点がまず基本的な評価の対象となっており、特に難易度低群の学生ではその比重が高い可能性を示唆している。学力で入学者を選別できない難易度の低い大学にとって、こうした特性を持つ学生をリクルートすることは、将来、当該大学の就職率の増加につながる可能性が高いため、大学の生き残りをかけた重要な戦略として考えられるべきだろう。

なお、「自分に対して自信をもっている」はすべてのカテゴリで統計的に有意差がみられるが( $P < 0.001$ )、これは就職が決定したことによる影響が考えられるため、一概に自信をもっている学生が就職を決定する傾向があるとは言い切れない。

以上の分析から、学生の性格態度・特性が就職の決定状況に影響を及ぼしていることが明らかとなった。しかし、これまでの分析では、大学教育をはじめとする多様な要因の影響力を考慮していない。それらの要因を考慮してもなお、学生の性格態度・特性は、就職の決定状況に影響を及ぼしているのだろうか。

そこで、学生の性格・態度特性が、学生の就職の決定状況にどの程度影響力を及ぼしているか、ロジスティック回帰分析によって明らかにしたい。従属変数には学生の就職の決定状況を、独立変数には、学生の性格・態度特性に加え、所属機関の特性として専門分野、学生の特性として性別、高校時代の学習状況、入学時の満足度、大学生活特性として大学関連の学習や授業とは関係のない学習、サークル活動やアルバイト、そしてカリキュラム特性として教育の質や学習の質や教育成果に関する変数を用いる(分析に使用する変数の詳細は図表4-5を参照)。

図表4-6は分析を行った結果を難易度別に示したものである。いずれの難易度群においてもみられる共通点としては、【規律遵守】という性格・態度特性が就職の決定状況に極めて大きな規定力を有しているのに対し、その他の【探究心】や【自信】といった性格・態度特性が統計的には大きな規定力を有していないという点が挙げられる。また、難易度低群で「相対的な自己認識」という学習経験が規定力を有してはいるものの、概ね教育・学習経験の規定力は低くなっている。

一方、相違点としては、難易度低群では教育成果が統計的に有意な規定力を有していないのに対し、難易度中群では「能力の変化」、難易度高群では「専門の到達度」のような教育成果が就職の決定状況に大きな規定力を有しているという点が挙げられる<sup>4)</sup>。また、難易度低・中群では「高校時代の学習状況」が統計的に有意な規定力を有していないのに対し、難易度高群では大きな規定力を有している。「高校時代の学習状況」を基礎学力や

図表 4-5 ロジスティック回帰分析に使用する変数

|           |  |
|-----------|--|
| 従属変数      |  |
| 就職の決定状況   | : 「就職が決まっている」を1, 「なにも決まっていない」を0.                               |
| 独立変数      |  |
| 所属機関特性    |  |
| 専門分野      | : 基準変数を自然科学系とし, 人文系, 教育系, 社会系, 保健系についてそれぞれダミー変数を作成             |
| 学生特性      |  |
| 性別        | : 男性なら1, 女性なら0のダミー変数.  |
| 高校時代の学習状況 | : 高校時代の1日の平均学習時間.  |
| 入学時の満足度   | : 満足していた = 4から, 満足していなかった = 1までの得点を配分.                         |
| 大学生生活特性   | : 大学関連の学習, 授業とは関係のない学習, サークル活動, アルバイトのそれぞれについての1週間の平均学習(活動)時間. |
| カリキュラム特性  | : 第3章の分析において, 教育の質及び学習経験の質に関する因子分析を行ってそれぞれ得られた4つの因子の因子得点.      |
| 性格・態度特性   | : 第3章の分析において, 性格・態度に関する因子分析を行って得られた3つの因子の因子得点.                 |
| 教育成果      | : 能力の変化及び専門の到達度に関する因子分析を行ってそれぞれ得られた因子の因子得点.                    |

学習レディネスの代理指標と考えることができるならば, 難易度高群では基礎学力や学習レディネスが就職の決定状況に大きな規定力を有していると考えられることもできる。

このように, 就職の決定状況には, いずれの難易度群においても, 概して大学における教育・学習経験の影響力が統計的に有意な形ではみられない。その一方で, いずれの難易度群においても大きな影響力を有していたのは【規律遵守】という性格・態度特性であった。また, 難易度中・高群では高校時代の学習状況, あるいは能力の変化や専門の到達度といった教育成果の影響力がみられるのに対し, 難易度低群ではそれらの影響力が統計的に有意な形ではみられなかった。

これらの結果を総合的に解釈すると, 難易度低群の学生は就職に際して基礎学力や学習レディネス, あるいは教育成果よりも, 「決められたことは守る」「計画的に行動する」等の規律を遵守できるか否かといった点が相対的により多く求められているものと考えられる。これに対し, その他2群の学生は, 規律を遵守できるか否かといった点に加え, 基礎学力や学習レディネス, あるいは教育成果が問われているものと考えられる。いずれの難易度群においても規定力の高い規律を遵守できるか否かといった点は, 就職の決定状況を左右するもっとも基本的な条件といえるのかもしれない。

そこで, 次項では, 性格・態度特性のうち, 【規律遵守】の変容を規定する要因につい

図表 4-6 就職の決定状況に関するロジスティック回帰分析

|                             | 難易度低群      | 難易度中群      | 難易度高群      |
|-----------------------------|------------|------------|------------|
| <b>所属機関特性</b>               |            |            |            |
| 人文系                         | 0.113 ***  | 0.451      | 0.492      |
| 教育系                         | -          | 0.527      | 0.677      |
| 社会系                         | 0.427 *    | 2.126      | 1.201      |
| 保健系                         | -          | 3.112      | 5.251 **   |
| <b>学生特性</b>                 |            |            |            |
| 性別                          | 1.048      | 0.821      | 0.804      |
| 高校時代の学習状況                   | 1.087      | 1.139      | 1.245 ***  |
| 入学時の満足度                     | 1.409 *    | 1.062      | 1.118      |
| <b>大学生活特性</b>               |            |            |            |
| 大学関連の学習                     | 1.013      | 0.930      | 0.985      |
| 授業とは関係のない学習                 | 1.041      | 0.973      | 1.022      |
| サークル活動                      | 1.027      | 1.064      | 0.858 *    |
| アルバイト                       | 1.020      | 1.100      | 1.083      |
| <b>カリキュラム特性</b>             |            |            |            |
| 教員の教授能力                     | 1.234      | 0.845      | 0.969      |
| カリキュラムの体系的性                 | 0.805      | 1.016      | 1.026      |
| 学生へのフィードバック                 | 0.836      | 1.046      | 0.977      |
| 単位取得の容易さ                    | 0.861      | 1.100      | 1.211      |
| 相対的な自己認識                    | 0.731 *    | 1.227      | 1.154      |
| 問題の発見・解決・報告                 | 0.851      | 1.025      | 1.267      |
| 記憶と理解                       | 1.010      | 0.963      | 0.914      |
| 分析と応用                       | 0.954      | 1.011      | 0.931      |
| <b>性格・態度特性</b>              |            |            |            |
| 探究心                         | 0.962      | 0.862      | 1.142      |
| 自信                          | 1.042      | 1.156      | 1.309      |
| 規律遵守                        | 1.596 ***  | 1.481 **   | 1.365 *    |
| <b>教育成果</b>                 |            |            |            |
| 能力の変化                       | 1.058      | 1.510 *    | 1.159      |
| 専門の到達度                      | 1.186      | 0.968      | 0.683 *    |
| カイ2乗値(自由度)                  | 90.615(22) | 57.032(24) | 89.328(24) |
| 判別成功率                       | 68.4%      | 72.6%      | 76.9%      |
| R <sup>2</sup> (Nagelkerke) | 0.262      | 0.214      | 0.251      |

注: N=606(難易度低群), 478(難易度中群), 596(難易度高群)

係数はオッズ比(EXP(B))。オッズ比は、説明変数が1単位変化することによって被説明変数の事象が生じる確率が、変化前の何倍に当たるかを示す。

カイ2乗値は、定数のみのモデルと変数投入後のモデルの対数尤度の差であり、モデル全体の適合度を検定する値。

判別成功率は、観測値とモデルの予測値の一致度を示す。

R<sup>2</sup>(Nagelkerke)はモデル全体の説明率を示し、0～1の範囲の値をとる(1だと完全に説明)。

ての分析を行う。こうした就職とも関連する性格・態度特性の変容を規定する要因を明らかにすることは、学生に就職戦線を勝ち抜かせるための大学教育を考える上でも重要である。特に難易度の低い大学では、学歴の効用が期待できず、学業面でも他の難易度群よりも劣位におかれているとすれば、就職事情はかなり厳しいものとなることが予想される。

#### 性格・態度特性の変容の規定要因

以下では、前項のロジスティック回帰分析において、就職の決定状況に特に大きな規定力を有していた【規律遵守】という性格・態度特性について、その変容を規定する要因を明らかにするために重回帰分析を行う。従属変数には、【規律遵守】を、独立変数には、先のロジスティック回帰分析で用いた変数のうち、性格・態度特性を除いたものを用いる。

なお、本調査では、調査時点で当該の性格・態度特性が回答者にどの程度あてはまるかというたずね方を行っている。そのため、性格・態度特性の獲得状況を把握するために、試行的な分析を行う。すなわち、1年生の性格・態度特性の回答を用いて学部ごとに平均値を求め、その平均値を当該学部の4年生の性格・態度特性の値から減じることで、4年生の性格・態度特性の獲得状況を求めることとする。これを【規律遵守】という因子を構成する5項目について行い、そこで得られた結果を再び因子分析によって要約した。

図表4-7は分析を行った結果を難易度別に示したものである。難易度中群の決定係数が低く、本稿の重回帰分析の枠組みでは【規律遵守】という性格・態度特性の変容の規定要因をうまく抽出することができなかつたため、以下では主に難易度低群と高群の比較を中心とした分析を行いたい。

まず所属機関特性については、本稿で設定した変数の中でもその規定力が際立って大きいのが、難易度低群とその他2群では基準変数が異なること、また本調査のサンプリングが偏っていることもあり、解釈には注意が必要である。しかし、その規定力の大きさに鑑みるならば、【規律遵守】という性格・態度特性の変容が当該機関への所属が決定した大学入学の時点で既に規定されている面が少なくないということはいえそうである。

学生特性、大学生活特性については、難易度低群では「サークル活動」が比較的大きな規定力を有しているのに対し、難易度高群では「高校時代の学習状況」「授業とは関係のない学習」が比較的大きな規定力を有している。また、カリキュラム特性については、難易度低群では、「単位取得の容易さ」「問題の発見・解決・報告」が負の規定力を有しているのに対し、難易度高群ではカリキュラム特性の影響はみられない。さらに、教育成果については、難易度低群ではその影響がみられないのに対し、難易度高群では「能力の変化」「専門の到達度」ともに極めて大きな影響を及ぼしている。

このように、同じ性格・態度特性を獲得させるにしても、それを規定する要因は難易度によって大きく異なっている可能性がある。すなわち、難易度低群では、サークル活動のような正課外活動の規定力が大きく、大学における教育・学習経験、あるいはその結果と

図表 4-7 【規律遵守】の獲得状況に関する重回帰分析

|                    | 難易度低群     | 難易度中群     | 難易度高群     |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|
| 所属機関特性             |           |           |           |
| 人文系                | 0.060     | 0.297     | 0.221 **  |
| 教育系                | -         | -0.112 *  | -0.136 *  |
| 社会系                | 0.235 *** | 0.164     | 0.051     |
| 保健系                | -         | 0.119     | 0.194 *** |
| 学生特性               |           |           |           |
| 性別                 | 0.080     | -0.095    | -0.093 *  |
| 高校時代の学習状況          | 0.026     | -0.006    | 0.119 **  |
| 入学時の満足度            | -0.088    | 0.085     | 0.050     |
| 大学生生活特性            |           |           |           |
| 大学関連の学習            | 0.035     | 0.005     | 0.068     |
| 授業とは関係のない学習        | 0.014     | -0.029    | 0.134 *** |
| サークル活動             | 0.202 *** | -0.012    | 0.007     |
| アルバイト              | -0.083    | -0.053    | 0.095 *   |
| カリキュラム特性           |           |           |           |
| 教員の教授能力            | -0.022    | -0.045    | -0.036    |
| カリキュラムの体系性         | 0.045     | -0.066    | 0.006     |
| 学生へのフィードバック        | 0.020     | -0.036    | 0.038     |
| 単位取得の容易さ           | -0.118 ** | -0.011    | 0.004     |
| 相対的な自己認識           | 0.005     | 0.007     | 0.024     |
| 問題の発見・解決・報告        | -0.096 *  | 0.026     | 0.043     |
| 記憶と理解              | -0.030    | -0.018    | 0.001     |
| 分析と応用              | -0.038    | 0.045     | 0.066     |
| 教育成果               |           |           |           |
| 能力の変化              | 0.023     | 0.050     | 0.172 *** |
| 専門の到達度             | -0.010    | 0.181 *** | 0.147 *** |
| 調整済みR <sup>2</sup> | 0.096     | 0.050     | 0.167     |
| F値                 | 3.848***  | 2.384***  | 7.129***  |

注: N=606(難易度低群), 478(難易度中群), 596(難易度高群)

係数は標準化偏回帰係数。

しての成果の規定力は小さい。これに対して、難易度高群では、大学における教育・学習経験の規定力が小さいという点は共通しているが、その結果によって獲得状況に大きな影響を及ぼされる「能力の変化」や「専門の到達度」といった教育成果、また「高校時代の学習状況」や「授業とは関係のない学習」といった基礎学力や学習に対する親和性の代替指標と考えることのできる変数が極めて大きな規定力を有している。

#### 4. まとめと考察

本章では、学生の性格・態度特性に焦点をあて、各大学によってその入学者の性格・態度特性にどの程度の差異がみられるのか、大学在学中に学生の性格・態度特性にどの程度の変容がみられるのか、どのような性格・態度特性が就職に対して効果的なのか、就職に対して効果的な性格・態度特性に変容をもたらす要因とはなにか、という4つの課題についての検討を行なった。分析の結果、以下のような知見が得られた。

第一に、難易度の観点から、入学者の性格・態度特性の差異を検討した結果、難易度の高い大学ほど、探究心が強く、勤勉な学生が入学していたが、現代学生の傾向として近年指摘されている自信のなさについては、難易度による差異は確認できなかった。

第二に、1年生と4年生のデータを同一コーホートに見立て、性格・態度特性の学年進行に伴う変容を検討した結果、性格・態度特性は学年進行に伴って変容する傾向がうかがえること、また、難易度の低い大学の学生ほどその変容が著しいことが明らかとなった。

第三に、就職の決定状況をもとにどのような性格・態度特性が就職に対して効果的なのかを検討した結果、特に【規律遵守】という性格・態度特性が難易度を問わず就職の決定状況に強い影響を及ぼしていること、また難易度低群ではその他2群と異なり、基礎学力や学習レディネス、あるいは教育成果の影響力がみられないことが明らかとなった。

第四に、就職の決定状況に強い影響を及ぼす【規律遵守】という性格・態度特性の変容を規定する要因を検討した結果、難易度低群ではサークル活動のような正課外活動の規定力が大きく、正課・正課外を問わず教育・学習経験の規定力が小さなものであるのに対し、難易度高群ではそれとは逆の傾向がみられ、難易度によってその規定要因が異なることが明らかとなった。

このように、学生の性格・態度特性は、学年間比較の結果から、大学在学中に変容しうる可能性が示された。しかも、性格・態度特性は、就職の決定状況に強い影響を及ぼしており、そうした性格・態度特性の変容に大学、あるいは大学教育が介入しうる余地が示された。しかし、これらの知見はあくまで仮説の域を出るものではない。今回の質問票は、学生の性格・態度特性の大学在学中の変容を測定するものとしては不十分であり、本章の仮説を一般化するには、以下の点をクリアしていく必要がある。

まずは測定方法についての問題である。本調査では、調査時点における性格・態度特性しかたずねていない。よって、在学中の変容を擬似的に把握するために、1年生の性格・態度特性の回答を用いて学部ごとに平均値を求め、その平均値を当該学部の4年生の性格・態度特性の値から減じることで、在学中の性格・態度特性の変容を算出せざるを得なかった。加えて、年々学生の質の低下が深刻化している現状では、1年生のデータが、4年生が1年生であったときよりも低い値を示す可能性があり、学生の性格・態度特性の変容を過剰に評価する危険もある。パネル調査や在学中の変容の度合いをたずねるなど、測

定方法のさらなる検討が必要であろう。

また、質問票の枠組みや調査結果の応用性という点での課題もある。性格・態度の変容に一部大学における教育・学習経験が寄与しうる余地が示されたにしろ、重回帰分析の決定係数の低さからも、この他に、より大きな規定要因が存在する可能性がある。例えばそれが、正課活動にかかわるものでなく、正課外活動にかかわるものであった場合、大学生の性格・態度変容に特化した調査研究は行えたとしても、大学側として組織的・体系的な介入が困難であれば、大学の教育改革という実践面への寄与には限界があるものとなってしまふ。

こうした課題が克服されることで、各大学で就職に対して効果的な性格・態度特性の特定を行い、その情報を学生のリクルートや、教育・学習経験のあり方に活用することも可能になる。性格・態度特性は、これまで教育成果の指標として捉えられることがあまりなかった変数である。しかし、大学における教育・学習経験と職業との関連性が弱く、しかもフリーターやニートも含めて学生の出口問題が焦眉の課題となっている今日、知識や技能に加えて重要な教育成果の指標たりうるのかもしれない。

## 注

- 1) ただし、教育改善に対する志向性よりも研究に対する志向性の強い先行研究では、例えば、有本（2001）をはじめ、性格・態度に関わる変数も設定されているものもある。
- 2) 潮木（2005）は、例えば、デンマーク、アイスランド、スウェーデンのような欧州諸国では、大学入学までに社会体験・労働体験のある学生が多く、そのため学生の年齢が多様であることに言及している。
- 3) 参考までに、以下に示す図表 4-8 に「進学が決まっている」と回答した学生の平均値を示すとともに、就職が決まっている学生となにも決まっていない学生との 3 群間で平均値の差の検定（多重比較）を行った結果を示している（なお多重比較については、「進学が決まっている学生」とその他 2 群との間に統計的に有意な差がみられた結果のみ示している）。この表をみると、難易度低群では、「進学が決まっている」学生とその他の学生との間に性格・態度特性の差はみられない。一方、難易度中群・高群では「進学が決まっている学生」との間に統計的に有意な差がみられる項目が多くみられる。このうち、難易度中群については、「進学が決まっている」学生と「就職が決まっている」学生との間には統計的に有意な差がみられるのに対し、「なにも決まっていない」学生との間には有意な差はみられない項目が多くみられる。このことから 難易度中群で「進学が決まっている学生」は「就職が決まっている」学生よりも「なにも決まっていない」学生に近い性格・態度特性を有していることがうかがえる。ただし、「疑問点はうやむ



図表 4-8 難易度別性格・態度特性の卒業後の進路の決定状況別多重比較

|                              | 難易度低群 | 難易度中群        | 難易度高群        |
|------------------------------|-------|--------------|--------------|
| 自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい(逆) | 2.68  | 2.74         | 2.53         |
| 決められたことは守る                   | 3.23  | 3.15 就 > 進・未 | 3.26         |
| 疑問点はうやむやにしておきたくない            | 3.19  | 3.25 進 > 未   | 3.29 進 > 未   |
| わからないことがわかるようになることに喜びを感じる    | 3.43  | 3.59         | 3.73 進 > 就・未 |
| 何事にもまんべんなく取り組むことができる         | 2.67  | 2.58         | 2.49 就 > 進   |
| 意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ(逆)      | 2.97  | 3.14         | 3.10 進 > 就   |
| 何事も自分の力でやらないと気がすまない          | 2.83  | 2.70         | 2.72         |
| なにかあると人に頼られる                 | 2.57  | 2.42 就 > 進・未 | 2.45 就 > 進・未 |
| ものごとにねばり強く取り組む               | 2.89  | 2.80 就 > 進・未 | 2.99         |
| 人とは違うことを考えることが好きだ            | 2.75  | 3.02         | 3.05         |
| 困難な状況になると、むしろやりがいを感じる        | 2.55  | 2.67         | 2.69         |
| ものごとを深く考える                   | 3.03  | 3.03         | 3.06         |
| 自分の意見をはっきりと主張する              | 2.68  | 2.62         | 2.59         |
| プレッシャーに強い                    | 2.19  | 2.17         | 2.17         |
| 計画的に行動する                     | 2.52  | 2.39 就 > 進・未 | 2.38 就 > 進・未 |
| ものごとを始めたら最後までやらないと気がすまない     | 2.95  | 2.85         | 2.94         |
| 自分に対して自信をもっている               | 2.45  | 2.39 就・進 > 未 | 2.42         |
| 勉強することが好きだ                   | 2.35  | 2.64 進 > 就・未 | 2.89 進 > 未・就 |

注：表中の「就」は「就職が決まっている」と回答したものの、「進」は「進学が決まっている」と回答したものの、「未」は「なにも決まっていない」と回答したものを示す。

多重比較は、テューキーの方法で行い、有意確率5%以上の結果を表に示している。

やにしたくない」「勉強することが好きだ」等の学習との関連性の強い項目についてはこの限りではない。難易度高群でも同様の傾向が一部みられるものの、必ずしもどちらの群に近い特性を有しているとはいえない。

- 4) なお、難易度中群と高群で就職の決定状況を規定する教育成果指標に差異がみられるが、これは前者で規定力を有している「能力の変化」が実際の到達水準ではなく、在学中の能力の獲得感を反映する指標であるのに対し、後者で規定力を有している「専門の到達度」が実際の到達水準を反映しているためである。すなわち、難易度中群の学生は就職に際し、実際の到達水準までは求められないのに対し、難易度高群の学生は実際の到達水準が求められているといえよう。

## 参考文献

有本章（研究代表者）2001、『大学設置基準の大綱化に伴う学士課程カリキュラムの変容と効果に関する総合的研究』平成10年度 - 12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）

(1)) 研究成果報告書。

学校法人代々木ゼミナール 2004, 『2005年度大学入試 代ゼミデータリサーチ』。

小方直幸 1998, 『大卒者の就職と初期キャリアに関する実証的研究 - 大学教育の職業的  
レリバンス - 』 広島大学大学教育研究センター。

リクルート 2005, 就職ジャーナル版 『就職白書 2003』。

潮木守一 2005, 「大学における多様化する学習モード」 武内清編 『大学とキャンパスラ  
イフ』 SUP 上智大学出版, 251 - 265 頁。

## 第5章 学生の入学以前・入学時点の学習状況と大学での学習成果 - DEA の応用による一考察 -

本稿では 21 世紀 COE プログラム『21 世紀型高等教育システム構築と質的保証』の一環として行われた「大学生の教育・学習経験に関する調査」に基づき、大学生の入学以前・入学時点の状況が学習成果にどのように反映しているかについて、DEA (Data Envelopment Analysis : 包絡分析法, 経営効率分析法) を適用し分析する。

### 1. はじめに：大学の効率性分析

まず本稿で用いる分析手法 DEA (Data Envelopment Analysis) がいったいどういう手法なのかを見ていこう。この手法は、民間・公共団体を問わず組織・事業体の効率性・生産性を分析するために開発された方法であり、イギリスの経営学者や経済学者によって高等教育の研究・教育の評価にも応用されている (例えば Johnes (1990, 1993), Johnes (2005), Johnes & Johnes (1993, 1995), Johnes & Taylor (1990) など)。

この手法の特徴を簡潔に概観すると次のようになる。

分析対象となる組織・事業体を DMU (Decision Making Unit : 意思決定単位) と呼ぶ。DMU の活動を、資源を投入し便益を産出する過程 (単純に表現すれば、産出 (output) / 投入 (input)) と見なす。

複数の投入と複数の産出を同時に扱うことができる。

DMU 間での比較を通じた相対的効率性を算出する。

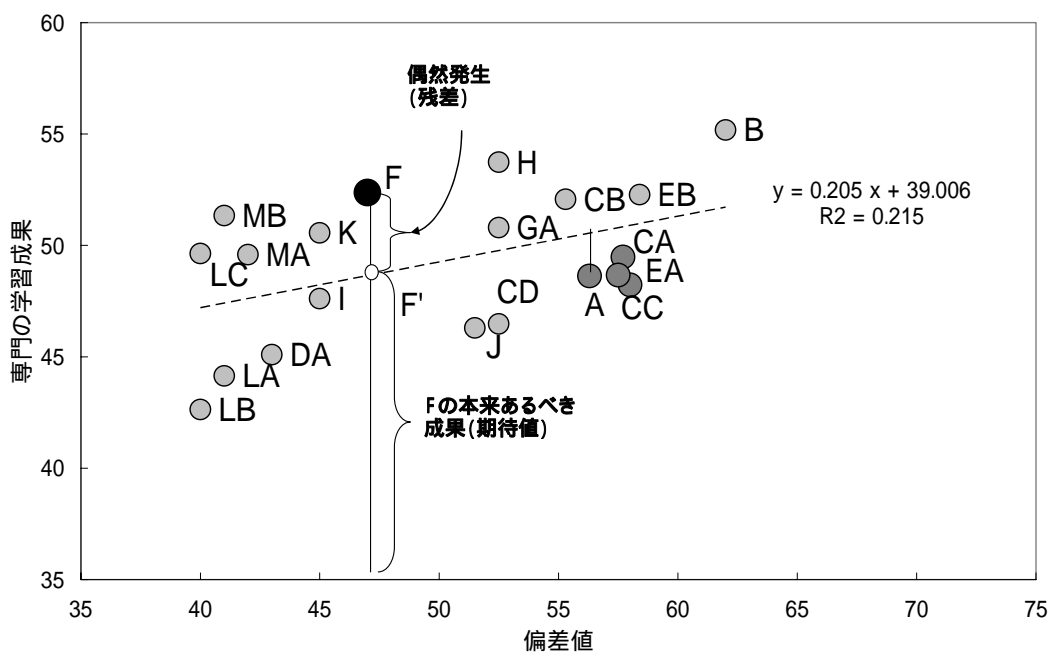
非効率と見なされた DMU については、(いくつかの) 改善案を数理的に導くことができる。

最も効率的であると見なされる DMU は 1 つとは限らない。

ある DMU を非効率的にしている優位集合 (あるいは参照集合。1 つ以上の DMU) が存在する。つまり、非効率的である DMU は、自分に最近似な優位集合を基準にその効率性が測定されている。

本稿で検討してきたデータを、学部レベルの平均値に集計し直したデータに再編し、DEA を適用しその特徴を具体的に概観してみよう。

図表 5-1 偏差値と専門の学習成果との関係（学部別集計）



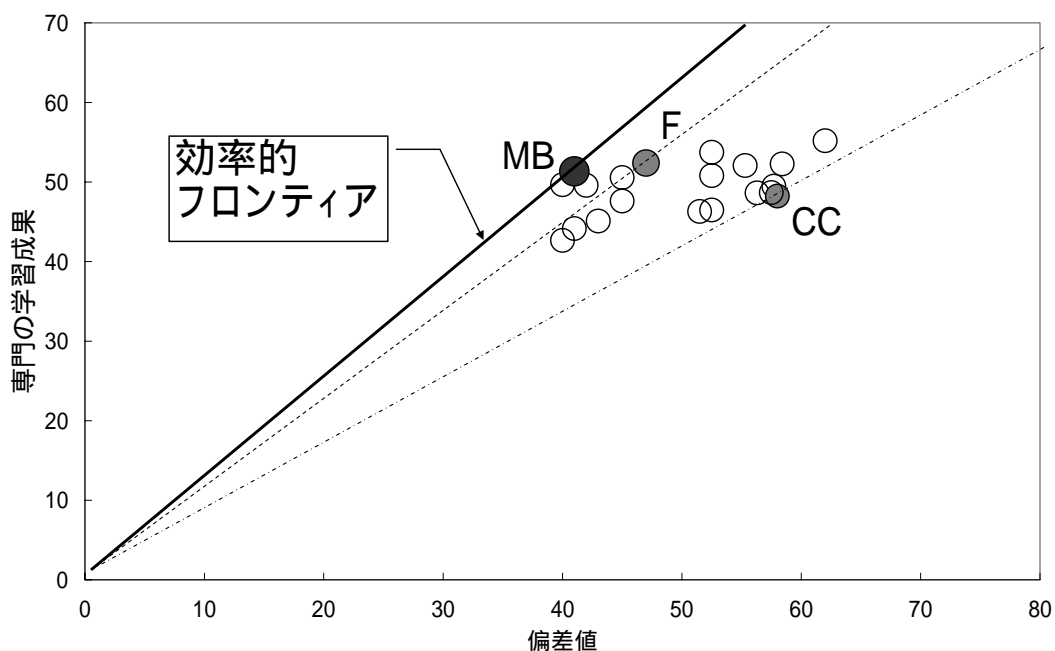
## 2. DEA の概要

### インプットをより有効にアウトプットに繋げている学部はどこか

今人文・社会・教育・総合系の学部が 20 (13 大学) あり、その平均偏差値と専門教育の学習成果<sup>1</sup>の散布図を図表 5-1 に示す。この図の DMU 群の中心に引かれているのが回帰直線であり、回帰分析の結果を見てもわかるように、学部の偏差値が高ければ専門教育の学習成果も高いという関係がデータの全体的な平均傾向であることがわかる。このように統計学的手法である回帰分析は、あくまでデータ全体の傾向から、母集団で期待される平均的な傾向を推定する手法であることは周知のとおりである。ここで DMU の F に注目してみる。F は偏差値 47、専門教育の学習成果が 52.4 の学部であり、回帰直線の上方にある。ところが回帰分析を適用した後の F の本来あるべき姿 (= 母集団で期待される値) は、偏差値 47 と回帰直線とが交差する点 F'、48.6 と見なされる。F は実際には期待される成果よりも  $52.4 - 48.6 = 3.8$  ポイント高い成果を上げているが、この 3.8 ポイントは今回の調査で偶然発生したスコアすなわち誤差と見なされ、評価の対象とはされない<sup>2</sup>。逆に DMU の中でも A, CA, CC, EA は、回帰直線を下回っているので、本来あるべき成果はむしろ

る現状よりも高いことが期待される。F としては誤差の部分積極的に評価してもらいたいところだろうが、あくまで母集団を推定することと全体的平均傾向に関心のある統計学的分析では、F の「現状」には関心が向けられない。「統計学の最大の長所は個別を無視し、個別の予測不可能な活動を平均でならすことにより、攪乱を取り除くこと」<sup>3</sup>にあるから、である。

図表 5-2 専門の学習成果の偏差値生産性の比較



その点 DEA は母集団を前提としない分析手法なので、F の現状を積極的に評価しうる手法である。図表 5-2 (図表 5-1 と同じデータをプロットしているが、原点を表示している点が異なる)において原点と各 DMU を結ぶ直線の勾配は、専門教育の学習成果(output) / 偏差値(input)であり、個々の DMU の偏差値 1 単位あたりの専門教育の学習成果量を表している。この勾配が大きい DMU ほど、偏差値 1 単位あたりの専門教育の学習成果量が大きく、偏差値の効率性が高いことを意味している。この評価方法によれば、F は例えば CC よりも勾配が大きく効率的と見なされる。すなわち、「CC よりも低い偏差値にもかかわらず、高い専門教育学習成果をあげている」と見なされる。ただし、F は MB に比べると非効率的である。MB は全 DMU の中で最も効率的であり、MB と原点を結ぶ直線

を「効率的フロンティア」と呼ぶ。すべての DMU はこの直線の下側に包み込まれるので、DEA = 包絡分析法と呼ばれる。DEA の場合、最も効率的な DMU を 1 と定義し、他の DMU の効率値を、

$$\frac{\text{他の学部の偏差値 1 単位あたりの専門教育学習成果}}{\text{学部 MB の偏差値 1 単位あたりの専門教育学習成果}}$$

と定義する。そうすると、全学部の効率値は表 1 のようになる。もっとも非効率的な学部は CC であり、CC は MB の 66.4% の効率しか出せていないことがわかる。例えば B は回帰分析的には偏差値の高さに比例して専門教育の学習成果も高いという全体的傾向に沿った学部ではある。しかし DEA の分析によれば、相対的に見て偏差値にふさわしい学習成果をあげていないということになる。

図表 5-3 各学部の効率性：1 入力（偏差値）・1 出力（専門の学習成果）の場合

|      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| DMU  | A     | B     | CA    | CB    | CC    | CD    | DA    | EA    | EB    | F     |
| D効率値 | 0.690 | 0.711 | 0.685 | 0.752 | 0.664 | 0.707 | 0.837 | 0.676 | 0.715 | 0.890 |
| DMU  | GA    | H     | I     | J     | K     | LA    | LB    | LC    | MA    | MB    |
| D効率値 | 0.773 | 0.817 | 0.845 | 0.718 | 0.897 | 0.860 | 0.851 | 0.991 | 0.943 | 1.000 |

#### 個々の学部に対する改善案の提示：1 入力 1 出力の場合

DEA では非効率的と見なされた DMU に対して、改善案を提示してくれる。図表 5-4 は、大学受験に際してセンター入試以外（機関別入試）に必要な教科の合計数を X 軸に、入学時点からの能力の変化<sup>4</sup>を Y 軸に表したものである。近年経営上学生確保を優先する傾向から、入試科目数を減じている大学・学部が増えており、それが大学に入ってから学習に支障を来していると指摘されている。ここでは DEA の例として、この問題すなわち入試科目数と在学中の能力形成との関連を検討してみた。

単回帰分析を適用してみると、モデルは統計的に有意であった。すなわち、平均的傾向として、入試科目数が少ないと能力形成が低く抑えられ、逆に入試科目が多いと能力形成が高いという傾向が見られた。

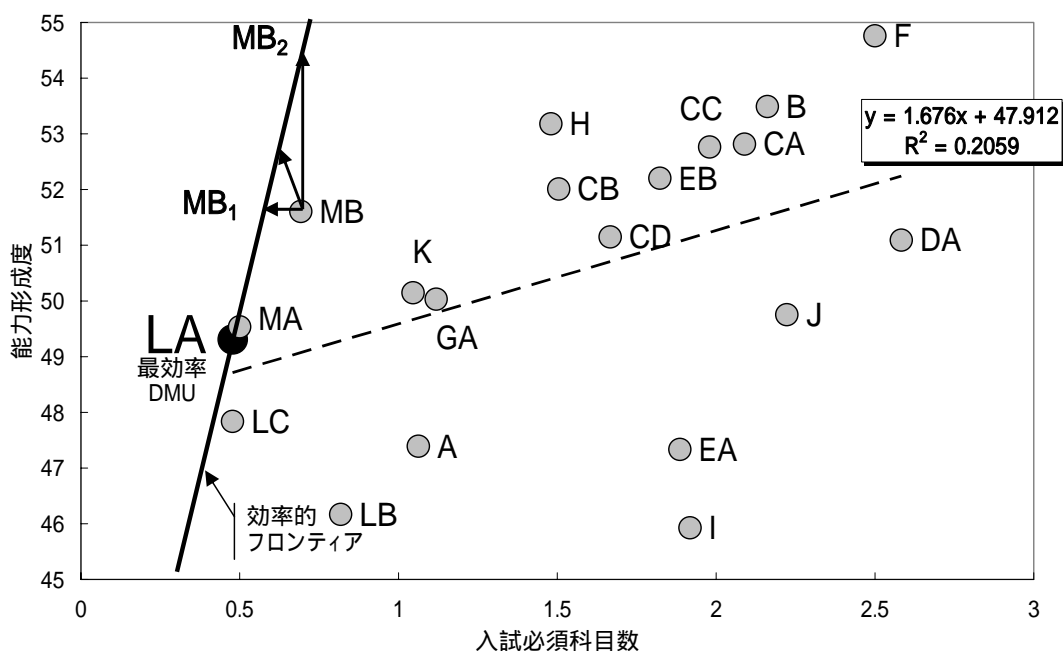
ただし、分布から見てもわかるように、機関別に見ると、入試に課す科目数が少ないにもかかわらず比較的能力形成が高い学部、逆に入試に課す科目数が多いにもかかわらず比較的能力形成が低い学部が存在している。DEA を用いて分析するまでもなく、相対的に最適効率なのは学部 LA である。他の学部は LA に比してすべて非効率である。

ここで非効率的な DMU の 1 つである学部 MB に注目してみよう。MB が効率的になるためには、学部 LA が形成する効率的フロンティア線上の MB1 から MB2 の線分上のいずれかに移動すればよい。つまり、

- 入試必須科目を減らしつつ、学生の能力形成を高める。
- 入試必須科目を減らしつつ、学生の能力形成を維持する。
- 入試必須科目を維持しつつ、学生の能力形成を高める。

のいずれかの方策により効率的な DMU となる。実際に DEA を適用してみると次のような結果が得られる。すなわち の改善案を選択した場合である。学部 MB は入力すなわち入試科目数を現在の 0.723 倍にしても学生の能力形成を維持でき得ることを意味している。

図表 5-4 能力形成度と入試必須科目数：効率性の学部間比較



これは裏を返せば、最適効率の学部 LA と同じ効率性を追求するには入力に余剰がある = 入試科目数が多すぎることを意味している。そしてその改善策を採用した場合、学部 LA の 1.047 倍 ( ) の出力を得ることができることをも意味している (原点と MB1 を結ぶ線と原点と LA を結ぶ線の比)。

もう1つの改善として DEA にて容易に算出されるのは、改善策 である。これは出力改善志向であり、入力すなわち入試科目数は現状のまま、学生の能力形成を高めるという改善案である。DEA の分析結果を見ると、入力を現状維持した状態で LA と同程度の効率性を生むには、出力すなわち学生の能力形成の平均値を現状の 1.384 倍上昇させる必要がある。ただし、こちらの改善策は実際の大学・学部にとっては「現実的な」改善策とは言えない。なぜなら、ほとんどの大学学部は学生の能力形成を上昇させる「方法」に関心があるからだ。

#### 個々の学部に対する改善案の提示：2 入力 1 出力の場合

上記の分析例だと、現実的に大学が対応できうる方策としては、入試科目数を減らすことのみが効率化への道となる。しかし入試科目数を減らすだけで現実的に効率化が図られるかどうかは、考慮していない他の入力変数・プロセス変数の存在を考えると、慎重にならざるを得ないだろう。

DEA の範疇で改善策を模索する場合、効率性に関わると思われる入力変数を複数用意することであろう。図表 5-5 では 2 入力（入試科目数、学生数）、1 出力（授業理解度：1～4 の 4 段階尺度、値が多いほど授業理解度が高い）を例示したものである。可視化のために、各入力を出力で割っている。つまりすべての出力＝授業理解度は 1 に統一されており、授業理解度を 1 単位産出するのに必要とされる入試科目数、学生数が図にプロットされている。それゆえより効率的である DMU であるほど原点に近い。この例では 2 入力であるので、より現実的な改善策が 2 つ、すなわち（授業理解度を上げるという改善策を無視しても）入試科目数と学生数の操作という 2 つの改善策を見いだすことが可能である。この図では効率的フロンティアを形成しているのは学部 LA, LB, LC であり、これらを結んだ線と LB から Y 軸に並行に延長した線と LC から X 軸に並行に延長した線がすべての DMU を覆っている。

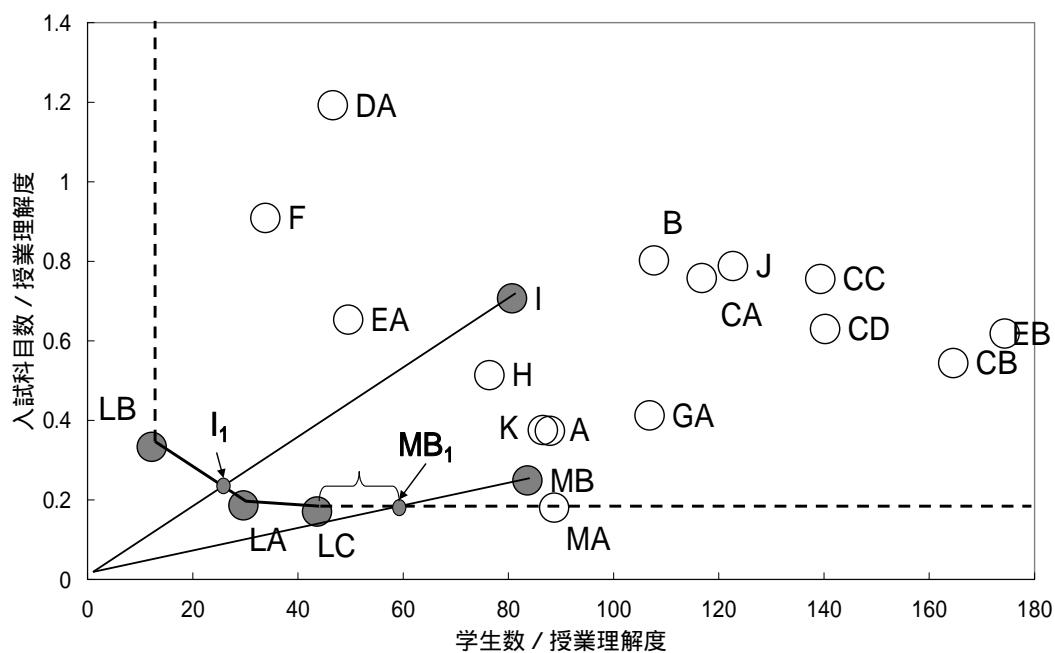
例えば I は相対的効率性が 0.315 となっているが、これは I を非効率的にしている優位集合 LA と LB が作る直線と、I と原点を結ぶ直線の交点  $I_1$  との比

$$\frac{OI_1}{OI}$$

を表している。つまり、I がこの集合の中で最も効率的になる状態とは  $I_1$  へ移動した時であり、 $I_1$  に比した時の効率性を表している。最適効率を 1 とし出力をすべて 1 に統一しているので、D 効率値が 1 を下回っている DMU は入力が過剰になっている。I の場合の改善策は入力すなわち学生数と入試科目数を一律に現状の 0.315 倍にすることにより  $I_1$  へと移動し効率的になる。



図表 5-5 効率性の分析：2 入力・1 出力の場合



次に MB に注目してみよう。MB の効率性は 0.686，優位集合は LC である。この集合の中で効率的であるためには，原点と MB を結ぶ直線と，LC から X 軸に沿って水平のびる直線との交点 MB<sub>1</sub> に移動することがまず考えられる。これは入力の学生数と入試科目数を一律に 0.686 倍することによって達成されるが，実は MB<sub>1</sub> は効率的とは言えない。なぜなら同一直線上にある LC は MB<sub>1</sub> と同じ入試科目数 / 授業理解度の水準を持ちながらも，MB<sub>1</sub> よりもより少ない学生数 / 授業理解度により相対的な最適効率を達成しているからである。それゆえ MB<sub>1</sub> が効率的になるためには，さらに学生数を LC に近づける形で減じなければならない。実際には，学生数 / 授業理解度の数値を現状の 83.64 から 13.77 引いてやることにより，最適効率を達成する<sup>56</sup>。

### 複数の最適効率の存在可能性

この分析でさらに注目すべき点は，最適効率が 1 つではない点である。特に入力・出力の変数の数が増えれば，最適効率になる DMU の数は増える可能性がある。これは，DEA が当該 DMU の強みを積極的に評価するように，個々の DMU の入力・出力に固有のウェイトを付けるからである。このウェイトは，回帰分析における回帰係数に相当すると考え

図表 5-6 2 入力・1 出力の効率値・優位集合・

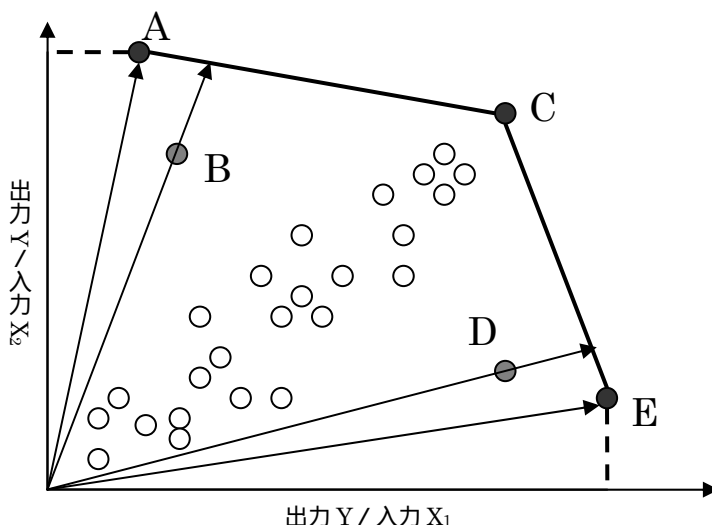
| 学部 | 学生数 /<br>授業理解度 | 科目数 /<br>授業理解度 | D効率値  | 優位集合( ): |         |    |         |
|----|----------------|----------------|-------|----------|---------|----|---------|
| A  | 87.91          | 0.374          | 0.465 | LA       | (0.196) | LC | (0.804) |
| B  | 107.66         | 0.802          | 0.255 | LA       | (0.876) | LB | (0.124) |
| CA | 116.77         | 0.758          | 0.250 | LA       | (0.987) | LB | (0.013) |
| CB | 164.57         | 0.544          | 0.314 | LC       | (1.000) |    |         |
| CC | 139.31         | 0.756          | 0.241 | LA       | (0.720) | LC | (0.280) |
| CD | 140.22         | 0.630          | 0.279 | LA       | (0.322) | LC | (0.678) |
| DA | 46.62          | 1.192          | 0.275 | LA       | (0.035) | LB | (0.965) |
| EA | 49.54          | 0.654          | 0.407 | LA       | (0.457) | LB | (0.543) |
| EB | 174.36         | 0.618          | 0.276 | LC       | (1.000) |    | (0.000) |
| F  | 33.82          | 0.909          | 0.365 | LA       | (0.008) | LB | (0.992) |
| GA | 106.84         | 0.412          | 0.414 | LC       | (1.000) |    |         |
| H  | 76.39          | 0.514          | 0.377 | LA       | (0.951) | LB | (0.049) |
| I  | 80.68          | 0.707          | 0.315 | LA       | (0.756) | LB | (0.244) |
| J  | 122.68         | 0.788          | 0.239 | LA       | (0.985) | LB | (0.015) |
| K  | 86.55          | 0.376          | 0.465 | LA       | (0.244) | LC | (0.756) |
| LA | 29.63          | 0.186          | 1.000 |          |         |    |         |
| LB | 12.22          | 0.333          | 1.000 |          |         |    |         |
| LC | 43.64          | 0.171          | 1.000 |          |         |    |         |
| MA | 88.72          | 0.180          | 0.947 | LC       | (1.000) |    |         |
| MB | 83.64          | 0.249          | 0.686 | LC       | (1.000) |    |         |

ればよりわかりやすいだろうか。ただし、回帰分析との違いは、回帰分析が1つの説明変数につきデータ全体の傾向を表す1つの係数を算出するのに対して、DEAでは各DMUの各入力・出力に固有のウェイトが算出される。今J個のDMUが存在しており、その入力が1~s、その出力が1~mあるとすると、その効率性は次のように算出される。

$$\frac{u_1 \times \text{出力}_{1j} + u_2 \times \text{出力}_{2j} + \dots + u_s \times \text{出力}_{sj}}{v_1 \times \text{入力}_{1j} + v_2 \times \text{入力}_{2j} + \dots + v_m \times \text{入力}_{mj}}$$

入力・出力ウェイトvおよびuの決められ方は、効率的フロンティアを基準とし、当該DMUが秀でている変数に大きいウェイトを付け、弱い変数には小さいウェイトを付ける。下記の図5-7では入力2に対し出力を1としてそれぞれの軸に各入力1単位あたりの出力をプロットしている。故に図5-5と比べ値が大きく原点から遠ざかっているDMUほど効率的である。この中で相対的に最適効率と見なされるのはA、C、Eであるが、それぞれの「最適効率」の意味は異なっている。Aは他のDMUに比して出力X<sub>2</sub>の効率性が最も

図表 5-7 2入力・1出力（入力1単位あたりの出力をプロット）



高いが出力  $X_1$  の効率性は低い。つまり A は  $X_2$  の効率性を高く評価するようにウェイトづけられている。B は、A、C、E が形成する効率的フロンティアを基準に、A に近いので A と同様に  $X_2$  が高く評価されるようにウェイトづけされる。C は、 $X_1X_2$  両方の効率性がよくバランスがとれた最適効率を達成していると言える。E は A の逆すなわち  $X_1$  の効率性が高いが  $X_2$  の効率性は高くない。そこで  $X_1$  の効率性を最大限に評価するようなウェイト付けがなされ最適効率と見なされる。D は、A、C、E が形成する効率的フロンティアを基準に、E に近いので E と同様に  $X_1$  が高く評価されるようにウェイトづけされる。

このウェイトは分析者によって任意に決定されるのではない。あくまで DMU 集合の中における相対的關係を考慮し、効率的フロンティアが決定され、そしてその効率的フロンティアをもとに評価されウェイト付けがなされるのである。つまりデータ自体が効率的フロンティアを決め、各 DMU のウェイトを決定する。そして、この DEA の特徴故に、統計的分析では全体的傾向から大きくはずれており、推計値を攪乱させるおそれがあるため「はずれ値」として除外されることが多い(あるいはダミー変数として処理される)A、B、D、E は、積極的にその効率性を評価されることになる。

### 多入力・多出力を扱う DEA の実際

本来の DEA の特徴の 1 つは、多入力・多出力を扱える点である。これまでは DEA の

特徴を理解し共有するために二次元で表現できるように変数を変換・プロットしてきたが、実際に多入力・多出力になると可視化は不可能である。この点は回帰分析において説明変数が3つ以上になる場合と同じである。被説明変数を一度に1つしか扱えないという限界がある回帰分析に対し、DEAでは出力を複数扱える。この特徴は、特に官公庁、学校、病院などの公共事業体の分析に役立つ。利潤の最大化が唯一の関心である私企業にとっては、アウトプット指標はそれに関する指標に限定される。しかし公共事業体はその事業の有効性を判定する際に利潤以外の様々なアウトプット指標を必要とする。DEAが特に公共事業体の評価に適していると言われるのは、そのためである。

ただし、実際に多入力・多出力の特徴を生かせるかどうかは、モデルの識別性の問題から、入力・出力の変数の数と分析対象となるDMUの数の比に制約されるという側面もあるようだ<sup>7</sup>。特に入力・出力の変数の数に比してDMUの数が少ない場合、最適効率のDMUが数限りなく存在してしまうというケースもある<sup>8</sup>。最適効率のDMUが多数存在すること自体には何の問題も無いが、評価の目的によってはこのような結果が用をなさない場合もある。

### DEAの複数のモデル

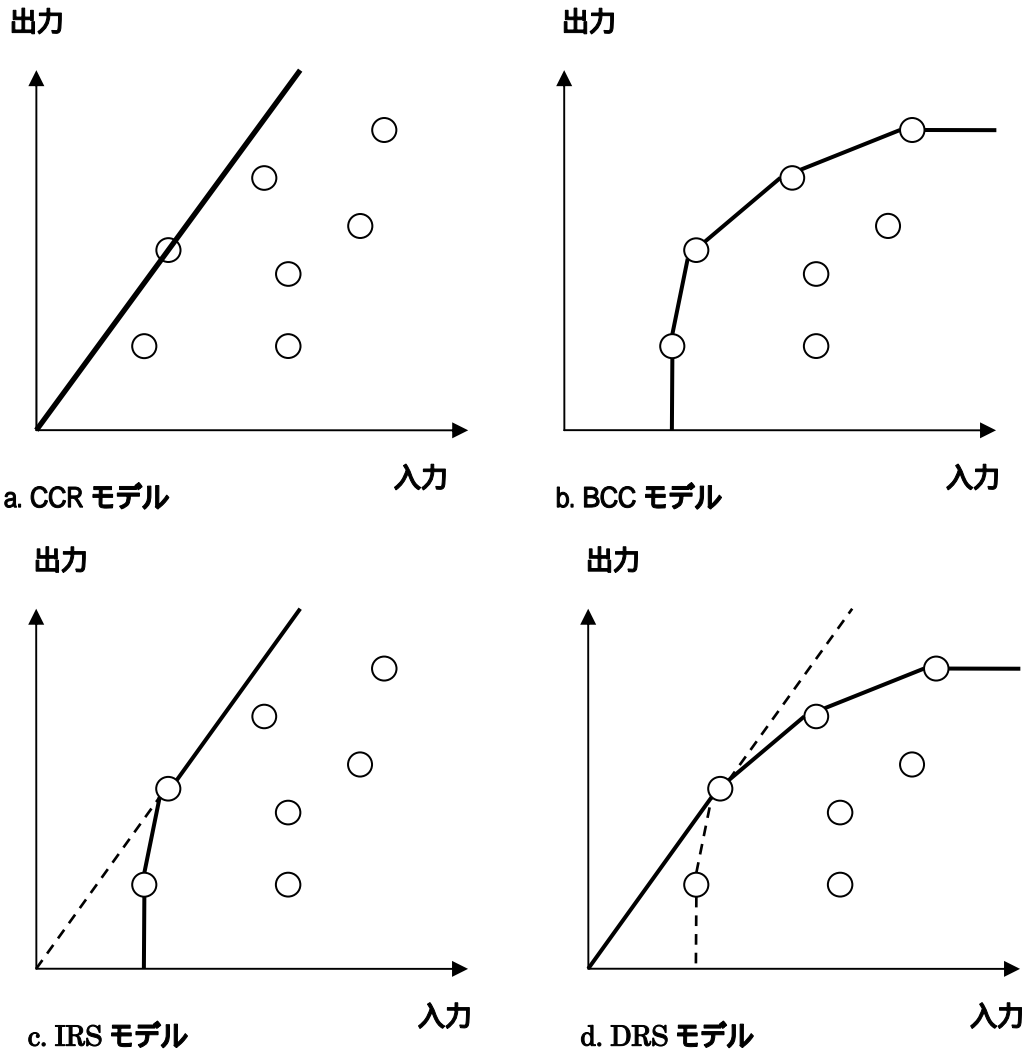
DEAにはいくつかのモデルが存在する。規模の経済性に関して収穫が一定であるという前提（効率性が規模によっては左右されず一定）に立つCCRモデル（図表5-8a）、収穫が可変であるという前提に立ち、現存のDMUに準拠した変動を考慮しているBCCモデル（図表5-8b）、規模の収穫増加型モデルのIRS（図5-8c）モデル、規模の収穫減少型モデルのDRSモデル（図表5-8d）、BCCモデルにある程度の許容性を持たせたGRSモデル、コスト効率を考慮したモデルなど多彩なモデルが開発されている<sup>9</sup>。

## 3. 教育・学習成果の入力効率性分析：DEA分析の実際

では実際にDEAを用いてアンケートの対象となった大学の効率性（インプット効率）を分析してみよう。これまで見てきたように、DEAは相対的効率性を分析する手法なので、DMUの選定如何により効率的フロンティアが異なる可能性がある。よって今回調査対象とならなかった大学を仮にDEAの対象とした場合、DMUの効率性の状況が大きく変わる可能性もある。ただこの点は統計分析においても同様であり、肝心なのは対象となる集団の性質を明確にしておくことであろう。つまり分析結果は当該データの集団においてのみ確認される結果であり、一般化は容易ではない、ということだ。これはDEAが特定のDMUの評価することに主眼があり、統計学的分析のように母集団の全体的傾向を推定するものではないことから明らかだ。

分析対象は、これまでも分析の例として上げてきた人文・社会・教育・総合系の学部

図表 5-8 複数の DEA モデル



20 (13 大学) 学部と, 理・工・農・医歯薬系学部 12 学部 (5 大学) である。集計の元になったのは 4 年生以上の学生である。これらの学部について大学入学以前・直後のインプットが授業満足度や能力形成などのアウトプットにいかにか効率的に作用しているかを検討する<sup>10</sup>。

## 入力変数と出力変数

図表 5-9 大学教育の効率性分析に用いられてきた入力・出力変数

| 入力変数   | 出力変数  |
|--|---|
| 学生数, 教員数, 職員数, 学生/教員比, 博士号取得教員比率, 学生一人あたりの教育費および一般経費, 投下資本量, 固定資産量, 学生一人あたりの授業料, 男女比率, 人種比率, 既得学位, 総支出額, SAT (アメリカ: undergraduate), GPA, GMAT (アメリカ: graduate) や A-Level 取得科目 (イギリス) などの大学入学以前の学業成績, アドミッションポリシー (入学許可者数/入学志願者数), 学生に占める母親の比率, 入学以前の就労経験(アメリカ: graduate), 私立学校在学経験者数など | 授業の試験成績, 学生数( undergraduate 数, postgraduate 数), 修了者数・率 (非退学者数・率), 学生の在籍率, 学位授与数, 卒業生・修了生の初任給, 卒業生・修了生に占める就職者の比率, 雇用主による大学プログラムの評価スコア (卒業生に対する満足度), 学生による大学教育に対する満足度評価, 卒業にかかる日数, 一般能力の形成度 (学生自身による評価), 専門能力の形成度 (学生自身による評価) |

過去大学教育の効率性を機関レベルで DEA により分析したものを雑観してみると(図表 5-9), 入力・出力には次の変数が使われている (Abbot & Doucouliagos 2003, Athanassopoulos & Shale 1997, Beasley 1995, Breu and Raad 1994, Diamond & Medewitz 1990, El-Mahgary & Lahdelma 1995, Johnes 2005, Joumady & Ris 2005, Madden *et al.* 1997, Halksever & Muragishi 1998, Taylor & Harris 2004)。

入力・出力変数の数および適用する DEA モデルの組み合わせにより, 検討すべきモデルが飛躍的に増加し分析を困難にする。そこで対象となる分析データ数の制約 (最小で 12 学部) により入力・出力変数を最大 4 とする。本章では入力変数には学生の入学時点の質を示す「学部の偏差値」と大学入学以前の特色を表す「高校 3 年時の学校外での 1 日の学習時間」を用いる。これは, 過去大学教育の効果に関する諸論文において入学時点での学生の質あるいは入学以前の学習形態が教育成果を左右するという議論を本データによって検証する目的がある。今回用いる入力変数は, 先行研究にて用いられた SAT, GPA, GMAT, A-Level 取得数, アドミッションポリシーなどの学生の質に関する代替変数に相当すると言えよう。

一方出力は, 「同じ専門分野を学ぼうとしている人に対して, 現在所属の学部での学習を進めるか」(1~4 の四段階尺度。値が大きいほど「勤める」)「現在所属の学部が投資に値するか」(1~4 の四段階尺度。値が大きいほど「そう思う」)を用いた。過去の DEA を用

いた分析では、学生数、修了者数・率（非退学者数・率）、学生の在籍率、学位授与数、卒業生・修了生の初任給、卒業生・修了生に占める就職者の比率、卒業にかかる日数など比較的機関レベルで量的に把握可能なものが出力として用いられてきた。ただし、我が国では学部レベルで上記のデータをそろえることが容易ではない。その一方で、雇用主による大学プログラムの評価（雇用した卒業生を評価）、学生による満足度、一般能力の形成度（学生自身による評価）、専門能力の形成度（学生自身による評価）など主観的・質的な評価を尺度化したものも用いられている。主観に依存するこうした尺度は、その安定性や信頼性が常に問題とされる。本アンケートでは一般的能力の形成程度、専門的能力の形成程度、教養教育に対する満足度、専門教育に対する満足度なども尺度化して尋ねているが、これらに比べると「自分の在籍する学部を他人に勧めるか」という問い・尺度は、自分を担保（あるいは保証人として）に他人に勧めるという点に置いて、満足度が陥りやすい独断と偏見がある程度回避できうる尺度であると考え。そして「自分の学部が投資に値するか」という問い・尺度についても同様に、所属学部を金銭的価値に換算することを回答者に要求しているので、満足度に比べると厳しい評価が得られるであろう。

そして DEA の分析モデルは、先行研究において良く用いられた CCR モデルと BCC モデルを用いる。入力変数 2、出力変数 2 の組み合わせにより 9 つのモデルを作り、それら組み合わせに CCR モデルと BCC モデルを適用することにより合計 18 のモデルを分析・検討する<sup>11</sup>。

#### 入力・出力変数の概要：個人レベルのデータ

DEA 分析に先立ち、分析に用いる入力・出力変数の状況を概観しておこう。入力・出力変数のうち、「高校 3 年時の 1 日の学校外学習時間」<sup>12</sup>（以上入力変数）「自分の在籍する学部を他人に勧めるか」「自分の学部が投資に値するか」（以上出力変数）の三変数はアンケートによる学生の回答であり、個人レベルのデータである。そこでこれら三変数については個人レベルの集計結果をまず概観してみよう（図表 5-10～5-14）。

調査段階で 4 年生以上であった学生の高校 3 年時点での 1 日の学校外学習時間の平均は 2.356 時間つまりおおよそ 2～3 時間である。最頻値・中央値も 2.5 時間であることから 1 日の学校外学習時間は 2～3 時間の範囲が代表値であるとみて良いだろう。ただし棒グラフを見てもわかるように 5 時間以上費やしている学生が 1 割近くいる反面、全く時間を取っていなかったものも同様に 1 割おり、ばらつきが見られる。

次に「現在所属の学部での学習を他人にも勧めるか」という問いへの反応を見ると、もっとも多いのは「ある程度勧める」であり 5 割近くにのぼる。「勧める」も含めると 7 割を超えている。「現在所属の学部での学習が投資に値すると思うか」についても同様の傾向が見られ、学生は自分の所属学部を他人に勧めることに躊躇がないものが多いことがわかる。

### 入力・出力変数の概要：学部レベルデータ

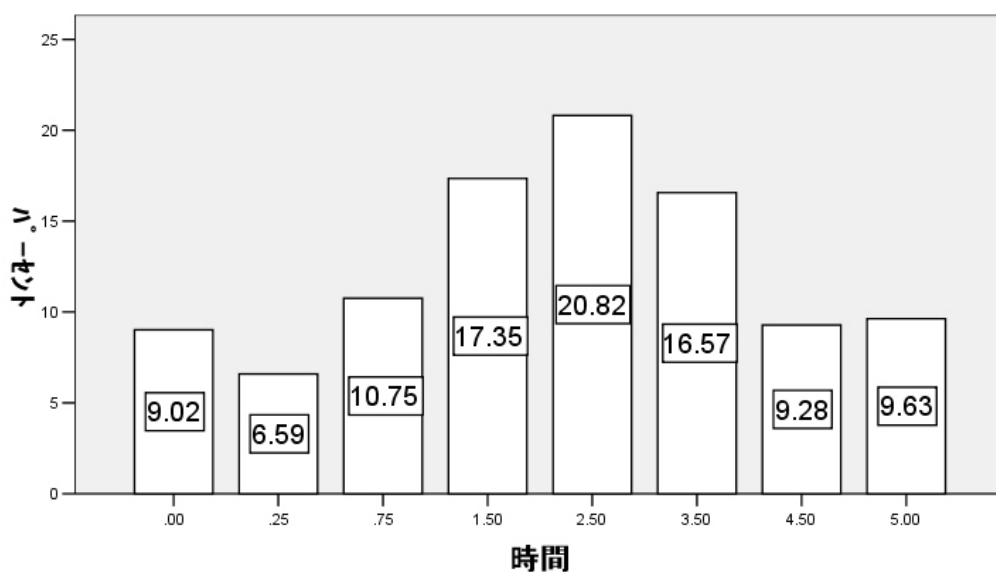
入力変数のうち「偏差値」については『代ゼミデータリサーチ』（2004）の学部レベルの値を用いている。偏差値の平均は 51.35，偏差値の最小値は 40，最大値は 62，グラフからわかるように偏差値 40 台の学部が多いことが特徴である。

図表 5-10 入力出力変数の基本統計量（個人レベル）

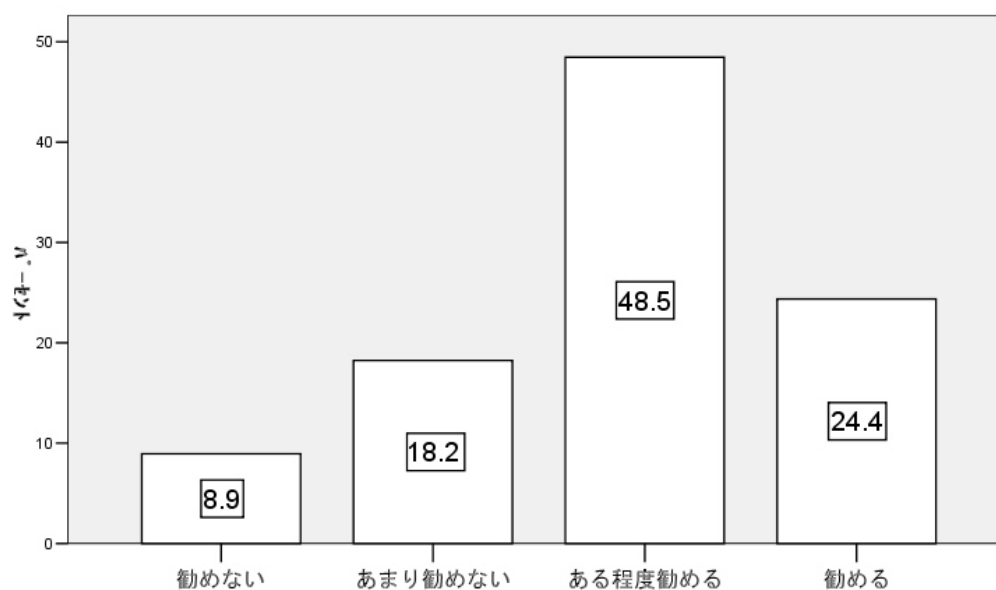
|         |     | 高校3年時の1日<br>の学校外学習時<br>間 | 現在所属の学部<br>での学習を他人<br>にも勧めるか | 現在所属の学<br>部での学習が<br>投資に値すると<br>思うか | 偏差値    |
|---------|-----|--------------------------|------------------------------|------------------------------------|--------|
| 度数      | 有効  | 2306                     | 2204                         | 2226                               | 32     |
|         | 欠損値 | 8                        | 110                          | 88                                 | 0      |
| 平均値     |     | 2.356                    | 2.882                        | 2.731                              | 51.350 |
| 中央値     |     | 2.500                    | 3.000                        | 3.000                              | 52.500 |
| 最頻値     |     | 2.500                    | 3.000                        | 3.000                              | 41.000 |
| 標準偏差    |     | 1.587                    | 0.878                        | 0.844                              | 7.007  |
| 分散      |     | 2.519                    | 0.770                        | 0.712                              | 49.099 |
| 歪度      |     | 0.148                    | -0.564                       | -0.332                             | -0.317 |
| 歪度の標準誤差 |     | 0.051                    | 0.052                        | 0.052                              | 0.414  |
| 尖度      |     | -1.134                   | -0.275                       | -0.424                             | -1.195 |
| 尖度の標準誤差 |     | 0.102                    | 0.104                        | 0.104                              | 0.809  |
| 最小値     |     | 0                        | 1                            | 1                                  | 40     |
| 最大値     |     | 5                        | 4                            | 4                                  | 62     |



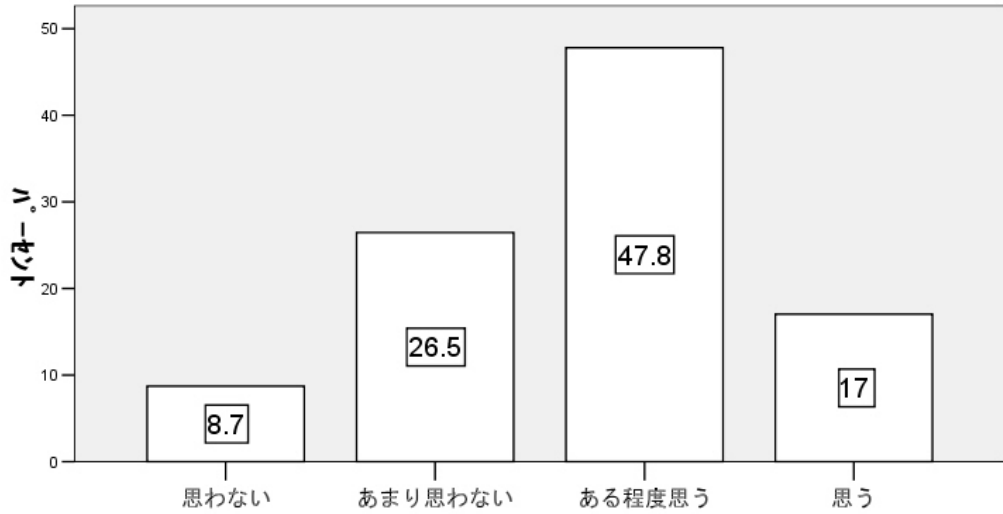
図表 5-11 分布表：高校 3 年時の 1 日の学習時間量



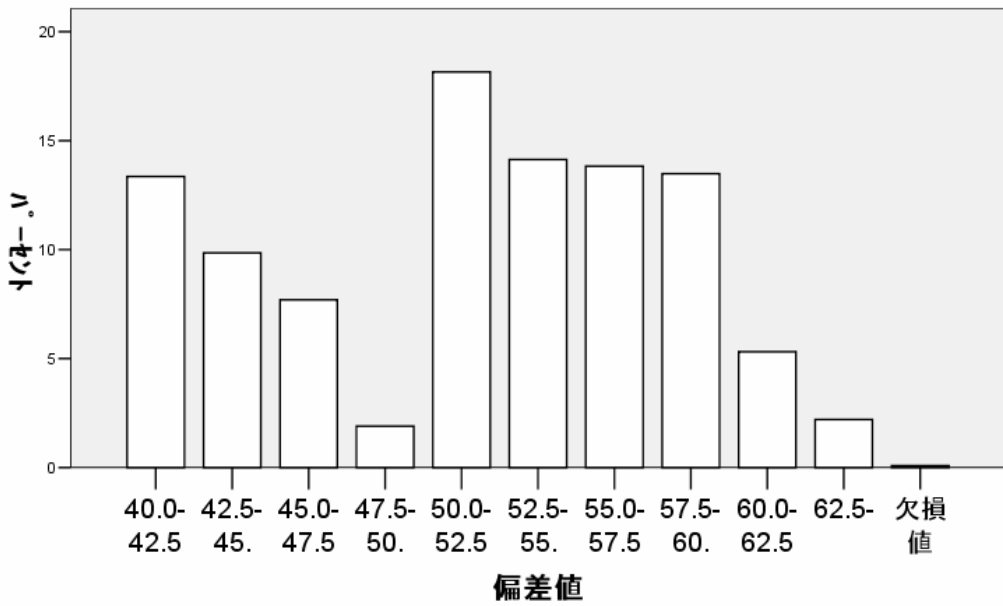
図表 5-12 分布表：現在所属の学部での学習を他人にも勧めるか



図表 5-13 分布表：現在所属の学部での学習が投資に値すると思うか



図表 5-14 分布表：学部の偏差値



分析結果：各学部の学習成果の偏差値・学習時間効率性

図表 5-15 効率性の分析結果 人文・社会・教育・総合系

| 学 部       | 効率性         |             |             | 順 位          |              |              |
|-----------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
|           | 平 均         | 最 大         | 最 小         | 平 均          | 最 高          | 最 低          |
| A         | 0.60        | 0.71        | 0.42        | 16.44        | 15.00        | 18.00        |
| <b>B</b>  | <b>0.78</b> | <b>1.00</b> | <b>0.43</b> | <b>8.28</b>  | <b>1.00</b>  | <b>13.00</b> |
| <b>CA</b> | <b>0.66</b> | <b>0.77</b> | <b>0.47</b> | <b>12.06</b> | <b>10.00</b> | <b>17.00</b> |
| CB        | 0.61        | 0.72        | 0.43        | 15.11        | 12.00        | 17.00        |
| CC        | 0.56        | 0.69        | 0.37        | 19.39        | 18.00        | 20.00        |
| <b>CD</b> | <b>0.60</b> | <b>0.76</b> | <b>0.37</b> | <b>16.89</b> | <b>13.00</b> | <b>19.00</b> |
| DA        | 0.91        | 0.93        | 0.83        | 5.72         | 3.00         | 8.00         |
| EA        | 0.54        | 0.70        | 0.29        | 19.44        | 19.00        | 20.00        |
| EB        | 0.62        | 0.72        | 0.42        | 14.61        | 12.00        | 18.00        |
| <b>F</b>  | <b>0.72</b> | <b>0.86</b> | <b>0.46</b> | <b>9.56</b>  | <b>6.00</b>  | <b>12.00</b> |
| <b>GA</b> | <b>0.62</b> | <b>0.76</b> | <b>0.38</b> | <b>14.72</b> | <b>11.00</b> | <b>18.00</b> |
| <b>H</b>  | <b>0.80</b> | <b>1.00</b> | <b>0.48</b> | <b>6.22</b>  | <b>1.00</b>  | <b>12.00</b> |
| <b>I</b>  | <b>0.72</b> | <b>0.89</b> | <b>0.51</b> | <b>9.72</b>  | <b>8.00</b>  | <b>14.00</b> |
| J         | 0.63        | 0.78        | 0.42        | 13.83        | 11.00        | 16.00        |
| K         | 0.79        | 0.89        | 0.65        | 7.89         | 5.00         | 9.00         |
| LA        | 0.85        | 0.98        | 0.75        | 6.78         | 5.00         | 9.00         |
| LB        | 0.97        | 1.00        | 0.83        | 1.61         | 1.00         | 4.00         |
| LC        | 0.99        | 1.00        | 0.91        | 1.56         | 1.00         | 4.00         |
| MA        | 0.93        | 0.97        | 0.78        | 5.22         | 3.00         | 7.00         |
| MB        | 1.00        | 1.00        | 0.95        | 1.33         | 1.00         | 4.00         |

効率性：CCRモデル1～9，BCCモデル1～9の効率値の平均，最大値，最小値を算出  
 順 位：CCRモデル1～9，BCCモデル1～9の効率値を元に順位を算出し，その順位の平均，最高位，最低位を算出

表 5-15，5-16 は，18 のモデルによる分析結果の概要である。分析では効率値を算出すると共に効率値に基づく順位をも算出している。表には試行された 18 のモデルの効率値の平均値，最大値，最小値，順位の平均，最高位，最低位を大学・学部毎に表示してある（詳細は別表参照）<sup>13</sup>。

まず人文・社会・教育・総合系学部の結果を見てみよう。

- ・どの学部においても入力・出力・DEA モデルの組み合わせによってその効率性に変動が見られる。

- ・特に学部 B, H は効率値の変動幅が大きい。その他にも CA, CD, F, GA, I など B, H ほどではないにせよ効率値の変動幅が大きい。
- ・順位に注目すると変動幅の程度がより明確に把握できる。B と H は最高順位が 1 位であるが、最低順位がそれぞれ 13 位と 12 位であり、順位の変動が激しい。
- ・B, H に次いで変動が激しいのは CA (最高 10, 最低 17), GA (最高 8, 最低 14), CD (最高 13, 最低 19), F (最高 6, 最低 12), I (最高 8, 最低 14) である。

次に理・工・農・医歯薬系を見てみよう。

図表 5-16 効率性の分析結果 理・工・農・医歯薬系

| 学部        | 効率性         |             |             | 順位          |             |              |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
|           | 平均          | 最大          | 最小          | 平均          | 最高          | 最低           |
| CE        | 0.77        | 0.87        | 0.45        | 10.28       | 8.00        | 12.00        |
| CF        | <b>0.82</b> | <b>0.91</b> | <b>0.53</b> | <b>7.11</b> | <b>4.00</b> | <b>10.00</b> |
| <b>CG</b> | <b>0.88</b> | <b>1.00</b> | <b>0.57</b> | <b>4.67</b> | <b>1.00</b> | <b>10.00</b> |
| CH        | <b>0.83</b> | <b>0.97</b> | <b>0.49</b> | <b>7.61</b> | <b>3.00</b> | <b>11.00</b> |
| CI        | <b>0.85</b> | <b>1.00</b> | <b>0.46</b> | <b>5.28</b> | <b>1.00</b> | <b>12.00</b> |
| <b>DA</b> | <b>0.99</b> | <b>1.00</b> | <b>0.85</b> | <b>1.50</b> | <b>1.00</b> | <b>10.00</b> |
| EC        | <b>0.81</b> | <b>0.92</b> | <b>0.44</b> | <b>7.94</b> | <b>4.00</b> | <b>11.00</b> |
| <b>ED</b> | <b>0.80</b> | <b>1.00</b> | <b>0.36</b> | <b>8.17</b> | <b>1.00</b> | <b>12.00</b> |
| GB        | <b>0.90</b> | <b>1.00</b> | <b>0.50</b> | <b>3.00</b> | <b>1.00</b> | <b>8.00</b>  |
| <b>GC</b> | <b>0.89</b> | <b>1.00</b> | <b>0.53</b> | <b>3.39</b> | <b>1.00</b> | <b>10.00</b> |
| <b>NA</b> | <b>0.87</b> | <b>1.00</b> | <b>0.50</b> | <b>4.83</b> | <b>1.00</b> | <b>10.00</b> |
| NB        | 0.75        | 0.86        | 0.48        | 10.56       | 8.00        | 12.00        |

効率性：CCRモデル1～9，BCCモデル1～9の効率値の平均，最大値，最小値を算出

順位：CCRモデル1～9，BCCモデル1～9の効率値を元に順位を算出し，その順位の平均，最高位，最低位を算出

- ・人文系に比べると効率値および順位の変動ともに激しい。これは入力出力変数の数に比して DMU の数が多くない（入力出力変数の数のちょうど 3 倍）こと，BCC モデルが他のモデルに比して比較的最適効率な DMU を出しやすい（ある意味「甘い」）ことが重なり，最適効率 1 をはじき出す学部が多くなったことが一因であろう。
- ・順位変動を見ると，CG, CI, DB, ED, GC, NA は最高位と最低位の落差が激しい。

このように，変数の類似度が高く分析手法も一部制約が付されている（規模の収穫が一定 / 規模により収穫が変動）だけで効率性を測定するという原則には変わりはないにもか

かわらず、評価結果に大きな変動が生じる学部が存在する。こうした結果は大学の評価のあり方に1つの示唆を与えてくれる。つまり、大学のような公共性の強いマルチインプット・マルチプロダクト機関の場合、私企業とは異なりその活動やアウトプット・アウトカムの多様性を評価することに重点が置かれ、多様な指標が提案されがちだが、限られた指標でも組織体の特徴の多様性を浮かび上がらせる余地が大いに存在するということだ。逆に、今日の評価活動について、組織の多様性測定のために多様な指標を考案・産出することに目を奪われて、1つの指標からは組織体の一部の側面や特徴しか読み取っていないかったという事態を招いていることも十分考えられる。本稿の分析結果において効率値・順位に大きな変動が見られた学部に関して言えば、限られた指標を用いた分析結果であるにも関わらず、その評価を固定化することは慎重にならなければならないし困難であると言えそうである。

#### 効率性・偏差値・学習時間との関係

次に、学部毎に算出された効率値を用い、異なるモデル間の効率値の相関そして効率値と偏差値・学習時間との関係を分析してみよう。

図表 5-17 を見るとわかるように人文・社会・教育・総合系においては、18 のモデルにより産出された効率値の相関はいずれも 0.7~0.9 と高い。つまり、どの指標と DEA モデルを適用しても、学部の評価の安定性が高いことを意味している。先に検討したように、効率値と順位に大きな変動が見られたのが一部の学部（B, H）に限定されていることとも整合的である。

理・工・農・医歯薬に関しては、18 のモデル間の効率値の相関は高くないものが多い。つまり、指標と DEA モデルの組み合わせによって効率値が大きく変動し、評価の安定性が低いことを意味する。この点は効率値・順位の変動が大きい学部が多数存在するという先の検討結果とも一致する（図表 5-18）。

興味深いのは、効率値と偏差値・学習時間との相関である。図表 5-17, 5-18 を見てもわかるようにほぼすべてにおいて学部の効率性と偏差値・学習時間との関係は負の関係にある。つまり偏差値が低く高校時代の学習時間が短い学生が集まっている大学ほど、効率性すなわちそれら入力変数の1単位あたりの所属学部お勤め度や投資価値感が高いことを示している。そして偏差値が高く高校時代の学習時間が長い学生が集まっている大学ほど、それら入力変数の1単位あたりの所属学部お勤め度や投資価値感が低いことを示している。すなわち個別の学部の入力（学生の質）効率性に注目すれば、偏差値が低く高校時代の学習時間の短い学生が集まっているような大学は、限られた資源で高いパフォーマンスを上げていると言える。一方偏差値や高校時代の学習時間の面における学生の質が高い大学は、学生の質を効率よく学生の大学満足度へと繋がられておらず、相対的に見て資源（学生の質）を浪費している大学、あるいは過度に学生の質に依存している大学であると言える。



#### 4. おわりに

図表 5-19 所属学部のお勧め度と投資値頃感に関する回帰分析

| 説明変数          | 被説明変数             |           |                   |           |
|---------------|-------------------|-----------|-------------------|-----------|
|               | 所属学部を友人に勧めるか<br>B |           | 所属学部は投資に値するか<br>B |           |
| (定数)          | 2.402             | **        | 2.076             | **        |
| 偏差値           | 0.005             | 0.038 +   | 0.018             | 0.132 **  |
| 国立            | 0.147             | 0.085 **  | -0.133            | -0.076 ** |
| 性別            | -0.110            | -0.065 ** | -0.115            | -0.067 ** |
| 学年            | -0.070            | -0.042 ** | -0.023            | -0.013    |
| 高校3年時の学校外学習時間 | 0.017             | 0.033 *   | 0.017             | 0.033 +   |
| 決定係数          | 0.020             | **        | 0.024             | **        |
| 調整済み決定係数      | 0.019             |           | 0.023             |           |

試しに所属学部お勧め度と投資値頃感を従属変数に、学部の偏差値、高校時代の1日の学習時間量、性別ダミー、学年ダミー、国立ダミーを投入した回帰分析を実施した場合、学部の偏差値、高校時代の1日の学習時間量はともに所属学部お勧め度と投資値頃感に正の効果をもたらしていた(図表 5-19)。すなわち全体的・平均的な傾向は、学生の入学時点での質が高ければ、学生の満足度(所属学部お勧め度と投資値頃感)も高いのである。

つまり回帰分析では個別の学生や個別の機関の平均を上回る(下回る)生産性や効率性が捨象され、学生の質が高ければ満足度も高いという結果を「全体像として」提示しているに過ぎない<sup>14</sup>。この結果だけに依存すると、高い質の学生を確保できる大学はより高い教育成果を上げることが期待できるが、高い質の学生を確保できない大学では高い教育成果を期待できないという結論・推測に達してしまい<sup>15</sup>、大学の階層構造が固定化し特定の学力層の学生しか確保できない日本においてはなんら改革の示唆を得られない。こうした結論は以前からも導かれており、しばしば大学教育無力論を補強してきた。しかし、本稿のように入力(学生の質の)効率性という観点から分析することにより、資源の限定された大学の生産性・効率性の高さが見いだされたことは、偏差値を中心とした大学階層構造の中・低位に位置している大学を積極的に再評価する必要性へと繋がるだろう<sup>16</sup>。そして同時に資源の豊かな大学の生産性・効率性の低さを見いだしたことは、これまで高い評価を享受してきた威信の高い大規模な大学を、効率性という観点から厳しく評価する必要性を投げかけることだろう。

## 別表

別表1 学部別入力変数・出力変数の値

| 学部(記号)       | 偏差値   | 高校3年時の1日平均学校外学習時間 | 現在所属の学部での学習を他人にも勧めるか | 現在所属の学部での学習が投資に値すると思うか |
|--------------|-------|-------------------|----------------------|------------------------|
| 人文・社会・教育・総合系 |       |                   |                      |                        |
| A            | 56.30 | 2.78              | 3.00                 | 2.71                   |
| B            | 62.00 | 3.15              | 3.53                 | 3.16                   |
| CA           | 57.70 | 2.63              | 3.12                 | 3.02                   |
| CB           | 55.30 | 2.49              | 2.71                 | 2.71                   |
| CC           | 58.00 | 2.92              | 2.82                 | 2.53                   |
| CD           | 52.50 | 2.65              | 2.51                 | 2.45                   |
| DA           | 43.00 | 1.27              | 2.92                 | 2.67                   |
| EA           | 57.50 | 3.10              | 2.23                 | 2.57                   |
| EB           | 58.40 | 3.01              | 3.31                 | 2.97                   |
| F            | 47.00 | 2.38              | 2.74                 | 2.85                   |
| GA           | 52.50 | 2.86              | 2.78                 | 2.73                   |
| H            | 52.50 | 2.58              | 3.16                 | 3.16                   |
| I            | 45.00 | 1.91              | 2.73                 | 2.27                   |
| J            | 51.50 | 2.59              | 2.77                 | 2.58                   |
| K            | 45.00 | 1.76              | 2.94                 | 2.69                   |
| LA           | 41.00 | 1.36              | 2.62                 | 2.39                   |
| LB           | 40.00 | 1.08              | 2.73                 | 2.45                   |
| LC           | 40.00 | 1.20              | 2.98                 | 2.81                   |
| MA           | 42.00 | 1.16              | 2.68                 | 2.57                   |
| MB           | 41.00 | 1.33              | 3.35                 | 2.95                   |
| 理・工・農・医歯薬系   |       |                   |                      |                        |
| CE           | 55.00 | 2.64              | 2.71                 | 2.77                   |
| CF           | 51.00 | 2.22              | 2.66                 | 2.63                   |
| CG           | 54.50 | 2.27              | 2.95                 | 2.78                   |
| CH           | 59.80 | 2.59              | 2.86                 | 3.06                   |
| CI           | 61.00 | 2.75              | 2.88                 | 3.25                   |
| DA           | 41.00 | 1.10              | 2.49                 | 2.09                   |
| EC           | 54.60 | 2.80              | 2.81                 | 2.90                   |
| ED           | 61.30 | 3.59              | 2.92                 | 3.23                   |
| GB           | 45.70 | 2.41              | 2.75                 | 2.74                   |
| GC           | 56.20 | 2.81              | 3.18                 | 2.87                   |
| GC           | 51.60 | 2.41              | 2.89                 | 2.93                   |
| GD           | 53.30 | 2.54              | 2.74                 | 2.44                   |



別表2 効率性分析結果 人文・社会・教育・総合系

| 学部      | CCRモデル1 |       | CCRモデル2 |       | CCRモデル3 |    | CCRモデル4 |       | CCRモデル5 |       | CCRモデル6 |    | CCRモデル7 |       | CCRモデル8 |       | CCRモデル9  |    |       |       |    |
|---------|---------|-------|---------|-------|---------|----|---------|-------|---------|-------|---------|----|---------|-------|---------|-------|----------|----|-------|-------|----|
|         | D効率値    | 順位    | D効率値    | 順位    | D効率値    | 順位 | D効率値    | 順位    | D効率値    | 順位    | D効率値    | 順位 | D効率値    | 順位    | D効率値    | 順位    | D効率値     | 順位 |       |       |    |
| A       | 0.652   | MB    | 15      | 0.427 | LB      | 17 | 0.417   | LC    | 16      | 0.652 | MB      | 15 | 0.669   | MB    | 17      | 0.428 | LB,LC    | 16 | 0.669 | MB    | 17 |
| B       | 0.697   | MB    | 11      | 0.445 | LB      | 12 | 0.430   | LC    | 13      | 0.697 | MB      | 11 | 0.708   | MB    | 12      | 0.708 | MB       | 13 | 0.708 | MB    | 13 |
| CA      | 0.682   | MB    | 13      | 0.470 | LB      | 10 | 0.491   | LC    | 11      | 0.682 | MB      | 13 | 0.727   | MB    | 10      | 0.727 | MB       | 11 | 0.727 | MB    | 11 |
| CB      | 0.601   | MB    | 17      | 0.432 | LB      | 14 | 0.465   | LC    | 12      | 0.601 | MB      | 17 | 0.680   | MB    | 16      | 0.680 | MB       | 16 | 0.680 | MB    | 16 |
| CC      | 0.595   | MB    | 18      | 0.382 | LB      | 18 | 0.371   | LC    | 19      | 0.595 | MB      | 18 | 0.607   | MB    | 20      | 0.382 | LB       | 19 | 0.607 | MB    | 20 |
| CD      | 0.585   | MB    | 19      | 0.648 | MB      | 18 | 0.375   | LB    | 19      | 0.585 | MB      | 19 | 0.648   | MB    | 18      | 0.382 | LB       | 19 | 0.648 | MB    | 18 |
| D       | 0.830   | MB    | 4       | 0.908 | LB      | 3  | 0.908   | LB    | 5       | 0.909 | LB,MB   | 5  | 0.898   | LC    | 18      | 0.395 | LC       | 18 | 0.648 | MB    | 18 |
| EA      | 0.475   | MB    | 20      | 0.285 | LB      | 20 | 0.355   | LC    | 20      | 0.475 | MB      | 20 | 0.621   | MB    | 19      | 0.395 | LC       | 18 | 0.395 | LC    | 18 |
| E       | 0.693   | MB    | 12      | 0.434 | LB      | 13 | 0.422   | LC    | 15      | 0.693 | MB      | 12 | 0.707   | MB    | 13      | 0.434 | LB,LC    | 14 | 0.693 | MB    | 12 |
| F       | 0.713   | MB    | 10      | 0.463 | LB      | 6  | 0.456   | LB    | 11      | 0.713 | MB      | 10 | 0.843   | MB    | 6       | 0.514 | LC       | 10 | 0.843 | MB    | 6  |
| G       | 0.647   | MB    | 16      | 0.722 | MB      | 17 | 0.407   | LC    | 17      | 0.647 | MB      | 16 | 0.722   | MB    | 11      | 0.407 | LC       | 17 | 0.722 | MB    | 16 |
| H       | 0.736   | MB    | 9       | 0.485 | LB      | 7  | 0.485   | LB    | 9       | 0.736 | MB      | 9  | 0.837   | MB    | 7       | 0.524 | LC       | 12 | 0.736 | MB    | 9  |
| I       | 0.741   | MB    | 8       | 0.701 | MB      | 14 | 0.563   | LB    | 8       | 0.741 | MB      | 8  | 0.701   | MB    | 14      | 0.741 | MB       | 15 | 0.741 | MB    | 10 |
| J       | 0.658   | MB    | 14      | 0.424 | LB      | 16 | 0.427   | LC    | 14      | 0.658 | MB      | 14 | 0.696   | MB    | 15      | 0.431 | LB,LC    | 15 | 0.696 | MB    | 15 |
| K       | 0.798   | MB    | 5       | 0.661 | LB      | 8  | 0.661   | LB    | 7       | 0.798 | MB      | 6  | 0.830   | MB    | 8       | 0.666 | LB,LC    | 7  | 0.830 | MB    | 8  |
| LA      | 0.782   | MB    | 6       | 0.763 | LB      | 9  | 0.763   | LB    | 6       | 0.782 | MB      | 7  | 0.811   | MB    | 9       | 0.768 | LB,LC    | 6  | 0.811 | MB    | 9  |
| LB      | 0.834   | MB    | 3       | 0.852 | MB      | 4  | 1.000   | LC    | 2       | 1.000 | LC      | 1  | 0.971   | LC    | 3       | 1.000 | LC       | 1  | 1.000 | LC    | 1  |
| LC      | 0.910   | MB    | 2       | 0.978 | LB      | 4  | 1.000   | LC    | 3       | 0.910 | MB      | 3  | 1.000   | LC    | 4       | 0.951 | LC       | 4  | 1.000 | LC    | 1  |
| MA      | 0.779   | MB    | 7       | 0.851 | MB      | 5  | 0.915   | LB    | 4       | 0.779 | MB      | 5  | 0.915   | LB,MB | 4       | 0.951 | LC       | 4  | 0.951 | LC    | 4  |
| MB      | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LB      | 2  | 0.950   | LC    | 4       | 1.000 | LC      | 1  | 1.000   | LC    | 1       | 0.999 | LB       | 3  | 1.000 | LC    | 1  |
| BCCモデル  |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル1 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル2 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル3 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル4 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル5 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル6 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル7 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル8 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| BCCモデル9 |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |         |    |         |       |         |       |          |    |       |       |    |
| A       | 0.712   | LC,MB | 16      | 0.710 | LC      | 18 | 0.420   | LB,LC | 16      | 0.712 | LC,MB   | 16 | 0.710   | LC    | 18      | 0.430 | LB,LC,MB | 16 | 0.712 | LC,MB | 18 |
| B       | 1.000   | LC,MB | 1       | 0.845 | H,MB    | 11 | 0.816   | H,MB  | 7       | 1.000 | LC,MB   | 1  | 0.845   | H,MB  | 11      | 1.000 | LC,MB    | 1  | 1.000 | LC,MB | 1  |
| CA      | 0.700   | LC,MB | 17      | 0.774 | H,MB    | 13 | 0.470   | LB,MB | 10      | 0.774 | H,MB    | 13 | 0.774   | H,MB  | 13      | 0.656 | H,MB     | 10 | 0.774 | H,MB  | 13 |
| CB      | 0.723   | LC    | 15      | 0.434 | LB      | 14 | 0.469   | LB,LC | 14      | 0.723 | LC      | 15 | 0.723   | LC    | 16      | 0.469 | LB,LC    | 14 | 0.723 | LC    | 16 |
| CC      | 0.680   | LC    | 20      | 0.382 | LB,MB   | 19 | 0.379   | LB,LC | 19      | 0.680 | LC      | 20 | 0.680   | LC    | 20      | 0.383 | LB,LC,MB | 19 | 0.680 | LC    | 20 |
| CD      | 0.762   | LC    | 13      | 0.762 | LC      | 14 | 0.407   | LB    | 17      | 0.762 | LC      | 14 | 0.762   | LC    | 15      | 0.407 | LB       | 18 | 0.762 | LC    | 15 |
| DA      | 0.930   | LC    | 7       | 0.909 | LB,MB   | 6  | 0.908   | LB,LC | 6       | 0.930 | LC      | 7  | 0.930   | LC    | 8       | 0.917 | LB,LC,MB | 7  | 0.930 | LC    | 8  |
| EA      | 0.696   | LC    | 19      | 0.349 | LB      | 20 | 0.362   | LB,LC | 20      | 0.696 | LC      | 19 | 0.696   | LC    | 19      | 0.362 | LB,LC    | 20 | 0.696 | LC    | 19 |
| E       | 0.700   | LC,MB | 18      | 0.721 | H,MB    | 17 | 0.480   | H,MB  | 13      | 0.700 | LC,MB   | 18 | 0.721   | H,MB  | 17      | 0.480 | H,MB     | 13 | 0.721 | H,MB  | 17 |
| F       | 0.851   | LC    | 10      | 0.456 | LB,MB   | 12 | 0.456   | LB,MB | 12      | 0.851 | LC      | 10 | 0.857   | LC,MB | 11      | 0.521 | LC,MB    | 12 | 0.857 | LC,MB | 11 |
| GA      | 0.762   | LC    | 14      | 0.762 | LC      | 15 | 0.384   | LB,MB | 18      | 0.762 | LC      | 13 | 0.762   | LC    | 14      | 0.410 | LC,LB    | 17 | 0.762 | LC    | 14 |
| H       | 0.771   | LC,MB | 12      | 1.000 | LC      | 10 | 0.485   | LB,MB | 10      | 0.771 | LC,MB   | 12 | 1.000   | LC    | 11      | 1.000 | LC       | 11 | 1.000 | LC    | 10 |
| I       | 0.889   | LC    | 8       | 0.564 | LB      | 9  | 0.564   | LB    | 9       | 0.889 | LC      | 8  | 0.889   | LC    | 9       | 0.564 | LB       | 11 | 0.889 | LC    | 10 |
| J       | 0.777   | LC    | 11      | 0.424 | LB,MB   | 16 | 0.435   | LB,LC | 15      | 0.777 | LC      | 11 | 0.435   | LB,LC | 12      | 0.435 | LB,LC    | 15 | 0.777 | LC    | 12 |
| K       | 0.889   | LC    | 9       | 0.889 | LC      | 8  | 0.660   | LB,LC | 8       | 0.889 | LC      | 9  | 0.889   | LC    | 8       | 0.889 | LC       | 9  | 0.889 | LC    | 9  |
| LA      | 0.976   | LC    | 5       | 0.976 | LC      | 5  | 0.976   | LC    | 8       | 0.976 | LC      | 5  | 0.976   | LC    | 5       | 0.976 | LC       | 6  | 0.976 | LC    | 6  |
| LB      | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC      | 1  | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC      | 1  | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC       | 1  | 1.000 | LC    | 1  |
| LC      | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC      | 4  | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC      | 1  | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC       | 1  | 1.000 | LC    | 1  |
| MA      | 0.952   | LC    | 6       | 0.952 | LC      | 6  | 0.969   | LB,LC | 5       | 0.952 | LC      | 6  | 0.969   | LB,LC | 6       | 0.969 | LB,LC    | 7  | 0.969 | LB,LC | 7  |
| MB      | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC      | 1  | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC      | 1  | 1.000   | LC    | 1       | 1.000 | LC       | 1  | 1.000 | LC    | 1  |

別表3 効率性分析結果 理・工・農・医歯薬

| 学部 | CCRモデル1 |    | CCRモデル2 |       | CCRモデル3 |      | CCRモデル4 |    | CCRモデル5 |       | CCRモデル6 |      | CCRモデル7 |       | CCRモデル8 |       | CCRモデル9 |      |       |       |    |       |       |    |
|----|---------|----|---------|-------|---------|------|---------|----|---------|-------|---------|------|---------|-------|---------|-------|---------|------|-------|-------|----|-------|-------|----|
|    | D効率値    | 順位 | 優位集合    | D効率値  | 順位      | 優位集合 | D効率値    | 順位 | 優位集合    | D効率値  | 順位      | 優位集合 | D効率値    | 順位    | 優位集合    | D効率値  | 順位      | 優位集合 | D効率値  | 順位    |    |       |       |    |
| CE | 0.813   | DB | 11      | 0.453 | DB      | 11   | 0.551   | DB | 10      | 0.813 | DB      | 9    | 0.862   | DB,GB | 11      | 0.838 | GB      | 12   | 0.551 | DB    | 8  | 0.862 | DB,GB | 11 |
| CF | 0.862   | DB | 6       | 0.529 | DB      | 6    | 0.621   | DB | 5       | 0.862 | DB      | 6    | 0.906   | DB,GB | 6       | 0.866 | DB,GB   | 9    | 0.621 | DB    | 5  | 0.906 | DB,GB | 7  |
| CG | 0.892   | DB | 5       | 0.573 | DB      | 9    | 0.644   | DB | 2       | 0.892 | DB      | 2    | 0.909   | DB,GB | 5       | 0.896 | DB,GB   | 5    | 0.644 | DB    | 2  | 0.909 | DB,GB | 6  |
| CH | 0.788   | DB | 10      | 0.487 | DB      | 8    | 0.621   | DB | 7       | 0.788 | DB      | 10   | 0.901   | DB,GB | 7       | 0.851 | GB      | 10   | 0.621 | DB    | 6  | 0.901 | DB,GB | 8  |
| CI | 0.777   | DB | 12      | 0.888 | GB      | 3    | 0.461   | DB | 3       | 0.777 | DB      | 12   | 0.929   | DB,GB | 4       | 0.888 | GB      | 6    | 0.622 | DB    | 4  | 0.929 | DB,GB | 5  |
| DB | 1.000   |    | 10      | 1.000 |         | 10   | 1.000   |    | 1       | 1.000 |         | 1    | 1.000   |       | 1       | 1.000 |         | 1    | 1.000 |       | 1  | 1.000 |       | 1  |
| EC | 0.849   | DB | 7       | 0.885 | GB      | 4    | 0.444   | DB | 11      | 0.849 | DB      | 7    | 0.892   | DB,GB | 8       | 0.885 | GB      | 7    | 0.545 | DB    | 9  | 0.892 | DB,GB | 9  |
| ED | 0.765   | DB | 11      | 0.358 | DB      | 5    | 0.473   | DB | 12      | 0.765 | DB      | 11   | 0.878   | GB    | 9       | 0.878 | GB      | 8    | 0.473 | DB    | 12 | 0.878 | GB    | 10 |
| GB | 0.994   | DB | 2       | 1.000 |         | 1    | 0.505   | DB | 5       | 0.994 | DB      | 2    | 1.000   |       | 1       | 1.000 |         | 1    | 0.599 | DB    | 7  | 1.000 |       | 1  |
| GC | 0.923   | DB | 4       | 0.945 | GB      | 2    | 0.530   | DB | 3       | 0.923 | DB      | 4    | 0.979   | DB,GB | 3       | 0.945 | DB,GB   | 3    | 0.639 | DB    | 3  | 0.979 | DB,GB | 3  |
| NA | 0.933   | DB | 3       | 0.852 | GB      | 7    | 0.499   | DB | 6       | 0.933 | DB      | 3    | 0.865   | DB,GB | 10      | 0.935 | GB      | 4    | 0.538 | DB    | 10 | 0.935 | DB,GB | 4  |
| NB | 0.847   | DB | 8       | 0.476 | DB      | 12   | 0.476   | DB | 8       | 0.847 | DB      | 11   | 0.847   | DB    | 8       | 0.788 | DB,GB   | 12   | 0.849 | DB,GB | 11 | 0.849 | DB,GB | 12 |

| 学部 | BCCモデル1 |       | BCCモデル2 |       | BCCモデル3 |      | BCCモデル4 |       | BCCモデル5 |       | BCCモデル6 |      | BCCモデル7 |          | BCCモデル8 |       | BCCモデル9  |      |       |          |    |       |          |    |       |          |    |       |          |    |
|----|---------|-------|---------|-------|---------|------|---------|-------|---------|-------|---------|------|---------|----------|---------|-------|----------|------|-------|----------|----|-------|----------|----|-------|----------|----|-------|----------|----|
|    | D効率値    | 順位    | 優位集合    | D効率値  | 順位      | 優位集合 | D効率値    | 順位    | 優位集合    | D効率値  | 順位      | 優位集合 | D効率値    | 順位       | 優位集合    | D効率値  | 順位       | 優位集合 | D効率値  | 順位       |    |       |          |    |       |          |    |       |          |    |
| CF | 0.817   | DB,GB | 9       | 0.843 | CI,GB   | 6    | 0.880   | DB,GB | 11      | 0.782 | CI,DB   | 10   | 0.818   | DB,GB,GC | 10      | 0.870 | DB,GB,NA | 11   | 0.843 | CI,GB    | 11 | 0.843 | CI,GB    | 12 | 0.782 | CI,DB    | 11 | 0.870 | DB,GB,NA | 11 |
| CF | 0.865   | DB,GB | 6       | 0.880 | DB,GB   | 9    | 0.682   | DB,GC | 8       | 0.838 | CI,DB   | 8    | 0.867   | DB,GB,GC | 6       | 0.915 | DB,GB,NA | 9    | 0.880 | CI,GB    | 9  | 0.880 | CI,GB    | 10 | 0.838 | CI,DB    | 9  | 0.915 | DB,GB,NA | 10 |
| CG | 0.927   | GB,GC | 5       | 0.859 | CI,GB   | 10   | 0.988   | DB,GC | 3       | 0.917 | CI,DB   | 5    | 0.988   | DB,GB    | 4       | 0.940 | DB,GB,NA | 7    | 0.927 | GB,GC    | 7  | 0.927 | GB,GC    | 7  | 1.000 | CG,CI,DB | 7  | 1.000 | CG,CI,DB | 7  |
| CH | 0.807   | GB,GC | 11      | 0.922 | CI,GB   | 7    | 0.780   | DB,GC | 5       | 0.956 | CI,DB   | 3    | 0.819   | DB,GB,GC | 9       | 0.959 | DB,GB,NA | 6    | 0.924 | CI,GB,NA | 9  | 0.924 | CI,GB,NA | 9  | 0.971 | CG,CI,DB | 7  | 0.971 | CG,CI,DB | 8  |
| CI | 0.798   | GB,GC | 12      | 1.000 |         | 1    | 0.750   | DB,GC | 6       | 1.000 |         | 6    | 1.000   |          | 12      | 1.000 |          | 1    | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  |
| DB | 1.000   |       | 1       | 1.000 |         | 1    | 1.000   |       | 1       | 1.000 |         | 1    | 1.000   |          | 1       | 1.000 |          | 1    | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  |
| EC | 0.863   | GB,GC | 7       | 0.923 | CI,GB   | 6    | 0.680   | DB,GC | 9       | 0.805 | CI,DB   | 8    | 0.864   | DB,GB,GC | 7       | 0.923 | CI,GB    | 8    | 0.925 | CI,GB,NA | 8  | 0.925 | CI,GB,NA | 8  | 0.820 | CG,CI,DB | 10 | 0.925 | CI,GB,NA | 9  |
| ED | 0.811   | GB,GC | 10      | 0.985 | CI,GB   | 5    | 0.603   | DB,GC | 5       | 0.757 | CI,DB   | 11   | 0.811   | GB,GC    | 11      | 0.985 | CI,GB    | 5    | 1.000 |          | 5  | 1.000 |          | 5  | 1.000 |          | 5  | 1.000 |          | 5  |
| GB | 1.000   |       | 1       | 1.000 |         | 1    | 0.732   | DB,GC | 7       | 0.843 | CI,DB   | 6    | 1.000   |          | 1       | 1.000 |          | 1    | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  | 1.000 |          | 1  |
| GC | 1.000   |       | 1       | 0.883 | CI,GB   | 8    | 1.000   |       | 8       | 1.000 |         | 9    | 0.788   | CI,DB    | 9       | 0.884 | DB,GB,NA | 10   | 1.000 |          | 10 | 1.000 |          | 10 | 1.000 |          | 10 | 1.000 |          | 10 |
| NA | 0.951   | GB,GC | 4       | 0.953 | CI,GB   | 4    | 0.871   | DB,GC | 4       | 0.951 | CI,DB   | 4    | 0.959   | DB,GB,GC | 5       | 1.000 |          | 5    | 1.000 |          | 5  | 1.000 |          | 5  | 1.000 |          | 5  | 1.000 |          | 5  |
| NB | 0.852   | DB,GB | 8       | 0.817 | DB,GB   | 12   | 0.678   | DB,GC | 10      | 0.633 | CI,DB   | 12   | 0.857   | DB,GB,GC | 8       | 0.817 | DB,GB    | 12   | 0.857 | DB,GB    | 12 | 0.857 | DB,GB    | 12 | 0.857 | DB,GB,GC | 12 | 0.857 | DB,GB,GC | 12 |

## 注

- 1 アンケートの問 12「専門分野に関する学習成果」の 6 項目を主成分分析にて 1 変数に合成・偏差値化したものを用いている。この合成変数は値が高いほど専門教育の学習成果が高いことを意味する。
- 2 この点について、刀根(1993:2)、末吉(2001:3)、Cave, Hanney, & Henkel, (1997)は、残差を積極的に解釈し、回帰直線よりも上に位置する DMU を高いパフォーマンス、下に位置する DMU を低いパフォーマンスと見なしている。
- 3 ポーター(1991:177 頁)を参照。
- 4 アンケートの問 11「入学時と比較した能力の変化」の 13 変数を主成分分析により合成した 1 変数を偏差値化したもの。
- 5 学生数自体の改善については、この学部の授業理解度の平均値 2.786 をかけて得られた 38.37 (人) が最適効率を達成するために減じるべき学生数となる。なお、入力、出力に素データを用いて分析した場合、は改善案が採用された場合優位集合の何倍の効率性を達成できるかを示しているが、今回のように出力 = 授業理解度をすべて 1 に基準化した場合、は優位集合への類似度・近似度を示す。例えば I の優位集合は LA および LB であるが、入力を一律 0.315 倍して改善すれば、より LA に近い (LA の が 0.756 であるのに対し、LB の が 0.244) DMU になることを意味している。この の合計は 1 であり、図上では直線 LB - I<sub>1</sub> と直線 I<sub>1</sub> - LA の比率を指している (実際には直線上の比率が小さいほど優位集合に近く、は大きくなる)。以下に変数の変換前後の学部 A ~ MB の を掲載しておく。

| 学部 | D効率値  | 優位集合( ) : |         |    |         | 学部 | D効率値  | 優位集合( ) : |         |    |         |
|----|-------|-----------|---------|----|---------|----|-------|-----------|---------|----|---------|
| A  | 0.465 | LA        | (0.217) | LC | (0.818) | GA | 0.414 | LC        | (0.971) |    |         |
| B  | 0.255 | LA        | (0.920) | LB | (0.136) | H  | 0.377 | LA        | (1.068) | LB | (0.057) |
| CA | 0.250 | LA        | (1.051) | LB | (0.025) | I  | 0.315 | LA        | (0.800) | LB | (0.270) |
| CB | 0.314 | LC        | (0.989) |    |         | J  | 0.239 | LA        | (1.083) | LB | (0.017) |
| CC | 0.241 | LA        | (0.735) | LC | (0.263) | K  | 0.465 | LA        | (0.265) | LC | (0.753) |
| CD | 0.279 | LA        | (0.332) | LC | (0.642) | LA | 1.000 |           |         |    |         |
| DA | 0.275 | LA        | (0.030) | LB | (0.852) | LB | 1.000 |           |         |    |         |
| EA | 0.407 | LA        | (0.514) | LB | (0.638) | LC | 1.000 |           |         |    |         |
| EB | 0.276 | LC        | (1.055) |    |         | MA | 0.947 | LC        | (0.992) |    |         |
| F  | 0.365 | LA        | (0.008) | LB | (1.112) | MB | 0.686 | LC        | (0.997) |    |         |

- 6 この例に限らず DEA で主に扱う効率性の達成とは、入力や出力を (機械的に) 操作して、効率的フロンティアに達することを意味する。この入力出力の操作には現実的にはなんらかの経営努力が必要とされる。この例の MB の場合、入試科目数と学生数を減らすという経営努力を行えば効率的フロンティアに到達し、DEA における最適効率を

達成しうることを意味している。ただし、この結果を率直に「効率」と見なすのは語弊があるかも知れない。なぜなら実際の大学経営の場では、学生数が多いいわゆるマスブ口大学方式(厳密には学生数/教員数の値が大きい大学)であっても学生の授業理解度や満足度が高いような状況を「効率的」だとみなすからである。この意味では、MBが達成しうるのは効率性ではない。MBは学生数を減じることによって教育条件の質を高め(学生数を減じることによりきめ細かい教育が可能になる)その結果授業理解度が高まりうるのだから。このようなケースの場合、「生産性」という言葉の方がより日常的な感覚と一致しやすいかもしれない。つまり「学生数を減少させることにより授業理解度の生産性を高める」と。

- 7 Charnes et al. (1989), Charnes & Chooper (1990), Thanassoulis (1999), 刀根 (1993: 119 頁) 等を参照。
- 8 たとえば Johnes (2005)の場合、用いている変数はせいぜいのところ入力が最多で3、出力が最多で2であり、それらの組み合わせによりイギリスの経済学部の効率性を評価している。
- 9 以上 DEA の外観については刀根 (1993), 末吉(2001)を下敷きにしている。詳細はこれら文献を参照。なお、馬場 (2004) は大学ベンチマーキングの一手法として DEA を紹介しているが、DEA ではコスト効率を扱わないという認識をしており、DEA のテキスト群との見解の相違が見られる。
- 10 過去 DEA を適用した高等教育関連の分析では、専門分野を特定して行われたものが多い(経済学部を対象とした Johnes (2005), Johnes & Johnes (1993, 1995), Madden et al (1997), 化学と物理分野を対象とした Beasley (1995), MBA を対象とした Colbert, Levary, & Shaner (2000), Haksever & Muragishi (1998) など)。これは専門分野によって重視する入力・出力項目に相違があったり、同じような入力・出力項目でもその内容や質が異なり一元的に比較することが困難であることが理由である。本稿でもこの点を考慮し、入力変数と出力変数を共通としつつ、実際の分析は人文・社会・教育・総合系の学部と理・工・農・医歯薬の学部に分割して分析している。本来であればこのように専門分野を括って分析しても、まだ異質な学部・専門分野が混在しているという限界はある。これは DEA 分析に必要な最低サンプル数を確保するという技術上の制約である。なお、大学全体を単位として分析している例もある。その場合、どの大学にも共通する入力・出力(学生数, 教員数, 卒業者数, 歳入, 歳出, 学位数など)が用いられている。Avkiran (2001), Taylor & Harris (2004), Feng, Lu, & Bi (2004), Abbot & Doucouliagos (2003) 等を参照。

11 入力，出力の組み合わせは次の通り。

| モデル名 | 入力変数                       | 出力変数                                      |
|------|----------------------------|---|
| モデル1 | 1 入力 (偏差値)                 | 1 出力 (自分の在籍する学部を他人に勤めるか)                  |
| モデル2 | 1 入力 (偏差値)                 | 1 出力 (自分の学部が投資に値するか)                      |
| モデル3 | 1 入力 (高校時代の1日の学習時間)        | 1 出力 (自分の在籍する学部を他人に勤めるか)                  |
| モデル4 | 1 入力 (高校時代の1日の学習時間)        | 1 出力 (自分の学部が投資に値するか)                      |
| モデル5 | 2 入力 (偏差値<br>高校時代の1日の学習時間) | 1 出力 (自分の在籍する学部を他人に勤めるか)                  |
| モデル6 | 2 入力 (偏差値<br>高校時代の1日の学習時間) | 1 出力 (自分の学部が投資に値するか)                      |
| モデル7 | 1 入力 (偏差値)                 | 2 出力 (自分の在籍する学部を他人に勤めるか<br>自分の学部が投資に値するか) |
| モデル8 | 1 入力 (高校時代の1日の学習時間)        | 2 出力 (自分の在籍する学部を他人に勤めるか<br>自分の学部が投資に値するか) |
| モデル9 | 2 入力 (偏差値<br>高校時代の1日の学習時間) | 2 出力 (自分の在籍する学部を他人に勤めるか<br>自分の学部が投資に値するか) |

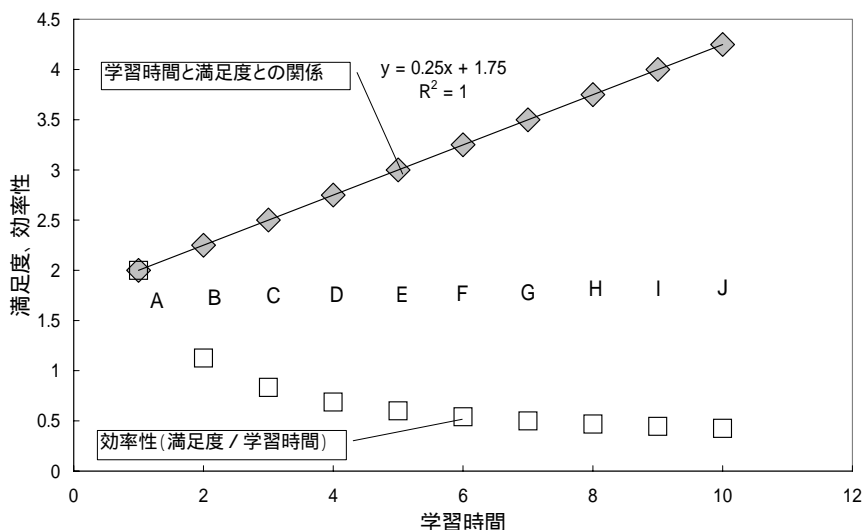
12 「高校3年時の1日の学校外学習時間」はアンケートでは順序変数扱いになっているので次のような変換を行い量的変数扱いにしている(単位=時間)。「まったくしてない」=0, 「30分未満」=0.25, 「30分以上~1時間未満」0.75, 「1時間以上~2時間未満」=1.5, 「2時間以上~3時間未満」=2.5, 「3時間以上~4時間未満」=3.5, 「4時間以上~5時間未満」=4.5, 「5時間以上」=5

13 DMUの概説でも触れたように、DEAでは、入力出力変数の組み合わせや適用される分析のモデルによって内容の異なる複数の最適効率 DMU が見いだされる場合がある。その場合それぞれの DMU の入力出力のウェイトを検討することにより、当該 DMU のどの入力出力に強みや特色があるのかを見いだすことができる。ただし今回のように多くの複数のモデルを検討する場合、個々の DMU の入出力のウェイトを検討するのは煩雑になるので効率値の検討にとどめている。

14 本稿における効率性分析の結果と回帰分析の結果の関係を、例を用い単純化して示すと次のようになる。今 A~J の学部があり、それぞれの高校時代の平均学習時間、平均満足度、効率性 (平均満足度 / 平均学習時間) が以下のようであったとする。

| DMU | 学習時間 | 満足度  | 効率性   |
|-----|------|------|-------|
| A   | 1    | 2    | 2.000 |
| B   | 2    | 2.25 | 1.125 |
| C   | 3    | 2.5  | 0.833 |
| D   | 4    | 2.75 | 0.688 |
| E   | 5    | 3    | 0.600 |
| F   | 6    | 3.25 | 0.542 |
| G   | 7    | 3.5  | 0.500 |
| H   | 8    | 3.75 | 0.469 |
| I   | 9    | 4    | 0.444 |
| J   | 10   | 4.25 | 0.425 |

この状況をグラフにすると次のようになる。このグラフからもわかるように、学習時間と満足度との関係をそのままプロットし俯瞰すれば、それらの関係は正である。すなわち学習時間が増えれば満足度も増えるという関係が見いだされる。ところが学習時間1単位あたりの満足度を算出し、学習時間との関連をみると負の関係になっていることがわかる。



- 15 過去類似の分析をした村澤（2004）においても、高校時代に学習志向の態度を警醒している学生ほど、大学生時代の資質能力形成が進んでいるという結果を導いている。もちろんこれら分析結果を待つまでもなく、高等教育のみならず初等・中等教育を含めた教育効果や学習成果は、アメリカのコールマン・レポートに代表されるように、入学時点の児童・生徒・学生の質に依存するという指摘は以前からある。実証分析がそうした指摘を部分的に裏付け、そこから極端な教育無力論が導かれることもしばしばあった。
- 16 しかし、児童・生徒・学生の能力・力量形成に関する議論では、その伸長度を測定する場合、天井効果が問題とされてきた。つまり、もともと高い資質（学力）を持っている学生は、在学中にその学力や能力の伸びる「余地」が少ないと考えられている。入学時点で質の高い学生を有するような、大学の階層構造上高位に位置する大学・学部は、出力／入力値がこの天井効果のために抑制されてしまい、DEAによる評価の上で不利になってしまうという問題点もある。

## 参考文献

- Abbott, M., & Doucouliagos, C. (2003). The efficiency of Australian universities: A data envelopment analysis, *Economics of Education Review*, 22, 89-97.
- Avkiran, N. K. (2001). Investigating technical and scale efficiencies of Australian universities through data envelopment analysis, *Socio-Economic Planning Sciences*, 35, 57-80.
- 馬場将光 2004, 「大学システムにおけるベンチマーキング」日本教育制度学会編『教育改革への提言集』第3集, 東信堂, 111-120頁。
- Beasley, J. E. (1995). Determining teaching and research efficiencies, *The Journal of the Operational Research Society*, 46(4), 441-452.
- Breu, T. M., & Raab, R. L. (1994). Efficiency and perceived quality of the nation's top 25 national universities and national liberal arts colleges: An application of data envelopment analysis to higher education, *Socio-Economic Planning Sciences*, 28(1), 33-45.
- Charnes, A., Cooper, W. W., Wei, Q., & Huang, Z. (1989). Cone ratio data envelopment analysis and multi-objective programming, *International Journal of Systems Science*, 20, 1099-1118.
- Charnes, A., & Cooper, W. W. (1990). Data envelopment analysis, in Bradley, H. E. (Ed.), *Operational Research '90*. Oxford: Pergamon Press, 641-646.
- Colbert, A., Levary, R. R., & Shaner, M. C. (2000). Determining the relative efficiency of MBA program using DEA, *European Journal of Operational Research*, 125, 656-669.
- Diamond, A. M., & Medewitz, J. N. (1990). Use of data envelopment analysis in an evaluation of the efficiency of the DEEP program for economic education, *The Journal of Economic Education*, 21(3), 337-354.
- El-Mahgary, E., & Ladhdelma, R. (1995). Data envelopment analysis: Visualizing the results, *European Journal of Operational Research*, 85, 700-710.
- Feng, Y. J., Lu, H., & Bi, K. (2004). An AHP/DEA method for measurement of the efficiency of R&D management activities in universities, *International Transactions in Operational Research*, 11, 181-191.
- ハッキング, I. 著, 石原英樹・重田園江訳 1999, 『偶然を飼い慣らす - 統計学と第二次科学革命 - 』 奎鐸社。
- Johnes, G. (1990). Measures of research output: University departments of economics in the UK, 1984-1988, *The Economic Journal*, 100, 556-560.

- Johnes, G. (1993a) *The Economics of Education*, The Macmillan Press LTD.
- Johnes, G., & Johnes, J. (1993). Measuring the research performance of UK economics departments: An application of data envelopment analysis, *Oxford Economic Papers*, 45, 332-347.
- Johnes, J. (2005). Measuring teaching efficiency in higher education: An application of data envelopment analysis to economics graduates from UK universities 1993, *European Journal of Operational Research*, (in press).
- Johnes, J., & Johnes, G. (1995). Research funding and performance in U.K. university department of economics: A frontier analysis, *Economics of Education Review*, 14(3), 301-314.
- Johnes, J., Taylor, J. (1990). *Performance Indicators in Higher Education*, The Society for Research into Higher Education & Open University Press.
- Joumady, O., & Ris, C. (2005). Determining the relative efficiency of European higher education institutions using DEA”, [http://www.egss.ulg.ac.be/economie/ris\\_appc.pdf](http://www.egss.ulg.ac.be/economie/ris_appc.pdf). 1-34.
- ポーター, T. M. 著, 長屋正勝・近 昭夫・木村和範・杉森滉一訳 1995, 『統計学と社会認識 - 統計思想の発展 1820-1900年 - 』 梓出版社。
- 末吉俊幸 2001, 『DEA - 経営効率分析法 - 』 朝倉書店。
- Taylor, B., & Harris, G. (2004). Relative efficiency among South African universities: A data envelopment analysis, *Higher Education*, 47, 73-89.
- 刀根 薫 1993, 『経営効率性の測定と改善 包絡分析法 DEA による』 日科技連。
- Worthington, A. C. (2001). An empirical survey of frontier efficiency measuring techniques in education, *Education Economics*, 9(3), 245-268.



# 資料編

# 1. 調 査 票

## 大学生の教育・学習経験に関する調査

この調査は、文部科学省の21世紀COEプログラム「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」(研究代表者 広島大学・有本章)の助成を受け、あなたが所属する大学の協力を得て、みなさんの教育・学習経験の実態を明らかにすることを目的に実施するものです。調査の結果は、学術的な目的で統計的に処理しますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。よろしくご協力いただきますようお願いします。なお、提出の期限、提出方法につきましては、所属の大学・学部の指示に従ってください。

2004年11月 大学生の教育・学習経験に関する調査担当

広島大学・高等教育研究開発センター・小方直幸

質問は全部で24問、回答に要する時間は約20分です。最後までお答えいただくようお願いします。

所 属 (必ずご記入ください)

大学名 ( )

学部名 ( )

課程・学科・コース名 ( )

現在の学年 (必ず選択してください)

1年生  2年生  3年生  4年生  5年生  6年生

### . 入学時のことについてうかがいます

問1. 現在の大学へは、どのような入試の形態で入学しましたか。あてはまるものを選んでください。

一般入試  センター試験のみを利用する入試  推薦入試  A O入試  その他

問2.現在の大学を受験する際、どの教科・科目が必要でしたか。センター試験とセンター試験以外の別にお答えください。また、受験科目の有無にかかわらず、今の学部で学習をするうえで高校時代に学んでおいた方がよいと思う科目があれば、いくつでも選んでください。

|         | センター試験 | センター試験以外 | 高校で学んでおいた方がよい |
|---------|--------|----------|---------------|
| 国語      | 1      | 1        | 1             |
| 外国語     | 2      | 2        | 2             |
| 数学      | 3      | 3        | 3             |
| 社会      | 4      | 4        | 4             |
| 理科      | 5      | 5        | 5             |
| その他     | 6      | 6        | 6             |
| 受験していない | 7      | 7        |               |

問3.高校3年の時、普段あなたは家庭や塾で1日平均どのくらい学習をしていましたか。あてはまるものを選んでください。

- 1 まったくしていない     
 2 30分未満     
 3 30分以上～1時間未満  
 4 1時間以上～2時間未満     
 5 2時間以上～3時間未満     
 6 3時間以上～4時間未満  
 7 4時間以上～5時間未満     
 8 5時間以上

問4.あなたはどのような学習を期待して現在の大学に入学しましたか。それぞれあてはまるものを選んでください。

|                | 期待せず | あまり期待せず | ある程度期待 | 期待していた |
|----------------|------|---------|--------|--------|
| 授業を通じた学習       | 1    | 2       | 3      | 4      |
| 授業以外の個人的学習     | 1    | 2       | 3      | 4      |
| 将来の職業に役立つ学習    | 1    | 2       | 3      | 4      |
| 自分の興味・関心を満たす学習 | 1    | 2       | 3      | 4      |

問5.あなたは現在の大学に入学が決まった際、どの程度満足していましたか。

- 1 満足していなかった     
 2 あまり満足していなかった     
 3 ある程度満足していた     
 4 満足していた

## . これまでの教育・学習経験についてうかがいます

問6. これまでの大学生活において、以下に挙げる項目を学習する経験はありましたか。授業（予習・復習を含む）についてあてはまるものをそれぞれ一つ選んでください。また、課題や試験、授業とは関係のない個人的学習の各場面については、あてはまるものがあればすべて選んでください。

|                          | ここから1つ選ぶ      |        |       |       | あてはまるものをすべて選ぶ |           |
|--------------------------|---------------|--------|-------|-------|---------------|-----------|
|                          | 授業（予習・復習を含む）で |        |       |       | 課題や試験であった     | 個人的学習であった |
|                          | なかった          | まれにあった | 時々あった | よくあった |               |           |
| 事実や概念をおぼえること             | 1             | 2      | 3     | 4     | 1             | 1         |
| 事実や概念を理解すること             | 1             | 2      | 3     | 4     | 2             | 2         |
| 学んだ内容を別の場面で応用すること        | 1             | 2      | 3     | 4     | 3             | 3         |
| ものごとを要素に分解して相互の関連を分析すること | 1             | 2      | 3     | 4     | 4             | 4         |
| ものごとの優劣や価値を判断すること        | 1             | 2      | 3     | 4     | 5             | 5         |
| 新しいものの見方や考え方を生み出すこと      | 1             | 2      | 3     | 4     | 6             | 6         |
| 実験や実習のための技術を身につけること      | 1             | 2      | 3     | 4     | 7             | 7         |
| 学ぶ知識の意味を現実社会との関わりから考えること | 1             | 2      | 3     | 4     | 8             | 8         |
| 他人の意見を参考にして自分の考えを見直すこと   | 1             | 2      | 3     | 4     | 9             | 9         |
| 自分で問題を発見あるいは設定すること       | 1             | 2      | 3     | 4     | 10            | 10        |
| 設定された問題を自分で解決すること        | 1             | 2      | 3     | 4     | 11            | 11        |
| 社会における自分の位置づけを認識すること     | 1             | 2      | 3     | 4     | 12            | 12        |
| 歴史とのつながりから自分の位置づけを認識すること | 1             | 2      | 3     | 4     | 13            | 13        |
| 自分の考えや学んだことを文章にすること      | 1             | 2      | 3     | 4     | 14            | 14        |
| 自分の考えや学んだことを口頭で発表すること    | 1             | 2      | 3     | 4     | 15            | 15        |
| わからないことについて教員に質問をすること    | 1             | 2      | 3     | 4     | 16            | 16        |

問7. これまでに受けた大学教育全般についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたの印象として最もよくあてはまるものをひとつ選んでください。

|                           | そう<br>思わない | あまりそう<br>思わない | ある程度<br>そう思う | そう思う | わから<br>ない |
|---------------------------|------------|---------------|--------------|------|-----------|
| 教員は学生にわからせるよう工夫している       | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 教員は授業内容に関心をもたせるよう工夫している   | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 教員は授業の準備を十分にしている          | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 教員は授業外でも熱心に指導してくれる        | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 提出物はきちんと返される              | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 返された提出物には十分なコメントがつけられている  | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 成績評価の基準はあらかじめ明確に示されている    | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| よい成績をとるには記憶力が重要だ          | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 成績評価の結果は納得のいくものである        | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 単位をとるためには試験前に勉強するだけで十分だ   | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 授業時間外で取り組む課題（宿題）が出される     | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 発展的な学習につながる授業が行われている      | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 教育課程全体の中での各授業の位置づけが明確だ    | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 卒業するには何をどこまで学べばよいかが示されている | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |
| 授業評価等の調査結果が授業改善に活かされている   | 1          | 2             | 3            | 4    | 5         |

問8. あなたは今年度、授業が行われている期間に、以下の活動に1週間で平均どのくらいの時間を費やしましたか。それぞれあてはまるものを選んでください。

|                             | 0時間 | 1-5 | 6-10 | 11-15 | 16-20 | 21-25 | 26-30 | 31時間<br>以上 |
|-----------------------------|-----|-----|------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 授業の準備のための学習                 | 1   | 2   | 3    | 4     | 5     | 6     | 7     | 8          |
| 卒業研究のための学習<br>(4年生・6年生のみ回答) | 1   | 2   | 3    | 4     | 5     | 6     | 7     | 8          |
| 授業とは関係のない学習                 | 1   | 2   | 3    | 4     | 5     | 6     | 7     | 8          |
| サークル・クラブ活動                  | 1   | 2   | 3    | 4     | 5     | 6     | 7     | 8          |
| アルバイト等の仕事経験                 | 1   | 2   | 3    | 4     | 5     | 6     | 7     | 8          |

問9. あなたは今年度の前学期に、どのくらい本を読みましたか。また、レポートの作成を行いましたか。

| 読書の量                         | 0冊 | 1-5冊 | 6-10冊 | 11-20冊 | 20冊以上 | わからない |
|------------------------------|----|------|-------|--------|-------|-------|
| 授業に関連する図書                    | 1  | 2    | 3     | 4      | 5     | 6     |
| 卒業研究に関連する図書<br>(4年生・6年生のみ回答) | 1  | 2    | 3     | 4      | 5     | 6     |
| その他の一般書や専門書                  | 1  | 2    | 3     | 4      | 5     | 6     |
| レポートの提出                      | 0回 | 1-5回 | 6-10回 | 11-20回 | 20回以上 | わからない |
| 中間・期末レポート                    | 1  | 2    | 3     | 4      | 5     | 6     |
| その他のレポート                     | 1  | 2    | 3     | 4      | 5     | 6     |

問 10 . これまでの大学における学習経験についてそれぞれお答えください。

|                   |                                 |                                |
|-------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 授業の理解度            | 1 ほとんど理解できていない<br>3 ある程度理解できている | 2 あまり理解できていない<br>4 ほとんど理解できている |
| 授業への出席            | 1 ほとんど出席していない<br>3 ある程度出席している   | 2 あまり出席していない<br>4 ほとんど出席している   |
| 成績                | 1 非常によくない<br>3 ある程度よい           | 2 あまりよくない<br>4 非常によい           |
| 自分の興味・関心で選んだ授業の割合 | 全体の ( ) 割くらい                    |                                |

### . これまでの教育・学習経験の成果や評価についてうかがいます

問 11 . 入学時と比較して、以下の能力は授業を通じてどの程度変化したと思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。

|                  | 低下した | 少し低下した | 変わらない | ある程度向上した | 向上した |
|------------------|------|--------|-------|----------|------|
| 記憶力              | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 幅広い視点から考える力      | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 異なる考え方や意見を受け容れる力 | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 簡潔で説得的に書く力       | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 簡潔で説得的に話す力       | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 批判的に考える力         | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 数量的に分析する力        | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 知識を現実と結びつけて考える力  | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 人とは違うことを考える力     | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 主体的に学習する力        | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| グループで作業する力       | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| リーダーシップ          | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |
| 社会や経済の問題についての理解  | 1    | 2      | 3     | 4        | 5    |

問 12 . 現在 4 年生・6 年生の方にうかがいます。専門分野に関する学習の成果について、それぞれお答えください。

|                                | あてはまらない | あまりあてはまらない | ある程度あてはまる | あてはまる |
|--------------------------------|---------|------------|-----------|-------|
| 専門分野に関する基本的知識・概念をおぼえている        | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 専門分野に関する基本的知識・概念を人にわかるように説明できる | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 専門分野に関する知識を使って世の中の出来事を理解できる    | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 専門分野に関する技術を実際の場面で使える           | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 専門分野に関することからの優劣や価値を判断できる       | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 専門分野に関する新しい概念や解釈の仕方を創造できる      | 1       | 2          | 3         | 4     |

問 13 . あなたは以下の点についてどの程度の充実感をお持ちですか。

|             | 充実して<br>いない | あまり充実<br>していない | ある程度充実し<br>ている | 充実している | わからない |
|-------------|-------------|----------------|----------------|--------|-------|
| 授業（教養・共通教育） | 1           | 2              | 3              | 4      | 5     |
| 授業（専門教育）    | 1           | 2              | 3              | 4      | 5     |
| 大学生生活全般     | 1           | 2              | 3              | 4      | 5     |

問 14 . あなたが現在の大学で接してきた友人、教員、職員との関係はどのようなものでしたか。それぞれあてはまるものを選んでください。

| 友人との関係            | 教員との関係             | 事務職員との関係         |
|-------------------|--------------------|------------------|
| 不親切、非協力的で、疎外感を感じた | 対応や助けがなく、思いやりもなかった | 不親切で、融通もきかなかった   |
| 1                 | 1                  | 1                |
| 2                 | 2                  | 2                |
| 3                 | 3                  | 3                |
| 4                 | 4                  | 4                |
| 5                 | 5                  | 5                |
| 親切、協力的で帰属意識がもてた   | よく対応、支援してくれ、同情的だった | 丁寧で、支援してくれ、柔軟だった |

問 15 . あなたは同じ専門分野を学ぼうとしている人に対して、現在所属の学部での学習を勧（すす）めますか。

- ① 勧めない    ② あまり勧めない    ③ ある程度勧める    ④ 勧める    ⑤ わからない

問 16 . あなたは、現在所属の学部での学習が投資（授業料を払う価値のあるもの）に値すると思いますか。

- ① 思わない    ② あまり思わない    ③ ある程度思う    ④ 思う    ⑤ わからない

### ・あなた自身のことについてうかがいます

問 17 . あなたは入学時に将来についてどのように考えていましたか。また現在、どのように考えていますか。それぞれもっともよくあてはまるものを1つ選んでください。

|      | 特に考<br>えて<br>いない | 現在の専門を<br>いかせる就職 | 現在の専門を<br>問わない就職 | 大学院への<br>進学 |
|------|------------------|------------------|------------------|-------------|
| 入学時点 | 1                | 2                | 3                | 4           |
| 現 在  | 1                | 2                | 3                | 4           |

問 18 . 現在4年生・6年生の方にうかがいます。現時点での卒業後の進路について、あてはまるものを1つ選んでください。

- ① 就職が決まっている    ② 進学が決まっている    ③ その他進路が決まっている  
④ なにも決まっていない



問 19 . 以下の項目は、現在のあなたにどの程度あてはまりますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。

|                           | あてはまらない | あまりあてはまらない | ある程度あてはまる | あてはまる |
|---------------------------|---------|------------|-----------|-------|
| 自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 決められたことは守る                | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 疑問点はうやむやにしておきたくない         | 1       | 2          | 3         | 4     |
| わからないことがわかるようになることに喜びを感じる | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 何事にもまんべんなく取り組むことができる      | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ      | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 何事も自分の力でやらないと気がすまない       | 1       | 2          | 3         | 4     |
| なにかあると人に頼られる              | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 物事にねばり強く取り組む              | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 人とは違うことを考えることが好きだ         | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 困難な状況になると、むしろやりがいを感じる     | 1       | 2          | 3         | 4     |
| ものごとを深く考える                | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 自分の意見をはっきりと主張する           | 1       | 2          | 3         | 4     |
| プレッシャーに強い                 | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 計画的に行動する                  | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 物事を始めたら最後までやらないと気がすまない    | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 自分に対して自信をもっている            | 1       | 2          | 3         | 4     |
| 勉強することが好きだ                | 1       | 2          | 3         | 4     |

問 20 . 性 別     1 男     2 女

問 21 . 年 齢    (                    ) 歳

問 22 . 入学年 ( 西暦 )    (                    ) 年

問 23 . 出身高校 ( 回答は任意です )

|      |  |
|------|--|
| 設置形態 | <input type="checkbox"/> 1 国立 <input type="checkbox"/> 2 公立 ( 県立・市立など ) <input type="checkbox"/> 3 私立                        |
|      | <input type="checkbox"/> 4 高専や大検など高校以外 ( 問 24 へお進み下さい )  |
| 出身学科 | <input type="checkbox"/> 1 普通科 <input type="checkbox"/> 2 商業科 <input type="checkbox"/> 3 工業科 <input type="checkbox"/> 4 農業科  |
|      | <input type="checkbox"/> 5 家政科 <input type="checkbox"/> 6 総合学科 <input type="checkbox"/> 7 理数科 <input type="checkbox"/> 8 その他 |

問 24 . 出身都道府県 ( 回答は任意です )

1 大学の所在地と同じ     2 大学の所在地とは別     3 海外



## 2. 基礎集計表

問1 現在の大学へは、どのような入試の形態で入学しましたか、あてはまるものを選んでください。

|            | 学 年    |        |          | 設置者    |          | 分 野           |        |        |           |         |
|------------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|            | 総計     | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
| (N)        | 5361   | 3056   | 2305 *** | 3233   | 2128 *** | 1204          | 716    | 1643   | 1514      | 284 *** |
| 1 一般入試     | 64.4%  | 65.2%  | 63.4%    | 79.2%  | 42.0%    | 59.0%         | 83.4%  | 53.4%  | 69.8%     | 74.6%   |
| 2 センター試験のみ | 3.8%   | 4.1%   | 3.4%     | 2.3%   | 6.2%     | 4.8%          | 1.3%   | 4.4%   | 4.3%      | 0.4%    |
| 3 推薦入試     | 24.1%  | 24.5%  | 23.7%    | 14.8%  | 38.3%    | 26.0%         | 14.4%  | 31.2%  | 20.5%     | 19.0%   |
| 4 AO入試     | 3.7%   | 4.3%   | 2.9%     | 0.6%   | 8.3%     | 6.7%          | 0.4%   | 4.1%   | 2.6%      | 0.7%    |
| 5 その他      | 4.0%   | 2.0%   | 3.6%     | 3.1%   | 5.3%     | 3.5%          | 0.6%   | 6.8%   | 2.6%      | 5.3%    |
| 計          | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

問2 現在の大学を受験する際、どの教科・科目が必要でしたか、センター試験とセンター試験以外の別にお答えください、また、受験科目の有無にかかわらず、今の学部で学習をするうえで高校時代に学んでいた方がよいと思う科目があれば、いくつでも選んでください。

|              | 学 年   |       |           | 設置者   |           | 分 野           |       |       |           |           |     |
|--------------|-------|-------|-----------|-------|-----------|---------------|-------|-------|-----------|-----------|-----|
|              | 総計    | 1年    | 4年以上      | 国立    | 私立        | 人文系<br>(教育除く) | 教育系   | 社会系   | 自然<br>科学系 | 保健系       |     |
| センター試験       | (N)   | 5381  | 3067      | 2314  | 3234      | 2149          | 1220  | 716   | 1649      | 1514      | 284 |
| 1 国語         | 62.0% | 64.5% | 58.6% *** | 86.1% | 25.6% *** | 43.2%         | 90.1% | 46.9% | 75.5%     | 87.0% *** |     |
| 2 外国語        | 64.1% | 66.4% | 60.9% *** | 88.2% | 27.6% *** | 43.5%         | 89.4% | 48.8% | 80.5%     | 88.7% *** |     |
| 3 数学         | 58.1% | 59.3% | 56.5% **  | 87.0% | 14.6% *** | 30.7%         | 86.3% | 40.1% | 80.8%     | 87.7% *** |     |
| 4 社会         | 56.9% | 60.1% | 52.6% *** | 82.1% | 18.9% *** | 36.0%         | 86.9% | 44.3% | 68.4%     | 82.4% *** |     |
| 5 理科         | 55.7% | 56.6% | 54.4%     | 85.7% | 10.3% *** | 27.1%         | 84.4% | 36.4% | 79.9%     | 88.0% *** |     |
| 6 その他        | 3.9%  | 4.6%  | 3.1% **   | 4.6%  | 2.9% **   | 2.5%          | 4.7%  | 4.0%  | 4.8%      | 2.8% **   |     |
| 7 受験していない    | 23.6% | 23.5% | 23.8%     | 10.7% | 43.2% *** | 30.4%         | 9.1%  | 31.8% | 18.6%     | 11.3% *** |     |
| センター試験以外     | (N)   | 5381  | 3067      | 2314  | 3234      | 2149          | 1220  | 716   | 1649      | 1514      | 284 |
| 1 国語         | 31.4% | 32.6% | 29.8% *   | 23.9% | 42.7% *** | 56.4%         | 31.7% | 41.2% | 3.8%      | 13.4% *** |     |
| 2 外国語        | 43.7% | 43.8% | 43.4%     | 42.2% | 45.8% **  | 64.8%         | 25.6% | 49.0% | 24.8%     | 68.0% *** |     |
| 3 数学         | 35.0% | 35.7% | 34.2%     | 47.9% | 15.7% *** | 12.4%         | 29.5% | 28.5% | 61.8%     | 41.5% *** |     |
| 4 社会         | 13.4% | 13.7% | 13.0%     | 7.1%  | 22.9% *** | 27.0%         | 1.8%  | 20.7% | 2.3%      | 1.4% ***  |     |
| 5 理科         | 22.4% | 22.0% | 23.0%     | 34.2% | 4.7% ***  | 2.8%          | 12.6% | 2.7%  | 63.1%     | 29.6% *** |     |
| 6 その他        | 19.7% | 18.7% | 20.9% *   | 23.7% | 13.6% *** | 17.7%         | 38.1% | 16.9% | 13.8%     | 28.9% *** |     |
| 7 受験していない    | 15.6% | 15.9% | 15.2%     | 9.6%  | 24.7% *** | 14.4%         | 7.7%  | 22.8% | 14.1%     | 7.0% ***  |     |
| 高校で学んでいた方がよい | (N)   | 5381  | 3067      | 2314  | 3234      | 2149          | 1220  | 716   | 1649      | 1514      | 284 |
| 1 国語         | 52.3% | 52.1% | 52.6%     | 51.6% | 53.4% *** | 64.2%         | 64.8% | 52.0% | 37.3%     | 51.8% *** |     |
| 2 外国語        | 79.2% | 81.0% | 76.8% *** | 86.2% | 68.5% *** | 76.8%         | 85.9% | 71.7% | 84.1%     | 89.1% *** |     |
| 3 数学         | 58.3% | 58.9% | 57.4%     | 72.3% | 37.1% *** | 39.8%         | 61.7% | 47.9% | 81.4%     | 65.8% *** |     |
| 4 社会         | 47.9% | 48.4% | 47.1%     | 50.9% | 43.3% *** | 54.8%         | 59.4% | 49.5% | 34.5%     | 50.7% *** |     |
| 5 理科         | 46.3% | 46.4% | 46.2%     | 62.1% | 22.6% *** | 29.6%         | 51.4% | 25.2% | 74.0%     | 80.3% *** |     |
| 6 その他        | 19.5% | 19.6% | 19.4%     | 21.7% | 16.1% *** | 18.4%         | 30.0% | 17.5% | 17.2%     | 20.8% *** |     |

問3 高校3年の時、普段あなたは家庭や塾で1日平均どのくらい学習をしていましたか、あてはまるものを選んでください。

|             | 学 年    |        |          | 設置者    |          | 分 野           |        |        |           |         |
|-------------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|             | 総計     | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
| (N)         | 5365   | 3059   | 2306 *** | 3234   | 2133 *** | 1214          | 716    | 1639   | 1514      | 284 *** |
| 1 まったくしていない | 9.4%   | 9.7%   | 9.0%     | 3.8%   | 18.0%    | 9.2%          | 3.4%   | 15.0%  | 7.8%      | 1.8%    |
| 2 30分未満     | 7.1%   | 7.4%   | 6.6%     | 5.0%   | 10.2%    | 7.2%          | 3.5%   | 8.8%   | 7.3%      | 3.5%    |
| 3 30分～1時間   | 10.3%  | 9.9%   | 10.8%    | 8.8%   | 12.5%    | 8.8%          | 8.1%   | 11.7%  | 11.6%     | 7.0%    |
| 4 1時間～2時間   | 15.6%  | 14.3%  | 17.3%    | 15.1%  | 16.4%    | 16.2%         | 15.4%  | 14.9%  | 16.4%     | 12.7%   |
| 5 2時間～3時間   | 19.7%  | 18.8%  | 20.8%    | 20.3%  | 18.7%    | 22.7%         | 20.4%  | 18.2%  | 18.8%     | 18.3%   |
| 6 3時間～4時間   | 16.6%  | 16.6%  | 16.6%    | 19.9%  | 11.5%    | 16.1%         | 20.7%  | 13.3%  | 17.8%     | 20.4%   |
| 7 4時間～5時間   | 10.6%  | 11.6%  | 9.3%     | 12.8%  | 7.3%     | 11.3%         | 12.3%  | 8.6%   | 10.0%     | 18.0%   |
| 8 5時間以上     | 10.9%  | 11.8%  | 9.6%     | 14.4%  | 5.5%     | 8.4%          | 16.3%  | 9.4%   | 10.4%     | 18.3%   |
| 計           | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

問4 あなたはどのような学習を期待して現在の大学に入学しましたか、それぞれあてはまるものを選んでください。

|               | 学 年    |        |        | 設置者      |        | 分 野           |        |        |           |        |          |
|---------------|--------|--------|--------|----------|--------|---------------|--------|--------|-----------|--------|----------|
|               | 総計     | 1年     | 4年以上   | 国立       | 私立     | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系    |          |
| 授業を通じた学習      | (N)    | 5329   | 3043   | 2286 *** | 3231   | 2100 ***      | 1198   | 714    | 1621      | 1514   | 284 ***  |
| 1 期待せず        | 5.0%   | 5.0%   | 5.0%   | 4.4%     | 6.0%   | 4.3%          | 3.6%   | 6.0%   | 5.2%      | 4.9%   |          |
| 2 あまり期待せず     | 14.8%  | 16.0%  | 13.3%  | 13.1%    | 17.4%  | 14.1%         | 11.8%  | 17.0%  | 15.6%     | 9.2%   |          |
| 3 ある程度期待      | 52.4%  | 53.0%  | 51.5%  | 51.7%    | 53.5%  | 50.6%         | 53.8%  | 52.3%  | 53.7%     | 49.6%  |          |
| 4 期待していた      | 27.8%  | 26.0%  | 30.2%  | 30.8%    | 23.1%  | 31.1%         | 30.8%  | 24.7%  | 25.6%     | 36.3%  |          |
| 計             | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |          |
| 授業以外の個人的学習    | (N)    | 5323   | 3041   | 2282     | 3229   | 2096 **       | 1197   | 714    | 1617      | 1514   | 283 **   |
| 1 期待せず        | 9.6%   | 9.3%   | 10.0%  | 9.1%     | 10.4%  | 9.0%          | 8.0%   | 10.1%  | 10.2%     | 10.2%  |          |
| 2 あまり期待せず     | 33.8%  | 33.2%  | 34.5%  | 33.0%    | 34.9%  | 34.1%         | 30.7%  | 31.8%  | 37.4%     | 32.2%  |          |
| 3 ある程度期待      | 41.9%  | 43.0%  | 40.4%  | 41.8%    | 41.9%  | 42.9%         | 43.7%  | 42.6%  | 39.8%     | 39.6%  |          |
| 4 期待していた      | 14.8%  | 14.5%  | 15.1%  | 16.0%    | 12.8%  | 14.0%         | 17.6%  | 15.5%  | 12.7%     | 18.0%  |          |
| 計             | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |          |
| 将来の職業に役立つ学習   | (N)    | 5345   | 3050   | 2295 **  | 3230   | 2117 ***      | 714    | 1628   | 1514      | 284    | 5347 *** |
| 1 期待せず        | 4.6%   | 4.1%   | 5.2%   | 4.5%     | 4.6%   | 5.6%          | 2.9%   | 4.9%   | 4.6%      | 2.1%   |          |
| 2 あまり期待せず     | 9.7%   | 8.8%   | 10.9%  | 9.0%     | 10.7%  | 14.7%         | 7.1%   | 9.4%   | 8.7%      | 1.4%   |          |
| 3 ある程度期待      | 31.2%  | 31.1%  | 31.3%  | 29.5%    | 33.8%  | 33.0%         | 21.7%  | 35.5%  | 33.2%     | 12.3%  |          |
| 4 期待していた      | 54.6%  | 56.1%  | 52.6%  | 57.0%    | 50.8%  | 46.6%         | 68.2%  | 50.2%  | 53.6%     | 84.2%  |          |
| 計             | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |          |
| 自分の興味関心を満たす学習 | (N)    | 5331   | 3044   | 2287 **  | 3230   | 2103 ***      | 1201   | 714    | 1620      | 1514   | 284 ***  |
| 1 期待せず        | 3.2%   | 3.8%   | 2.5%   | 2.7%     | 4.1%   | 2.2%          | 2.2%   | 4.8%   | 2.6%      | 4.6%   |          |
| 2 あまり期待せず     | 7.0%   | 7.8%   | 5.9%   | 5.2%     | 9.8%   | 6.7%          | 4.5%   | 9.8%   | 5.7%      | 6.0%   |          |
| 3 ある程度期待      | 31.7%  | 31.4%  | 32.1%  | 28.1%    | 37.3%  | 32.0%         | 24.1%  | 37.5%  | 29.9%     | 27.1%  |          |
| 4 期待していた      | 58.0%  | 56.9%  | 59.4%  | 64.0%    | 48.7%  | 59.0%         | 69.2%  | 48.0%  | 61.8%     | 62.3%  |          |
| 計             | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |          |

問5 あなたは現在の大学に入学が決まった際、どの程度満足していましたか。

|                | 学 年    |        |         | 設置者    |          | 分 野           |        |        |           |         |
|----------------|--------|--------|---------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|                | 総計     | 1年     | 4年以上    | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
| (N)            | 5371   | 3063   | 2308 ** | 3233   | 2140 *** | 1214          | 716    | 1645   | 1514      | 284 *** |
| 1 満足していなかった    | 7.7%   | 8.0%   | 7.2%    | 7.2%   | 8.3%     | 9.0%          | 5.4%   | 6.8%   | 8.7%      | 7.0%    |
| 2 あまり満足していなかった | 14.7%  | 16.1%  | 12.9%   | 11.9%  | 19.0%    | 17.2%         | 12.2%  | 14.5%  | 15.5%     | 7.7%    |
| 3 ある程度満足していた   | 38.7%  | 37.3%  | 40.7%   | 34.0%  | 45.9%    | 40.2%         | 30.9%  | 42.0%  | 39.7%     | 28.2%   |
| 4 満足していた       | 38.9%  | 38.6%  | 39.3%   | 46.9%  | 26.8%    | 33.6%         | 51.5%  | 36.7%  | 36.1%     | 57.0%   |
| 計              | 100.0% | 100.0% | 100.0%  | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

問6 これまでの大学生活において、以下に挙げる項目を学習する経験はありましたか。授業(予習・復習を含む)についてあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。また、課題や試験、授業とは関係のない個人的学習の各場面については、あてはまるものがあればすべて選んでください。

|                          | 学 年    |        |        | 設置者      |        | 分 野           |        |        |           |        |         |
|--------------------------|--------|--------|--------|----------|--------|---------------|--------|--------|-----------|--------|---------|
|                          | 総計     | 1年     | 4年以上   | 国立       | 私立     | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系    |         |
| 事実や概念をおぼえること             | (N)    | 5345   | 3045   | 2300 *** | 3230   | 2117 ***      | 1208   | 716    | 1626      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 4.4%   | 5.5%   | 2.9%   | 3.0%     | 6.5%   | 4.0%          | 2.2%   | 6.2%   | 4.1%      | 2.8%   |         |
| 2 まれにあった                 | 21.3%  | 24.0%  | 17.7%  | 18.0%    | 26.2%  | 20.9%         | 21.6%  | 24.0%  | 19.7%     | 14.5%  |         |
| 3 時々あった                  | 42.1%  | 42.9%  | 41.1%  | 40.8%    | 44.1%  | 42.7%         | 46.5%  | 42.7%  | 40.4%     | 34.6%  |         |
| 4 よくあった                  | 32.2%  | 27.7%  | 38.3%  | 38.1%    | 23.2%  | 32.4%         | 29.6%  | 27.1%  | 35.7%     | 48.4%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 事実や概念を理解すること             | (N)    | 5345   | 3046   | 2299 *** | 3230   | 2117 ***      | 1208   | 716    | 1626      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 3.6%   | 4.4%   | 2.2%   | 2.4%     | 5.4%   | 3.2%          | 1.5%   | 5.0%   | 3.3%      | 3.2%   |         |
| 2 まれにあった                 | 19.0%  | 22.2%  | 14.8%  | 14.7%    | 25.6%  | 18.7%         | 16.2%  | 22.9%  | 17.6%     | 12.7%  |         |
| 3 時々あった                  | 39.3%  | 40.5%  | 37.7%  | 36.9%    | 43.0%  | 40.1%         | 40.4%  | 41.0%  | 37.1%     | 36.0%  |         |
| 4 よくあった                  | 38.1%  | 32.8%  | 45.1%  | 46.0%    | 26.0%  | 38.0%         | 41.9%  | 31.0%  | 42.0%     | 48.1%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 学んだ内容を別の場面で応用すること        | (N)    | 5334   | 3045   | 2289 *** | 3228   | 2108 ***      | 1207   | 715    | 1617      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 13.6%  | 17.1%  | 8.9%   | 13.4%    | 14.0%  | 13.3%         | 9.5%   | 15.9%  | 13.1%     | 14.5%  |         |
| 2 まれにあった                 | 35.5%  | 37.9%  | 32.3%  | 34.4%    | 37.2%  | 36.3%         | 34.3%  | 37.3%  | 34.2%     | 32.2%  |         |
| 3 時々あった                  | 36.4%  | 33.5%  | 40.4%  | 35.8%    | 37.3%  | 37.0%         | 40.0%  | 35.0%  | 37.7%     | 25.8%  |         |
| 4 よくあった                  | 14.5%  | 11.5%  | 18.4%  | 16.4%    | 11.5%  | 13.3%         | 16.2%  | 11.8%  | 14.9%     | 27.6%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| ものごとを要素に分解して相互の関連を分析すること | (N)    | 5336   | 3048   | 2288 *** | 3228   | 2110 ***      | 1207   | 715    | 1619      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 18.6%  | 21.9%  | 14.3%  | 18.2%    | 19.4%  | 20.1%         | 18.9%  | 19.4%  | 16.3%     | 20.1%  |         |
| 2 まれにあった                 | 38.9%  | 40.3%  | 37.1%  | 37.0%    | 41.9%  | 40.6%         | 43.6%  | 39.3%  | 36.2%     | 32.2%  |         |
| 3 時々あった                  | 31.7%  | 30.3%  | 33.5%  | 32.3%    | 30.8%  | 29.8%         | 29.2%  | 32.0%  | 35.1%     | 25.4%  |         |
| 4 よくあった                  | 10.8%  | 7.5%   | 15.1%  | 12.5%    | 7.9%   | 9.4%          | 8.3%   | 9.3%   | 12.4%     | 22.3%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| ものごとの優劣や価値を判断すること        | (N)    | 5327   | 3039   | 2288 *** | 3225   | 2104 ***      | 1204   | 714    | 1614      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 21.6%  | 24.4%  | 18.0%  | 23.1%    | 19.3%  | 22.9%         | 22.0%  | 17.8%  | 23.3%     | 27.6%  |         |
| 2 まれにあった                 | 37.2%  | 36.9%  | 37.5%  | 37.2%    | 37.3%  | 39.3%         | 38.1%  | 34.4%  | 39.2%     | 31.4%  |         |
| 3 時々あった                  | 31.1%  | 30.1%  | 32.4%  | 29.3%    | 33.8%  | 28.2%         | 31.1%  | 35.0%  | 29.9%     | 27.2%  |         |
| 4 よくあった                  | 10.1%  | 8.6%   | 12.1%  | 10.4%    | 9.6%   | 9.6%          | 8.8%   | 12.7%  | 7.7%      | 13.8%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 新しいものの方見方や考え方を生み出すこと     | (N)    | 5333   | 3036   | 2297 *** | 3226   | 2109 ***      | 1208   | 714    | 1616      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 11.6%  | 12.7%  | 10.3%  | 13.1%    | 9.3%   | 7.8%          | 10.2%  | 12.7%  | 13.5%     | 15.2%  |         |
| 2 まれにあった                 | 29.5%  | 30.3%  | 28.5%  | 29.6%    | 29.4%  | 27.6%         | 22.5%  | 30.7%  | 32.3%     | 33.6%  |         |
| 3 時々あった                  | 36.6%  | 36.9%  | 36.4%  | 35.8%    | 37.8%  | 33.9%         | 41.2%  | 36.6%  | 37.6%     | 31.4%  |         |
| 4 よくあった                  | 22.2%  | 20.2%  | 24.9%  | 21.4%    | 23.5%  | 30.7%         | 26.1%  | 20.0%  | 16.5%     | 19.8%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 実験や実習のための技術を身につけること      | (N)    | 5342   | 3046   | 2296 *** | 3230   | 2114 ***      | 1209   | 716    | 1622      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 24.6%  | 28.8%  | 19.0%  | 24.4%    | 24.9%  | 30.1%         | 20.9%  | 37.1%  | 10.7%     | 12.7%  |         |
| 2 まれにあった                 | 24.9%  | 26.8%  | 22.4%  | 22.8%    | 28.1%  | 25.9%         | 24.3%  | 28.2%  | 22.0%     | 19.4%  |         |
| 3 時々あった                  | 28.5%  | 28.1%  | 29.0%  | 27.7%    | 29.7%  | 26.5%         | 28.2%  | 23.3%  | 35.4%     | 30.0%  |         |
| 4 よくあった                  | 22.0%  | 16.3%  | 29.6%  | 25.1%    | 17.3%  | 17.5%         | 26.5%  | 11.4%  | 31.9%     | 37.8%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 学ぶ知識の意味を現実社会との関わりから考えること | (N)    | 5336   | 3043   | 2293 *** | 3228   | 2110 ***      | 1205   | 715    | 1621      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 15.4%  | 17.0%  | 13.2%  | 17.7%    | 11.8%  | 12.4%         | 17.5%  | 12.2%  | 20.0%     | 16.3%  |         |
| 2 まれにあった                 | 34.9%  | 36.5%  | 32.6%  | 35.7%    | 33.6%  | 33.4%         | 33.6%  | 30.5%  | 41.7%     | 32.9%  |         |
| 3 時々あった                  | 33.6%  | 32.6%  | 34.8%  | 30.9%    | 37.6%  | 34.4%         | 33.0%  | 38.5%  | 28.4%     | 30.7%  |         |
| 4 よくあった                  | 16.2%  | 13.8%  | 19.3%  | 15.6%    | 17.0%  | 19.7%         | 15.9%  | 18.9%  | 9.9%      | 20.1%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 他人の意見を参考にして自分の考えを見直すこと   | (N)    | 5338   | 3045   | 2293 *** | 3227   | 2113          | 1208   | 715    | 1620      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 9.3%   | 10.8%  | 7.3%   | 9.9%     | 8.4%   | 5.9%          | 5.9%   | 10.9%  | 12.1%     | 8.5%   |         |
| 2 まれにあった                 | 26.8%  | 28.8%  | 24.2%  | 26.7%    | 27.0%  | 22.7%         | 20.3%  | 27.2%  | 32.9%     | 26.1%  |         |
| 3 時々あった                  | 39.4%  | 39.4%  | 39.4%  | 39.0%    | 40.0%  | 39.5%         | 42.9%  | 39.6%  | 37.5%     | 38.9%  |         |
| 4 よくあった                  | 24.5%  | 21.0%  | 29.2%  | 24.5%    | 24.6%  | 32.0%         | 30.9%  | 22.3%  | 17.5%     | 26.5%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 自分で問題を発見あるいは設定すること       | (N)    | 5330   | 3037   | 2293 *** | 3226   | 2106 ***      | 1204   | 714    | 1617      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 16.2%  | 20.0%  | 11.2%  | 16.6%    | 15.7%  | 14.0%         | 10.1%  | 17.4%  | 19.5%     | 17.3%  |         |
| 2 まれにあった                 | 37.6%  | 39.3%  | 35.4%  | 37.7%    | 37.4%  | 34.3%         | 35.3%  | 36.4%  | 42.5%     | 38.2%  |         |
| 3 時々あった                  | 32.3%  | 30.1%  | 35.2%  | 30.3%    | 35.4%  | 35.1%         | 36.0%  | 33.7%  | 27.8%     | 26.5%  |         |
| 4 よくあった                  | 13.9%  | 10.6%  | 18.2%  | 15.4%    | 11.5%  | 16.5%         | 18.6%  | 12.5%  | 10.2%     | 18.0%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 設定された問題を自分で解決すること        | (N)    | 5336   | 3044   | 2292 *** | 3228   | 2110 ***      | 1207   | 716    | 1618      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 7.5%   | 9.4%   | 5.0%   | 6.8%     | 8.6%   | 7.4%          | 4.9%   | 10.1%  | 6.3%      | 6.0%   |         |
| 2 まれにあった                 | 27.8%  | 29.5%  | 25.4%  | 25.2%    | 31.7%  | 29.9%         | 26.4%  | 30.2%  | 24.8%     | 23.3%  |         |
| 3 時々あった                  | 40.2%  | 38.6%  | 42.4%  | 40.0%    | 40.7%  | 41.0%         | 41.5%  | 39.8%  | 39.5%     | 40.6%  |         |
| 4 よくあった                  | 24.5%  | 22.4%  | 27.3%  | 28.1%    | 19.0%  | 21.7%         | 27.2%  | 19.9%  | 29.3%     | 30.0%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |
| 社会における自分の位置づけを認識すること     | (N)    | 5332   | 3040   | 2292 *** | 3228   | 2106 ***      | 1205   | 715    | 1617      | 1514   | 283 *** |
| 1 なかった                   | 31.0%  | 32.9%  | 28.5%  | 35.3%    | 24.5%  | 27.1%         | 28.8%  | 28.8%  | 38.2%     | 27.6%  |         |
| 2 まれにあった                 | 36.7%  | 37.1%  | 36.2%  | 36.4%    | 37.2%  | 38.5%         | 41.0%  | 33.7%  | 36.3%     | 37.5%  |         |
| 3 時々あった                  | 23.4%  | 22.6%  | 24.3%  | 20.0%    | 28.5%  | 23.8%         | 22.0%  | 27.8%  | 19.4%     | 21.6%  |         |
| 4 よくあった                  | 8.9%   | 7.4%   | 11.0%  | 8.3%     | 9.9%   | 10.6%         | 8.3%   | 9.7%   | 6.2%      | 13.4%  |         |
| 計                        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% |         |

|                                 | 総計     | 学 年    |           | 設置者    |           | 分 野           |        |        |           |           |
|---------------------------------|--------|--------|-----------|--------|-----------|---------------|--------|--------|-----------|-----------|
|                                 |        | 1年     | 4年以上      | 国立     | 私立        | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系       |
| 歴史とのつながりから自分の位置づけを認識すること<br>(N) | 5336   | 3043   | 2293 *    | 3229   | 2109 ***  | 1205          | 716    | 1620   | 1514      | 283 ***   |
| 1 なかった                          | 49.2%  | 50.7%  | 47.1%     | 55.6%  | 39.4%     | 42.7%         | 48.3%  | 42.2%  | 60.4%     | 58.0%     |
| 2 まれにあった                        | 32.0%  | 30.9%  | 33.3%     | 29.8%  | 35.2%     | 34.6%         | 36.6%  | 32.3%  | 27.4%     | 30.7%     |
| 3 時々あった                         | 14.7%  | 14.6%  | 15.0%     | 11.4%  | 19.8%     | 16.7%         | 12.0%  | 20.0%  | 9.9%      | 8.8%      |
| 4 よくあった                         | 4.2%   | 3.8%   | 4.7%      | 3.3%   | 6.6%      | 6.0%          | 3.1%   | 5.4%   | 2.2%      | 2.5%      |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%    | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%    |
| 自分の考えや学んだことを文章にすること<br>(N)      | 5337   | 3041   | 2296 ***  | 3224   | 2115 **   | 1211          | 713    | 1618   | 1514      | 283 ***   |
| 1 なかった                          | 6.4%   | 7.9%   | 4.4%      | 6.0%   | 7.0%      | 4.0%          | 2.4%   | 7.6%   | 9.4%      | 4.2%      |
| 2 まれにあった                        | 20.7%  | 21.9%  | 19.1%     | 20.6%  | 20.9%     | 14.4%         | 12.8%  | 22.9%  | 27.9%     | 17.0%     |
| 3 時々あった                         | 36.0%  | 36.7%  | 35.1%     | 34.7%  | 38.0%     | 33.0%         | 32.3%  | 39.4%  | 36.9%     | 33.6%     |
| 4 よくあった                         | 36.9%  | 33.4%  | 41.5%     | 38.7%  | 34.1%     | 48.6%         | 52.6%  | 30.1%  | 25.8%     | 45.2%     |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%    | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%    |
| 自分の考えや学んだことを口頭で発表すること<br>(N)    | 5344   | 3047   | 2297 ***  | 3229   | 2117      | 1213          | 716    | 1620   | 1514      | 283 ***   |
| 1 なかった                          | 17.0%  | 22.8%  | 9.1%      | 15.9%  | 18.5%     | 15.9%         | 9.1%   | 18.2%  | 19.7%     | 19.1%     |
| 2 まれにあった                        | 36.0%  | 38.4%  | 32.7%     | 36.4%  | 35.3%     | 30.9%         | 33.2%  | 35.7%  | 42.4%     | 32.2%     |
| 3 時々あった                         | 32.2%  | 28.5%  | 37.2%     | 32.5%  | 31.8%     | 32.7%         | 38.4%  | 32.2%  | 29.5%     | 29.0%     |
| 4 よくあった                         | 14.9%  | 10.3%  | 20.9%     | 15.2%  | 14.4%     | 20.4%         | 19.3%  | 14.0%  | 8.3%      | 19.8%     |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%    | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%    |
| わからないことについて教員に質問をすること<br>(N)    | 5351   | 3051   | 2300 ***  | 3230   | 2123 ***  | 1211          | 716    | 1629   | 1514      | 283 ***   |
| 1 なかった                          | 18.0%  | 24.0%  | 10.0%     | 18.9%  | 16.7%     | 14.4%         | 17.0%  | 21.6%  | 16.3%     | 24.0%     |
| 2 まれにあった                        | 38.5%  | 39.9%  | 36.6%     | 40.0%  | 36.3%     | 38.9%         | 39.1%  | 35.9%  | 41.4%     | 34.6%     |
| 3 時々あった                         | 30.3%  | 26.4%  | 35.4%     | 28.3%  | 33.3%     | 33.4%         | 30.3%  | 29.5%  | 29.4%     | 25.1%     |
| 4 よくあった                         | 13.3%  | 9.7%   | 18.0%     | 12.9%  | 13.8%     | 13.3%         | 13.5%  | 13.0%  | 12.9%     | 16.3%     |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%    | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%    |
| 課題や試験であった(あてはまる者のみ)<br>(N)      | 5380   | 3066   | 2314      | 3234   | 2148      | 1220          | 716    | 1648   | 1514      | 284       |
| 1 事実や概念をおぼえること                  | 74.5%  | 71.7%  | 78.2% *** | 84.2%  | 60.0% *** | 70.2%         | 84.8%  | 63.8%  | 81.9%     | 90.1% *** |
| 2 事実や概念を理解すること                  | 68.5%  | 65.8%  | 72.0% *** | 78.1%  | 53.9% *** | 63.9%         | 76.3%  | 58.5%  | 76.1%     | 85.9% *** |
| 3 学んだ内容を別の場面で応用すること             | 40.6%  | 39.6%  | 42.0%     | 44.0%  | 35.5% **  | 37.4%         | 42.3%  | 34.3%  | 48.2%     | 46.5% *** |
| 4 ものごとを要素に分解して相互の関連を分析すること      | 41.5%  | 39.0%  | 44.9% *** | 44.9%  | 36.5% *** | 38.5%         | 42.7%  | 36.5%  | 47.9%     | 47.2% *** |
| 5 ものごとへの優劣や価値を判断すること            | 31.0%  | 28.9%  | 33.8% *** | 31.9%  | 29.6% *   | 29.0%         | 31.0%  | 32.5%  | 30.4%     | 34.5%     |
| 6 新しいもの見方や考え方を生み出すこと            | 38.6%  | 37.7%  | 39.6%     | 39.6%  | 36.9% *   | 39.8%         | 43.2%  | 34.4%  | 40.5%     | 35.6% *** |
| 7 実験や実習のための技術を身につけること           | 47.6%  | 42.3%  | 54.6% *** | 52.8%  | 39.6% *** | 38.2%         | 52.7%  | 32.8%  | 65.0%     | 67.6% *** |
| 8 学ぶ知識の意味を現実社会との関わりから考えること      | 35.3%  | 35.0%  | 35.6%     | 35.1%  | 35.5%     | 37.1%         | 36.3%  | 35.0%  | 33.2%     | 37.3% **  |
| 9 他人の意見を参考にして自分の考えを見直すこと        | 37.6%  | 36.1%  | 39.6% **  | 39.1%  | 35.4% **  | 40.0%         | 40.1%  | 34.4%  | 37.3%     | 41.5% **  |
| 10 自分で問題を発見あるいは設定すること           | 38.7%  | 36.0%  | 42.2% *** | 41.9%  | 33.8% **  | 37.5%         | 48.6%  | 35.7%  | 38.0%     | 39.1% *** |
| 11 設定された問題を自分で解決すること            | 54.0%  | 51.3%  | 57.5% *** | 60.5%  | 44.1% **  | 50.3%         | 59.5%  | 46.4%  | 61.7%     | 58.5% *** |
| 12 社会における自分の位置づけを認識すること         | 24.1%  | 24.8%  | 23.1%     | 23.1%  | 25.6% *   | 24.5%         | 22.6%  | 23.0%  | 24.4%     | 30.3% **  |
| 13 歴史とのつながりから自分の位置づけを認識すること     | 23.7%  | 24.1%  | 23.2%     | 21.2%  | 27.5% *** | 25.8%         | 21.9%  | 25.2%  | 21.4%     | 23.2% **  |
| 14 自分の考えや学んだことを文章にすること          | 71.2%  | 68.8%  | 74.3% *** | 76.9%  | 62.5% **  | 72.7%         | 84.1%  | 63.3%  | 70.7%     | 79.9% *** |
| 15 自分の考えや学んだことを口頭で発表すること        | 54.8%  | 50.0%  | 61.2% *** | 59.9%  | 47.1% **  | 54.3%         | 64.9%  | 47.0%  | 57.7%     | 60.6% *** |
| 16 わからないことについて教員に質問をすること        | 39.9%  | 35.7%  | 45.4% *** | 40.8%  | 38.5%     | 38.3%         | 40.9%  | 36.0%  | 45.4%     | 37.7% *** |
| 個人の学習であった(あてはまる者のみ)<br>(N)      | 5380   | 3066   | 2314      | 3234   | 2148      | 1220          | 716    | 1648   | 1514      | 284       |
| 1 事実や概念をおぼえること                  | 35.9%  | 34.1%  | 38.3% **  | 42.0%  | 26.9% *** | 30.1%         | 38.0%  | 32.5%  | 41.7%     | 45.4% *** |
| 2 事実や概念を理解すること                  | 43.5%  | 41.2%  | 46.5% *** | 52.0%  | 30.7% *** | 36.2%         | 50.0%  | 36.9%  | 51.5%     | 53.9% *** |
| 3 学んだ内容を別の場面で応用すること             | 42.1%  | 37.2%  | 48.6% *** | 46.3%  | 35.9% **  | 41.1%         | 53.6%  | 36.1%  | 43.4%     | 45.4% *** |
| 4 ものごとを要素に分解して相互の関連を分析すること      | 26.0%  | 23.8%  | 28.9% *** | 28.6%  | 22.1% **  | 23.0%         | 26.3%  | 25.2%  | 28.2%     | 31.3% **  |
| 5 ものごとへの優劣や価値を判断すること            | 31.7%  | 29.9%  | 33.9% **  | 33.5%  | 28.8% **  | 29.4%         | 35.3%  | 30.8%  | 32.6%     | 31.7% **  |
| 6 新しいもの見方や考え方を生み出すこと            | 41.3%  | 37.9%  | 45.8% *** | 44.9%  | 35.8% *** | 42.3%         | 50.6%  | 35.6%  | 41.7%     | 44.7% *** |
| 7 実験や実習のための技術を身につけること           | 26.1%  | 22.8%  | 30.5% **  | 26.5%  | 25.6%     | 25.9%         | 34.8%  | 22.4%  | 25.8%     | 28.9% *** |
| 8 学ぶ知識の意味を現実社会との関わりから考えること      | 31.5%  | 27.3%  | 37.1% *** | 34.4%  | 27.1% **  | 30.7%         | 34.1%  | 31.0%  | 30.6%     | 35.6%     |
| 9 他人の意見を参考にして自分の考えを見直すこと        | 46.3%  | 43.0%  | 50.6% *** | 51.5%  | 38.4% *** | 45.2%         | 57.3%  | 38.0%  | 49.0%     | 56.3% *** |
| 10 自分で問題を発見あるいは設定すること           | 38.7%  | 32.2%  | 42.8% *** | 40.1%  | 31.7% **  | 37.0%         | 44.8%  | 32.5%  | 36.3%     | 42.6% *** |
| 11 設定された問題を自分で解決すること            | 38.2%  | 35.9%  | 41.2% *** | 42.6%  | 31.6% **  | 34.5%         | 43.0%  | 33.4%  | 42.9%     | 45.1% *** |
| 12 社会における自分の位置づけを認識すること         | 30.4%  | 26.2%  | 36.1% **  | 32.2%  | 27.9% **  | 30.3%         | 35.5%  | 29.9%  | 29.1%     | 29.2% *   |
| 13 歴史とのつながりから自分の位置づけを認識すること     | 18.8%  | 16.6%  | 21.7% *** | 19.4%  | 17.9%     | 18.0%         | 18.0%  | 19.7%  | 19.1%     | 17.6%     |
| 14 自分の考えや学んだことを文章にすること          | 29.4%  | 26.6%  | 33.2% **  | 32.5%  | 24.8% **  | 29.5%         | 34.6%  | 26.2%  | 29.7%     | 34.2% *** |
| 15 自分の考えや学んだことを口頭で発表すること        | 20.0%  | 16.5%  | 24.6% *** | 20.1%  | 19.8%     | 20.5%         | 22.3%  | 21.0%  | 17.8%     | 18.0%     |
| 16 わからないことについて教員に質問をすること        | 34.8%  | 30.1%  | 41.1% *** | 38.1%  | 29.9% *** | 33.0%         | 39.8%  | 28.9%  | 39.5%     | 39.4% *** |

問7 これまでに受けた大学教育全般についていかがですか。以下のそれぞれの項目について、あなたの印象として最もよく(あてはまるものを1つ選んで)ください。

|                                 | 総計     | 学 年    |          | 設置者    |          | 分 野           |        |        |           |         |
|---------------------------------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|                                 |        | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
| 教員は学生にわかるよう工夫している<br>(N)        | 5360   | 3053   | 2307 **  | 3229   | 2133 *** | 1212          | 714    | 1639   | 203       | 22 ***  |
| 1 そう思わない                        | 9.9%   | 10.6%  | 8.8%     | 11.7%  | 7.1%     | 6.3%          | 8.7%   | 10.2%  | 13.4%     | 7.8%    |
| 2 あまりそう思わない                     | 27.3%  | 28.5%  | 25.7%    | 30.1%  | 23.0%    | 24.8%         | 34.7%  | 26.9%  | 26.0%     | 28.6%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 45.6%  | 44.8%  | 46.7%    | 44.0%  | 48.1%    | 49.8%         | 43.7%  | 44.1%  | 44.1%     | 49.1%   |
| 4 そう思う                          | 16.3%  | 15.1%  | 18.0%    | 13.4%  | 20.8%    | 18.4%         | 12.3%  | 17.9%  | 15.3%     | 14.1%   |
| 5 わからない                         | 0.9%   | 0.9%   | 0.8%     | 0.8%   | 1.0%     | 0.7%          | 0.6%   | 0.9%   | 1.2%      | 0.4%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 教員は授業内容に関心をもちたせるよう工夫している<br>(N) | 5356   | 3051   | 2305 **  | 3229   | 2129 *** | 1210          | 714    | 1637   | 191       | 29 ***  |
| 1 そう思わない                        | 9.4%   | 9.9%   | 8.9%     | 11.1%  | 7.0%     | 5.5%          | 8.4%   | 9.9%   | 12.6%     | 10.2%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 35.6%  | 36.5%  | 34.5%    | 38.6%  | 31.1%    | 33.5%         | 40.1%  | 34.5%  | 35.9%     | 38.9%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 41.2%  | 40.1%  | 42.7%    | 39.9%  | 43.2%    | 44.9%         | 41.0%  | 39.3%  | 40.2%     | 41.7%   |
| 4 そう思う                          | 12.8%  | 12.3%  | 13.4%    | 9.7%   | 17.4%    | 15.8%         | 9.8%   | 14.8%  | 10.3%     | 8.1%    |
| 5 わからない                         | 1.0%   | 1.3%   | 0.5%     | 0.7%   | 1.3%     | 0.4%          | 0.7%   | 1.5%   | 0.9%      | 1.1%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 教員は授業の準備を十分にしている<br>(N)         | 5350   | 3051   | 2299 *** | 3228   | 2124 *** | 1207          | 714    | 1634   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 5.2%   | 5.1%   | 5.2%     | 6.3%   | 3.6%     | 3.2%          | 6.2%   | 5.0%   | 6.5%      | 4.9%    |
| 2 あまりそう思わない                     | 16.5%  | 15.1%  | 18.4%    | 18.3%  | 13.7%    | 13.7%         | 20.6%  | 15.9%  | 17.6%     | 15.9%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 46.3%  | 46.8%  | 45.6%    | 47.1%  | 45.1%    | 45.7%         | 47.2%  | 44.9%  | 47.3%     | 49.1%   |
| 4 そう思う                          | 30.5%  | 30.9%  | 29.9%    | 26.9%  | 35.9%    | 35.9%         | 24.1%  | 32.7%  | 27.1%     | 28.6%   |
| 5 わからない                         | 1.6%   | 2.1%   | 0.9%     | 1.5%   | 1.7%     | 1.6%          | 2.0%   | 1.6%   | 1.4%      | 1.4%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

|                                 | 総計     | 学 年    |          | 設置者    |          | 分 野           |        |        |           |         |
|---------------------------------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|                                 |        | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
| 教員は授業外でも熱心に指導してくれる<br>(N)       | 5350   | 3046   | 2304 *** | 3226   | 2126 *** | 1208          | 713    | 1634   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 8.2%   | 8.8%   | 7.4%     | 8.9%   | 7.1%     | 7.0%          | 7.9%   | 8.5%   | 8.7%      | 10.2%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 21.6%  | 23.3%  | 19.3%    | 23.2%  | 19.1%    | 19.5%         | 25.4%  | 22.9%  | 19.7%     | 23.0%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 37.1%  | 36.0%  | 38.6%    | 36.2%  | 38.6%    | 39.3%         | 36.9%  | 36.1%  | 37.5%     | 30.4%   |
| 4 そう思う                          | 27.1%  | 23.0%  | 32.6%    | 25.8%  | 29.1%    | 28.6%         | 24.8%  | 26.1%  | 28.5%     | 25.1%   |
| 5 わからない                         | 5.9%   | 8.8%   | 2.2%     | 5.9%   | 6.0%     | 5.7%          | 5.0%   | 6.3%   | 5.2%      | 11.3%   |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 提出物はきちんと返される<br>(N)             | 5350   | 3044   | 2306 *** | 3228   | 2124 *** | 1210          | 714    | 1631   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 21.4%  | 20.5%  | 22.6%    | 24.8%  | 16.2%    | 18.1%         | 28.2%  | 24.1%  | 17.4%     | 24.4%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 32.6%  | 31.6%  | 33.9%    | 34.3%  | 29.9%    | 34.1%         | 36.3%  | 29.6%  | 32.8%     | 32.2%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 25.6%  | 25.7%  | 25.5%    | 23.8%  | 28.5%    | 25.0%         | 20.4%  | 24.5%  | 29.1%     | 29.3%   |
| 4 そう思う                          | 18.1%  | 19.3%  | 16.6%    | 15.2%  | 22.4%    | 21.0%         | 13.3%  | 18.5%  | 18.8%     | 11.7%   |
| 5 わからない                         | 2.3%   | 3.0%   | 1.4%     | 1.9%   | 3.0%     | 1.7%          | 1.8%   | 3.4%   | 1.8%      | 2.5%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 返された提出物には十分なコメントがつけられている<br>(N) | 5350   | 3048   | 2302 *** | 3228   | 2124 *** | 1210          | 714    | 1631   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 33.0%  | 32.3%  | 33.9%    | 37.0%  | 26.8%    | 28.5%         | 44.1%  | 34.2%  | 30.0%     | 32.5%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 35.2%  | 34.3%  | 36.3%    | 36.1%  | 33.8%    | 36.1%         | 34.6%  | 31.9%  | 37.6%     | 38.5%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 21.5%  | 21.9%  | 21.0%    | 18.7%  | 25.8%    | 24.3%         | 16.2%  | 20.4%  | 23.1%     | 21.2%   |
| 4 そう思う                          | 7.8%   | 8.2%   | 7.3%     | 6.0%   | 10.5%    | 9.2%          | 3.9%   | 9.0%   | 7.7%      | 4.9%    |
| 5 わからない                         | 2.5%   | 3.3%   | 1.5%     | 2.1%   | 3.2%     | 1.9%          | 1.1%   | 4.4%   | 1.7%      | 2.8%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 成績評価の基準はあらかじめ明確に示されている<br>(N)   | 5353   | 3048   | 2305 *** | 3229   | 2126 *** | 1212          | 714    | 1632   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 10.5%  | 8.9%   | 12.6%    | 12.1%  | 8.1%     | 9.5%          | 14.0%  | 10.2%  | 8.4%      | 19.1%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 22.5%  | 20.5%  | 25.1%    | 24.6%  | 19.3%    | 24.0%         | 27.2%  | 20.8%  | 19.7%     | 28.6%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 36.7%  | 38.0%  | 35.1%    | 36.6%  | 36.9%    | 35.1%         | 36.1%  | 37.8%  | 37.6%     | 34.6%   |
| 4 そう思う                          | 27.5%  | 29.1%  | 25.4%    | 24.5%  | 32.1%    | 28.5%         | 21.6%  | 28.1%  | 31.0%     | 15.9%   |
| 5 わからない                         | 2.8%   | 3.5%   | 1.8%     | 2.2%   | 3.6%     | 3.0%          | 1.1%   | 3.1%   | 3.2%      | 1.8%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| よい成績をとるには記憶力が重要だ<br>(N)         | 5353   | 3048   | 2305 *** | 3226   | 2129 *   | 1211          | 714    | 1633   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 5.6%   | 5.0%   | 6.5%     | 5.5%   | 5.8%     | 6.5%          | 8.0%   | 5.2%   | 4.6%      | 3.9%    |
| 2 あまりそう思わない                     | 15.7%  | 14.3%  | 17.6%    | 14.8%  | 17.1%    | 21.4%         | 20.3%  | 13.3%  | 11.9%     | 14.1%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 36.2%  | 37.7%  | 34.1%    | 35.5%  | 37.2%    | 38.1%         | 38.1%  | 35.5%  | 34.3%     | 36.7%   |
| 4 そう思う                          | 38.2%  | 38.3%  | 38.0%    | 39.4%  | 36.3%    | 31.0%         | 31.2%  | 41.6%  | 43.2%     | 39.6%   |
| 5 わからない                         | 4.3%   | 4.8%   | 3.8%     | 4.7%   | 3.7%     | 3.1%          | 2.4%   | 4.4%   | 5.9%      | 5.7%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 成績評価の結果は納得のいくものである<br>(N)       | 5354   | 3050   | 2304 *** | 3229   | 2127 *** | 1210          | 714    | 1635   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 7.3%   | 8.2%   | 6.1%     | 8.2%   | 5.9%     | 5.6%          | 9.0%   | 8.0%   | 7.3%      | 6.4%    |
| 2 あまりそう思わない                     | 18.1%  | 19.0%  | 16.9%    | 18.3%  | 17.7%    | 17.5%         | 19.3%  | 19.1%  | 17.2%     | 16.3%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 49.1%  | 47.6%  | 51.0%    | 49.2%  | 48.8%    | 49.9%         | 50.1%  | 46.4%  | 50.5%     | 50.2%   |
| 4 そう思う                          | 22.3%  | 21.1%  | 23.9%    | 21.5%  | 23.5%    | 23.8%         | 20.2%  | 22.1%  | 22.1%     | 23.0%   |
| 5 わからない                         | 3.2%   | 4.2%   | 2.0%     | 2.7%   | 4.0%     | 3.1%          | 1.4%   | 4.3%   | 2.8%      | 4.2%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 単位をとるためには試験前に勉強するだけで十分だ<br>(N)  | 5356   | 3050   | 2306 *** | 3229   | 2129     | 1211          | 714    | 1636   | 1514      | 283 *   |
| 1 そう思わない                        | 11.7%  | 13.1%  | 9.9%     | 12.2%  | 11.1%    | 10.4%         | 12.7%  | 11.2%  | 12.8%     | 12.4%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 34.0%  | 37.6%  | 29.2%    | 33.4%  | 34.9%    | 38.3%         | 34.5%  | 31.8%  | 33.5%     | 29.7%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 32.9%  | 31.7%  | 34.5%    | 32.4%  | 33.6%    | 32.9%         | 33.9%  | 33.1%  | 31.6%     | 35.7%   |
| 4 そう思う                          | 18.4%  | 14.5%  | 23.6%    | 19.0%  | 17.5%    | 15.9%         | 17.1%  | 20.5%  | 18.7%     | 18.7%   |
| 5 わからない                         | 3.0%   | 3.2%   | 2.7%     | 3.0%   | 3.0%     | 2.5%          | 1.8%   | 3.4%   | 3.4%      | 3.5%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 授業時間外で取り組む課題(宿題)が出される<br>(N)    | 5353   | 3046   | 2307 *** | 3227   | 2128 *** | 1212          | 714    | 1632   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 3.6%   | 3.0%   | 4.5%     | 2.9%   | 4.8%     | 3.7%          | 3.2%   | 4.9%   | 2.2%      | 5.3%    |
| 2 あまりそう思わない                     | 17.5%  | 12.8%  | 23.7%    | 15.5%  | 20.5%    | 18.0%         | 15.8%  | 21.9%  | 13.6%     | 15.2%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 41.3%  | 40.5%  | 42.3%    | 40.8%  | 42.0%    | 39.4%         | 43.4%  | 42.5%  | 41.5%     | 35.7%   |
| 4 そう思う                          | 35.0%  | 40.4%  | 27.9%    | 37.8%  | 30.8%    | 37.5%         | 35.4%  | 27.9%  | 39.4%     | 40.6%   |
| 5 わからない                         | 2.5%   | 3.3%   | 1.6%     | 2.9%   | 1.9%     | 1.3%          | 2.1%   | 2.8%   | 3.3%      | 3.2%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 発展的な学習につながる授業が行われている<br>(N)     | 5348   | 3046   | 2302 *** | 3227   | 2123 *** | 1208          | 714    | 1631   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 8.6%   | 7.4%   | 10.2%    | 10.2%  | 6.3%     | 6.7%          | 9.7%   | 7.9%   | 10.0%     | 11.0%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 33.4%  | 31.4%  | 36.0%    | 36.3%  | 29.0%    | 30.7%         | 38.2%  | 31.8%  | 33.8%     | 39.2%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 42.2%  | 43.6%  | 40.2%    | 40.0%  | 45.4%    | 45.5%         | 39.6%  | 41.9%  | 42.1%     | 35.3%   |
| 4 そう思う                          | 11.5%  | 12.0%  | 10.8%    | 9.8%   | 14.1%    | 12.9%         | 8.5%   | 13.3%  | 10.2%     | 9.2%    |
| 5 わからない                         | 4.3%   | 5.5%   | 2.8%     | 3.8%   | 5.1%     | 4.1%          | 3.9%   | 5.0%   | 3.8%      | 5.3%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 教育課程全体の中での各授業科目の位置づけが明確だ<br>(N) | 5349   | 3046   | 2303 *** | 3228   | 2123 *** | 1209          | 714    | 1631   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 12.7%  | 11.8%  | 13.9%    | 16.7%  | 6.6%     | 8.1%          | 15.5%  | 11.5%  | 15.0%     | 19.8%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 37.7%  | 36.3%  | 39.6%    | 42.2%  | 30.9%    | 37.6%         | 43.6%  | 33.9%  | 38.6%     | 39.9%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 31.9%  | 31.5%  | 32.3%    | 26.9%  | 39.4%    | 34.5%         | 28.4%  | 33.3%  | 30.8%     | 26.9%   |
| 4 そう思う                          | 9.4%   | 9.3%   | 9.6%     | 7.7%   | 12.0%    | 9.6%          | 7.6%   | 11.3%  | 8.2%      | 8.1%    |
| 5 わからない                         | 8.3%   | 11.1%  | 4.6%     | 6.5%   | 11.1%    | 9.9%          | 4.9%   | 10.1%  | 7.3%      | 5.3%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 卒業するには何をどこまで学べばよいか示されている<br>(N) | 5352   | 3048   | 2304 *** | 3228   | 2126 *** | 1210          | 714    | 1634   | 1514      | 282 *** |
| 1 そう思わない                        | 18.7%  | 16.8%  | 21.3%    | 23.2%  | 12.0%    | 16.9%         | 22.1%  | 18.2%  | 18.5%     | 23.0%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 33.1%  | 32.2%  | 34.3%    | 35.3%  | 29.7%    | 34.2%         | 37.7%  | 30.7%  | 33.7%     | 28.0%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 27.8%  | 28.4%  | 27.0%    | 24.5%  | 32.9%    | 27.4%         | 24.1%  | 28.6%  | 28.9%     | 29.4%   |
| 4 そう思う                          | 14.2%  | 14.3%  | 14.0%    | 11.9%  | 17.6%    | 15.6%         | 11.9%  | 15.1%  | 12.8%     | 15.2%   |
| 5 わからない                         | 6.1%   | 8.2%   | 3.3%     | 5.0%   | 7.8%     | 5.9%          | 4.2%   | 7.5%   | 6.1%      | 4.3%    |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 授業評価等の調査結果が授業改善に活かされている<br>(N)  | 5354   | 3049   | 2305 *** | 3229   | 2127 *** | 1210          | 714    | 1635   | 1514      | 283 *** |
| 1 そう思わない                        | 24.6%  | 21.2%  | 29.2%    | 31.2%  | 14.7%    | 18.6%         | 32.4%  | 22.1%  | 27.9%     | 28.6%   |
| 2 あまりそう思わない                     | 36.2%  | 36.5%  | 35.7%    | 38.7%  | 32.3%    | 36.1%         | 41.3%  | 33.6%  | 36.3%     | 37.5%   |
| 3 ある程度そう思う                      | 23.0%  | 23.0%  | 23.0%    | 16.9%  | 32.2%    | 27.1%         | 15.4%  | 25.4%  | 22.3%     | 14.5%   |
| 4 そう思う                          | 5.5%   | 5.6%   | 5.2%     | 2.6%   | 9.7%     | 6.5%          | 1.0%   | 8.7%   | 3.8%      | 2.5%    |
| 5 わからない                         | 10.7%  | 13.6%  | 6.9%     | 10.5%  | 11.0%    | 11.7%         | 9.9%   | 10.2%  | 9.8%      | 17.0%   |
| 計                               | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

問8 あなたは今年度、授業が行われている期間に、以下の活動に1週間で平均どのくらい時間を費やしましたか。それぞれあてはまるものを選んでください。

|                           | 分野  |        |        |          |        |           |        |        |        |        |         |     |
|---------------------------|-----|--------|--------|----------|--------|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|-----|
|                           | 学 年 |        |        | 設置者      |        | 人文系(教育除く) |        |        |        |        | 自然      | 保健系 |
|                           | 総計  | 1年     | 4年以上   | 国立       | 私立     | 教育系       | 社会系    | 科学系    | 科学系    | 保健系    |         |     |
| 授業の準備のための学習(1週間)          | (N) | 5344   | 3043   | 2301 *** | 3228   | 2118 ***  | 1206   | 713    | 1630   | 1514   | 283 *** |     |
| 1 0時間                     |     | 25.6%  | 16.7%  | 37.3%    | 22.2%  | 30.7%     | 24.1%  | 22.7%  | 28.6%  | 26.6%  | 16.6%   |     |
| 2 1-5時間                   |     | 54.4%  | 59.8%  | 47.2%    | 55.0%  | 53.3%     | 56.7%  | 58.6%  | 54.4%  | 49.6%  | 58.3%   |     |
| 3 6-10時間                  |     | 12.2%  | 14.5%  | 9.1%     | 14.3%  | 8.9%      | 12.0%  | 11.2%  | 9.9%   | 14.5%  | 15.5%   |     |
| 4 11-15時間                 |     | 4.0%   | 4.8%   | 2.7%     | 4.6%   | 3.1%      | 3.6%   | 3.6%   | 3.1%   | 5.0%   | 5.7%    |     |
| 5 16-20時間                 |     | 1.9%   | 2.0%   | 1.7%     | 1.9%   | 1.8%      | 1.3%   | 2.1%   | 2.1%   | 2.1%   | 0.7%    |     |
| 6 21-25時間                 |     | 0.8%   | 0.9%   | 0.7%     | 0.9%   | 0.7%      | 1.0%   | 0.7%   | 0.5%   | 1.1%   | 1.1%    |     |
| 7 26-30時間                 |     | 0.3%   | 0.4%   | 0.2%     | 0.2%   | 0.4%      | 0.3%   | 0.3%   | 0.4%   | 0.3%   | 0.0%    |     |
| 8 30時間以上                  |     | 0.9%   | 0.9%   | 0.9%     | 0.8%   | 1.1%      | 0.8%   | 0.7%   | 0.9%   | 0.9%   | 2.1%    |     |
| 計                         |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |
| 卒業研究のための学習(1週間-4年生と6年生のみ) | (N) | 2288   | -      | 2288 -   | 1424   | 866 ***   | 615    | 353    | 551    | 660    | 111 *** |     |
| 1 0時間                     |     | 9.9%   | -      | 9.9%     | 7.5%   | 13.7%     | 14.6%  | 14.4%  | 18.7%  | 15.5%  | 16.2%   |     |
| 2 1-5時間                   |     | 17.2%  | -      | 17.2%    | 11.4%  | 26.8%     | 26.0%  | 13.3%  | 20.7%  | 9.4%   | 9.9%    |     |
| 3 6-10時間                  |     | 15.0%  | -      | 15.0%    | 12.4%  | 19.4%     | 19.3%  | 17.0%  | 18.3%  | 8.6%   | 6.3%    |     |
| 4 11-15時間                 |     | 10.6%  | -      | 10.6%    | 10.0%  | 11.7%     | 11.9%  | 13.3%  | 11.3%  | 8.2%   | 6.3%    |     |
| 5 16-20時間                 |     | 10.9%  | -      | 10.9%    | 11.2%  | 10.4%     | 9.8%   | 9.6%   | 11.1%  | 13.0%  | 8.1%    |     |
| 6 21-25時間                 |     | 7.0%   | -      | 7.0%     | 8.1%   | 5.1%      | 4.6%   | 9.3%   | 4.7%   | 10.0%  | 6.3%    |     |
| 7 26-30時間                 |     | 5.5%   | -      | 5.5%     | 7.2%   | 2.5%      | 2.6%   | 7.1%   | 2.4%   | 9.5%   | 7.2%    |     |
| 8 30時間以上                  |     | 23.9%  | -      | 23.9%    | 32.2%  | 10.4%     | 11.2%  | 28.9%  | 12.9%  | 39.7%  | 39.6%   |     |
| 計                         |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |
| 授業とは関係のない学習(1週間)          | (N) | 5306   | 3014   | 2292     | 3223   | 2085 ***  | 1184   | 713    | 1615   | 1513   | 283 *** |     |
| 1 0時間                     |     | 32.7%  | 36.3%  | 28.1%    | 29.4%  | 37.9%     | 35.3%  | 28.9%  | 33.3%  | 32.7%  | 28.6%   |     |
| 2 1-5時間                   |     | 42.7%  | 45.2%  | 39.4%    | 44.5%  | 39.8%     | 44.1%  | 43.6%  | 39.4%  | 43.8%  | 46.3%   |     |
| 3 6-10時間                  |     | 11.1%  | 10.2%  | 12.3%    | 11.8%  | 10.0%     | 10.1%  | 10.7%  | 11.8%  | 11.4%  | 10.2%   |     |
| 4 11-15時間                 |     | 4.7%   | 3.6%   | 6.1%     | 5.1%   | 4.1%      | 3.3%   | 6.3%   | 4.9%   | 4.9%   | 4.2%    |     |
| 5 16-20時間                 |     | 2.8%   | 2.0%   | 3.8%     | 3.1%   | 2.4%      | 2.1%   | 2.7%   | 3.3%   | 2.8%   | 3.2%    |     |
| 6 21-25時間                 |     | 1.6%   | 0.9%   | 2.4%     | 1.7%   | 1.3%      | 1.4%   | 2.5%   | 1.7%   | 1.2%   | 1.1%    |     |
| 7 26-30時間                 |     | 0.7%   | 0.4%   | 1.1%     | 0.6%   | 0.9%      | 0.9%   | 0.0%   | 0.9%   | 0.6%   | 1.4%    |     |
| 8 30時間以上                  |     | 3.7%   | 1.4%   | 6.8%     | 3.8%   | 3.6%      | 2.8%   | 5.3%   | 4.6%   | 2.6%   | 4.9%    |     |
| 計                         |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |
| サークル・クラブ活動(1週間)           | (N) | 5321   | 3031   | 2290 *** | 3225   | 2098 ***  | 1194   | 714    | 1618   | 1514   | 283 *** |     |
| 1 0時間                     |     | 45.7%  | 38.0%  | 56.0%    | 41.5%  | 52.2%     | 49.2%  | 39.6%  | 45.7%  | 48.5%  | 32.2%   |     |
| 2 1-5時間                   |     | 21.9%  | 22.2%  | 21.6%    | 23.5%  | 19.4%     | 20.1%  | 22.3%  | 21.3%  | 22.5%  | 28.6%   |     |
| 3 6-10時間                  |     | 12.6%  | 16.0%  | 8.3%     | 14.5%  | 9.8%      | 11.2%  | 13.2%  | 12.3%  | 12.7%  | 19.1%   |     |
| 4 11-15時間                 |     | 7.4%   | 9.2%   | 5.1%     | 8.5%   | 5.8%      | 7.0%   | 11.2%  | 7.2%   | 6.4%   | 7.1%    |     |
| 5 16-20時間                 |     | 4.1%   | 5.3%   | 2.6%     | 4.4%   | 3.7%      | 4.5%   | 4.9%   | 4.4%   | 2.8%   | 6.0%    |     |
| 6 21-25時間                 |     | 2.4%   | 3.1%   | 1.5%     | 2.3%   | 2.5%      | 2.5%   | 2.9%   | 2.3%   | 2.2%   | 2.5%    |     |
| 7 26-30時間                 |     | 1.3%   | 1.6%   | 0.9%     | 1.2%   | 1.4%      | 1.1%   | 0.8%   | 1.7%   | 1.1%   | 2.1%    |     |
| 8 30時間以上                  |     | 4.4%   | 4.7%   | 4.1%     | 3.9%   | 5.2%      | 4.4%   | 5.0%   | 5.2%   | 3.8%   | 2.5%    |     |
| 計                         |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |
| アルバイト等の仕事経験(1週間)          | (N) | 5337   | 3037   | 2300 *** | 3225   | 2114 ***  | 1202   | 714    | 1627   | 1514   | 282 *** |     |
| 1 0時間                     |     | 29.9%  | 32.8%  | 26.0%    | 35.6%  | 21.1%     | 22.0%  | 24.6%  | 22.9%  | 44.1%  | 40.8%   |     |
| 2 1-5時間                   |     | 15.0%  | 14.3%  | 16.0%    | 17.4%  | 11.4%     | 12.9%  | 18.9%  | 13.4%  | 16.1%  | 17.7%   |     |
| 3 6-10時間                  |     | 13.3%  | 13.2%  | 13.4%    | 14.6%  | 11.4%     | 12.9%  | 16.2%  | 12.8%  | 12.5%  | 14.9%   |     |
| 4 11-15時間                 |     | 12.2%  | 12.5%  | 11.8%    | 11.8%  | 12.8%     | 13.8%  | 16.0%  | 12.7%  | 8.7%   | 12.1%   |     |
| 5 16-20時間                 |     | 11.0%  | 11.0%  | 11.1%    | 9.0%   | 14.0%     | 14.1%  | 11.2%  | 13.0%  | 7.2%   | 6.7%    |     |
| 6 21-25時間                 |     | 6.4%   | 6.4%   | 6.3%     | 4.0%   | 9.9%      | 8.8%   | 3.9%   | 8.5%   | 3.9%   | 2.5%    |     |
| 7 26-30時間                 |     | 3.8%   | 3.3%   | 4.5%     | 2.4%   | 6.0%      | 5.1%   | 2.8%   | 5.0%   | 2.3%   | 2.1%    |     |
| 8 30時間以上                  |     | 8.4%   | 6.5%   | 10.9%    | 5.2%   | 13.3%     | 10.5%  | 6.3%   | 11.7%  | 5.2%   | 3.2%    |     |
| 計                         |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |

問9 あなたは今年度の前学期に、どのくらい本を読みましたか。また、レポートの作成を行いましたか。

|                                | 分野  |        |        |          |        |           |        |        |        |        |         |     |
|--------------------------------|-----|--------|--------|----------|--------|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|-----|
|                                | 学 年 |        |        | 設置者      |        | 人文系(教育除く) |        |        |        |        | 自然      | 保健系 |
|                                | 総計  | 1年     | 4年以上   | 国立       | 私立     | 教育系       | 社会系    | 科学系    | 科学系    | 保健系    |         |     |
| 授業に関連する図書(前学期の読書量)             | (N) | 5350   | 3050   | 2300 *** | 3230   | 2122 ***  | 1208   | 714    | 1632   | 1514   | 284 *** |     |
| 1 0冊                           |     | 27.9%  | 24.6%  | 32.3%    | 24.2%  | 33.6%     | 23.8%  | 23.4%  | 29.3%  | 34.2%  | 15.1%   |     |
| 2 1-5冊                         |     | 57.3%  | 61.0%  | 52.2%    | 58.0%  | 56.1%     | 63.4%  | 60.6%  | 57.1%  | 50.7%  | 58.5%   |     |
| 3 6-10冊                        |     | 9.2%   | 9.6%   | 8.7%     | 10.8%  | 6.9%      | 8.8%   | 9.8%   | 9.5%   | 8.5%   | 12.3%   |     |
| 4 11-20冊                       |     | 2.6%   | 2.5%   | 2.7%     | 3.2%   | 1.7%      | 2.6%   | 3.5%   | 1.7%   | 2.4%   | 6.3%    |     |
| 5 21冊以上                        |     | 1.6%   | 1.1%   | 2.1%     | 1.9%   | 1.1%      | 1.2%   | 1.5%   | 1.3%   | 1.7%   | 3.9%    |     |
| 6 わからない                        |     | 1.5%   | 1.1%   | 2.0%     | 2.0%   | 0.7%      | 0.2%   | 1.1%   | 1.0%   | 2.6%   | 3.9%    |     |
| 計                              |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |
| 卒業研究に関連する図書(前学期の読書量-4年生と6年生のみ) | (N) | 2286   | -      | 2286 -   | 1424   | 864 ***   | 612    | 353    | 551    | 660    | 112 *** |     |
| 1 0冊                           |     | 12.5%  | -      | 12.5%    | 9.4%   | 17.6%     | 17.8%  | 3.4%   | 20.0%  | 5.5%   | 17.0%   |     |
| 2 1-5冊                         |     | 40.6%  | -      | 40.6%    | 40.1%  | 41.2%     | 33.5%  | 33.4%  | 40.1%  | 54.1%  | 23.2%   |     |
| 3 6-10冊                        |     | 24.4%  | -      | 24.4%    | 26.0%  | 21.9%     | 20.8%  | 32.3%  | 22.5%  | 25.8%  | 21.4%   |     |
| 4 11-20冊                       |     | 11.5%  | -      | 11.5%    | 12.5%  | 9.7%      | 14.4%  | 17.6%  | 9.3%   | 6.5%   | 16.1%   |     |
| 5 21冊以上                        |     | 9.0%   | -      | 9.0%     | 9.2%   | 8.6%      | 12.7%  | 11.9%  | 5.8%   | 5.5%   | 15.2%   |     |
| 6 わからない                        |     | 2.1%   | -      | 2.1%     | 2.8%   | 1.0%      | 0.8%   | 1.4%   | 2.4%   | 2.7%   | 7.1%    |     |
| 計                              |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |
| その他の一般書や専門書(前学期の読書量)           | (N) | 5325   | 3033   | 2292 *** | 3229   | 2098 ***  | 1195   | 714    | 1620   | 1514   | 284 *** |     |
| 1 0冊                           |     | 20.8%  | 23.9%  | 16.7%    | 16.3%  | 27.7%     | 21.3%  | 14.1%  | 24.2%  | 22.1%  | 8.5%    |     |
| 2 1-5冊                         |     | 48.8%  | 48.9%  | 48.7%    | 49.3%  | 48.1%     | 49.0%  | 52.1%  | 46.2%  | 49.7%  | 50.7%   |     |
| 3 6-10冊                        |     | 14.1%  | 13.5%  | 14.9%    | 15.1%  | 12.6%     | 15.0%  | 14.8%  | 14.2%  | 12.0%  | 19.0%   |     |
| 4 11-20冊                       |     | 7.0%   | 6.1%   | 8.1%     | 8.5%   | 4.7%      | 6.5%   | 8.1%   | 7.0%   | 6.2%   | 9.9%    |     |
| 5 21冊以上                        |     | 7.5%   | 6.0%   | 9.6%     | 8.9%   | 5.5%      | 7.2%   | 8.8%   | 7.0%   | 7.3%   | 10.2%   |     |
| 6 わからない                        |     | 1.8%   | 1.5%   | 2.1%     | 2.0%   | 1.3%      | 1.0%   | 2.0%   | 1.4%   | 2.6%   | 1.8%    |     |
| 計                              |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |
| 中間・期末レポート(前学期の提出回数)            | (N) | 5334   | 3041   | 2293 *** | 3227   | 2109      | 1200   | 713    | 1625   | 1514   | 284 *** |     |
| 1 0回                           |     | 22.1%  | 10.9%  | 36.9%    | 22.1%  | 22.0%     | 21.3%  | 18.7%  | 21.2%  | 26.6%  | 14.4%   |     |
| 2 1-5回                         |     | 57.8%  | 65.1%  | 48.2%    | 57.6%  | 58.2%     | 61.9%  | 59.3%  | 61.4%  | 51.4%  | 51.4%   |     |
| 3 6-10回                        |     | 11.1%  | 14.4%  | 6.7%     | 10.6%  | 11.8%     | 11.5%  | 14.0%  | 10.4%  | 9.3%   | 15.5%   |     |
| 4 11-20回                       |     | 2.3%   | 2.4%   | 2.3%     | 2.3%   | 2.3%      | 2.3%   | 2.9%   | 1.9%   | 2.2%   | 3.9%    |     |
| 5 21回以上                        |     | 1.0%   | 1.0%   | 1.0%     | 1.0%   | 0.9%      | 0.7%   | 0.6%   | 0.9%   | 1.3%   | 2.5%    |     |
| 6 わからない                        |     | 5.7%   | 6.2%   | 4.9%     | 6.3%   | 4.7%      | 2.3%   | 4.5%   | 4.2%   | 9.1%   | 12.3%   |     |
| 計                              |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |     |



|                    | 総計  | 学年     |        | 設置者      |        | 分野            |        |        |        |        |         |
|--------------------|-----|--------|--------|----------|--------|---------------|--------|--------|--------|--------|---------|
|                    |     | 1年     | 4年以上   | 国立       | 私立     | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系    |         |
| その他のレポート(前学期の提出回数) | (N) | 5297   | 3010   | 2287 *** | 3220   | 2079 ***      | 1178   | 712    | 1611   | 1514   | 284 *** |
| 1 0回               |     | 30.4%  | 20.1%  | 44.0%    | 26.7%  | 36.2%         | 41.6%  | 29.1%  | 34.5%  | 21.1%  | 13.7%   |
| 2 1-5回             |     | 40.0%  | 41.7%  | 37.8%    | 37.1%  | 44.5%         | 42.8%  | 42.0%  | 45.1%  | 33.9%  | 27.5%   |
| 3 6-10回            |     | 10.7%  | 13.8%  | 6.7%     | 11.7%  | 9.2%          | 7.7%   | 10.5%  | 9.6%   | 13.5%  | 14.4%   |
| 4 11-20回           |     | 6.4%   | 8.8%   | 3.3%     | 9.1%   | 2.2%          | 2.1%   | 7.3%   | 2.9%   | 11.0%  | 17.3%   |
| 5 21回以上            |     | 5.0%   | 6.9%   | 2.4%     | 7.5%   | 1.0%          | 1.1%   | 3.1%   | 1.4%   | 10.7%  | 15.8%   |
| 6 わからない            |     | 7.5%   | 8.7%   | 5.9%     | 7.9%   | 6.9%          | 4.7%   | 8.0%   | 6.5%   | 9.8%   | 11.3%   |
| 計                  |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |

問10 これまでの大学における学習経験

|                   | 総計  | 学年     |        | 設置者      |        | 分野            |        |        |        |        |         |
|-------------------|-----|--------|--------|----------|--------|---------------|--------|--------|--------|--------|---------|
|                   |     | 1年     | 4年以上   | 国立       | 私立     | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系    |         |
| 授業の理解度            | (N) | 5350   | 3043   | 2307 *** | 3228   | 2124          | 1210   | 713    | 1631   | 1514   | 284 *** |
| 1 ほとんど理解できていない    |     | 5.0%   | 5.4%   | 4.6%     | 4.8%   | 5.5%          | 3.9%   | 2.4%   | 6.5%   | 5.8%   | 4.6%    |
| 2 あまり理解できていない     |     | 30.5%  | 34.5%  | 25.2%    | 30.4%  | 30.6%         | 25.3%  | 24.5%  | 34.9%  | 33.9%  | 23.2%   |
| 3 ある程度理解できている     |     | 59.6%  | 56.6%  | 63.5%    | 59.7%  | 59.3%         | 65.8%  | 67.5%  | 52.8%  | 56.8%  | 66.9%   |
| 4 ほとんど理解できている     |     | 4.9%   | 3.5%   | 6.8%     | 5.1%   | 4.6%          | 5.0%   | 5.6%   | 5.8%   | 3.4%   | 5.3%    |
| 計                 |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 授業への出席            | (N) | 5349   | 3043   | 2306 *** | 3226   | 2125 ***      | 1211   | 713    | 1630   | 1513   | 284 *** |
| 1 ほとんど出席していない     |     | 8.3%   | 8.4%   | 8.2%     | 6.6%   | 11.0%         | 10.4%  | 7.2%   | 9.9%   | 5.6%   | 8.1%    |
| 2 あまり出席していない      |     | 6.2%   | 5.6%   | 6.9%     | 5.7%   | 6.8%          | 5.4%   | 3.6%   | 9.6%   | 4.9%   | 2.5%    |
| 3 ある程度出席している      |     | 30.5%  | 28.9%  | 32.6%    | 26.2%  | 37.1%         | 34.4%  | 24.8%  | 36.9%  | 25.1%  | 21.1%   |
| 4 ほとんど出席している      |     | 55.0%  | 57.1%  | 52.2%    | 61.5%  | 45.1%         | 49.9%  | 64.4%  | 43.6%  | 64.4%  | 68.3%   |
| 計                 |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 成績                | (N) | 5336   | 3031   | 2305 *** | 3224   | 2114          | 1203   | 713    | 1626   | 1513   | 283 *** |
| 1 非常によくない         |     | 4.1%   | 3.9%   | 4.3%     | 4.1%   | 4.1%          | 2.8%   | 1.7%   | 4.9%   | 5.6%   | 2.8%    |
| 2 あまりよくない         |     | 28.1%  | 31.1%  | 24.1%    | 28.0%  | 28.2%         | 24.1%  | 17.8%  | 31.5%  | 34.6%  | 15.9%   |
| 3 ある程度よい          |     | 61.8%  | 59.7%  | 64.5%    | 61.5%  | 62.2%         | 67.2%  | 73.8%  | 57.4%  | 54.1%  | 74.9%   |
| 4 非常によい           |     | 6.0%   | 5.2%   | 7.1%     | 6.4%   | 5.5%          | 5.8%   | 6.7%   | 6.2%   | 5.7%   | 6.4%    |
| 計                 |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 自分の興味・関心で選んだ授業の割合 | (N) | 5135   | 2933   | 2202     | 3145   | 1992 ***      | 1149   | 699    | 1535   | 1481   | 271 *** |
| 1 0-2.5割          |     | 19.0%  | 18.9%  | 19.2%    | 20.9%  | 16.1%         | 12.8%  | 14.0%  | 16.9%  | 26.7%  | 28.8%   |
| 2 2.5-5.0割        |     | 34.3%  | 35.2%  | 33.1%    | 32.7%  | 36.9%         | 32.1%  | 32.8%  | 37.1%  | 34.7%  | 30.3%   |
| 3 5.0-7.5割        |     | 27.3%  | 27.8%  | 26.6%    | 26.5%  | 28.5%         | 30.9%  | 30.2%  | 27.6%  | 23.6%  | 23.2%   |
| 4 7.5-10.0割       |     | 19.3%  | 18.0%  | 21.1%    | 19.9%  | 18.4%         | 24.2%  | 23.0%  | 18.4%  | 15.1%  | 17.7%   |
| 計                 |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |

問11 入学時と比較して、以下の能力は授業を通してどの程度変化したと思いますか、それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。

|                  | 総計  | 学年     |        | 設置者      |        | 分野            |        |        |        |        |         |
|------------------|-----|--------|--------|----------|--------|---------------|--------|--------|--------|--------|---------|
|                  |     | 1年     | 4年以上   | 国立       | 私立     | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系    |         |
| 記憶力              | (N) | 5356   | 3047   | 2309 *** | 3229   | 2129 ***      | 1211   | 714    | 1635   | 1514   | 284 *** |
| 1 低下した           |     | 22.0%  | 21.2%  | 23.0%    | 25.0%  | 17.4%         | 22.2%  | 29.7%  | 19.2%  | 20.8%  | 24.3%   |
| 2 少し低下した         |     | 32.0%  | 32.7%  | 31.1%    | 34.3%  | 28.6%         | 32.6%  | 37.5%  | 29.8%  | 30.3%  | 37.7%   |
| 3 変わらない          |     | 37.9%  | 39.9%  | 35.3%    | 35.0%  | 42.2%         | 36.5%  | 30.0%  | 40.5%  | 41.1%  | 31.7%   |
| 4 ある程度向上した       |     | 7.1%   | 5.5%   | 9.3%     | 4.9%   | 10.5%         | 7.8%   | 2.5%   | 9.0%   | 7.1%   | 5.3%    |
| 5 向上した           |     | 1.0%   | 0.8%   | 1.3%     | 0.7%   | 1.3%          | 0.9%   | 0.3%   | 1.5%   | 0.8%   | 1.1%    |
| 計                |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 幅広い視点から考える力      | (N) | 5352   | 3044   | 2308 *** | 3228   | 2126          | 1208   | 714    | 1634   | 1514   | 284 *** |
| 1 低下した           |     | 2.8%   | 3.5%   | 1.9%     | 3.1%   | 2.4%          | 2.0%   | 1.3%   | 3.2%   | 3.8%   | 2.5%    |
| 2 少し低下した         |     | 5.0%   | 6.7%   | 2.7%     | 5.0%   | 5.0%          | 3.7%   | 3.8%   | 5.0%   | 6.5%   | 5.3%    |
| 3 変わらない          |     | 24.0%  | 32.1%  | 13.4%    | 23.3%  | 25.2%         | 17.8%  | 13.0%  | 27.1%  | 28.9%  | 34.9%   |
| 4 ある程度向上した       |     | 53.0%  | 49.3%  | 57.8%    | 53.5%  | 52.2%         | 57.5%  | 65.4%  | 49.7%  | 48.3%  | 46.5%   |
| 5 向上した           |     | 15.2%  | 8.3%   | 24.2%    | 15.1%  | 15.2%         | 19.0%  | 16.5%  | 15.1%  | 12.4%  | 10.9%   |
| 計                |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 異なる考え方や意見を受け入れる力 | (N) | 5346   | 3041   | 2305 *** | 3228   | 2120          | 1207   | 714    | 1629   | 1514   | 284 *** |
| 1 低下した           |     | 1.9%   | 2.6%   | 1.0%     | 2.1%   | 1.6%          | 1.2%   | 0.7%   | 2.3%   | 2.6%   | 2.1%    |
| 2 少し低下した         |     | 3.0%   | 4.0%   | 1.6%     | 2.7%   | 3.5%          | 2.4%   | 2.2%   | 3.1%   | 3.9%   | 2.1%    |
| 3 変わらない          |     | 25.6%  | 33.4%  | 15.2%    | 24.8%  | 26.7%         | 19.2%  | 14.6%  | 29.0%  | 31.3%  | 29.6%   |
| 4 ある程度向上した       |     | 49.6%  | 47.7%  | 52.1%    | 50.0%  | 49.1%         | 52.7%  | 57.6%  | 47.0%  | 46.4%  | 49.3%   |
| 5 向上した           |     | 19.9%  | 12.3%  | 30.0%    | 20.4%  | 19.2%         | 24.5%  | 24.9%  | 18.7%  | 15.8%  | 16.9%   |
| 計                |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 簡潔で説得的に書く力       | (N) | 5349   | 3042   | 2307 *** | 3229   | 2122 **       | 1206   | 714    | 1633   | 1514   | 284 **  |
| 1 低下した           |     | 2.8%   | 3.7%   | 1.6%     | 3.0%   | 2.5%          | 2.2%   | 2.9%   | 3.3%   | 2.9%   | 2.1%    |
| 2 少し低下した         |     | 6.6%   | 8.3%   | 4.4%     | 6.6%   | 6.7%          | 6.0%   | 5.7%   | 7.0%   | 6.7%   | 9.5%    |
| 3 変わらない          |     | 46.2%  | 54.8%  | 34.9%    | 44.3%  | 49.2%         | 45.7%  | 41.3%  | 47.6%  | 47.7%  | 45.1%   |
| 4 ある程度向上した       |     | 36.8%  | 29.0%  | 47.1%    | 38.0%  | 35.0%         | 38.4%  | 41.7%  | 33.5%  | 36.7%  | 36.6%   |
| 5 向上した           |     | 7.5%   | 4.2%   | 11.9%    | 8.1%   | 6.6%          | 7.7%   | 8.3%   | 8.6%   | 6.0%   | 6.7%    |
| 計                |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 簡潔で説得的に話す力       | (N) | 5351   | 3044   | 2307 *** | 3228   | 2125          | 1209   | 714    | 1632   | 1514   | 284 **  |
| 1 低下した           |     | 3.2%   | 4.1%   | 2.0%     | 3.4%   | 2.9%          | 3.1%   | 2.7%   | 3.1%   | 3.7%   | 3.2%    |
| 2 少し低下した         |     | 5.8%   | 7.2%   | 4.0%     | 5.7%   | 6.2%          | 5.5%   | 4.8%   | 6.1%   | 5.9%   | 8.1%    |
| 3 変わらない          |     | 53.3%  | 62.7%  | 40.7%    | 52.8%  | 53.9%         | 52.4%  | 48.3%  | 54.2%  | 54.4%  | 57.4%   |
| 4 ある程度向上した       |     | 31.2%  | 22.6%  | 42.6%    | 31.3%  | 31.0%         | 31.7%  | 37.5%  | 29.0%  | 30.8%  | 27.1%   |
| 5 向上した           |     | 6.5%   | 3.3%   | 10.7%    | 6.8%   | 6.0%          | 7.3%   | 6.7%   | 7.5%   | 5.1%   | 4.2%    |
| 計                |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 批判的に考える力         | (N) | 5348   | 3044   | 2304 *** | 3228   | 2122 ***      | 1207   | 714    | 1632   | 1513   | 284 *** |
| 1 低下した           |     | 2.0%   | 2.6%   | 1.1%     | 2.0%   | 2.0%          | 1.7%   | 1.3%   | 2.1%   | 2.6%   | 1.4%    |
| 2 少し低下した         |     | 5.2%   | 6.0%   | 4.2%     | 4.9%   | 5.7%          | 4.8%   | 4.9%   | 5.3%   | 5.2%   | 7.0%    |
| 3 変わらない          |     | 44.8%  | 51.1%  | 36.5%    | 41.1%  | 50.4%         | 45.7%  | 36.3%  | 45.9%  | 46.3%  | 47.9%   |
| 4 ある程度向上した       |     | 37.1%  | 33.4%  | 42.0%    | 39.8%  | 32.9%         | 36.0%  | 44.3%  | 36.1%  | 35.6%  | 37.0%   |
| 5 向上した           |     | 10.9%  | 6.9%   | 16.2%    | 12.2%  | 9.0%          | 11.8%  | 13.3%  | 10.6%  | 10.2%  | 6.7%    |
| 計                |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |

|                 | (N) | 学 年    |        |          | 設 置 者  |          | 分 野           |        |        |           |         |
|-----------------|-----|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|                 |     | 総計     | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
| 数量的に分析する力       |     | 5350   | 3043   | 2307 *** | 3227   | 2125 *** | 1209          | 712    | 1633   | 1514      | 284 *** |
| 1 低下した          |     | 7.7%   | 9.1%   | 5.9%     | 7.5%   | 8.0%     | 10.6%         | 9.4%   | 7.5%   | 4.2%      | 10.6%   |
| 2 少し低下した        |     | 15.3%  | 17.6%  | 12.2%    | 14.6%  | 16.3%    | 18.7%         | 19.9%  | 16.2%  | 8.7%      | 18.7%   |
| 3 変わらない         |     | 48.2%  | 53.0%  | 41.8%    | 43.1%  | 55.9%    | 54.4%         | 46.9%  | 52.3%  | 39.0%     | 47.2%   |
| 4 ある程度向上した      |     | 23.2%  | 17.3%  | 31.0%    | 27.3%  | 16.9%    | 13.1%         | 18.3%  | 19.3%  | 38.6%     | 19.0%   |
| 5 向上した          |     | 5.7%   | 3.1%   | 9.1%     | 7.5%   | 2.9%     | 3.2%          | 5.5%   | 4.2%   | 9.5%      | 4.6%    |
| 計               |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 知識を現実と結びつけて考える力 |     | 5353   | 3046   | 2307 *** | 3229   | 2126     | 1208          | 714    | 1635   | 1514      | 284 *** |
| 1 低下した          |     | 2.0%   | 3.0%   | 0.8%     | 2.1%   | 1.9%     | 1.6%          | 1.5%   | 2.4%   | 2.2%      | 2.1%    |
| 2 少し低下した        |     | 4.0%   | 5.0%   | 2.6%     | 3.9%   | 4.2%     | 3.1%          | 2.9%   | 4.4%   | 4.6%      | 4.6%    |
| 3 変わらない         |     | 39.2%  | 48.0%  | 27.6%    | 37.8%  | 41.3%    | 37.1%         | 35.2%  | 40.9%  | 40.9%     | 39.8%   |
| 4 ある程度向上した      |     | 44.4%  | 38.1%  | 52.8%    | 45.3%  | 43.2%    | 47.0%         | 50.1%  | 41.2%  | 43.6%     | 42.6%   |
| 5 向上した          |     | 10.3%  | 5.9%   | 16.2%    | 11.0%  | 9.4%     | 11.2%         | 10.2%  | 11.2%  | 8.7%      | 10.9%   |
| 計               |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 人とは違うことを考える力    |     | 5352   | 3045   | 2307 *** | 3229   | 2125 *** | 1209          | 714    | 1633   | 1514      | 284 *** |
| 1 低下した          |     | 2.1%   | 2.5%   | 1.6%     | 2.5%   | 1.6%     | 1.1%          | 1.3%   | 2.3%   | 3.0%      | 3.2%    |
| 2 少し低下した        |     | 4.7%   | 5.5%   | 3.7%     | 5.2%   | 3.9%     | 3.7%          | 3.6%   | 4.8%   | 6.3%      | 2.8%    |
| 3 変わらない         |     | 48.6%  | 54.1%  | 41.4%    | 52.1%  | 43.4%    | 43.5%         | 46.8%  | 46.4%  | 53.8%     | 60.9%   |
| 4 ある程度向上した      |     | 33.2%  | 30.0%  | 37.4%    | 30.0%  | 38.0%    | 37.9%         | 37.7%  | 34.3%  | 27.7%     | 24.6%   |
| 5 向上した          |     | 11.4%  | 7.9%   | 15.9%    | 10.2%  | 13.1%    | 13.8%         | 10.6%  | 12.3%  | 9.3%      | 8.5%    |
| 計               |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 主体的に学習する力       |     | 5351   | 3043   | 2308 *** | 3229   | 2124 *** | 1208          | 714    | 1633   | 1514      | 284 **  |
| 1 低下した          |     | 7.3%   | 9.2%   | 4.8%     | 8.4%   | 5.7%     | 6.2%          | 6.7%   | 7.6%   | 7.6%      | 10.9%   |
| 2 少し低下した        |     | 14.0%  | 16.7%  | 10.5%    | 15.2%  | 12.1%    | 13.3%         | 16.0%  | 13.4%  | 13.9%     | 15.5%   |
| 3 変わらない         |     | 40.3%  | 43.8%  | 35.8%    | 35.9%  | 47.1%    | 40.7%         | 33.2%  | 44.0%  | 40.2%     | 36.6%   |
| 4 ある程度向上した      |     | 29.4%  | 24.5%  | 35.8%    | 30.4%  | 27.8%    | 30.0%         | 34.6%  | 27.3%  | 28.9%     | 28.5%   |
| 5 向上した          |     | 9.0%   | 5.8%   | 13.1%    | 10.1%  | 7.2%     | 9.8%          | 9.5%   | 7.8%   | 9.4%      | 8.5%    |
| 計               |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| グループで作業する力      |     | 5350   | 3042   | 2308 *** | 3229   | 2123     | 1208          | 714    | 1632   | 1514      | 284 *** |
| 1 低下した          |     | 4.3%   | 4.8%   | 3.6%     | 4.4%   | 4.1%     | 3.8%          | 2.9%   | 5.0%   | 4.7%      | 3.5%    |
| 2 少し低下した        |     | 9.0%   | 10.9%  | 6.5%     | 9.3%   | 8.6%     | 7.2%          | 8.0%   | 10.2%  | 10.0%     | 7.4%    |
| 3 変わらない         |     | 43.3%  | 48.1%  | 36.9%    | 42.9%  | 43.8%    | 43.5%         | 36.3%  | 46.9%  | 43.3%     | 38.7%   |
| 4 ある程度向上した      |     | 33.8%  | 29.9%  | 39.0%    | 34.0%  | 33.5%    | 33.8%         | 41.9%  | 29.6%  | 33.6%     | 39.1%   |
| 5 向上した          |     | 9.6%   | 6.3%   | 14.0%    | 9.4%   | 10.0%    | 11.7%         | 10.9%  | 8.4%   | 8.5%      | 11.3%   |
| 計               |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| リーダーシップ         |     | 5350   | 3042   | 2308 *** | 3229   | 2123 *   | 1209          | 714    | 1631   | 1514      | 284 *** |
| 1 低下した          |     | 5.6%   | 6.3%   | 3.9%     | 5.7%   | 5.4%     | 5.1%          | 4.6%   | 6.5%   | 5.5%      | 5.6%    |
| 2 少し低下した        |     | 9.4%   | 11.1%  | 7.1%     | 10.5%  | 7.7%     | 7.3%          | 10.5%  | 9.3%   | 10.4%     | 9.9%    |
| 3 変わらない         |     | 61.0%  | 66.2%  | 54.2%    | 59.9%  | 62.8%    | 64.8%         | 53.8%  | 60.0%  | 62.0%     | 64.1%   |
| 4 ある程度向上した      |     | 17.7%  | 12.5%  | 24.5%    | 17.8%  | 17.5%    | 16.3%         | 23.8%  | 17.0%  | 16.7%     | 16.9%   |
| 5 向上した          |     | 6.3%   | 3.3%   | 10.4%    | 6.2%   | 6.6%     | 6.5%          | 7.3%   | 7.1%   | 5.4%      | 3.5%    |
| 計               |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 社会や経済の問題についての理解 |     | 5353   | 3044   | 2309 *** | 3229   | 2126     | 1210          | 714    | 1633   | 1514      | 284 *** |
| 1 低下した          |     | 3.2%   | 3.8%   | 2.4%     | 3.6%   | 2.6%     | 2.9%          | 2.4%   | 2.4%   | 4.0%      | 6.7%    |
| 2 少し低下した        |     | 6.0%   | 7.6%   | 3.9%     | 5.9%   | 6.2%     | 6.9%          | 7.0%   | 4.7%   | 5.8%      | 7.4%    |
| 3 変わらない         |     | 33.5%  | 38.5%  | 26.9%    | 33.3%  | 33.9%    | 31.2%         | 32.2%  | 29.0%  | 40.0%     | 38.4%   |
| 4 ある程度向上した      |     | 43.8%  | 41.6%  | 46.6%    | 43.9%  | 43.6%    | 44.7%         | 48.0%  | 45.6%  | 39.4%     | 41.5%   |
| 5 向上した          |     | 13.5%  | 8.5%   | 20.2%    | 13.4%  | 13.7%    | 14.3%         | 10.4%  | 18.2%  | 10.8%     | 6.0%    |
| 計               |     | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

問12 現在4年生・6年生の方にかがいます。専門分野に関する学習の成果について、それぞれお答えください。

|                             | (N) | 学 年    |    |        | 設 置 者 |        | 分 野           |        |        |           |        |         |
|-----------------------------|-----|--------|----|--------|-------|--------|---------------|--------|--------|-----------|--------|---------|
|                             |     | 総計     | 1年 | 4年以上   | 国立    | 私立     | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系    |         |
| 専門分野に関する基本的知識をおぼえている        |     | 2305   | -  | 2305   | -     | 1427   | 881 ***       | 624    | 353    | 558       | 660    | 112 *** |
| 1 あてはまらない                   |     | 4.5%   | -  | 4.5%   | -     | 3.4%   | 6.4%          | 4.8%   | 3.4%   | 5.9%      | 4.4%   | 0.0%    |
| 2 あまりあてはまらない                |     | 26.1%  | -  | 26.1%  | -     | 20.7%  | 35.1%         | 31.9%  | 21.0%  | 29.9%     | 23.0%  | 9.8%    |
| 3 ある程度あてはまる                 |     | 57.8%  | -  | 57.8%  | -     | 61.5%  | 51.5%         | 54.5%  | 63.2%  | 52.3%     | 61.4%  | 64.3%   |
| 4 あてはまる                     |     | 11.6%  | -  | 11.6%  | -     | 14.4%  | 7.0%          | 8.8%   | 12.5%  | 11.8%     | 11.2%  | 25.9%   |
| 計                           |     | 100.0% | -  | 100.0% | -     | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%  |
| 専門分野に関する基本的知識を人にわかるように説明できる |     | 2304   | -  | 2304   | -     | 1427   | 880 ***       | 623    | 353    | 558       | 660    | 112 *** |
| 1 あてはまらない                   |     | 9.3%   | -  | 9.3%   | -     | 8.1%   | 11.1%         | 11.1%  | 7.1%   | 9.5%      | 9.1%   | 6.3%    |
| 2 あまりあてはまらない                |     | 40.5%  | -  | 40.5%  | -     | 37.1%  | 46.1%         | 43.3%  | 39.9%  | 41.8%     | 40.6%  | 20.5%   |
| 3 ある程度あてはまる                 |     | 43.2%  | -  | 43.2%  | -     | 46.3%  | 38.2%         | 40.8%  | 45.3%  | 40.3%     | 44.4%  | 57.1%   |
| 4 あてはまる                     |     | 7.0%   | -  | 7.0%   | -     | 8.5%   | 4.5%          | 4.8%   | 7.6%   | 8.4%      | 5.9%   | 16.1%   |
| 計                           |     | 100.0% | -  | 100.0% | -     | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%  |
| 専門分野に関する知識を使って世の中の出来事を理解できる |     | 2303   | -  | 2303   | -     | 1426   | 880 ***       | 624    | 353    | 556       | 660    | 112 *** |
| 1 あてはまらない                   |     | 8.3%   | -  | 8.3%   | -     | 8.4%   | 8.0%          | 9.3%   | 6.8%   | 5.2%      | 10.8%  | 7.1%    |
| 2 あまりあてはまらない                |     | 35.2%  | -  | 35.2%  | -     | 32.0%  | 40.2%         | 40.4%  | 32.9%  | 31.5%     | 37.4%  | 17.9%   |
| 3 ある程度あてはまる                 |     | 48.1%  | -  | 48.1%  | -     | 49.9%  | 45.1%         | 43.3%  | 50.4%  | 52.9%     | 45.3%  | 59.8%   |
| 4 あてはまる                     |     | 8.5%   | -  | 8.5%   | -     | 9.7%   | 6.7%          | 7.1%   | 9.9%   | 10.4%     | 6.5%   | 15.2%   |
| 計                           |     | 100.0% | -  | 100.0% | -     | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%  |
| 専門分野に関する技術を実際の場面で使える        |     | 2301   | -  | 2301   | -     | 1425   | 879           | 623    | 353    | 555       | 660    | 112 *** |
| 1 あてはまらない                   |     | 13.6%  | -  | 13.6%  | -     | 13.3%  | 13.9%         | 15.2%  | 9.1%   | 13.3%     | 15.8%  | 6.3%    |
| 2 あまりあてはまらない                |     | 42.2%  | -  | 42.2%  | -     | 41.0%  | 44.1%         | 42.7%  | 31.1%  | 46.3%     | 43.9%  | 25.0%   |
| 3 ある程度あてはまる                 |     | 37.0%  | -  | 37.0%  | -     | 37.5%  | 36.3%         | 35.3%  | 43.9%  | 35.1%     | 34.7%  | 48.2%   |
| 4 あてはまる                     |     | 7.2%   | -  | 7.2%   | -     | 8.1%   | 5.7%          | 6.7%   | 9.9%   | 5.2%      | 5.6%   | 20.5%   |
| 計                           |     | 100.0% | -  | 100.0% | -     | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%  |
| 専門分野に関することから優劣や価値を判断できる     |     | 2305   | -  | 2305   | -     | 1427   | 881           | 624    | 353    | 558       | 660    | 112 *** |
| 1 あてはまらない                   |     | 7.2%   | -  | 7.2%   | -     | 6.6%   | 7.9%          | 8.6%   | 3.4%   | 7.7%      | 8.3%   | 3.6%    |
| 2 あまりあてはまらない                |     | 39.0%  | -  | 39.0%  | -     | 38.0%  | 40.7%         | 40.7%  | 39.1%  | 37.6%     | 40.8%  | 25.9%   |
| 3 ある程度あてはまる                 |     | 47.5%  | -  | 47.5%  | -     | 48.6%  | 45.6%         | 45.7%  | 50.4%  | 47.0%     | 46.8%  | 55.4%   |
| 4 あてはまる                     |     | 6.2%   | -  | 6.2%   | -     | 6.6%   | 5.7%          | 5.1%   | 7.1%   | 7.7%      | 4.1%   | 15.2%   |
| 計                           |     | 100.0% | -  | 100.0% | -     | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0% | 100.0%  |

|                           | 総計  | 学年     |      | 設置者    |    | 分野            |        |     |        |        |        |        |        |    |
|---------------------------|-----|--------|------|--------|----|---------------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|----|
|                           |     | 1年     | 4年以上 | 国立     | 私立 | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系 | 自然科学系  | 保健系    |        |        |        |    |
|                           |     |        |      |        |    |               |        |     |        |        |        |        |        |    |
| 専門分野に関する新しい概念や解釈の仕方を創造できる | (N) | 2304   | -    | 2304   | -  | 1427          | 880    | *   | 623    | 353    | 558    | 660    | 112    | ** |
| 1 あてはまらない                 |     | 15.0%  | -    | 15.0%  | -  | 16.7%         | 12.2%  |     | 13.6%  | 12.2%  | 17.4%  | 16.7%  | 8.9%   |    |
| 2 あまりあてはまらない              |     | 48.7%  | -    | 48.7%  | -  | 48.8%         | 48.5%  |     | 47.0%  | 49.0%  | 45.3%  | 53.6%  | 42.9%  |    |
| 3 ある程度あてはまる               |     | 31.5%  | -    | 31.5%  | -  | 29.8%         | 34.2%  |     | 33.7%  | 34.0%  | 31.5%  | 26.5%  | 40.2%  |    |
| 4 あてはまる                   |     | 4.8%   | -    | 4.8%   | -  | 4.7%          | 5.1%   |     | 5.6%   | 4.8%   | 5.7%   | 3.0%   | 8.0%   |    |
| 計                         |     | 100.0% | -    | 100.0% | -  | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |    |

問13 あなたは以下の点についてどの程度の充実感をお持ちですか。

|              | 総計  | 学年     |        | 設置者    |     | 分野            |        |     |        |        |        |        |        |     |
|--------------|-----|--------|--------|--------|-----|---------------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
|              |     | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立  | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系 | 自然科学系  | 保健系    |        |        |        |     |
|              |     |        |        |        |     |               |        |     |        |        |        |        |        |     |
| 授業(教養・共通教育)  | (N) | 5349   | 3039   | 2310   | *   | 3224          | 2127   | *** | 1209   | 712    | 1633   | 1513   | 284    | *** |
| 1 充実していない    |     | 11.7%  | 11.1%  | 12.5%  |     | 14.1%         | 8.0%   |     | 7.3%   | 10.7%  | 11.3%  | 14.9%  | 18.0%  |     |
| 2 あまり充実してない  |     | 33.0%  | 34.8%  | 30.6%  |     | 36.4%         | 27.9%  |     | 27.6%  | 39.9%  | 31.3%  | 34.8%  | 38.4%  |     |
| 3 ある程度充実している |     | 43.9%  | 43.3%  | 44.7%  |     | 39.8%         | 50.2%  |     | 50.7%  | 42.1%  | 44.7%  | 39.9%  | 36.6%  |     |
| 4 充実している     |     | 9.2%   | 8.6%   | 10.0%  |     | 7.8%          | 11.3%  |     | 12.4%  | 6.2%   | 10.3%  | 7.6%   | 5.6%   |     |
| 5 わからない      |     | 2.2%   | 2.2%   | 2.3%   |     | 1.9%          | 2.6%   |     | 2.0%   | 1.1%   | 2.4%   | 2.8%   | 1.4%   |     |
| 計            |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |
| 授業(専門教育)     | (N) | 5345   | 3036   | 2309   | *** | 3223          | 2124   | *** | 1207   | 712    | 1631   | 1513   | 284    | *** |
| 1 充実していない    |     | 7.8%   | 8.5%   | 6.8%   |     | 8.7%          | 6.4%   |     | 6.3%   | 5.6%   | 7.9%   | 9.6%   | 8.5%   |     |
| 2 あまり充実してない  |     | 22.5%  | 24.7%  | 19.7%  |     | 22.2%         | 23.2%  |     | 20.3%  | 19.7%  | 25.7%  | 22.9%  | 19.4%  |     |
| 3 ある程度充実している |     | 45.1%  | 43.8%  | 46.7%  |     | 43.4%         | 47.6%  |     | 45.4%  | 42.7%  | 45.3%  | 45.8%  | 44.7%  |     |
| 4 充実している     |     | 21.5%  | 18.4%  | 25.5%  |     | 22.2%         | 20.3%  |     | 25.0%  | 30.5%  | 18.5%  | 18.2%  | 18.0%  |     |
| 5 わからない      |     | 3.1%   | 4.6%   | 1.3%   |     | 3.5%          | 2.5%   |     | 3.0%   | 1.5%   | 2.6%   | 3.4%   | 9.5%   |     |
| 計            |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |
| 大学生活全般       | (N) | 5336   | 3031   | 2305   | *** | 3216          | 2122   | *** | 1205   | 711    | 1627   | 1513   | 282    | *** |
| 1 充実していない    |     | 5.9%   | 6.7%   | 4.4%   |     | 4.9%          | 7.4%   |     | 6.0%   | 2.7%   | 7.0%   | 6.7%   | 2.8%   |     |
| 2 あまり充実してない  |     | 17.5%  | 20.4%  | 13.7%  |     | 16.7%         | 18.9%  |     | 15.1%  | 13.2%  | 20.5%  | 18.8%  | 15.2%  |     |
| 3 ある程度充実している |     | 42.6%  | 42.5%  | 42.8%  |     | 43.8%         | 40.9%  |     | 40.2%  | 43.7%  | 41.2%  | 44.6%  | 48.2%  |     |
| 4 充実している     |     | 31.6%  | 27.7%  | 36.8%  |     | 32.3%         | 30.6%  |     | 36.8%  | 39.0%  | 29.1%  | 26.8%  | 31.9%  |     |
| 5 わからない      |     | 2.3%   | 2.7%   | 1.8%   |     | 2.3%          | 2.4%   |     | 2.0%   | 1.4%   | 2.3%   | 3.2%   | 1.8%   |     |
| 計            |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |

問14 あなたが現在の大学で接してきた友人、教員、職員との関係はどのようなものでしたか。それぞれあてはまるものを選んでください。

|                      | 総計  | 学年     |        | 設置者    |     | 分野            |        |     |        |        |        |        |        |     |
|----------------------|-----|--------|--------|--------|-----|---------------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
|                      |     | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立  | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系 | 自然科学系  | 保健系    |        |        |        |     |
|                      |     |        |        |        |     |               |        |     |        |        |        |        |        |     |
| 友人との関係               | (N) | 5322   | 3028   | 2294   | *** | 3220          | 2104   | *** | 1203   | 709    | 1614   | 1514   | 284    | *** |
| 1 不親切、非協力的で疎外感を感じた   |     | 1.6%   | 2.0%   | 1.0%   |     | 1.4%          | 1.9%   |     | 0.6%   | 1.6%   | 2.4%   | 1.6%   | 1.1%   |     |
| 2                    |     | 3.7%   | 4.1%   | 3.3%   |     | 3.8%          | 3.7%   |     | 2.8%   | 2.7%   | 4.8%   | 3.8%   | 3.5%   |     |
| 3                    |     | 16.4%  | 18.7%  | 13.4%  |     | 15.7%         | 17.5%  |     | 14.3%  | 11.6%  | 19.0%  | 18.3%  | 13.4%  |     |
| 4                    |     | 37.1%  | 39.5%  | 33.9%  |     | 39.9%         | 32.7%  |     | 34.3%  | 37.7%  | 34.5%  | 41.3%  | 38.7%  |     |
| 5 親切、協力的で帰属意識がもてた    |     | 41.2%  | 35.7%  | 48.4%  |     | 39.2%         | 44.2%  |     | 48.0%  | 46.5%  | 39.3%  | 34.9%  | 43.3%  |     |
| 計                    |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |
| 教員との関係               | (N) | 5328   | 3031   | 2297   | *** | 3218          | 2112   | *** | 1206   | 709    | 1617   | 1514   | 284    | *** |
| 1 対応や助けがなく、思いやりもなかった |     | 4.3%   | 5.2%   | 3.1%   |     | 4.5%          | 4.1%   |     | 3.0%   | 2.7%   | 5.2%   | 5.2%   | 4.6%   |     |
| 2                    |     | 15.8%  | 18.2%  | 12.6%  |     | 16.7%         | 14.3%  |     | 15.2%  | 13.0%  | 16.9%  | 16.1%  | 16.9%  |     |
| 3                    |     | 39.6%  | 46.3%  | 30.6%  |     | 39.9%         | 39.1%  |     | 40.5%  | 35.0%  | 38.2%  | 42.2%  | 40.5%  |     |
| 4                    |     | 28.4%  | 23.9%  | 34.3%  |     | 29.0%         | 27.5%  |     | 28.4%  | 34.7%  | 25.3%  | 28.3%  | 31.0%  |     |
| 5 よく対応、支援してくれ、同情的だった |     | 12.0%  | 6.4%   | 19.4%  |     | 9.9%          | 15.1%  |     | 12.9%  | 14.7%  | 14.3%  | 8.3%   | 7.0%   |     |
| 計                    |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |
| 事務職員との関係             | (N) | 5320   | 3026   | 2294   | *** | 3216          | 2106   | *** | 1205   | 708    | 1612   | 1513   | 284    | *** |
| 1 不親切で、融通もきかなかつた     |     | 11.9%  | 8.6%   | 16.3%  |     | 13.7%         | 9.2%   |     | 10.4%  | 12.0%  | 15.9%  | 9.5%   | 8.5%   |     |
| 2                    |     | 19.5%  | 17.2%  | 22.6%  |     | 21.3%         | 16.9%  |     | 20.6%  | 27.0%  | 19.4%  | 15.5%  | 15.2%  |     |
| 3                    |     | 39.0%  | 43.8%  | 32.6%  |     | 39.7%         | 37.8%  |     | 38.0%  | 37.7%  | 34.7%  | 44.4%  | 40.8%  |     |
| 4                    |     | 20.2%  | 21.0%  | 19.0%  |     | 18.2%         | 23.2%  |     | 20.9%  | 18.2%  | 19.2%  | 21.0%  | 23.6%  |     |
| 5 丁寧で、支援してくれ、柔軟だった   |     | 9.4%   | 9.4%   | 9.5%   |     | 7.1%          | 13.0%  |     | 9.9%   | 5.1%   | 10.9%  | 9.6%   | 8.5%   |     |
| 計                    |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |

問15 あなたは同じ専門分野を学ぼうとしている人に対して、現在所属の学部での学習を勧めますか。

|            | 総計  | 学年     |        | 設置者    |     | 分野            |        |     |        |        |        |        |        |     |
|------------|-----|--------|--------|--------|-----|---------------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
|            |     | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立  | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系 | 自然科学系  | 保健系    |        |        |        |     |
|            |     |        |        |        |     |               |        |     |        |        |        |        |        |     |
| 1 勧めない     | (N) | 5356   | 3048   | 2308   | *** | 3227          | 2131   | *** | 1102   | 649    | 1407   | 1284   | 198    | *** |
| 2 あまり勧めない  |     | 7.7%   | 7.2%   | 8.5%   |     | 8.3%          | 6.9%   |     | 6.3%   | 5.7%   | 8.0%   | 10.1%  | 5.6%   |     |
| 3 ある程度勧めめる |     | 17.1%  | 16.9%  | 17.4%  |     | 16.0%         | 18.8%  |     | 18.9%  | 13.6%  | 18.2%  | 17.5%  | 11.1%  |     |
| 4 勧めめる     |     | 46.2%  | 46.2%  | 46.3%  |     | 45.0%         | 48.1%  |     | 45.2%  | 47.5%  | 48.0%  | 45.2%  | 46.0%  |     |
| 5 わからない    |     | 20.6%  | 18.6%  | 23.3%  |     | 22.2%         | 18.3%  |     | 23.0%  | 28.5%  | 17.0%  | 16.7%  | 21.2%  |     |
| 計          |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |

問16 あなたは、現在所属の学部での学習が投資(授業料を払う価値のあるもの)に値すると思いますか。

|           | 総計  | 学年     |        | 設置者    |     | 分野            |        |     |        |        |        |        |        |     |
|-----------|-----|--------|--------|--------|-----|---------------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
|           |     | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立  | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系 | 自然科学系  | 保健系    |        |        |        |     |
|           |     |        |        |        |     |               |        |     |        |        |        |        |        |     |
| 1 思わない    | (N) | 5357   | 3048   | 2309   | *** | 3227          | 2132   | *** | 1102   | 649    | 1408   | 1284   | 198    | *** |
| 2 あまり思わない |     | 8.8%   | 9.2%   | 8.4%   |     | 7.7%          | 10.6%  |     | 9.3%   | 5.7%   | 10.9%  | 9.2%   | 5.1%   |     |
| 3 ある程度思う  |     | 25.7%  | 25.8%  | 25.5%  |     | 23.1%         | 29.6%  |     | 28.9%  | 21.7%  | 28.4%  | 24.9%  | 18.2%  |     |
| 4 思う      |     | 44.6%  | 43.4%  | 46.1%  |     | 46.4%         | 41.7%  |     | 42.9%  | 50.8%  | 43.0%  | 43.5%  | 42.9%  |     |
| 5 わからない   |     | 14.2%  | 12.6%  | 16.4%  |     | 16.7%         | 10.5%  |     | 12.2%  | 16.2%  | 10.7%  | 15.4%  | 25.3%  |     |
| 計         |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     | 100.0%        | 100.0% |     | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |     |

問17 あなたは入学時に将来についてどのように考えていましたか、また現在、どのように考えていますか、それぞれもっともよくあてまるものを1つ選んでください。

|                | 総計     | 学 年    |          | 設置者    |          | 分 野           |        |        |           |         |
|----------------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|                |        | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
|                |        | (N)    |          |        |          |               |        |        |           |         |
| 入学時点           | 5346   | 3043   | 2303 *** | 3223   | 2125 *** | 1211          | 715    | 1626   | 1513      | 283 *** |
| 1 特に考えていない     | 19.0%  | 17.0%  | 21.7%    | 16.1%  | 23.5%    | 21.8%         | 9.7%   | 26.8%  | 15.8%     | 3.2%    |
| 2 現在の専門をいかせる就職 | 58.2%  | 58.8%  | 57.6%    | 57.1%  | 60.1%    | 61.8%         | 74.4%  | 54.0%  | 47.9%     | 82.3%   |
| 3 現在の専門を問わない就職 | 8.8%   | 8.8%   | 8.7%     | 8.8%   | 11.7%    | 10.4%         | 5.7%   | 13.2%  | 5.4%      | 1.6%    |
| 4 大学院への進学      | 14.0%  | 15.4%  | 12.0%    | 20.0%  | 4.8%     | 5.9%          | 10.2%  | 6.0%   | 31.9%     | 12.7%   |
| 計              | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 現在             | 5331   | 3033   | 2298 *** | 3221   | 2112 *** | 1204          | 713    | 1619   | 1513      | 284 *** |
| 1 特に考えていない     | 11.3%  | 14.9%  | 6.6%     | 8.8%   | 15.1%    | 12.7%         | 7.7%   | 17.2%  | 7.3%      | 2.8%    |
| 2 現在の専門をいかせる就職 | 46.4%  | 52.8%  | 38.0%    | 46.9%  | 45.7%    | 42.7%         | 57.8%  | 46.6%  | 37.3%     | 81.3%   |
| 3 現在の専門を問わない就職 | 25.7%  | 17.5%  | 36.5%    | 20.1%  | 34.2%    | 38.0%         | 19.6%  | 30.3%  | 18.1%     | 2.8%    |
| 4 大学院への進学      | 16.5%  | 14.8%  | 18.9%    | 24.2%  | 4.9%     | 6.6%          | 14.9%  | 5.9%   | 37.3%     | 13.0%   |
| 計              | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

問18 現在4年生・6年生の方にうかがいます。現時点での卒業後の進路について、あてはまるものを1つ選んでください。

|                | 総計     | 学 年    |        | 設置者    |         | 分 野           |        |        |           |         |
|----------------|--------|--------|--------|--------|---------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|                |        | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立      | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
|                |        | (N)    |        |        |         |               |        |        |           |         |
|                | 2303   | -      | 2303 - | 1426   | 879 *** | 625           | 353    | 555    | 660       | 112 *** |
| 1 就職が決まっている    | 46.2%  | 46.2%  | 47.3%  | 44.3%  | 41.8%   | 40.8%         | 56.8%  | 38.9%  | 77.7%     |         |
| 2 進学が決まっている    | 19.0%  | 19.0%  | 27.5%  | 5.1%   | 7.2%    | 16.4%         | 5.6%   | 44.2%  | 9.8%      |         |
| 3 その他進路が決まっている | 8.1%   | 8.1%   | 6.7%   | 10.5%  | 10.2%   | 11.3%         | 10.3%  | 3.3%   | 3.6%      |         |
| 4 なにも決まっていない   | 26.8%  | 26.8%  | 18.5%  | 40.2%  | 40.8%   | 31.4%         | 27.4%  | 13.5%  | 8.9%      |         |
| 計              | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    |         |

問19 以下の項目は、現在のあなたにどの程度あてはまりますか、それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。

|                           | 総計     | 学 年    |          | 設置者    |          | 分 野           |        |        |           |         |
|---------------------------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|-----------|---------|
|                           |        | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然<br>科学系 | 保健系     |
|                           |        | (N)    |          |        |          |               |        |        |           |         |
| 自分で考えるよりも与えられたことをこなすほうがよい | 5350   | 3043   | 2307 *** | 3224   | 2128 *   | 1211          | 714    | 1630   | 1513      | 284 *** |
| 1 あてはまらない                 | 9.0%   | 7.9%   | 10.4%    | 9.7%   | 7.8%     | 7.7%          | 9.8%   | 11.2%  | 7.6%      | 7.0%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 27.5%  | 24.6%  | 31.4%    | 27.2%  | 28.1%    | 29.7%         | 30.4%  | 28.9%  | 23.8%     | 23.2%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 47.6%  | 50.1%  | 44.3%    | 46.5%  | 49.3%    | 46.9%         | 45.9%  | 45.4%  | 50.8%     | 50.4%   |
| 4 あてはまる                   | 15.9%  | 17.4%  | 13.9%    | 16.6%  | 14.8%    | 15.7%         | 13.9%  | 14.5%  | 17.8%     | 19.4%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 決められたことは守る                | 5350   | 3045   | 2305 *** | 3225   | 2127 *** | 1210          | 715    | 1630   | 1513      | 284 *** |
| 1 あてはまらない                 | 1.8%   | 2.1%   | 1.4%     | 1.7%   | 2.0%     | 2.1%          | 0.7%   | 2.2%   | 1.9%      | 0.7%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 11.3%  | 11.8%  | 10.5%    | 10.6%  | 12.3%    | 8.7%          | 9.4%   | 13.1%  | 13.4%     | 5.3%    |
| 3 ある程度あてはまる               | 48.5%  | 50.2%  | 46.4%    | 47.0%  | 50.8%    | 49.7%         | 49.5%  | 48.0%  | 48.8%     | 42.6%   |
| 4 あてはまる                   | 38.4%  | 35.9%  | 41.7%    | 40.7%  | 34.9%    | 39.6%         | 40.4%  | 36.7%  | 35.9%     | 51.4%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 疑問点ほうやむやにしておきたい           | 5348   | 3043   | 2305 *** | 3224   | 2126 *** | 1211          | 715    | 1627   | 1513      | 284 **  |
| 1 あてはまらない                 | 2.3%   | 2.7%   | 1.8%     | 1.8%   | 3.0%     | 2.6%          | 0.8%   | 2.7%   | 2.6%      | 0.7%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 17.0%  | 19.9%  | 13.2%    | 15.9%  | 18.8%    | 18.4%         | 16.6%  | 18.2%  | 15.8%     | 12.3%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 52.9%  | 52.9%  | 52.8%    | 53.2%  | 52.3%    | 53.4%         | 55.8%  | 50.0%  | 53.2%     | 57.0%   |
| 4 あてはまる                   | 27.8%  | 24.5%  | 32.2%    | 29.1%  | 26.0%    | 25.6%         | 26.7%  | 29.1%  | 28.4%     | 29.9%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| わからないことがわかるようになることに喜びを感じる | 5348   | 3043   | 2305 *** | 3225   | 2125 *** | 1208          | 715    | 1630   | 1513      | 284 *** |
| 1 あてはまらない                 | 1.6%   | 1.9%   | 1.2%     | 1.4%   | 1.9%     | 1.4%          | 0.6%   | 2.4%   | 1.3%      | 1.4%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 7.8%   | 10.1%  | 4.9%     | 5.6%   | 11.2%    | 7.4%          | 4.5%   | 11.6%  | 6.5%      | 3.9%    |
| 3 ある程度あてはまる               | 37.9%  | 40.5%  | 34.4%    | 36.3%  | 40.2%    | 39.2%         | 37.2%  | 38.9%  | 36.7%     | 34.2%   |
| 4 あてはまる                   | 52.7%  | 47.6%  | 59.6%    | 56.7%  | 46.6%    | 52.1%         | 57.8%  | 47.1%  | 55.5%     | 60.6%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 何事にもまんべんなく取り組むことができる      | 5349   | 3045   | 2304 *** | 3224   | 2127 **  | 1211          | 715    | 1628   | 1513      | 284 *** |
| 1 あてはまらない                 | 7.9%   | 8.4%   | 7.1%     | 8.8%   | 6.5%     | 8.3%          | 7.3%   | 7.3%   | 9.1%      | 3.9%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 40.0%  | 43.3%  | 35.5%    | 40.2%  | 39.5%    | 39.9%         | 38.7%  | 37.2%  | 43.4%     | 40.5%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 41.7%  | 39.4%  | 44.8%    | 40.6%  | 43.5%    | 41.5%         | 42.9%  | 42.6%  | 40.0%     | 44.0%   |
| 4 あてはまる                   | 10.5%  | 8.9%   | 12.5%    | 10.4%  | 10.5%    | 10.2%         | 11.0%  | 12.8%  | 7.5%      | 11.6%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 意欲的に取り組むのは興味のあることだけだ      | 5347   | 3044   | 2303 *   | 3225   | 2124     | 1209          | 715    | 1628   | 1513      | 284 **  |
| 1 あてはまらない                 | 1.9%   | 2.0%   | 1.9%     | 2.0%   | 2.0%     | 2.0%          | 1.8%   | 2.0%   | 2.2%      | 0.7%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 18.2%  | 17.3%  | 19.4%    | 18.6%  | 17.5%    | 16.6%         | 21.5%  | 18.6%  | 16.2%     | 24.6%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 48.4%  | 47.8%  | 49.2%    | 49.1%  | 47.4%    | 49.0%         | 49.7%  | 47.2%  | 48.1%     | 51.4%   |
| 4 あてはまる                   | 31.5%  | 32.9%  | 29.5%    | 30.4%  | 33.1%    | 32.4%         | 27.0%  | 32.2%  | 33.6%     | 23.2%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 何事も自分の力でやらないと気がすまない       | 5350   | 3045   | 2305 **  | 3223   | 2129     | 1212          | 715    | 1629   | 1513      | 283     |
| 1 あてはまらない                 | 5.1%   | 5.6%   | 4.4%     | 5.4%   | 4.7%     | 5.3%          | 3.8%   | 4.9%   | 6.0%      | 4.2%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 38.5%  | 39.9%  | 36.7%    | 38.8%  | 38.0%    | 38.6%         | 39.2%  | 37.0%  | 40.5%     | 34.3%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 42.6%  | 41.1%  | 44.5%    | 41.3%  | 44.4%    | 43.7%         | 43.6%  | 42.7%  | 40.0%     | 48.1%   |
| 4 あてはまる                   | 13.8%  | 13.3%  | 14.4%    | 14.5%  | 12.8%    | 12.4%         | 13.4%  | 15.4%  | 13.5%     | 13.4%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| なにかあると人に頼られる              | 5348   | 3044   | 2304 **  | 3225   | 2125     | 1210          | 715    | 1628   | 1513      | 284 *** |
| 1 あてはまらない                 | 8.6%   | 9.2%   | 7.7%     | 8.9%   | 8.0%     | 7.4%          | 5.7%   | 8.8%   | 11.5%     | 3.5%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 42.1%  | 43.4%  | 40.5%    | 42.4%  | 41.7%    | 40.3%         | 39.6%  | 40.7%  | 46.3%     | 42.6%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 39.9%  | 38.3%  | 42.1%    | 38.7%  | 41.8%    | 43.4%         | 43.6%  | 39.9%  | 34.4%     | 45.4%   |
| 4 あてはまる                   | 9.4%   | 9.1%   | 9.7%     | 10.0%  | 8.5%     | 8.8%          | 11.0%  | 10.6%  | 7.8%      | 8.5%    |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 物事にねばり強く取り組む              | 5352   | 3046   | 2306 *** | 3225   | 2129 **  | 1211          | 715    | 1631   | 1513      | 284 **  |
| 1 あてはまらない                 | 5.0%   | 5.8%   | 4.0%     | 5.1%   | 5.0%     | 4.9%          | 3.8%   | 5.5%   | 5.6%      | 3.5%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 30.3%  | 34.4%  | 24.8%    | 29.4%  | 31.6%    | 31.2%         | 28.0%  | 28.3%  | 33.4%     | 26.1%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 45.9%  | 45.0%  | 47.2%    | 45.2%  | 47.0%    | 43.8%         | 46.0%  | 47.9%  | 44.7%     | 49.6%   |
| 4 あてはまる                   | 18.8%  | 14.8%  | 24.0%    | 20.3%  | 16.4%    | 20.1%         | 22.2%  | 18.3%  | 16.2%     | 20.8%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |
| 人とは違うことを考えることが好きだ         | 5346   | 3042   | 2304 *** | 3224   | 2124     | 1208          | 715    | 1628   | 1513      | 284     |
| 1 あてはまらない                 | 4.0%   | 4.2%   | 3.8%     | 3.9%   | 4.1%     | 3.6%          | 3.2%   | 4.2%   | 4.3%      | 4.6%    |
| 2 あまりあてはまらない              | 28.3%  | 30.3%  | 25.6%    | 27.9%  | 28.8%    | 30.0%         | 29.9%  | 25.8%  | 27.8%     | 33.5%   |
| 3 ある程度あてはまる               | 38.7%  | 38.0%  | 39.6%    | 39.0%  | 38.2%    | 37.4%         | 38.6%  | 39.3%  | 39.7%     | 35.6%   |
| 4 あてはまる                   | 29.0%  | 27.5%  | 31.0%    | 29.1%  | 29.0%    | 28.9%         | 28.3%  | 30.7%  | 28.2%     | 26.4%   |
| 計                         | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0%    | 100.0%  |

|                               | 学年     |        | 設置者      |        | 分野       |               |        |        |        |         |
|-------------------------------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|--------|---------|
|                               | 総計     | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系     |
| 困難な状況になると、むしろやりがいを感じる<br>(N)  | 5349   | 3044   | 2305 *** | 3225   | 2126     | 1209          | 715    | 1630   | 1513   | 284 *   |
| 1 あてはまらない                     | 7.9%   | 8.8%   | 6.6%     | 8.0%   | 7.6%     | 8.4%          | 8.0%   | 7.5%   | 8.1%   | 5.6%    |
| 2 あまりあてはまらない                  | 39.8%  | 42.4%  | 36.3%    | 39.7%  | 40.0%    | 40.0%         | 38.2%  | 36.9%  | 43.1%  | 42.3%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 37.7%  | 35.1%  | 41.0%    | 36.9%  | 38.9%    | 38.2%         | 37.5%  | 39.8%  | 35.0%  | 38.4%   |
| 4 あてはまる                       | 14.7%  | 13.6%  | 16.1%    | 15.4%  | 13.6%    | 13.4%         | 16.4%  | 15.8%  | 13.8%  | 13.7%   |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| ものごとを深く考える<br>(N)             | 5347   | 3044   | 2303 *** | 3225   | 2124     | 1209          | 715    | 1628   | 1513   | 284 *   |
| 1 あてはまらない                     | 4.4%   | 5.3%   | 3.3%     | 4.5%   | 4.3%     | 3.8%          | 4.5%   | 5.1%   | 4.1%   | 4.9%    |
| 2 あまりあてはまらない                  | 22.6%  | 23.4%  | 21.4%    | 22.9%  | 22.0%    | 22.4%         | 22.7%  | 20.9%  | 24.5%  | 22.2%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 41.9%  | 41.3%  | 42.8%    | 42.7%  | 40.8%    | 38.9%         | 41.1%  | 42.4%  | 44.0%  | 43.3%   |
| 4 あてはまる                       | 31.1%  | 30.0%  | 32.5%    | 29.9%  | 32.9%    | 34.9%         | 31.7%  | 31.6%  | 27.4%  | 29.6%   |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 自分の意見をはっきりと主張する<br>(N)        | 5350   | 3044   | 2306 *** | 3225   | 2127 **  | 1210          | 715    | 1630   | 1513   | 284 *** |
| 1 あてはまらない                     | 10.1%  | 11.8%  | 7.8%     | 11.3%  | 8.3%     | 8.5%          | 10.6%  | 8.7%   | 12.6%  | 10.2%   |
| 2 あまりあてはまらない                  | 39.9%  | 42.0%  | 37.2%    | 40.0%  | 39.8%    | 43.2%         | 36.1%  | 36.6%  | 42.6%  | 40.5%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 34.4%  | 33.4%  | 35.8%    | 33.4%  | 36.1%    | 32.2%         | 37.6%  | 36.5%  | 31.9%  | 37.3%   |
| 4 あてはまる                       | 15.5%  | 12.7%  | 19.2%    | 15.3%  | 15.8%    | 16.0%         | 15.7%  | 18.2%  | 12.8%  | 12.0%   |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| プレッシャーに強い<br>(N)              | 5348   | 3044   | 2304 *** | 3225   | 2125 *   | 1208          | 715    | 1630   | 1513   | 284 *** |
| 1 あてはまらない                     | 24.0%  | 26.0%  | 21.4%    | 24.8%  | 22.8%    | 24.9%         | 22.0%  | 20.7%  | 28.1%  | 22.5%   |
| 2 あまりあてはまらない                  | 43.1%  | 43.1%  | 43.1%    | 43.4%  | 42.6%    | 44.6%         | 42.1%  | 41.0%  | 43.8%  | 47.2%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 25.5%  | 23.9%  | 27.5%    | 24.1%  | 27.6%    | 24.0%         | 25.7%  | 29.1%  | 22.6%  | 25.4%   |
| 4 あてはまる                       | 7.4%   | 6.9%   | 8.1%     | 7.7%   | 7.0%     | 6.5%          | 10.2%  | 9.1%   | 5.6%   | 4.9%    |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 計画的に行動する<br>(N)               | 5347   | 3044   | 2303 *** | 3225   | 2124     | 1207          | 715    | 1630   | 1513   | 284 *** |
| 1 あてはまらない                     | 14.6%  | 16.5%  | 12.2%    | 15.4%  | 13.6%    | 16.8%         | 14.8%  | 12.3%  | 16.4%  | 9.5%    |
| 2 あまりあてはまらない                  | 38.4%  | 39.6%  | 36.8%    | 38.9%  | 37.6%    | 38.1%         | 39.6%  | 36.0%  | 40.5%  | 38.4%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 34.7%  | 33.2%  | 36.6%    | 33.4%  | 36.5%    | 34.0%         | 32.2%  | 37.4%  | 31.9%  | 42.6%   |
| 4 あてはまる                       | 12.3%  | 10.8%  | 14.4%    | 12.3%  | 12.4%    | 11.1%         | 13.4%  | 14.4%  | 11.2%  | 9.5%    |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 物事を始めたら最後までやらないと気がすまない<br>(N) | 5347   | 3045   | 2302 *** | 3224   | 2125     | 1208          | 714    | 1630   | 1513   | 284     |
| 1 あてはまらない                     | 5.0%   | 5.3%   | 4.5%     | 5.2%   | 4.6%     | 4.7%          | 5.2%   | 5.1%   | 5.0%   | 4.6%    |
| 2 あまりあてはまらない                  | 29.5%  | 31.2%  | 27.2%    | 29.7%  | 29.1%    | 29.0%         | 28.6%  | 29.4%  | 31.5%  | 22.9%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 43.8%  | 43.1%  | 44.7%    | 43.0%  | 45.0%    | 44.5%         | 44.1%  | 42.6%  | 42.9%  | 51.1%   |
| 4 あてはまる                       | 21.8%  | 20.4%  | 23.7%    | 22.2%  | 21.3%    | 21.9%         | 22.1%  | 22.8%  | 20.7%  | 21.5%   |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 自分に対して自信をもっている<br>(N)         | 5349   | 3045   | 2304 *** | 3224   | 2127     | 1210          | 715    | 1629   | 1513   | 284 *** |
| 1 あてはまらない                     | 19.4%  | 21.8%  | 16.1%    | 19.9%  | 18.7%    | 21.1%         | 18.0%  | 17.1%  | 21.8%  | 15.8%   |
| 2 あまりあてはまらない                  | 40.4%  | 42.6%  | 37.5%    | 39.5%  | 41.7%    | 43.3%         | 40.8%  | 39.0%  | 38.0%  | 47.2%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 31.1%  | 28.6%  | 34.2%    | 31.1%  | 30.9%    | 28.0%         | 32.3%  | 33.1%  | 30.8%  | 30.3%   |
| 4 あてはまる                       | 9.2%   | 7.0%   | 12.1%    | 9.4%   | 8.8%     | 7.6%          | 8.8%   | 10.7%  | 9.4%   | 6.7%    |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |
| 勉強することが好きだ<br>(N)             | 5352   | 3047   | 2305 *** | 3225   | 2129 *** | 1210          | 715    | 1632   | 1513   | 284 *** |
| 1 あてはまらない                     | 21.3%  | 24.5%  | 17.0%    | 16.2%  | 29.0%    | 23.6%         | 19.0%  | 24.5%  | 20.9%  | 13.7%   |
| 2 あまりあてはまらない                  | 35.9%  | 37.2%  | 34.2%    | 35.2%  | 37.0%    | 35.4%         | 35.0%  | 35.5%  | 38.2%  | 30.6%   |
| 3 ある程度あてはまる                   | 33.5%  | 31.4%  | 36.1%    | 37.6%  | 27.1%    | 33.6%         | 39.6%  | 30.0%  | 32.4%  | 43.3%   |
| 4 あてはまる                       | 9.3%   | 6.9%   | 12.6%    | 10.9%  | 6.9%     | 7.5%          | 11.5%  | 10.0%  | 8.5%   | 12.3%   |
| 計                             | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%  |

| 問20 性別 | 学年     |        | 設置者      |        | 分野       |               |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|----------|--------|----------|---------------|--------|--------|--------|--------|
|        | 総計     | 1年     | 4年以上     | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系    |
| (N)    | 5360   | 3052   | 2308 *** | 3227   | 2135 *** | 1214          | 715    | 1636   | 1513   | 284    |
| 男      | 54.7%  | 56.6%  | 52.2%    | 56.6%  | 51.8%    | 32.1%         | 33.4%  | 63.4%  | 77.8%  | 31.7%  |
| 女      | 45.3%  | 43.4%  | 47.8%    | 43.4%  | 48.2%    | 67.9%         | 66.6%  | 36.6%  | 22.2%  | 68.3%  |
| 計      | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

| 問23-1 出身高校・設置形態 | 学年     |        | 設置者    |        | 分野       |               |        |        |        |        |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|----------|---------------|--------|--------|--------|--------|
|                 | 総計     | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系    |
| (N)             | 5257   | 2991   | 2266   | 3186   | 2073 *** | 1187          | 705    | 1592   | 1494   | 281    |
| 1 国立            | 3.1%   | 3.3%   | 2.7%   | 3.9%   | 1.7%     | 1.3%          | 3.0%   | 3.0%   | 4.5%   | 3.6%   |
| 2 公立(県立・市立など)   | 76.0%  | 76.1%  | 75.8%  | 80.4%  | 69.2%    | 78.0%         | 86.4%  | 66.3%  | 79.7%  | 75.8%  |
| 3 私立            | 19.8%  | 19.6%  | 19.9%  | 14.8%  | 27.5%    | 19.8%         | 10.4%  | 29.1%  | 14.3%  | 20.3%  |
| 4 専修や大検など       | 1.2%   | 0.9%   | 1.6%   | 1.0%   | 1.5%     | 0.8%          | 0.3%   | 1.7%   | 1.5%   | 0.4%   |
| 計               | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

| 問23-2 出身学科 | 学年     |        | 設置者    |        | 分野       |               |        |        |        |        |
|------------|--------|--------|--------|--------|----------|---------------|--------|--------|--------|--------|
|            | 総計     | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立       | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系    |
| (N)        | 5144   | 2939   | 2205   | 3140   | 2006 *** | 1155          | 702    | 1536   | 1474   | 279    |
| 1 普通科      | 83.8%  | 83.3%  | 84.5%  | 87.9%  | 77.4%    | 89.2%         | 90.5%  | 78.1%  | 81.9%  | 86.0%  |
| 2 商業科      | 2.8%   | 2.8%   | 2.8%   | 0.7%   | 6.1%     | 1.0%          | 0.4%   | 8.1%   | 0.3%   | 0.0%   |
| 3 工業科      | 2.9%   | 3.4%   | 2.2%   | 2.1%   | 4.2%     | 0.4%          | 0.4%   | 2.4%   | 7.1%   | 0.0%   |
| 4 農業科      | 0.8%   | 0.7%   | 1.0%   | 0.7%   | 0.9%     | 0.3%          | 0.0%   | 0.6%   | 1.9%   | 0.0%   |
| 5 家政科      | 0.1%   | 0.1%   | 0.0%   | 0.0%   | 0.1%     | 0.3%          | 0.0%   | 0.0%   | 0.0%   | 0.0%   |
| 6 総合学科     | 2.0%   | 1.9%   | 2.0%   | 0.6%   | 4.0%     | 2.9%          | 1.3%   | 2.4%   | 1.2%   | 1.4%   |
| 7 理数科      | 3.5%   | 3.4%   | 3.5%   | 5.1%   | 0.8%     | 1.0%          | 4.0%   | 1.7%   | 5.6%   | 10.4%  |
| 8 その他      | 4.2%   | 4.4%   | 4.0%   | 2.8%   | 6.4%     | 4.8%          | 3.4%   | 6.6%   | 2.0%   | 2.2%   |
| 計          | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%   | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

| 問24 出身都道府県  | 学年     |        | 設置者    |        | 分野     |               |        |        |        |        |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|---------------|--------|--------|--------|--------|
|             | 総計     | 1年     | 4年以上   | 国立     | 私立     | 人文系<br>(教育除く) | 教育系    | 社会系    | 自然科学系  | 保健系    |
| (N)         | 5224   | 2960   | 2262   | 3163   | 2061   | 1184          | 698    | 1586   | 1478   | 278    |
| 1 大学の所在地と同じ | 50.0%  | 52.6%  | 46.6%  | 39.4%  | 66.3%  | 67.8%         | 44.3%  | 49.2%  | 41.2%  | 39.6%  |
| 2 大学の所在地とは別 | 47.9%  | 45.4%  | 51.1%  | 60.1%  | 29.2%  | 31.1%         | 55.7%  | 46.0%  | 57.6%  | 59.7%  |
| 3 海外        | 2.1%   | 2.0%   | 2.2%   | 0.5%   | 4.5%   | 1.1%          | 0.0%   | 4.8%   | 1.2%   | 0.7%   |
| 計           | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0%        | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

## 執筆者紹介

\* 所属は本書刊行時点のもの

\* 執筆順

|       |                  |        |           |
|-------|------------------|--------|-----------|
| 小方 直幸 | 広島大学高等教育研究開発センター | 助教授    | (序章・第1章)  |
| 杉本 和弘 | 鹿児島大学教育センター      | 助教授    | (第1章)     |
| 串本 剛  | 広島大学大学院教育学研究科    | 博士課程後期 | (第2章)     |
| 葛城 浩一 | 香川大学大学教育開発センター   | 講師     | (第3章・第4章) |
| 村澤 昌崇 | 広島大学高等教育研究開発センター | 講師     | (第5章)     |

学生からみた大学教育の質  
- 授業評価からプログラム評価へ -  
(COE 研究シリーズ18)

2006(平成18)年3月31日 発行

---

編 著 広島大学高等教育研究開発センター  
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2  
電 話 (082) 424-6240  
印刷所 株式会社 ニシキプリント  
〒733-0833 広島市西区商工センター 7-5-33  
電 話 (082) 277-6954

---

ISBN4-902808-14-5



**COE Publication Series No. 18**

**The Student Perspectives on  
the Quality of University Education  
— a Transition from Class Evaluation  
to Program Evaluation —**



**Research Institute for Higher Education  
HIROSHIMA UNIVERSITY**

*March 2006*

ISBN4-902808-14-5